



# 男女共同参画社会に関する意識調査

## 報告書



## 目次

I 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査項目	1
3. 調査設計	1
4. 回収結果	1
5. 報告書の見方	1
II 調査結果	2
1. 回答者の属性	2
(1) 性別	2
(2) 年代	2
(3) 結婚の状況	3
(4) 夫婦の働き方	3
(5) 世帯構成	4
(6) 同居の状況	4
(7) 職業	5
2. 男女平等について	6
(1) 男女の地位の平等観	6
(2) 職場における男女平等	19
(3) 男は仕事、女は家庭という考え方	27
3. 結婚・家庭生活・子育て・介護について	29
(1) 結婚・家庭・離婚についての考え	29
(2) 夫婦の役割分担	43
(3) 夫婦の役割分担の満足度	58
(4) 自分の子どもの育て方	59
(5) 父親の育児参加に対する考え	61
(6) 男性が育児休業や介護休業を取得することについての考え	63

4. 女性と仕事について .....	67
(1) 女性が仕事を持つことについての考え .....	67
(2) 女性が結婚後や出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと .....	71
(3) 結婚や出産のために退職した女性が再就職するために重要なこと .....	76
5. 男女の地域・社会参画について .....	81
(1) 地域・社会活動への参加状況 .....	81
(2) 地域・社会活動に参加していない理由 .....	84
6. 男女共同参画の視点からの防災について .....	86
(1) 防災等の分野における性別に配慮した対応 .....	86
7. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について .....	89
(1) 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」等への時間配分の満足度 .....	89
(2) 「家庭生活」、「仕事」、「地域活動」等への時間配分の理想 .....	95
(3) 男女が仕事と家庭を両立するために必要なこと .....	101
8. パートナー間での暴力(DV)やセクハラについて .....	104
(1) 配偶者・パートナー・恋人間の暴力 .....	105
(2) 配偶者・パートナー・恋人間の暴力の相談先 .....	115
(3) 暴力について相談しなかった理由 .....	117
(4) DVやデートDVを防止するために必要なこと .....	120
(5) セクシャル・ハラスメントと感ずること .....	122
9. 男女共同参画社会づくりのための取組について .....	128
(1) 市が力を入れるべき取組 .....	128
(2) 市の施策の認知度 .....	132
(3) 男女共同参画に関する言葉の認知度 .....	134
10. 男女共同参画社会づくりについてのご意見ご要望など .....	138
Ⅲ 資料 .....	143
調査票 .....	143

## I 調査の概要

### 1. 調査目的

那須塩原市における男女共同参画社会の形成状況や市民の意識を明らかにするとともに、平成29年に策定した「第3次那須塩原市男女共同参画行動計画」の評価目標値のうち、市民意識に関する項目について、基準年次（平成27年）からの意識変化の状況を把握し、今後の事業展開の参考とすることを目的に実施しました。

### 2. 調査項目

- (1) 属性（性別、年代、結婚の状況、夫婦の働き方、世帯構成、同居の状況、職業）
- (2) 男女平等について
- (3) 結婚・家庭生活・子育て・介護について
- (4) 女性と仕事について
- (5) 男女の地域・社会参画について
- (6) 男女共同参画の視点からの防災について
- (7) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について
- (8) パートナー間での暴力（DV）やセクハラについて
- (9) 男女共同参画社会づくりのための取組について

### 3. 調査設計

- (1) 調査地域 市内全域
- (2) 調査対象 20歳以上の男女
- (3) 標本数 2,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳に基づき性別・年代別・地区別無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送配布・郵送回収及びインターネット回答（礼状兼督促状1回送付）
- (6) 調査期間 令和3年8月10日（火）～8月31日（火）

### 4. 回収結果

性別	配布数 (人)	回収数 (人)	回収率 (%)	回収方法の内訳	
				郵送(人・%)	インターネット(人・%)
男生	1,000	331	33.1	233(70.4)	98(29.6)
女性	1,000	465	46.5	344(74.0)	121(26.0)
その他		0			
無回答		12		12(100.0)	0(0.0)
合計	2,000	808	40.4	589(72.9)	219(27.1)

### 5. 調査報告書の見方

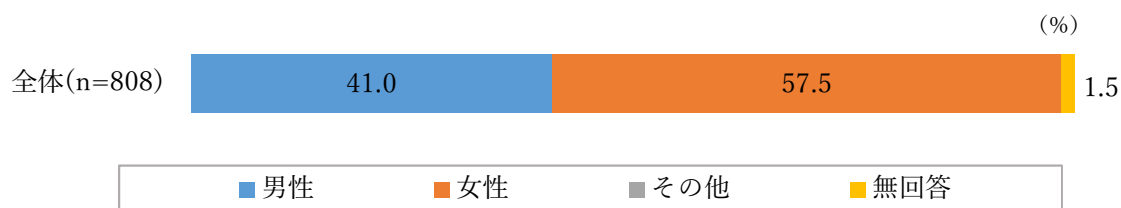
調査報告書で示す数値は、百分率（%）で表示しました。小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計値は100%とならない場合があります。

## II 調査報告書

### 1. 回答者の属性

#### (1) 性別

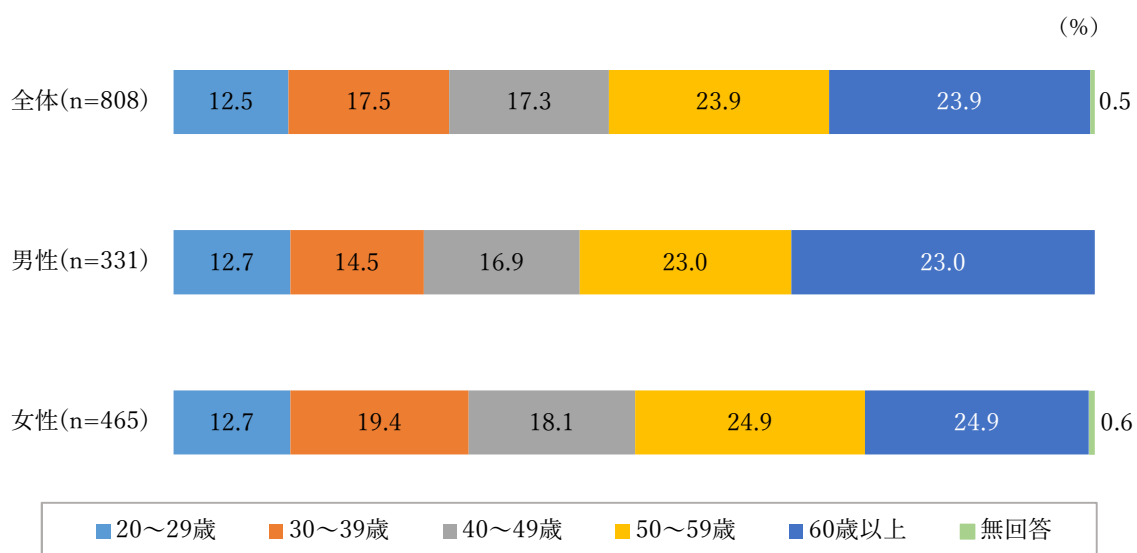
性別は、「男性」が41.0%、「女性」が57.5%となっており、「その他」はありませんでした。



#### (2) 年代

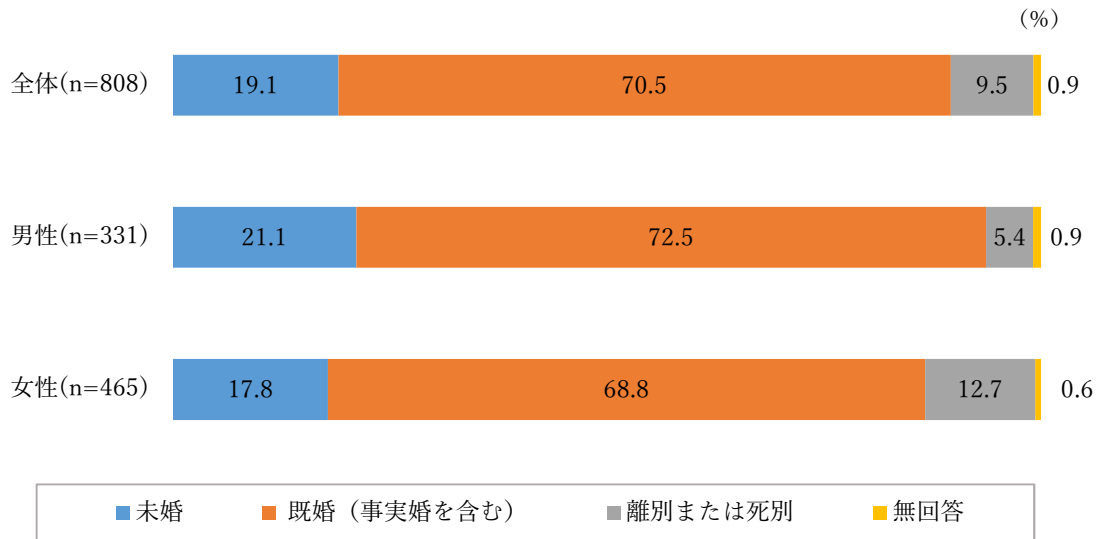
年代は、「20～29歳」が12.5%、「30～39歳」が17.5%、「40～49歳」が17.3%、「50～59歳」が23.9%、「60歳以上」が23.9%となっている。

調査対象者は、各年代200名ずつ抽出しており、年代別の回答率は、高い年代ほど高い傾向となっている。



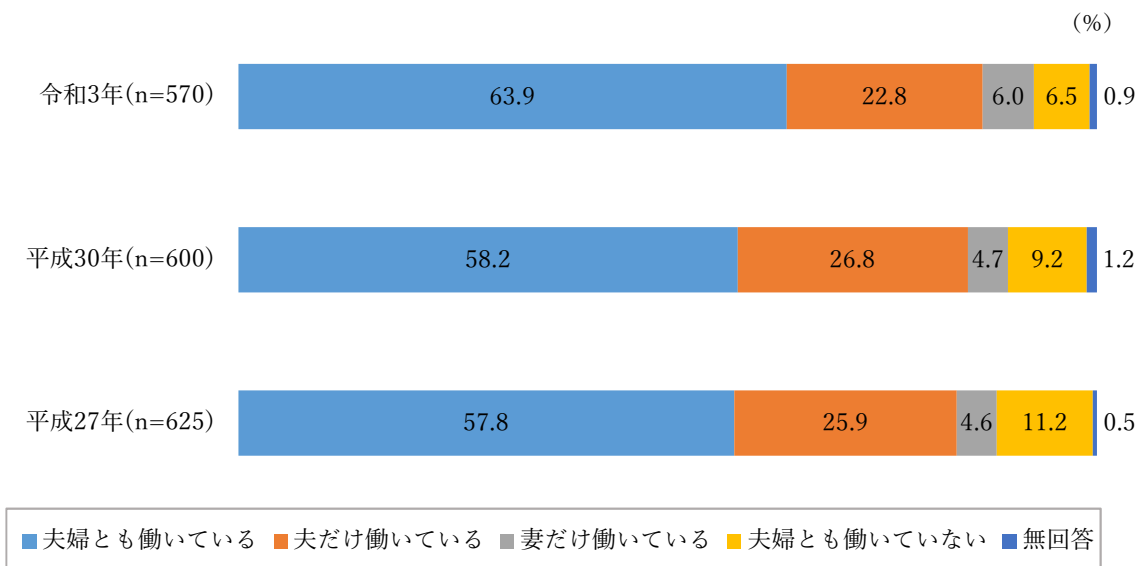
### (3) 結婚の状況

結婚の状況は、「既婚（事実婚を含む）」の割合が70.5%と最も高く、次いで「未婚」19.1%、「離別または死別」9.5%となっている。



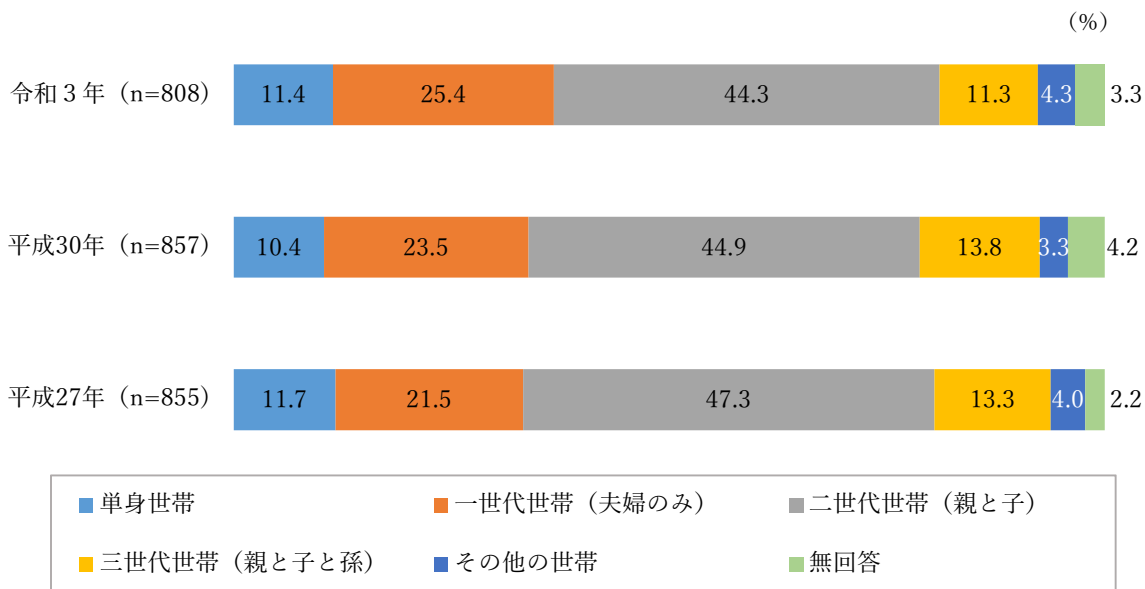
### (4) 夫婦の働き方

夫婦の働き方は、「夫婦とも働いている」が63.9%で最も高く、経年比較をみても夫婦の共働きが増加している。



## (5) 世帯構成

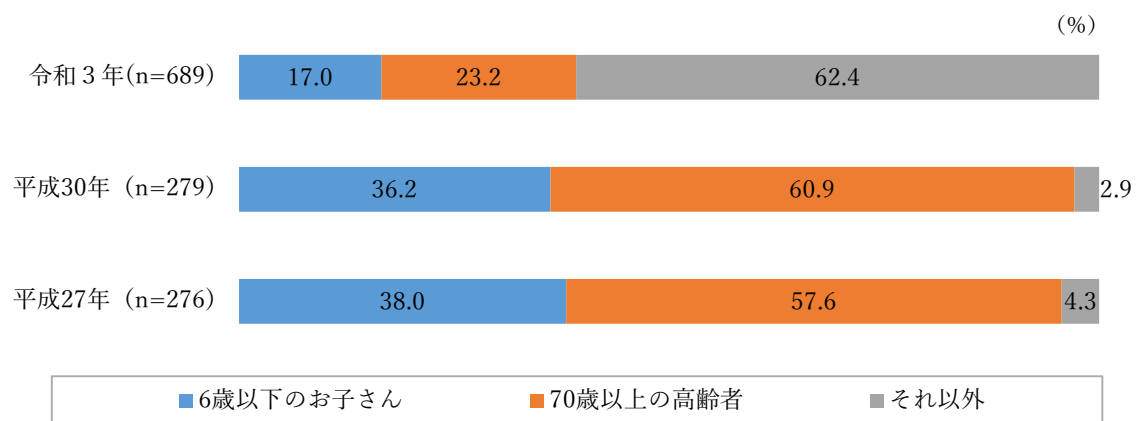
世帯構成は、「二世帯世帯（親と子）」が44.3%で最も高く、次いで「一世帯世帯（夫婦のみ）」が25.4%、「単身世帯」が11.4%、「三世帯世帯（親と子と孫）」が11.3%とそれぞれ続いている。



## (6) 同居の状況

単身世帯以外で、同居の状況は、「70歳以上の高齢者と同居」が23.2%、「6歳以下のお子さんと同居」が17.0%、「それ以外」が62.4%となっている。

※平成27年、30年の選択肢違いあり（乳幼児・高齢者との同居）

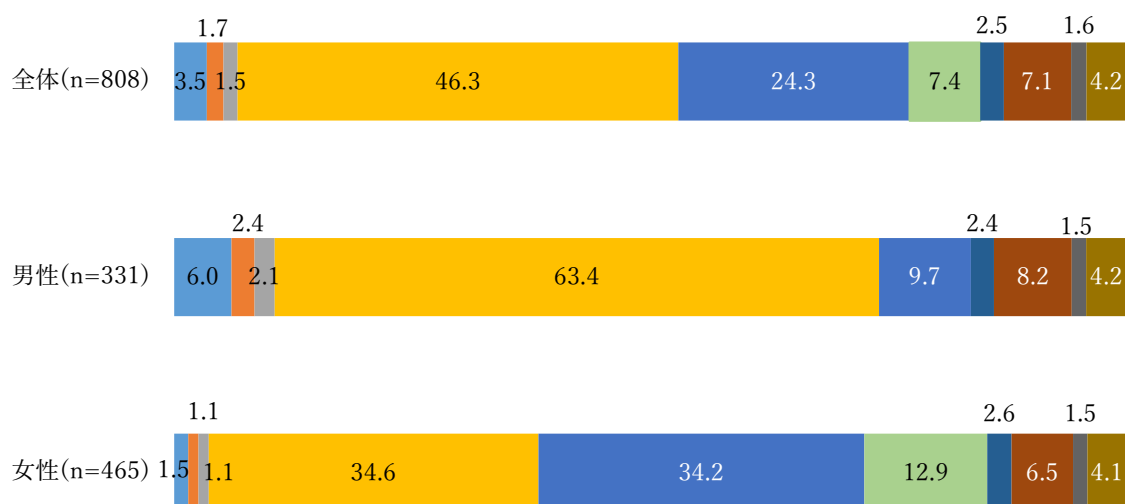


令和3年 (③) とそれ以外 (他) の相違点

- ・母数→③：世帯構成の2～5選択者数、他：「同居」での選択者数
- ・採用データ→③選択者すべて含む、他：「同居」での無回答者数除く

## (7) 職業

職業は、「常勤職員・社員」が46.3%と4割を超えており、次いで「臨時職員・パート・アルバイト」が24.3%と続いている。



### 【その他の意見】

- 会社経営
- 会社役員
- 派遣社員
- シルバー
- 観光バス
- コロナ解雇
- 自営業 (専門職) 母親の介護のため休業中



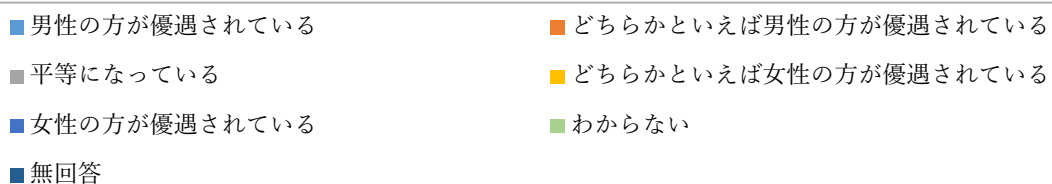
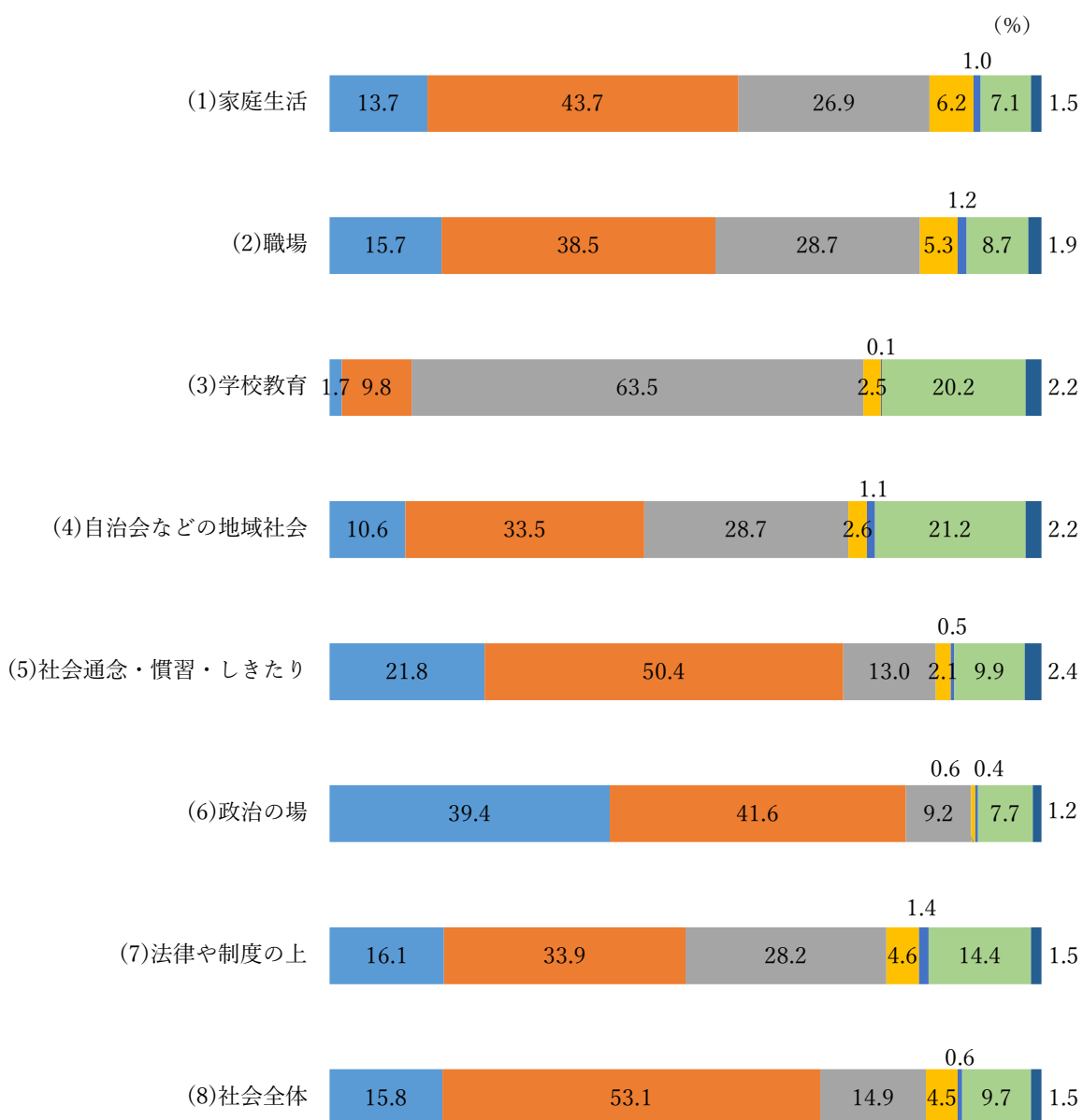
## 2. 男女平等について

【問1】 あなたは、現在、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。

【全体】

「学校教育」を除く全ての項目で「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合が高くなっており、「社会通念・慣習・しきたり」と「政治の場」の項目は7割以上、「社会全体」の項目でも6割以上の回答となっている。

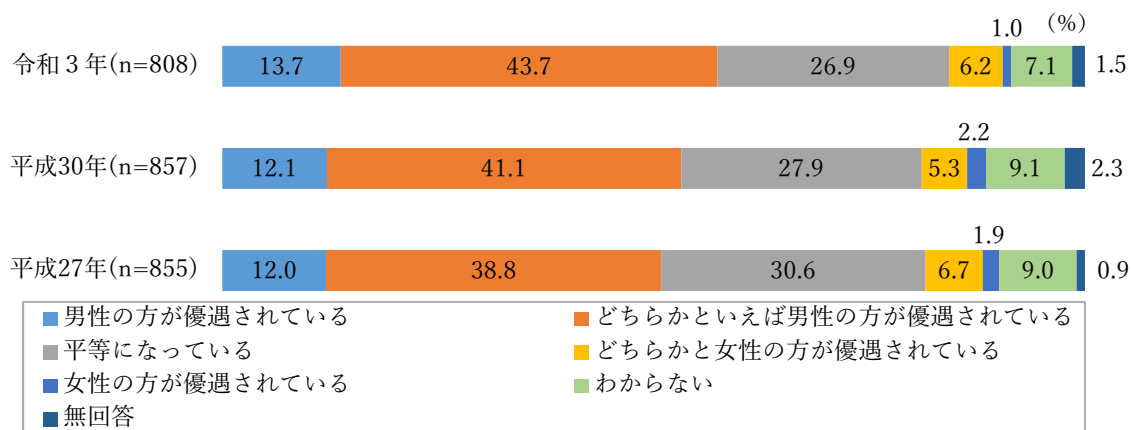
また、「平等になっている」では、「学校教育」の項目のみが6割を超えている状況である。



① 家庭生活

【全体】

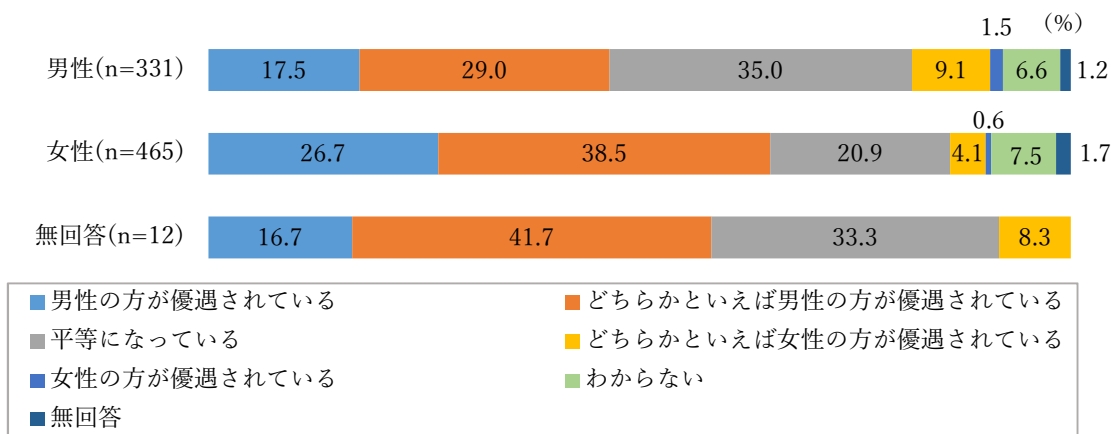
家庭生活において、「平等」と感じている人の割合は、26.9%と前回調査（平成30年調査を言う。以下同じ）から1.0ポイント減少している。依然として「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を含め「男性の方が優遇されている」と感じている人の割合（以下『男性が優遇（計）』という）は、57.4%で前回調査を4.2ポイント増加している。



【性別】

性別でみると、「平等」と感じている人の割合は、男性が35.0%であるのに対し、女性は20.9%と14.1ポイント低くなっており、前回調査の13.1ポイントより1.0ポイント低い。

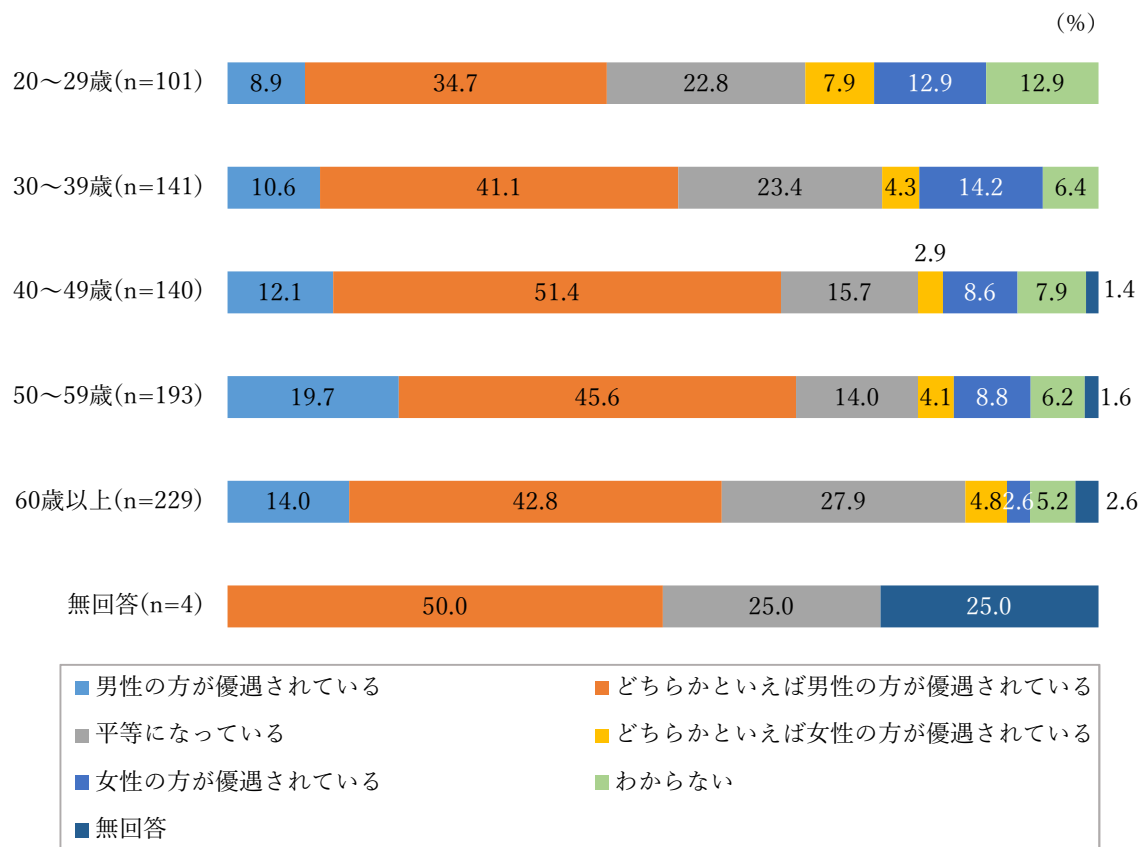
対照的に「男性の方が優遇されている」と感じている人は、男性の17.5%に対し女性は26.7%と9.2ポイント高くなっており、前回調査の8.7ポイントより0.5ポイント高くなっている。



## 【年代別】

年代別でみると、「平等」と感じている年代は、60歳以上が27.9%と一番高く、次いで30歳代の23.4%となっている。

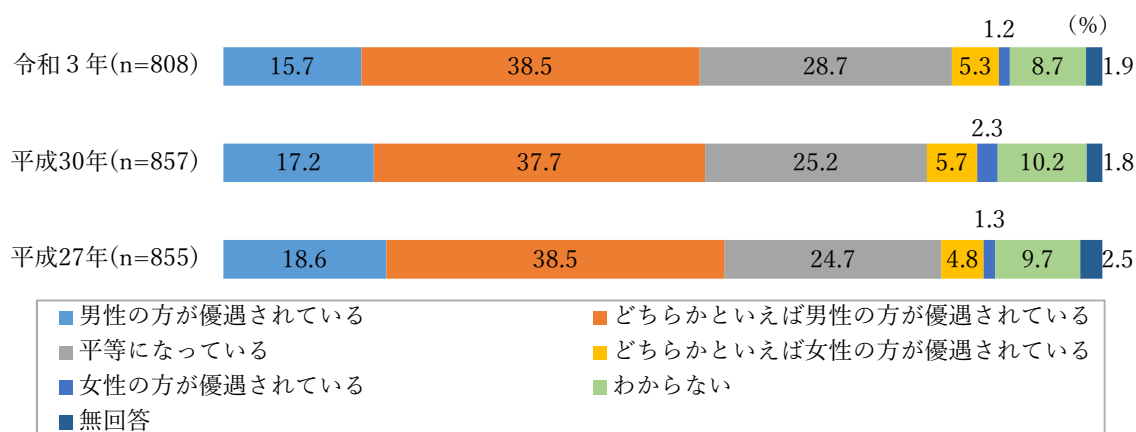
対照的に50歳代が14.0%と一番低く、次いで40歳代が15.7%となっており、この二世代のみが10%台と低くなっている。



## ② 職場

### 【全体】

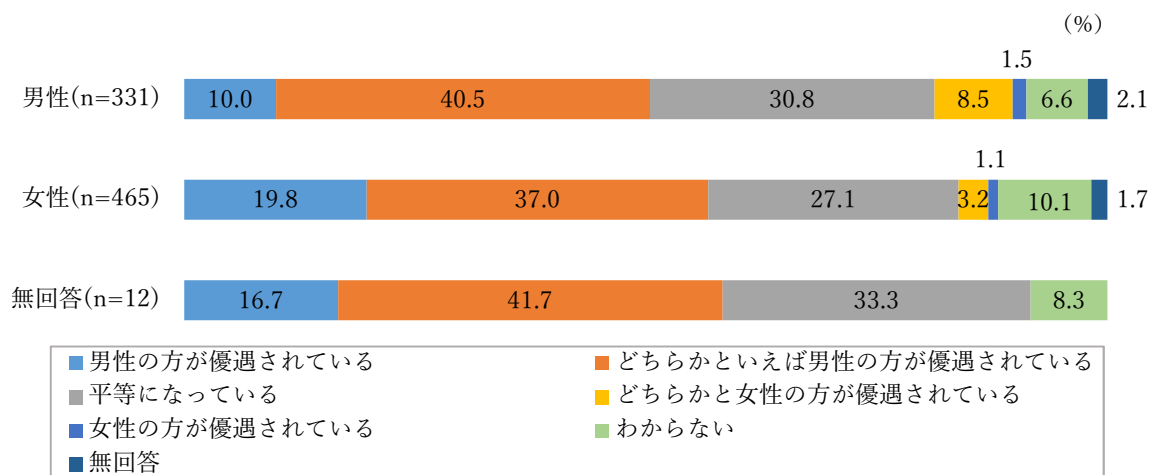
職場において、「平等」と感じている人の割合は、28.7%と前回調査から3.5ポイント増加している。しかし、依然として『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、前回調査を0.7ポイント減少し、54.2%となっているものの半数以上となっている。



## 【性別】

性別でみると、「平等」と感じている人の割合は、男性が30.8%であるのに対し、女性は27.1%と3.7ポイント低くなっており、前回調査の4.9ポイントの差より1.2ポイント低い。

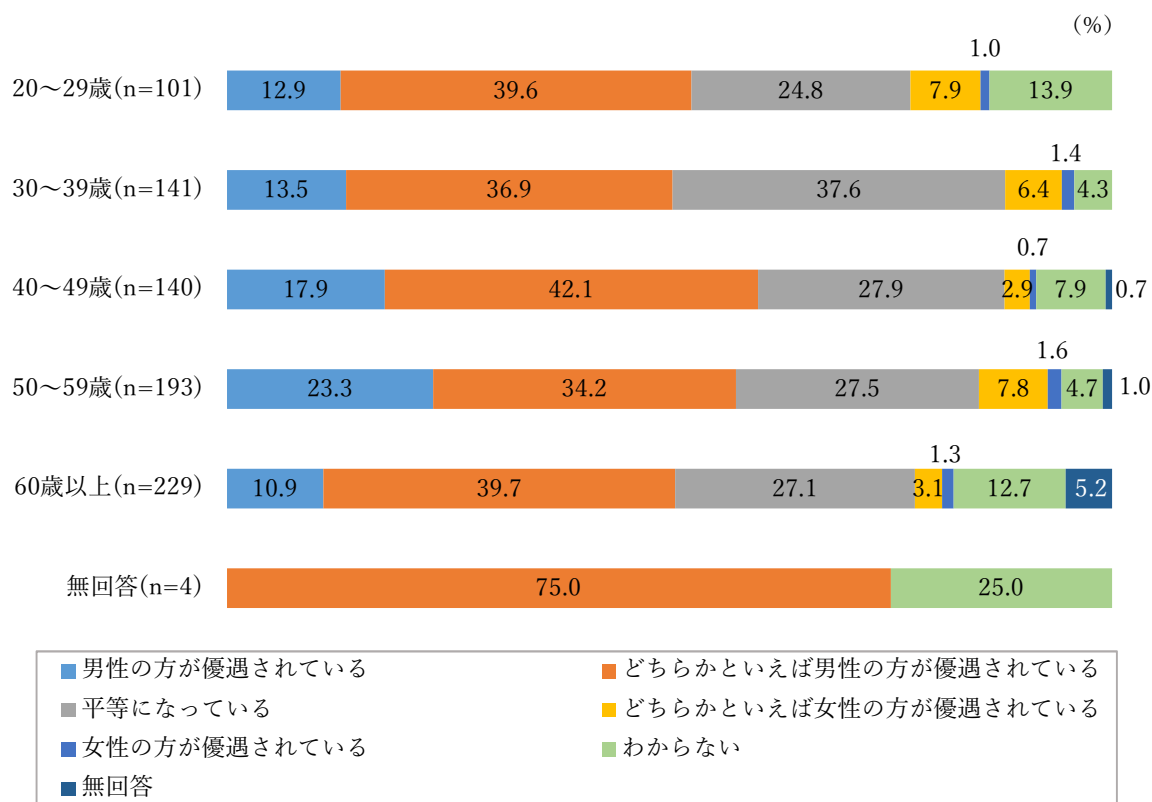
対照的に「男性の方が優遇されている」と感じている人は、男性の10.0%に対し女性は19.8%と9.8ポイント高くなっており、前回調査の7.6ポイントの差より2.2ポイント高くなっている。



## 【年代別】

年代別でみると、「平等」と感じている年代は、30歳代が37.6%と一番高くなっており、40歳代、50歳代、60歳代以上の三世代では、27%代と近い数字となっている。対照的に20歳代の若い世代が、24.8%と一番低くなっている。

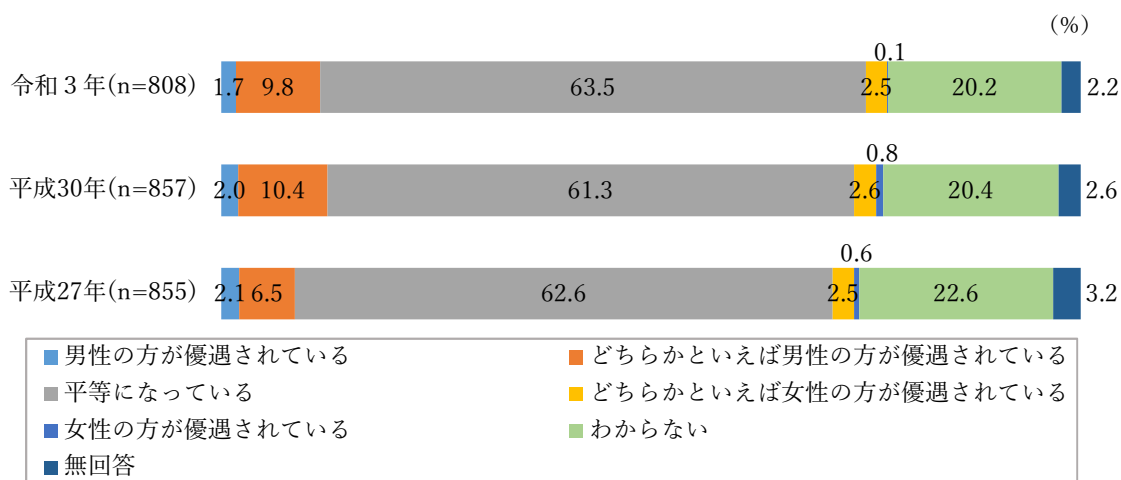
なお、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、全ての年代で5割を超えている。



### ③ 学校教育

#### 【全体】

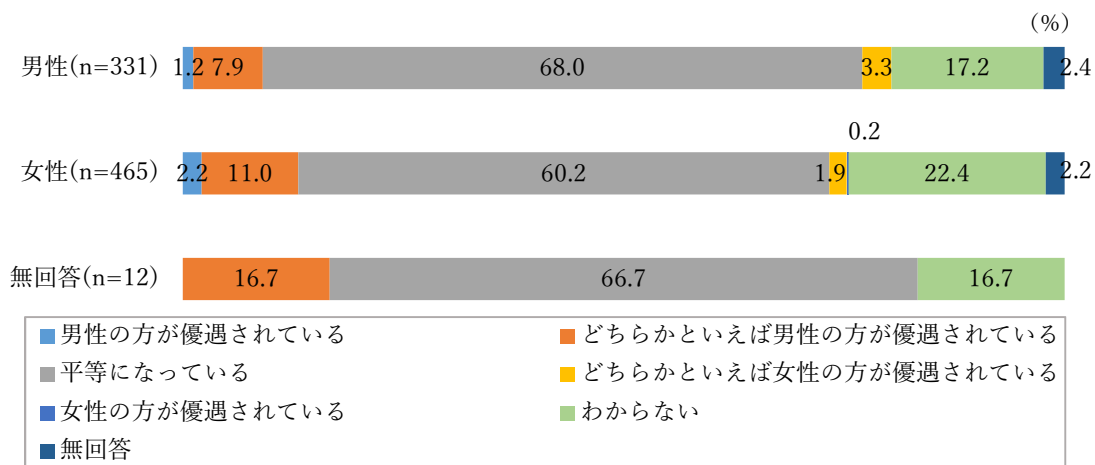
学校教育において、「平等」と感じている人の割合は、63.5%で前回調査に比べ2.2ポイント高く、平成22年調査以降減少傾向にあったが、今回は増加している。



#### 【性別】

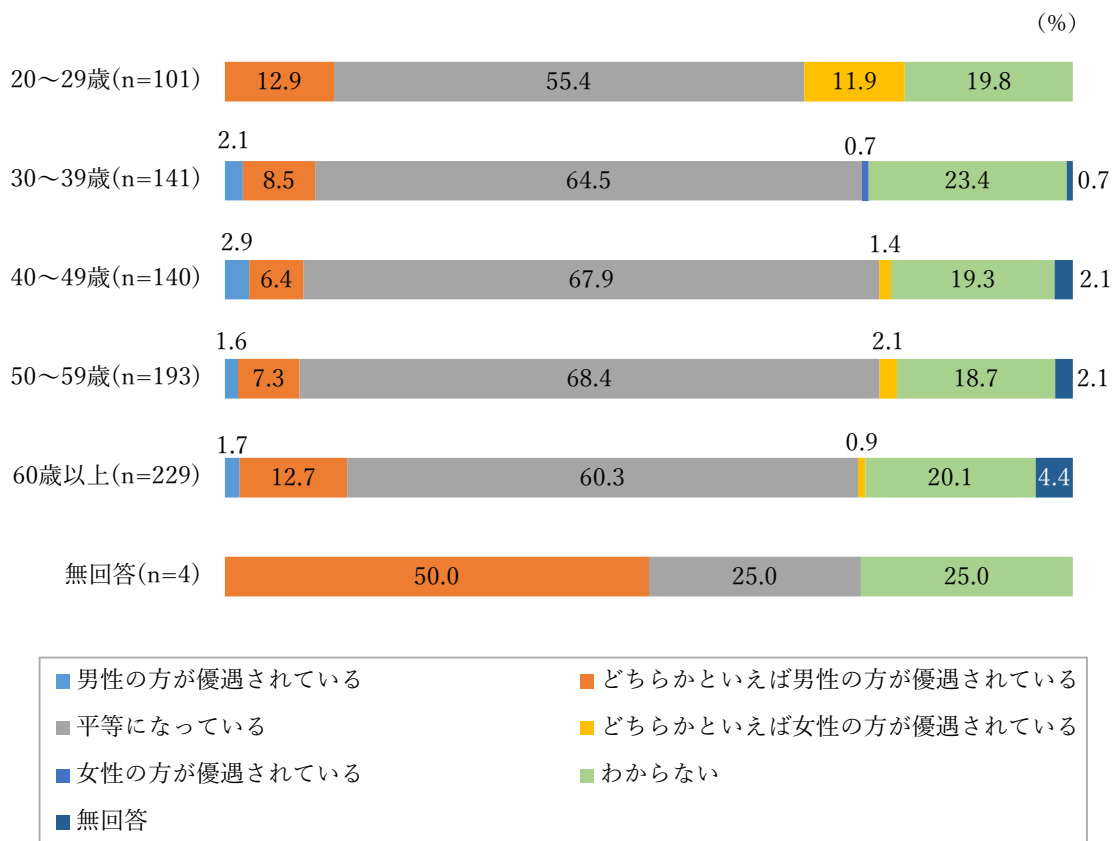
性別で見ると、「平等」と感じている人の割合は、男性が68.0%であるのに対し、女性は60.2%と7.8ポイント低くなっており、前回調査の3.2ポイントの差より4.6ポイント低い。

家庭生活や職場に比べ、「平等」と感じている人の割合が高い。



### 【年代別】

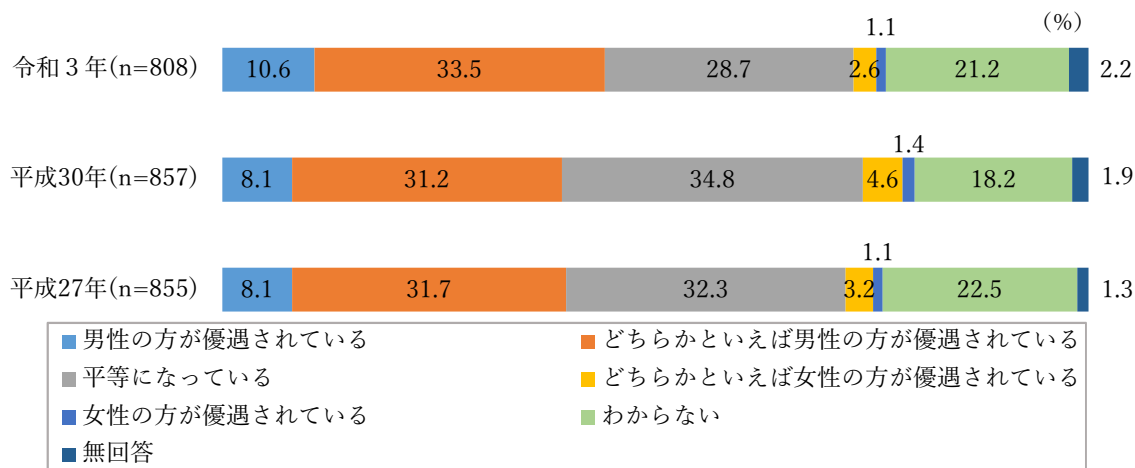
年代別では、「平等」と感じている人の割合が、20～29歳を除く全ての年代で、6割を超えている。20歳代では、「どちらかといえば女性が優遇されている」と感じる人の割合が、11.9%あり、全体的に目の付く数字となっている。



### ④ 自治会などの地域社会

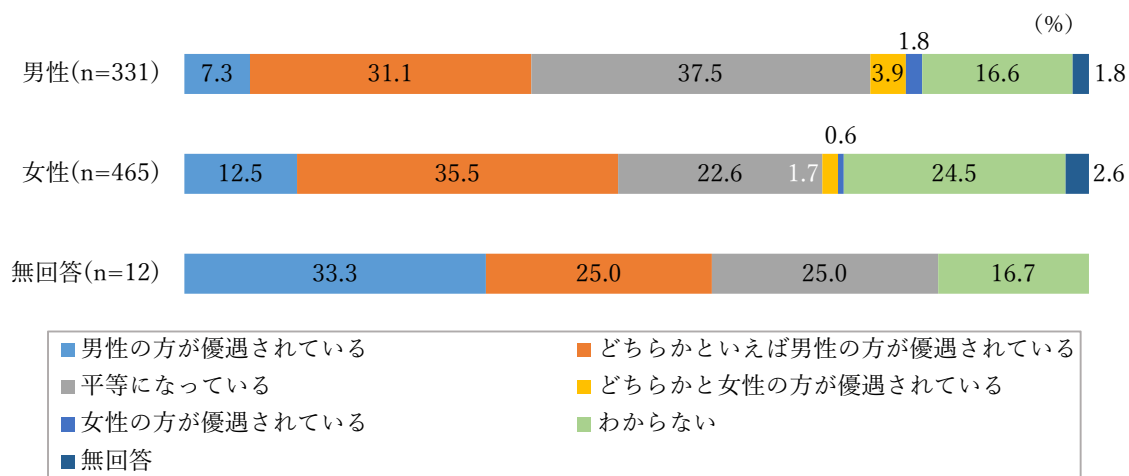
#### 【全体】

地域社会において、「平等」と感じている人の割合は、28.7%と前回調査から6.5ポイント減少している。しかし、依然として『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、前回調査より4.8ポイント増加している。



## 【性別】

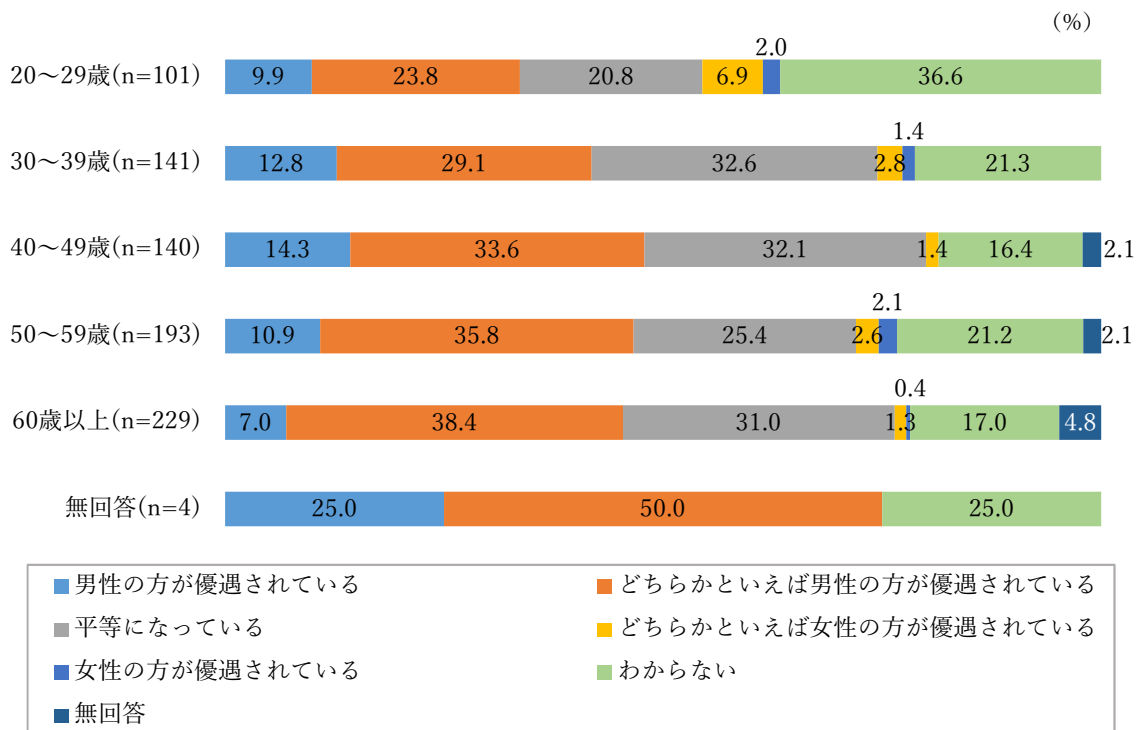
性別でみると、「平等」と感じている人の割合は、男性が37.5%であるのに対し、女性は22.6%と14.9ポイント低くなっており、前回調査の11.8ポイントの差より3.1ポイント高い。



## 【年代別】

年代別でみると、「平等」と感じている年代は、30～39歳が32.6%と一番高くなっている。対照的に20歳代の若い世代が20.8%と一番低くなっている。

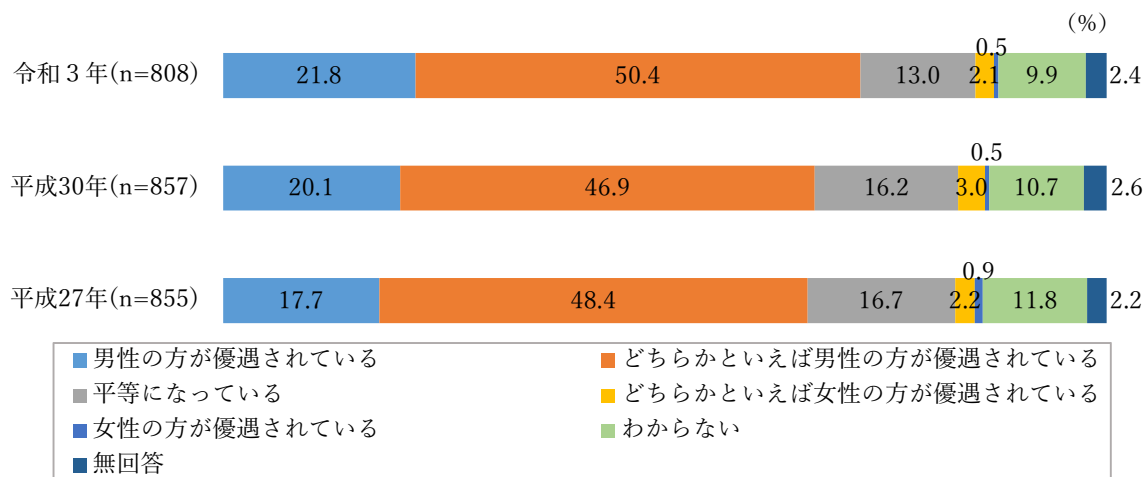
なお、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、40～49歳が47.9%と一番高くなっている。



⑤ 社会通念・慣習・しきたり

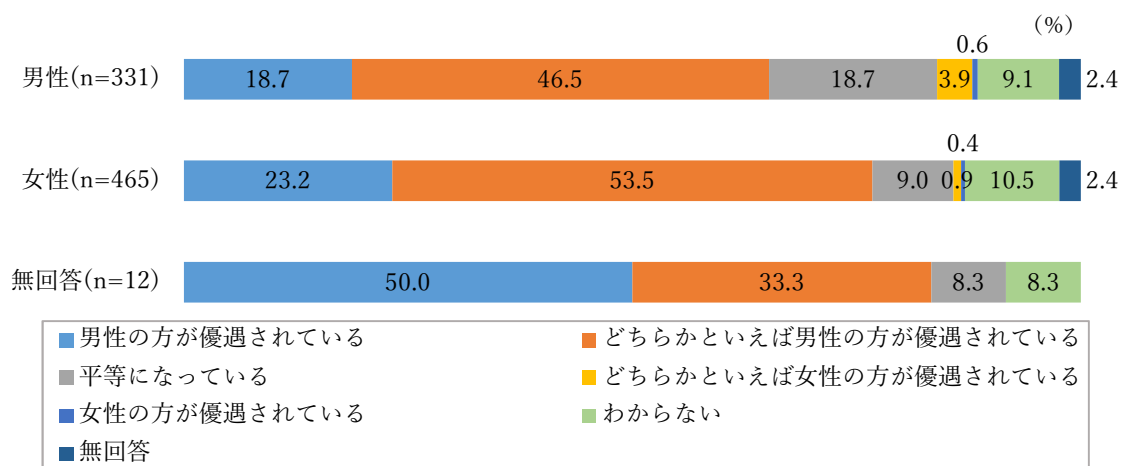
【全体】

社会通念・慣習・しきたりにおいて、「平等」と感じている人の割合は、13.0%で前回調査に比べ3.2ポイント減少し、『男性が優遇（計）』は72.2%と前回調査から5.2ポイント増加している。



【性別】

性別で見ると、「平等」と感じている人の割合は、男性が18.7%であるのに対し、女性は9.0%と9.7ポイント低くなっており、前回調査の7.9ポイントの差より1.8ポイント高い。

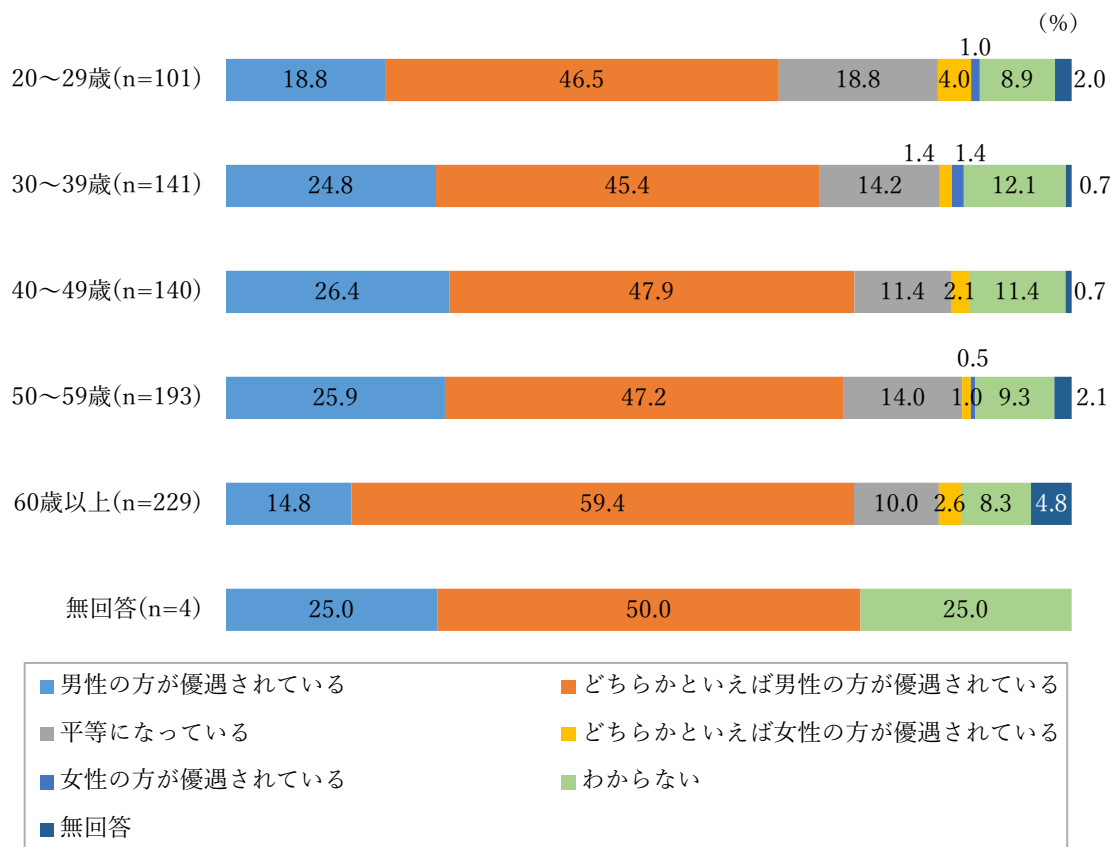




### 【年代別】

年代別でみると、「平等」と感じている年代は、20～29歳が18.8%と一番高くなっている。対照的に60歳以上は10.0%と一番低くなっている。

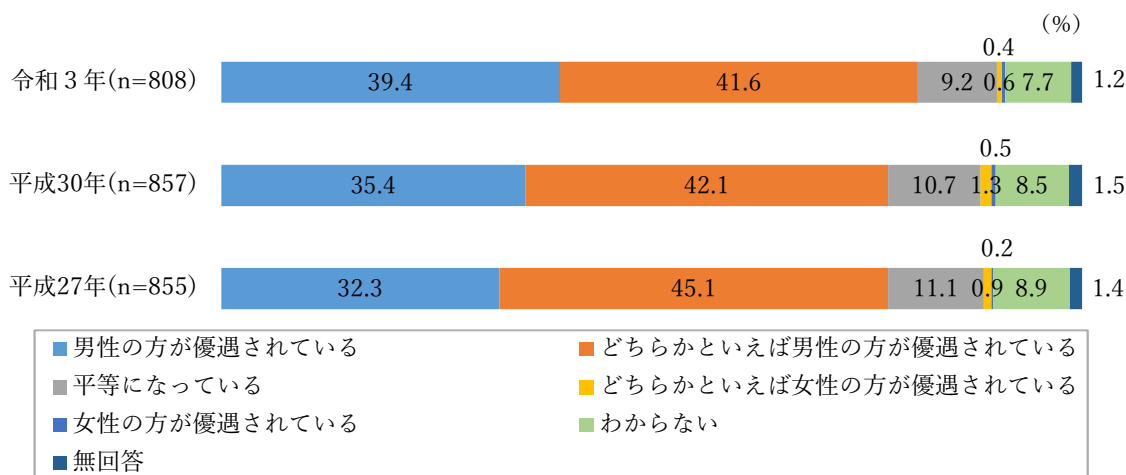
なお、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合も、60歳以上が74.2%と一番高くなっている。



### ⑥ 政治の場

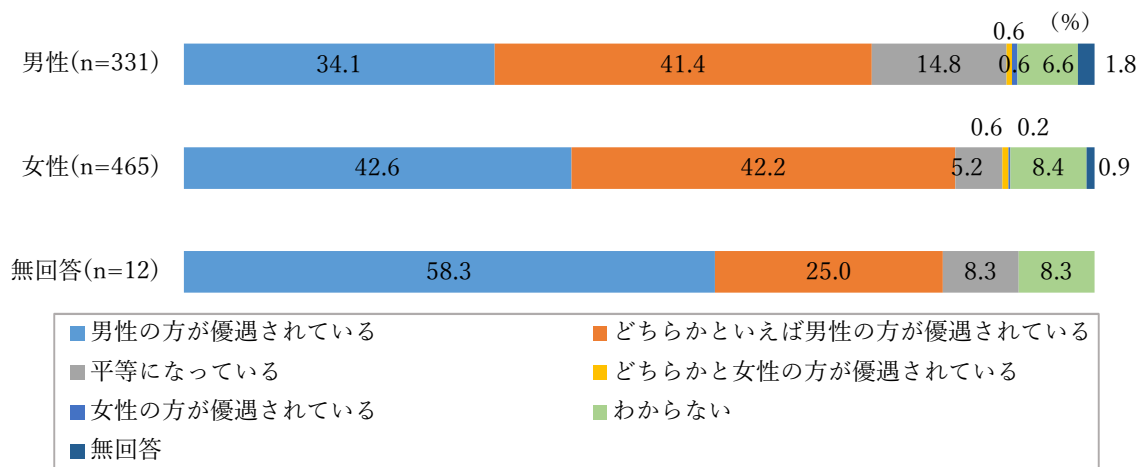
#### 【全体】

政治の場において、「平等」と感じている人の割合は、9.2%で前回調査に比べ1.5ポイント減少し、『男性が優遇（計）』は81.0%と前回調査から2.5ポイント増加している。



## 【性別】

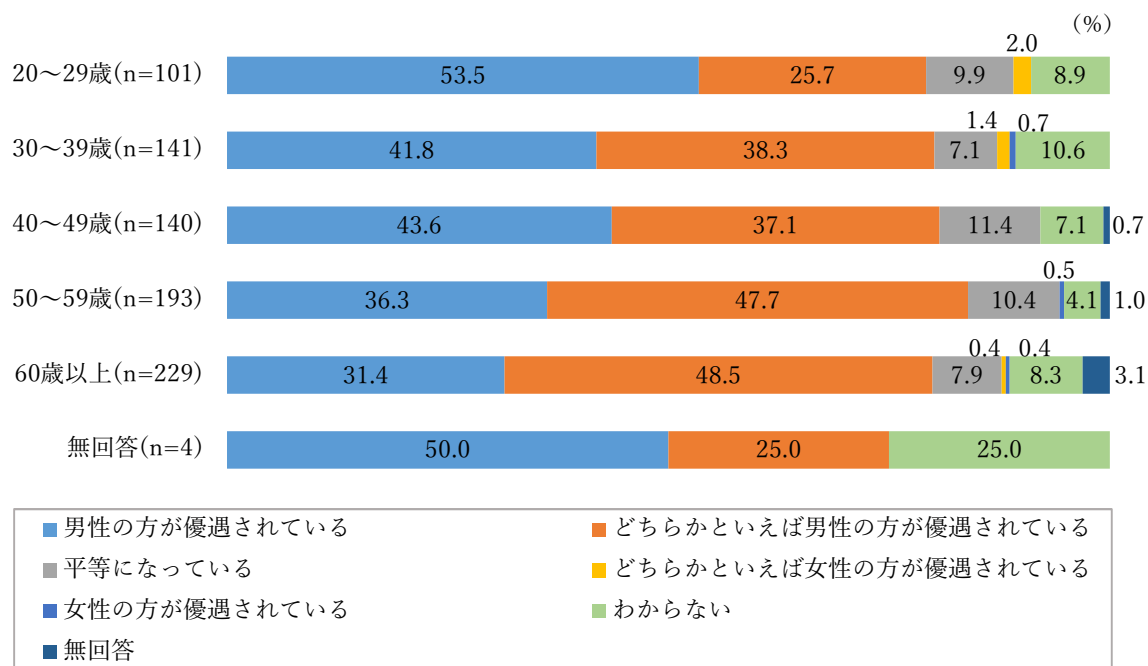
性別でみると、「平等」と感じている人の割合は、男性が14.8%であるのに対し、女性は5.2%と9.6ポイント低くなっており、前回調査の12.0ポイントの差より2.4ポイント低い。



## 【年代別】

年代別でみると、「平等」と感じている年代は、40～49歳が11.4%と一番高くなっている。次いで50～59歳の10.4%ですが、そのほかの年代は10%以下と低くなっている。

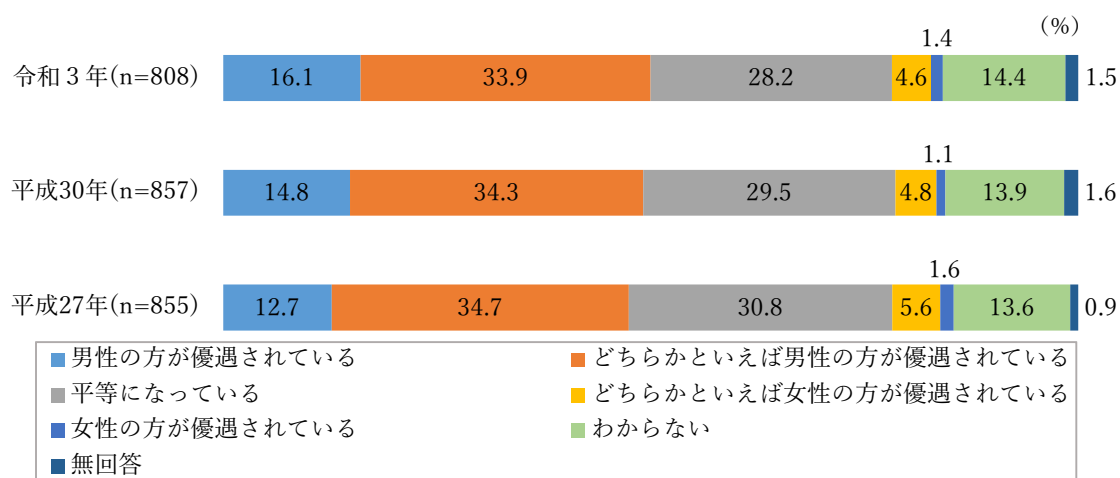
なお、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、50～59歳が84.0%と一番高くなっている。



⑦ 法律や制度の上

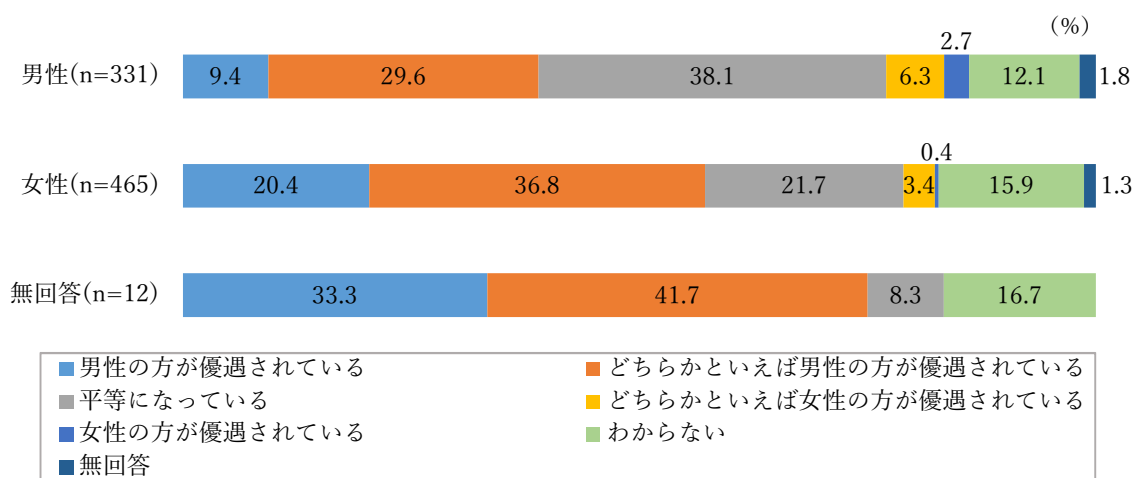
【全体】

法律や制度の上において、「平等」と感じている人の割合は、28.2%で前回調査に比べ1.3ポイント減少し、『男性が優遇（計）』は50.0%と前回調査から0.9ポイント増加している。



【性別】

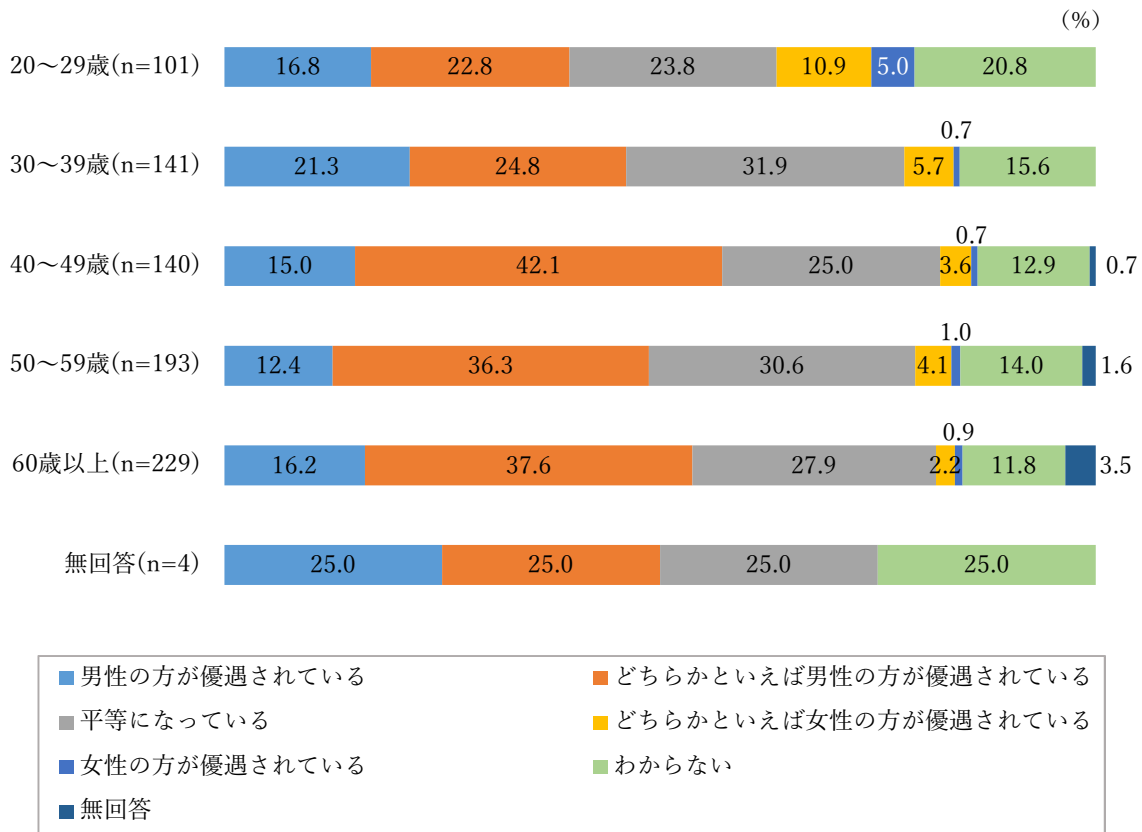
性別でみると、「平等」と感じている人の割合は、男性が38.1%であるのに対し、女性は21.7%と16.4ポイント低くなっており、前回調査の19.1ポイントの差より2.7ポイント低い。



【年代別】

年代別でみると、「平等」と感じている年代は、30～39歳が31.9%と一番高くなっている。次いで50～59歳の30.6%ですが、そのほかの年代は20%台と低くなっている。

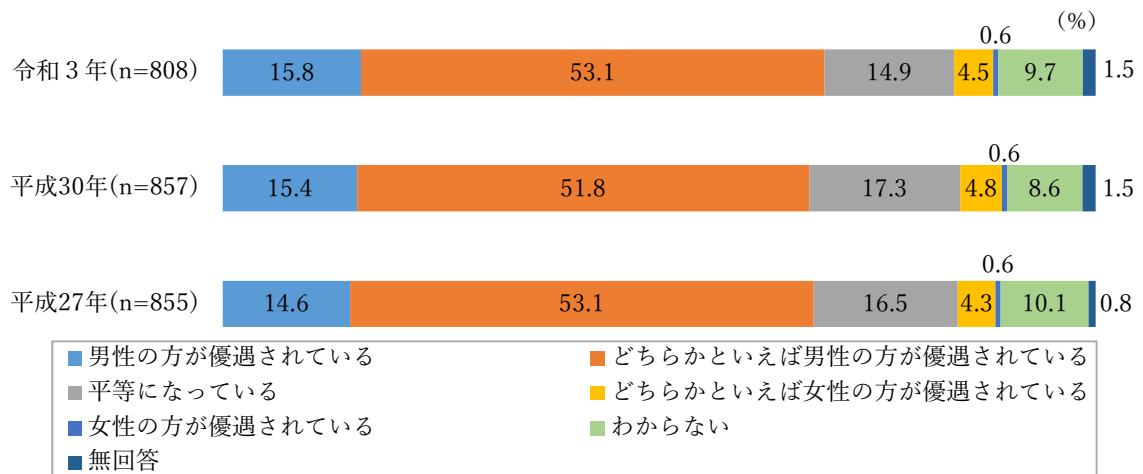
なお、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、40～49歳が57.1%と一番高くなっている。



⑧ 社会全体

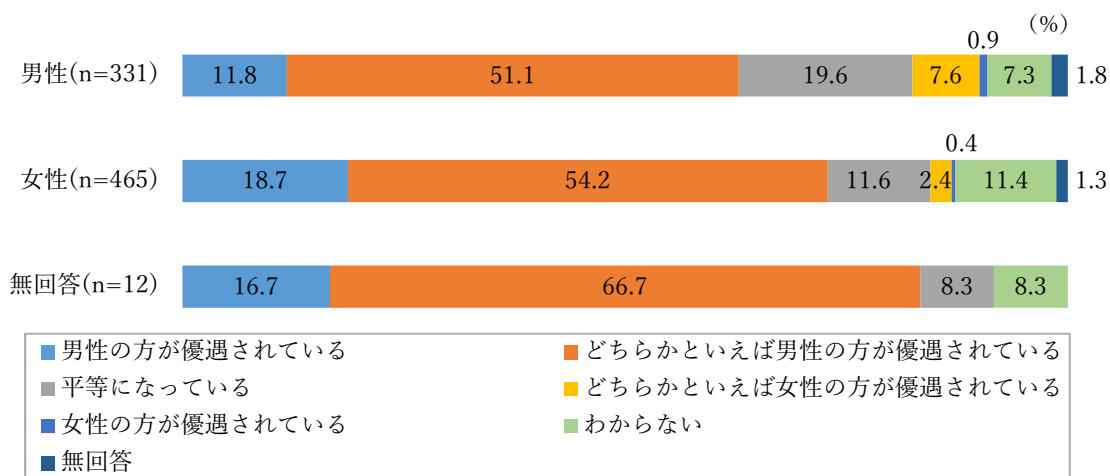
【全体】

社会全体において、「平等」と感じている人の割合は、14.9%で前回調査に比べ2.4ポイント減少し、『男性が優遇（計）』は68.9%と前回調査から1.7ポイント増加している。



### 【性別】

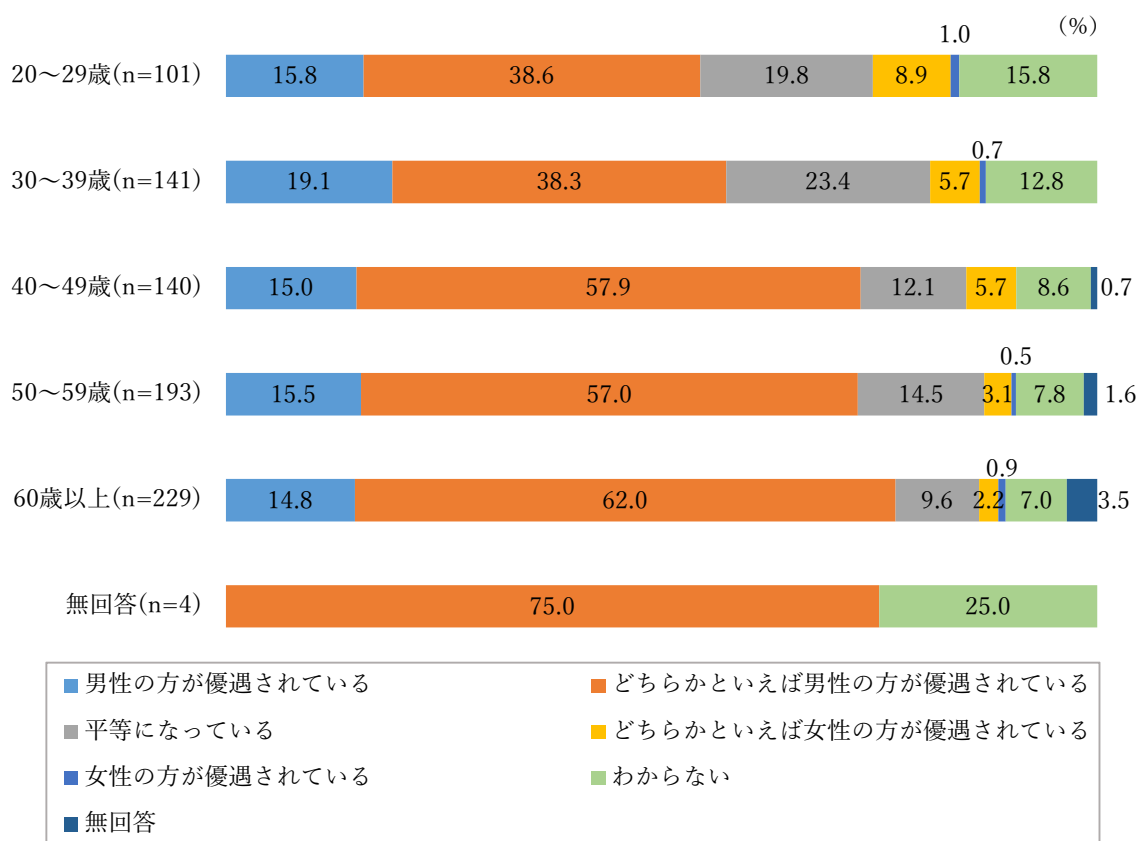
性別でみると、「平等」と感じている人の割合は、男性が19.6%であるのに対し、女性は11.6%と8.0ポイント低くなっており、前回調査の8.5ポイントの差より0.5ポイント低い。



### 【年代別】

年代別でみると、「平等」と感じている年代は、30～39歳が23.4%と一番高くなっている。対照的に60歳以上では9.6%と低く、一桁の数字となっている。

なお、『男性が優遇（計）』と感じている人の割合は、60歳以上が76.8%と一番高くなっている。

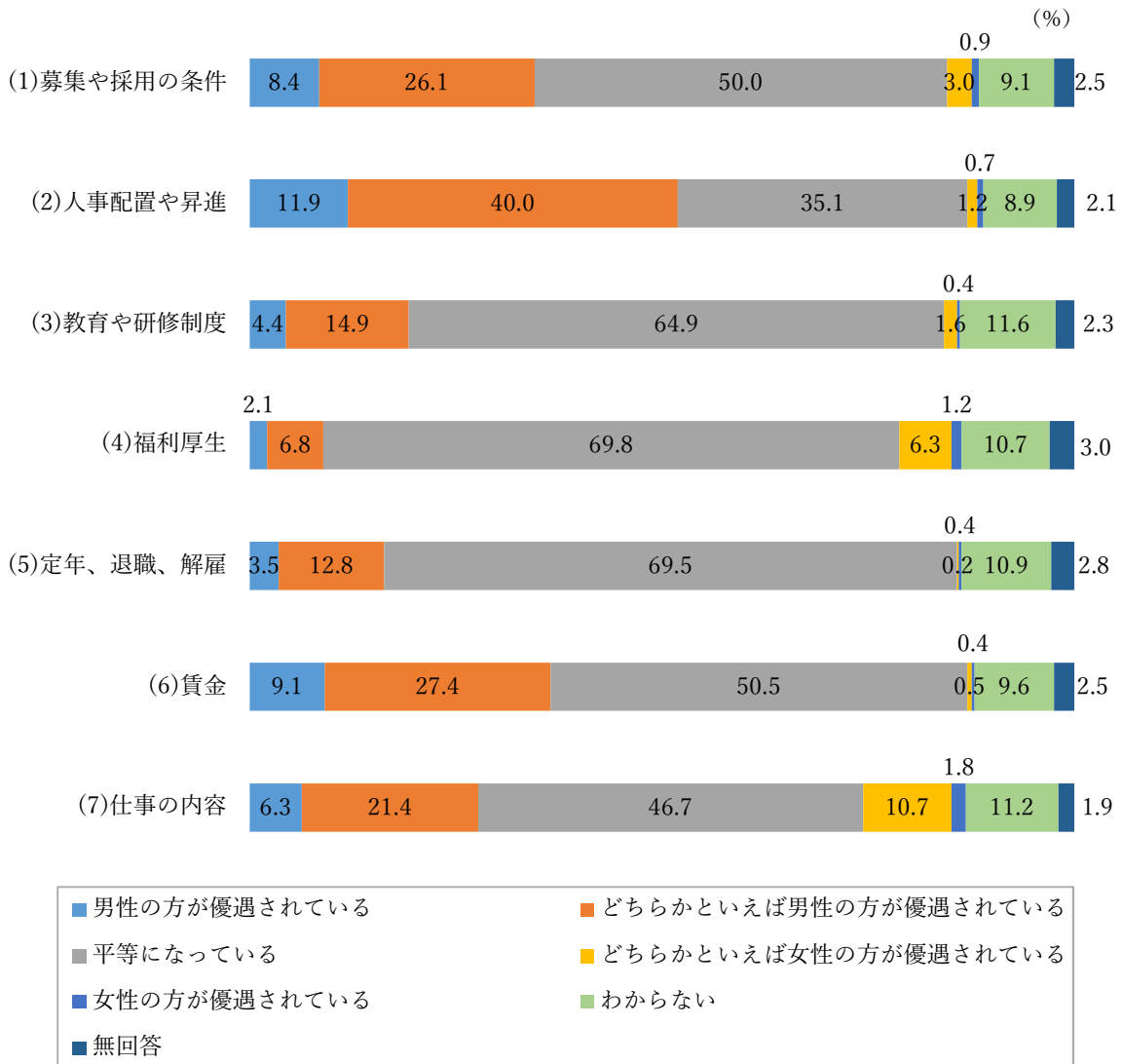


**【問2】 あなたの職場では、どの程度男女平等になっていると思いますか。**

**【全体】**

職場について、「平等になっている」と感じている人の割合は、「人事配置や昇進」と「仕事の内容」以外の項目で5割を超えている。

「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた割合の最も高い項目は「人事配置や昇進」の51.9%で、「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の最も高い項目は「仕事の内容」の12.5%となっている。

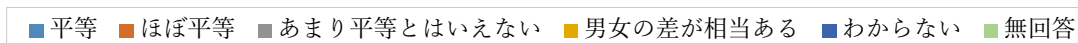
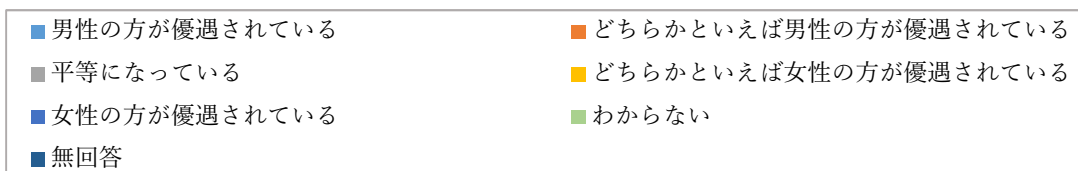


① 募集や採用の条件

【全体】

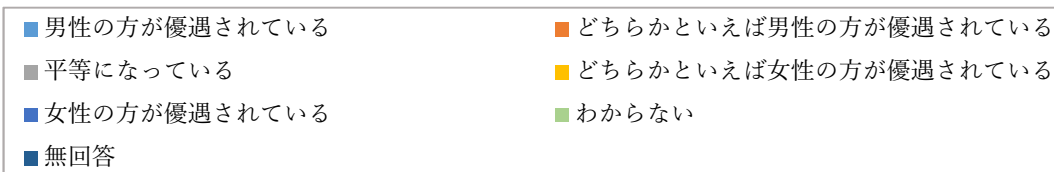
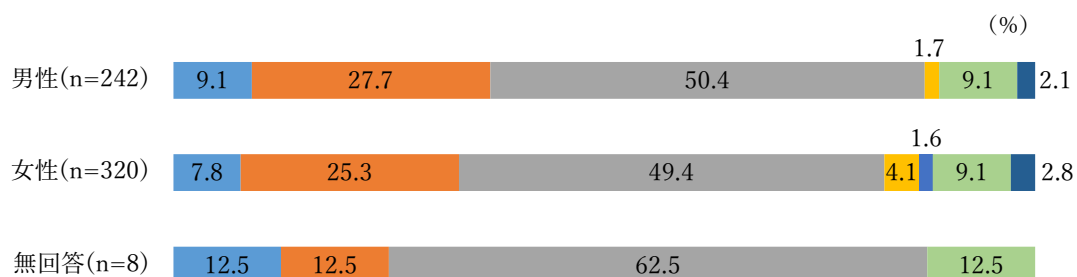
募集や採用の条件においては、前回より回答方法を変更しました。

「平等」と感じている人の割合は、50.0%で前回調査の「平等」と「ほぼ平等」と感じている人を合わせた割合（以下『平等（計）』という。）の53.7%に比べ、3.7%減少している。



【性別】

男女別でみると、「平等」と感じている人の割合は、男性が50.4%であるのに対し、女性は49.4%と1.0ポイント低くなっており、前回調査の0.4ポイントの差より0.6ポイント高い。

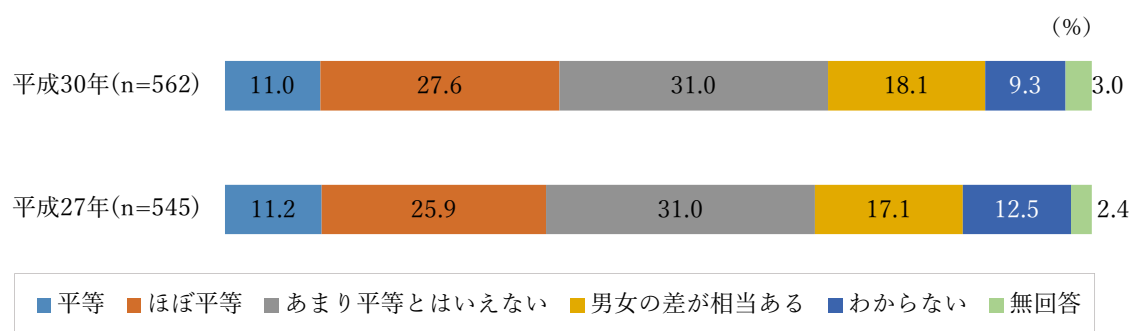
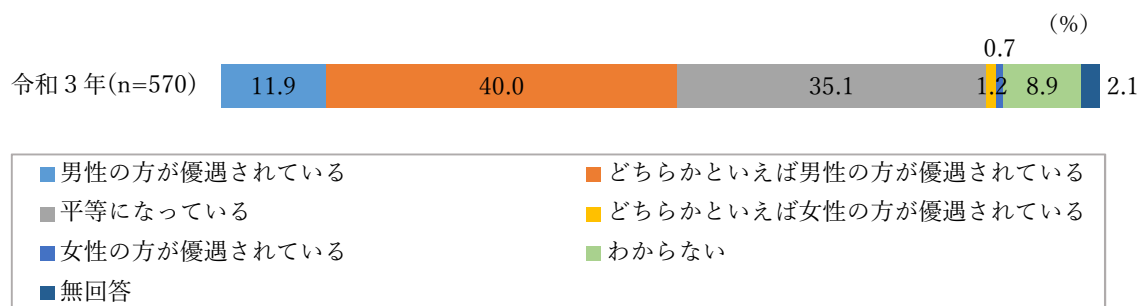


## ② 人事配置や昇進

### 【全体】

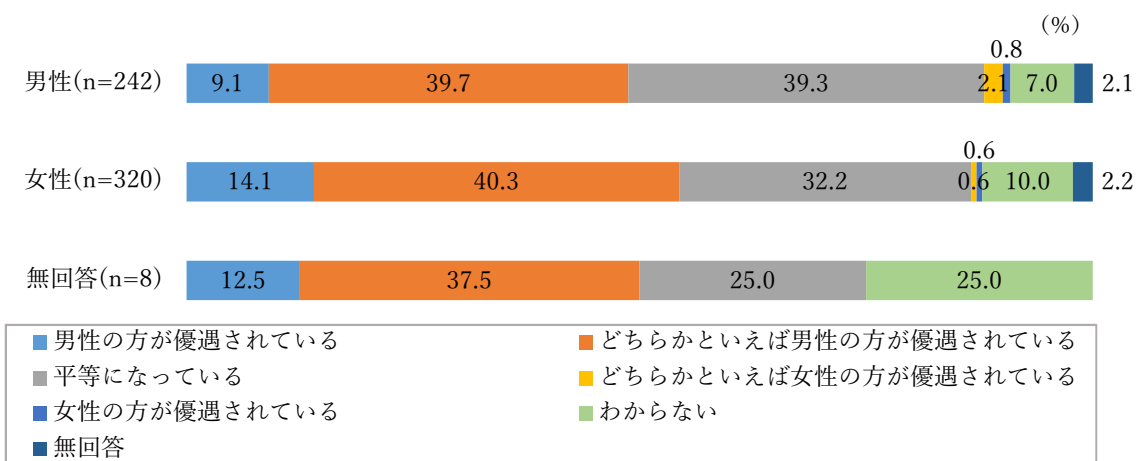
人事配置や昇進においては、前回より回答方法を変更しました。

「平等」と感じている人の割合は、35.1%で前回調査の『平等（計）』の38.6%に比べ、3.5%減少している。



### 【性別】

男女別でみると、「平等」と感じている人の割合は、男性が39.3%であるのに対し、女性は32.2%と7.1ポイント低くなっており、前回調査の2.1ポイントの差より5.0ポイント高い。



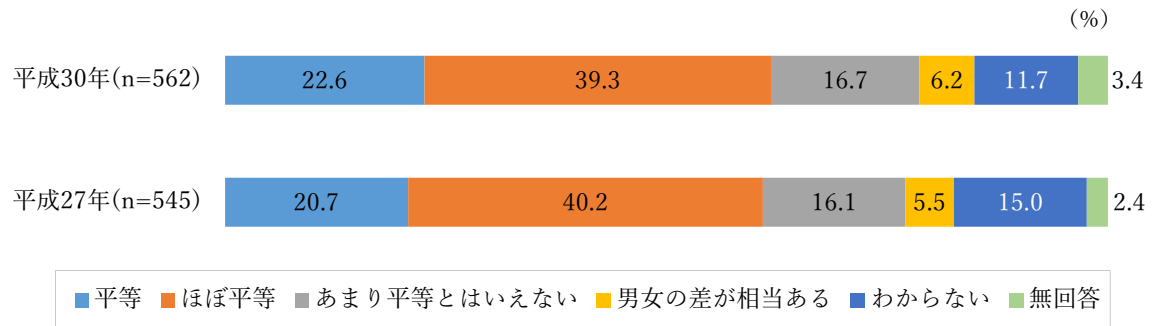
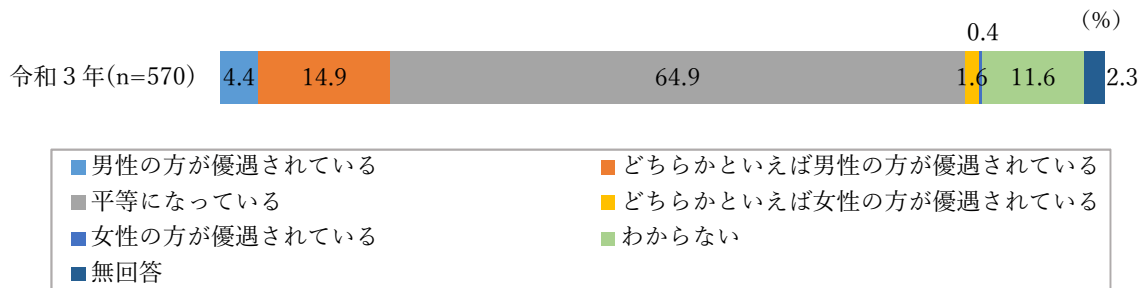


### ③ 教育や研修制度

#### 【全体】

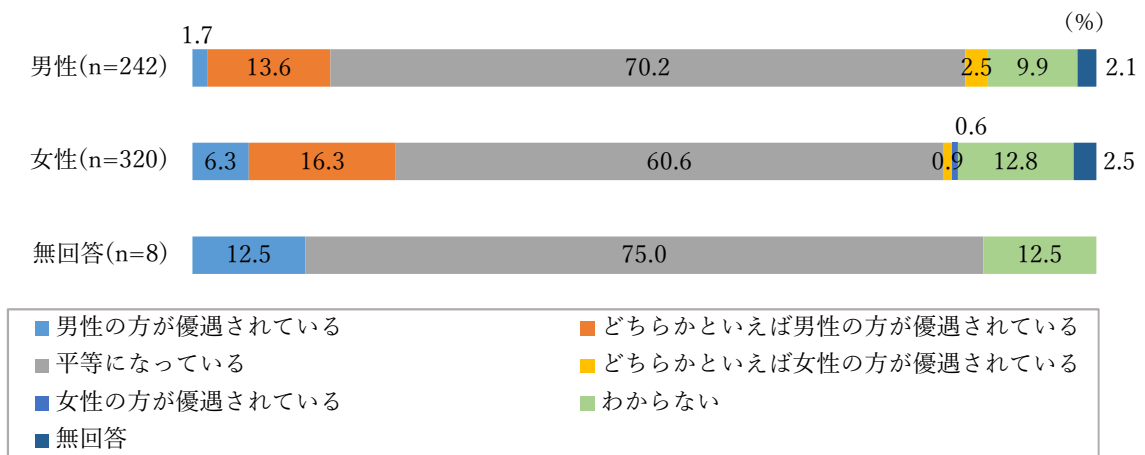
教育や研修制度においては、前回より回答方法を変更しました。

「平等」と感じている人の割合は、64.9%で前回調査の『平等（計）』の61.9%に比べ、3.0%増加している。



#### 【性別】

男女別でみると、「平等」と感じている人の割合は、男性が70.2%であるのに対し、女性は60.6%と9.6ポイント低くなっており、前回調査の1.6ポイントの差より8.0ポイント高い。

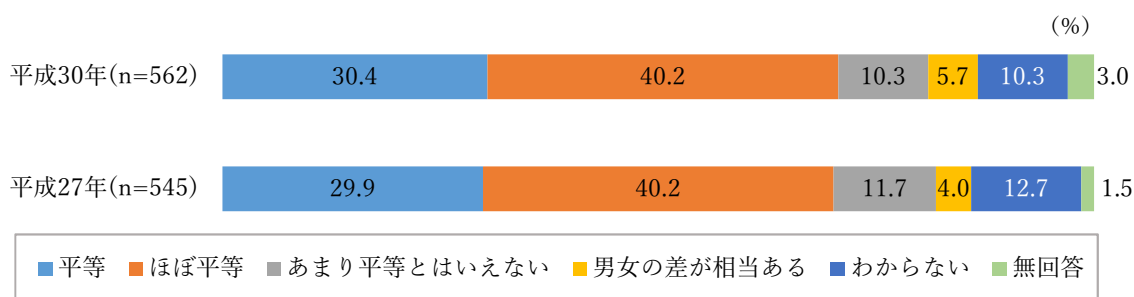
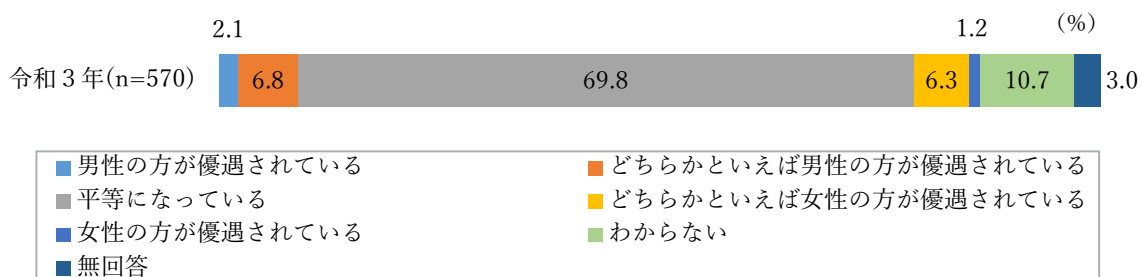


#### ④ 福利厚生

##### 【全体】

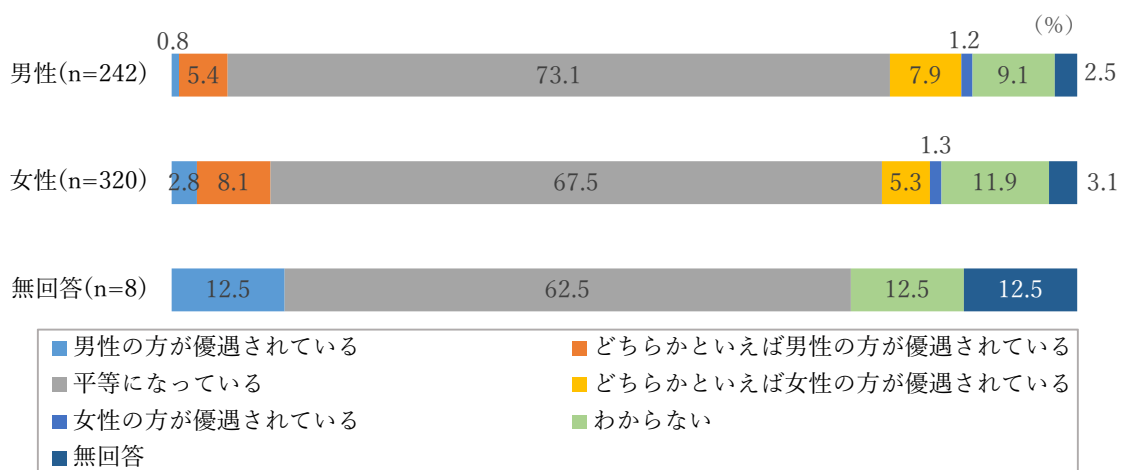
福利厚生においては、前回より回答方法を変更しました。

「平等」と感じている人の割合は、69.8%で前回調査の『平等（計）』の70.6%に比べ、0.8%減少している。



##### 【性別】

男女別でみると、「平等」と感じている人の割合は、男性が73.1%であるのに対し、女性は67.5%と5.6ポイント低くなっており、前回調査の3.9ポイントの差より1.7ポイント高い。

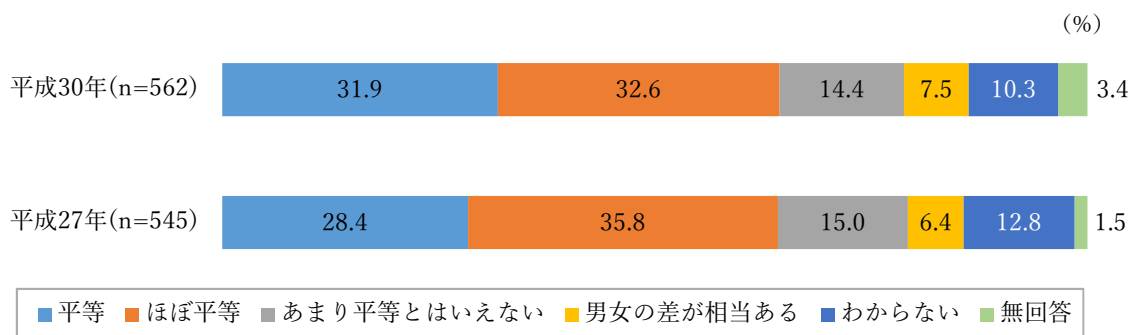
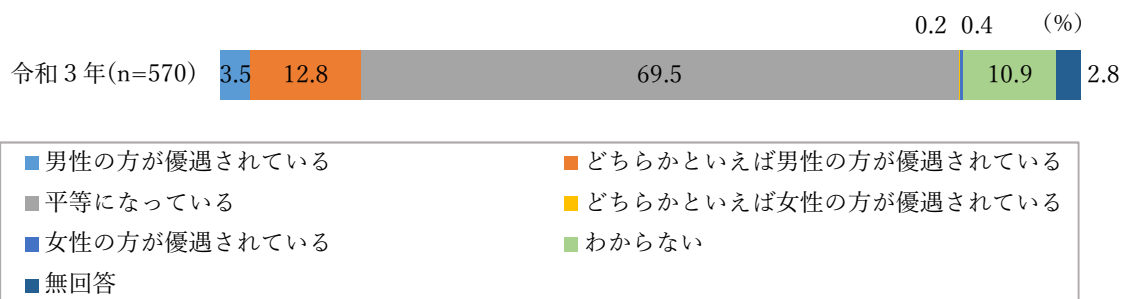


⑤ 定年、退職、解雇

【全体】

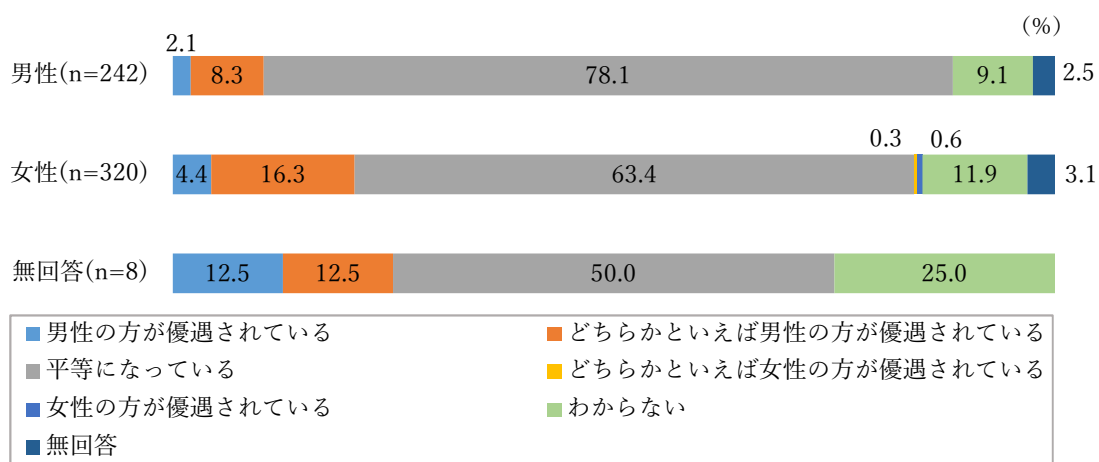
定年、退職、解雇においては、前回より回答方法を変更しました。

「平等」と感じている人の割合は、69.5%で前回調査の『平等（計）』の64.5%に比べ、5.0%増加している。



【性別】

男女別でみると、「平等」と感じている人の割合は、男性が78.1%であるのに対し、女性は63.4%と14.7ポイント低くなっており、前回調査の2.9ポイントの差より11.8ポイント高い。

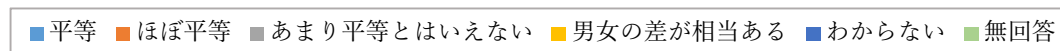


⑥ 賃金

【全体】

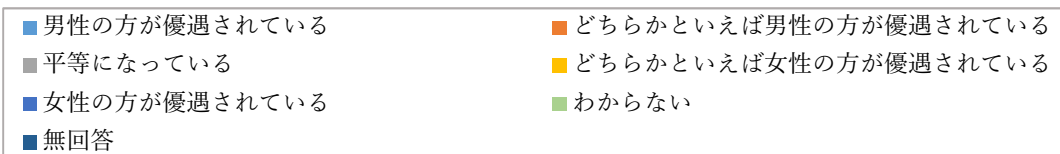
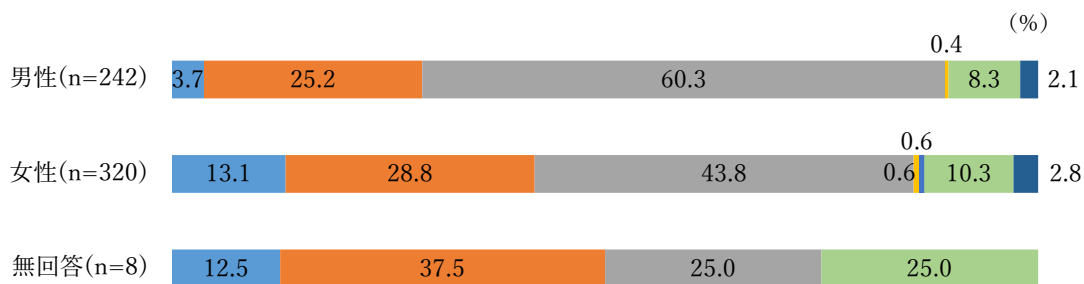
賃金においては、前回より回答方法を変更しました。

「平等」と感じている人の割合は、50.5%で前回調査の『平等（計）』の51.6%に比べ、1.1%減少している。



【性別】

男女別でみると、「平等」と感じている人の割合は、男性が60.3%であるのに対し、女性は43.8%と16.5ポイント低くなっており、前回調査の5.4ポイントの差より11.1ポイント高い。

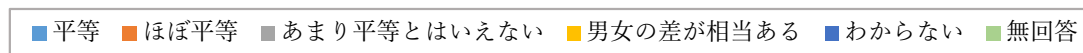
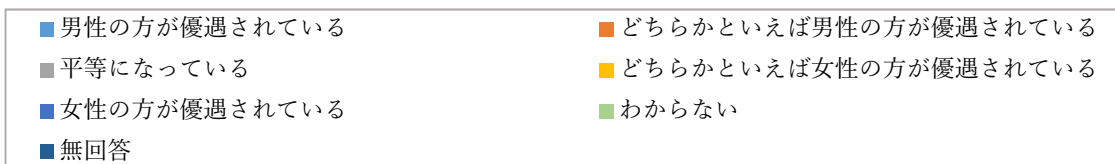


⑦ 仕事の内容

【全体】

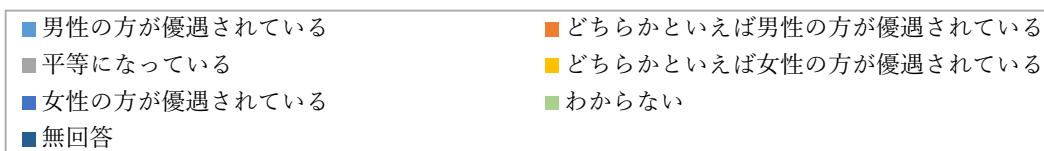
仕事の内容においては、前回より回答方法を変更しました。

「平等」と感じている人の割合は、46.7%で前回調査の『平等（計）』の45.9%に比べ、0.8%増加している。



【性別】

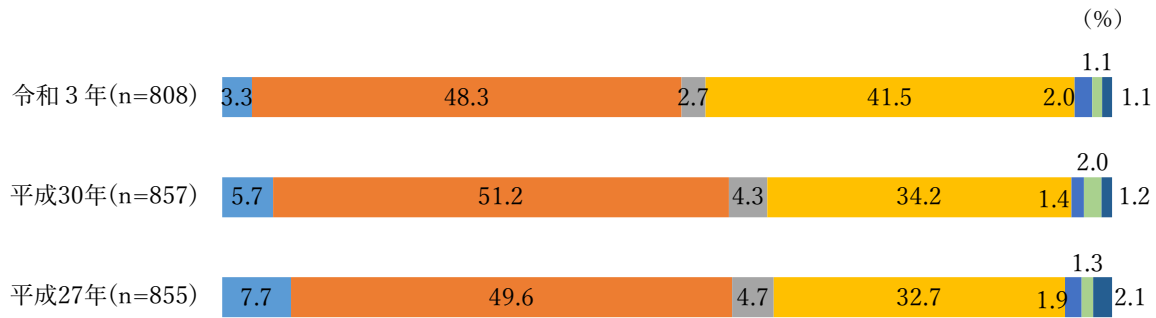
男女別でみると、「平等」と感じている人の割合は、男性が46.3%であるのに対し、女性は46.9%と0.6ポイント高くなっており、前回調査の11.8ポイントの差より11.2ポイント低い。



【問3】 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。

【全体】

「男は仕事、女は家庭」という考え方について聞いたところ、「男女とも仕事をもち、家庭のことも責任を分担」が48.3%で、次いで、「男女の役割は固定せずに、男女どちらかが仕事をしても家庭にいてもよい」が41.5%、「男は仕事、女は家庭」が3.3%、「男女とも仕事をもち、家庭のことは女性が責任をもつ」が2.7%などの順となっている。



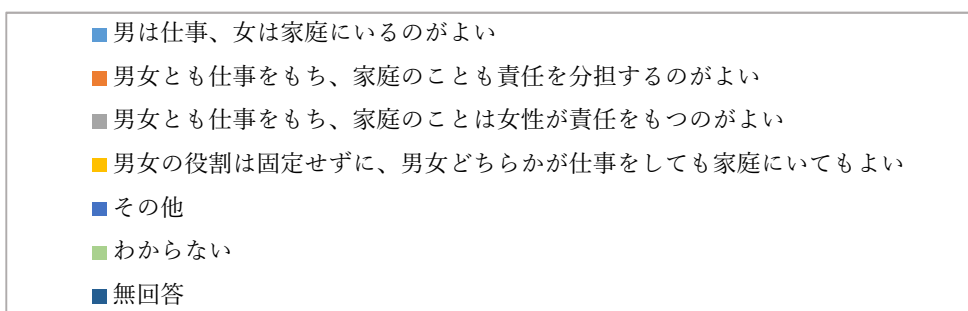
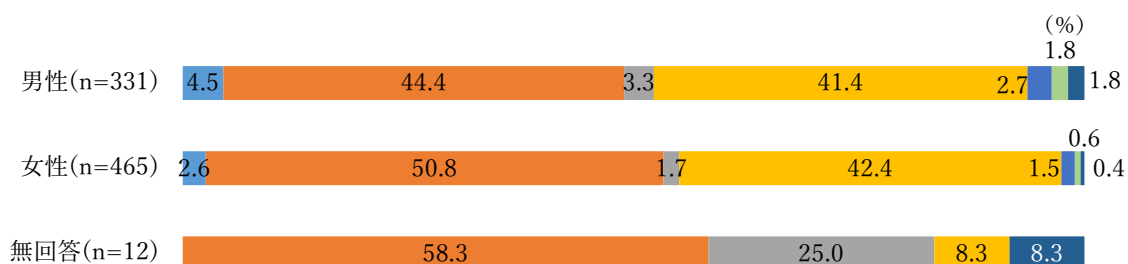
- 男は仕事、女は家庭
- 男女仕事をもち、家庭のことも責任を分担するのがよい
- 男女とも仕事をもち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい
- 男女の役割は固定せずに、男女どちらかが仕事をしても家庭にいてもよい
- その他
- わからない
- 無回答

【その他の意見】

- その家の考え方や働き方によるが、男性も女性も責任をもって生活することと考える。
- それぞれの家庭の事情においての色々な考え方があるはず。
- 男女どちらとも仕事をしてもどちらかが仕事をしてもよいし、家庭も男女で分担して決めていくのがよい。
- お互いの意思を尊重し、各々の家庭でスタイルを決められると良い。
- その時の状況、情勢による。
- 女性中心の社会の方が良い。
- 生活に余裕があればどちらかが働かなくてもよいと思う。
- 環境、財力が許す限り女性は家庭を守り、子育てをする。
- 子供が小さいうちは、女性は家庭にいるのが良い。
- 男は仕事、女は家庭でも仕事でも状況に応じてどちらでもよい。
- 男女とも仕事をもち、家庭のことは女性が主となり男性が協力する。
- 家庭については男女どちらも同じ責任でその都度分かちあえば良いと思う。
- 男女平等で仕事をするというよりは、共働きをしないと生活できない時代で、理想とすれば子供が小さいうちは母親が時間の余裕を持って家事育児ができるのが良いと思います。
- 女はだまって働け、家も1人でやれ

## 【性別】

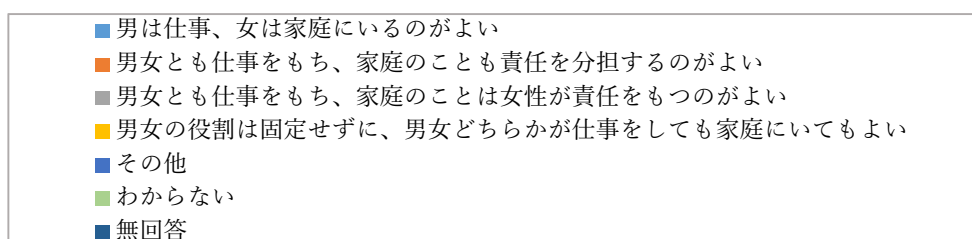
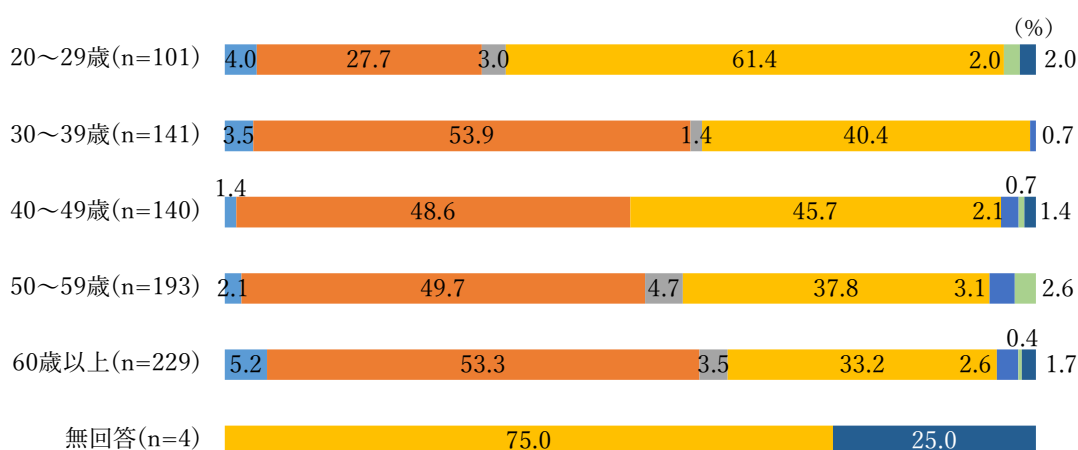
男女別で見ると、「男女とも仕事をもち、家庭のことも責任を分担」は、女性が50.8%で男性の44.4%より6.4ポイント高くなっており、前回調査の4.5ポイントの差より1.9ポイント高い。



## 【年代別】

年代別で見ると、「男女とも仕事をもち、家庭のことも責任を分担」と感じている年代は、30～39歳が53.9%と一番高くなっている。次いで、60歳以上の53.3%となっているが、20～29歳以上では27.7%と年代別では唯一の20%台で低い数字となっている。

また、「男女の役割は固定せずに、男女どちらかが仕事をしても家庭にいてもよい」は、20～29歳が61.4%と5割を超え、他の年代で5割を超える年代はなかった。



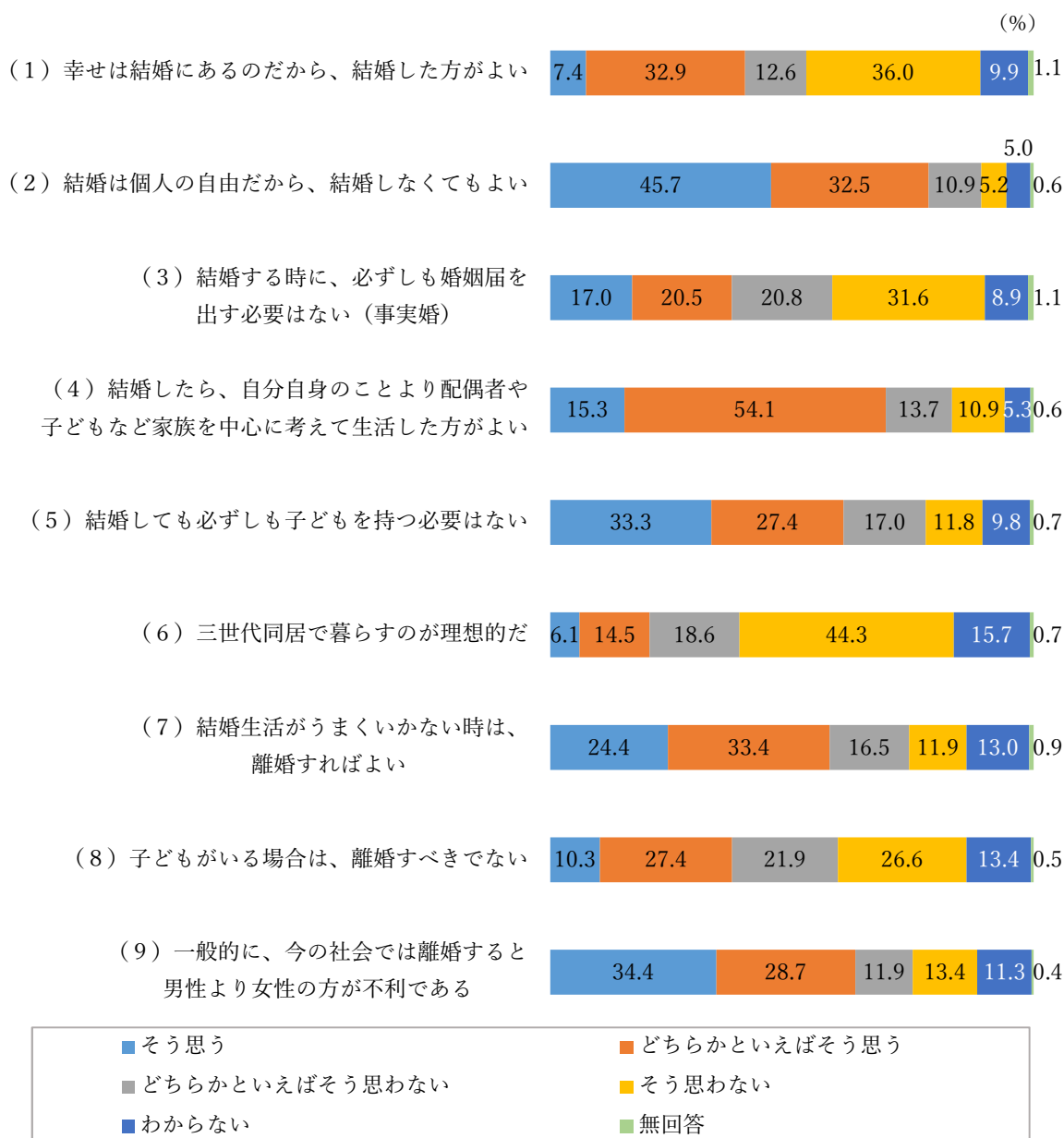
### 3. 結婚・家庭生活・子育て・介護について

【問4】 結婚や家庭、離婚についての考え方について、あなたはどのように思いますか。

【全体】

結婚や家庭、離婚については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた割合（以下『そう思う（計）』という）は、「結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい」が78.2%と最も高く、次いで、「結婚したら、自分自身のことより配偶者や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」が69.4%、「一般的に、今の社会では離婚すると男性より女性の方が不利である」が63.1%などの順になっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた割合（以下『そう思わない（計）』という）は、「三世代同居で暮らすのが理想的だ」が62.9%で最も高く、次いで、「結婚する時に、必ずしも婚姻届を出す必要はない（事実婚）」が52.4%などの順になっている。



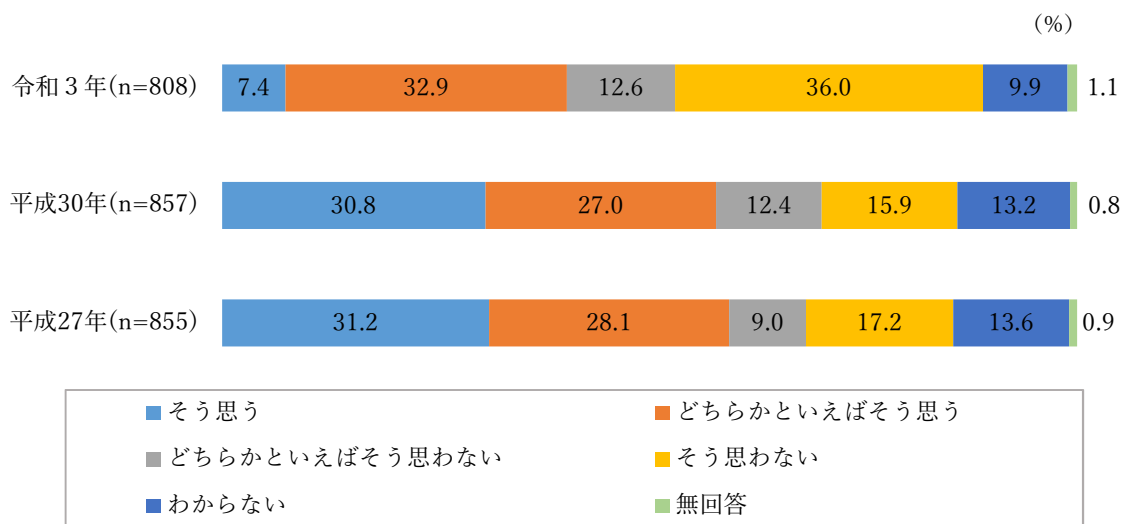


① 幸せは結婚にあるのだから、結婚した方がよい

【全体】

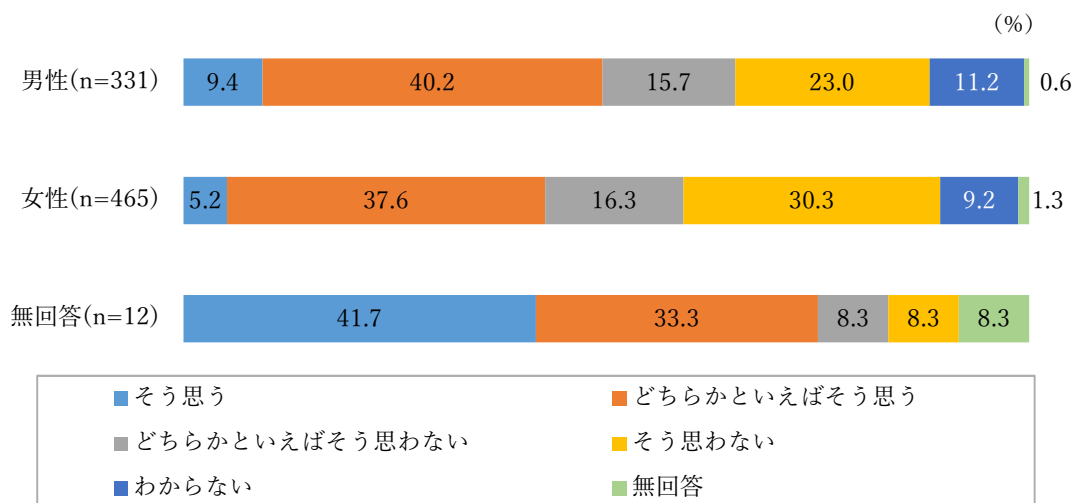
「幸せは結婚にあるのだから、結婚した方がよい」という考え方について聞いたところ、『そう思う（計）』は40.3%で前回調査（選択肢は「女性の幸せは結婚にあるのだから、女は結婚した方がよい」）に比べ17.5ポイント増加しているが、『そう思わない（計）』は48.6%で20.3ポイント減少している。

※平成27年、30年との選択肢違いあり（女性の幸せは結婚にあるのだから、女は結婚した方がよい）



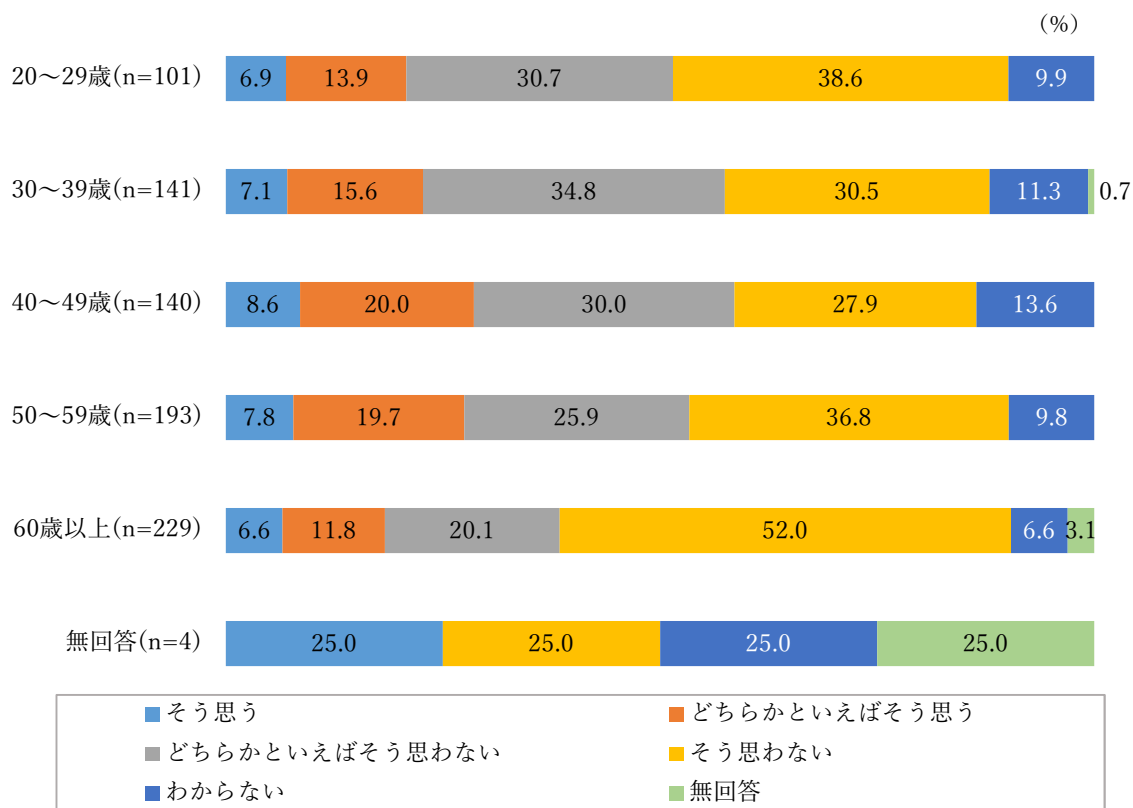
【性別】

男女別で見ると、『そう思う（計）』は男性が49.6%で女性の42.8%より6.8ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は女性が46.6%で男性の38.7%より7.9ポイント高くなっている。



### 【年代別】

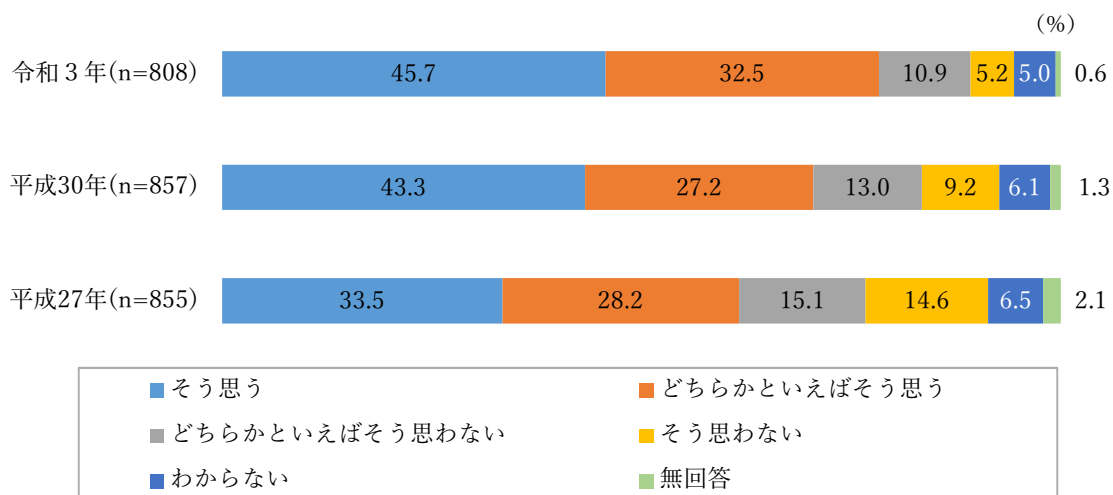
年代別でみると、『そう思う（計）』は40～49歳が28.6%で最も高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は60歳以上が72.1%と最も高く、次いで20～29歳が69.3%、30～39歳が65.3%などの順になっている。



### ② 結婚は個人の自由だから、結婚しなくてもよい

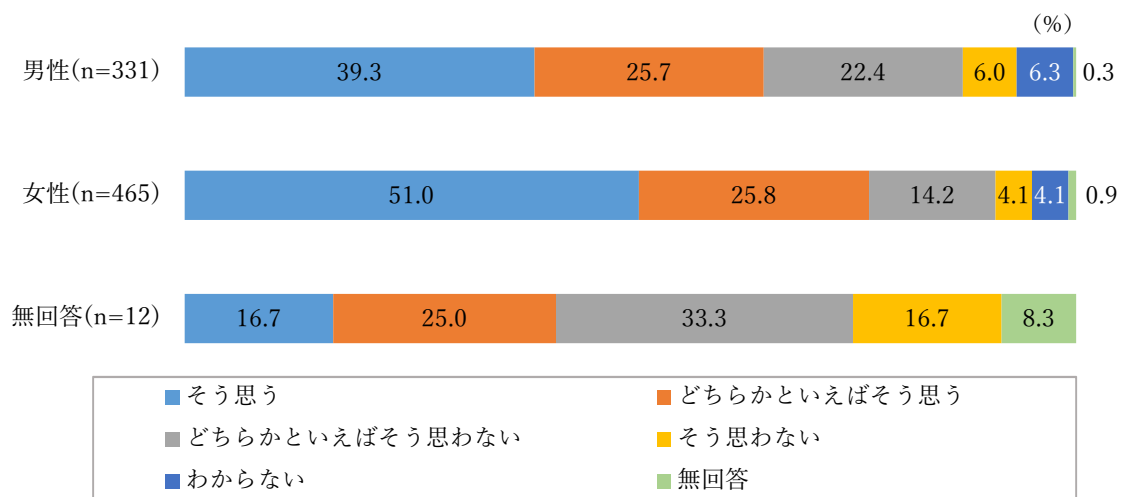
#### 【全体】

「結婚は個人の自由だから、結婚しなくてもよい」という考え方について聞いたところ、『そう思う（計）』は78.2%で前回調査に比べ7.7ポイント増加しているが、『そう思わない（計）』は16.1%で前回調査に比べると6.1ポイント減少している。



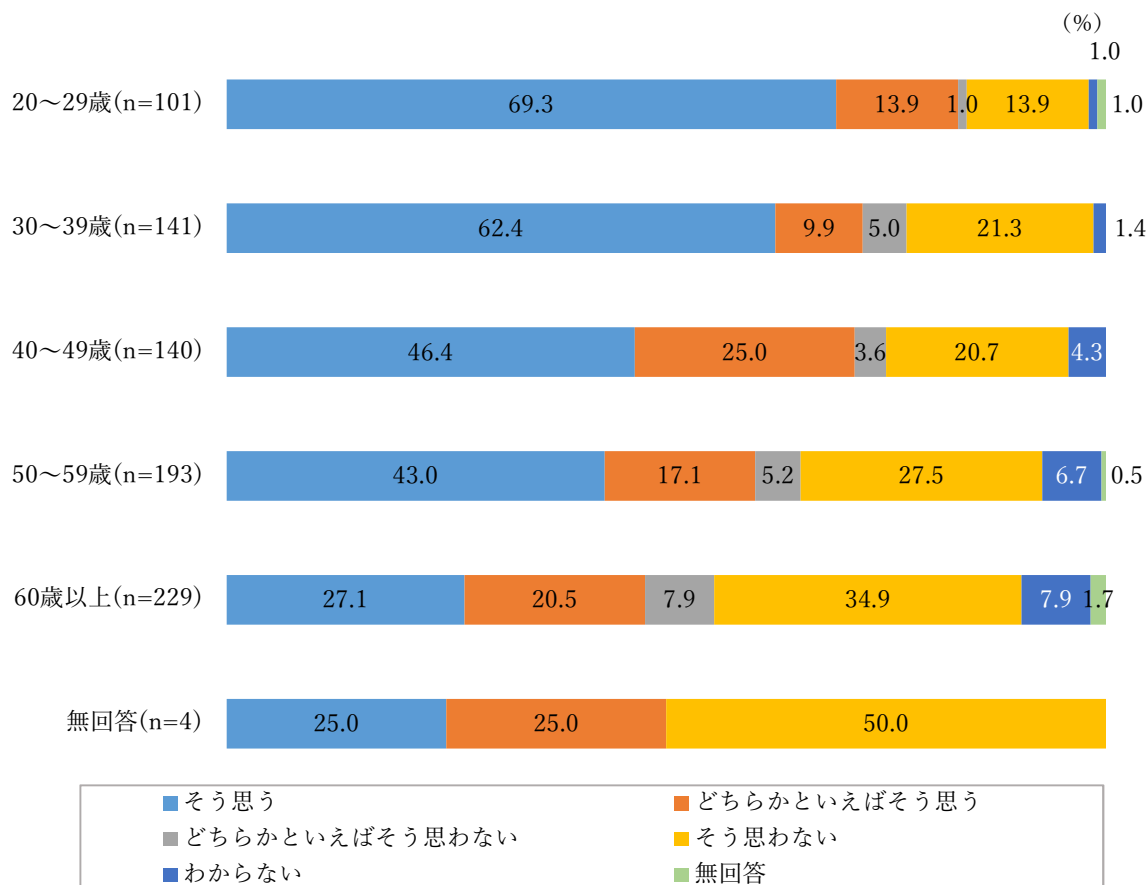
### 【性別】

男女別でみると、『そう思う（計）』は女性が76.8%で男性の65.0%より11.8ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性が28.4%で女性の18.3%より10.1ポイント高くなっている。



### 【年代別】

年代別でみると、『そう思う（計）』は年代が低くなるほど割合が高く、20～29歳で約8割となっている。一方、『そう思わない（計）』は60歳以上が42.8%、次いで、50～59歳が32.7%、30～39歳が26.3%となどの順になっている。

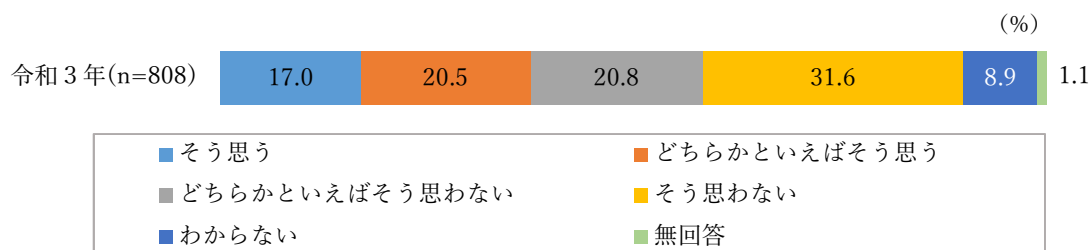


③ 結婚する時に、必ずしも婚姻届を出す必要はない（事実婚）

【全体】

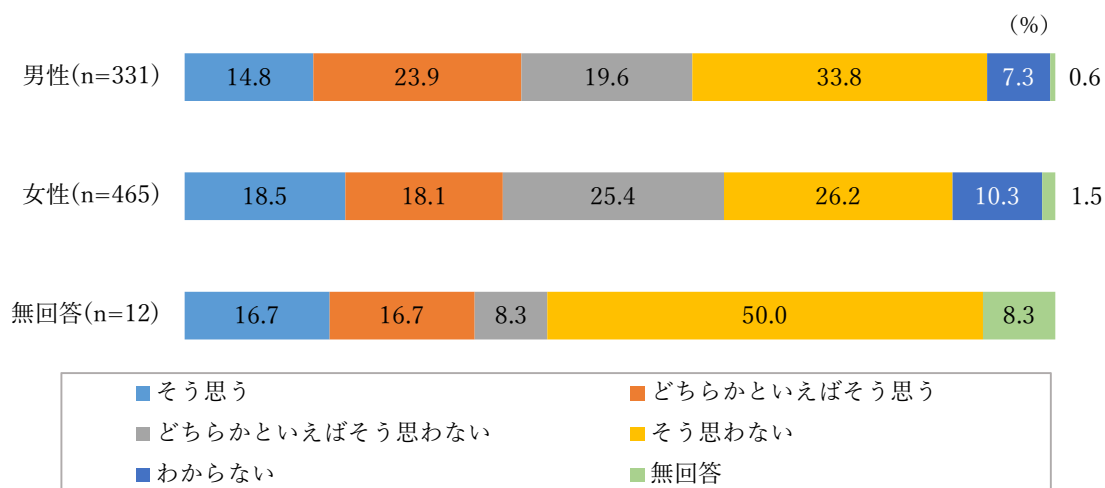
「結婚する時に、必ずしも婚姻届を出す必要はない（事実婚）」という考え方について聞いたところ、『そう思わない（計）』が52.4%、『そう思う（計）』が37.5%で14.9ポイント高くなっている。

※平成27年、30年は選択肢がなく、経年比較なし



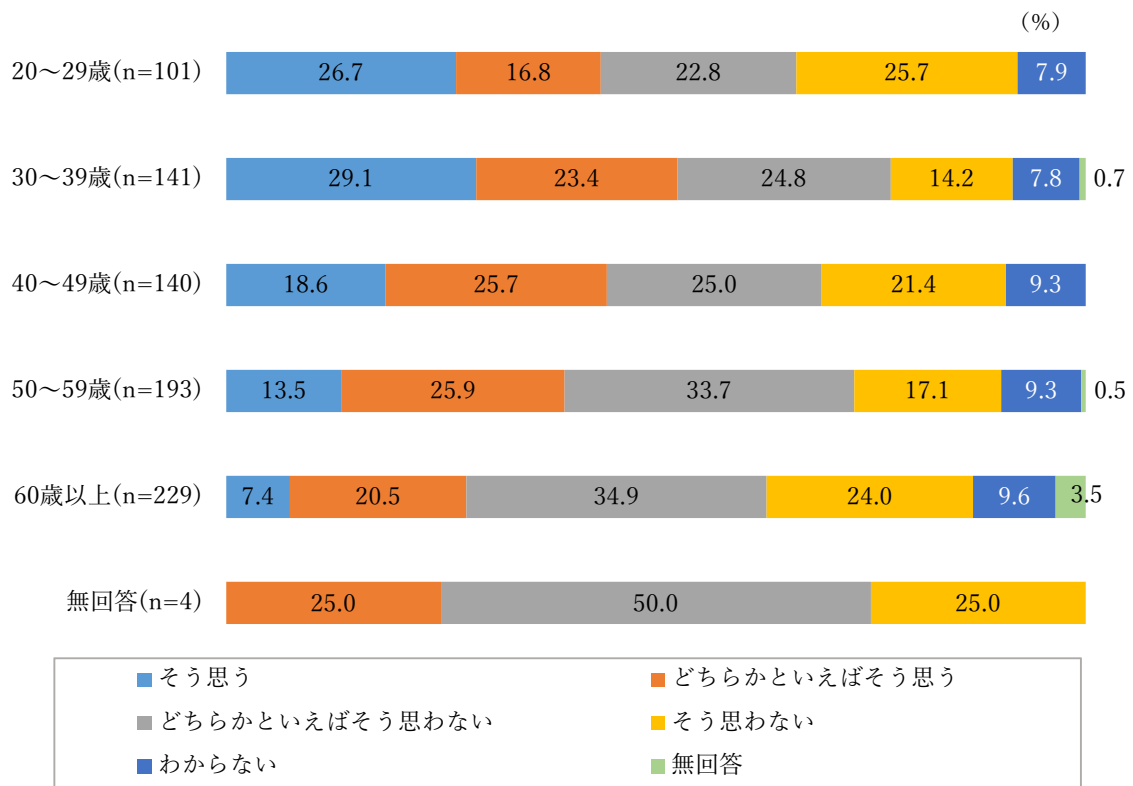
【性別】

男女別で見ると、『そう思う（計）』は男性が38.7%で女性の36.6%より2.1ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性が53.4%で女性の51.6%より1.8ポイント高くなっている。



【年代別】

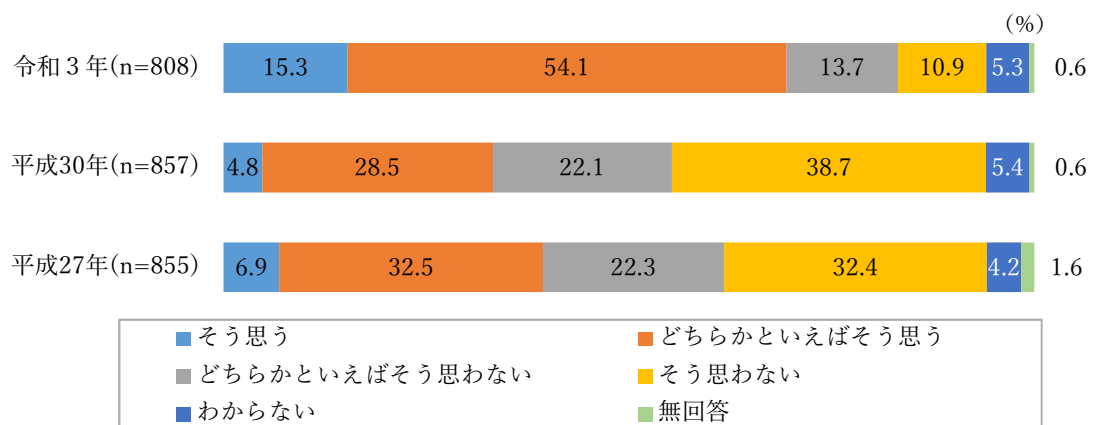
年代別でみると、年代別でみると、『そう思う（計）』はおおよそ年代が低くなるほど割合が高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は60歳以上が58.9%と最も高く、次いで50～59歳が50.8%、20～29歳が48.5%などの順になっている。



④ 結婚したら、自分自身のことより配偶者や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい  
【全体】

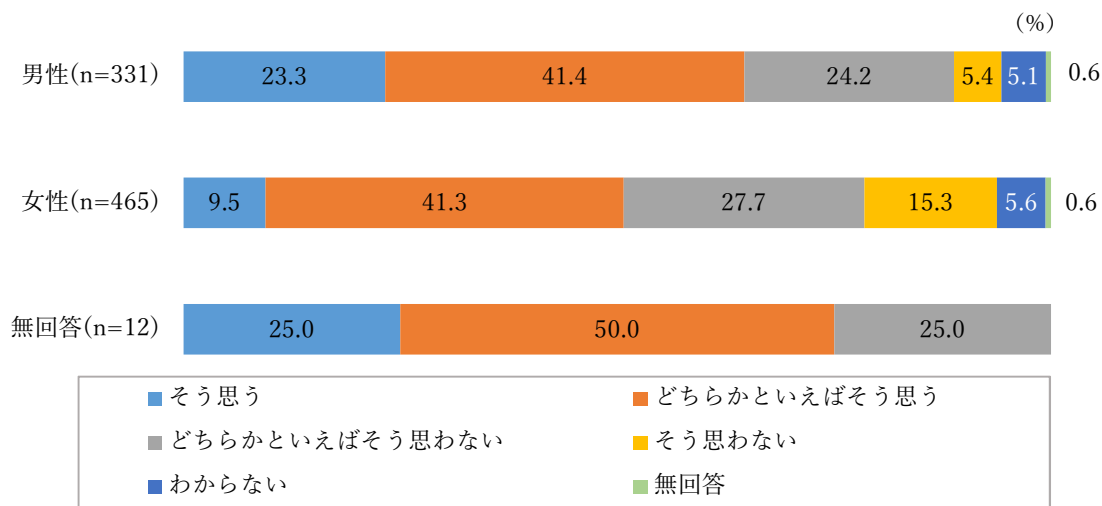
「結婚したら、自分自身のことより配偶者や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい」という考え方について聞いたところ、『そう思う（計）』は69.4%で前回調査に比べ36.2ポイント増加しているが、『そう思わない（計）』は24.6%で前回調査に比べると36.2ポイント増加している。

※平成27年、30年との選択肢違いあり（女性は結婚したら、自分自身の幸せより夫や子供など家族を中心に考えて生活したほうがよい）



## 【性別】

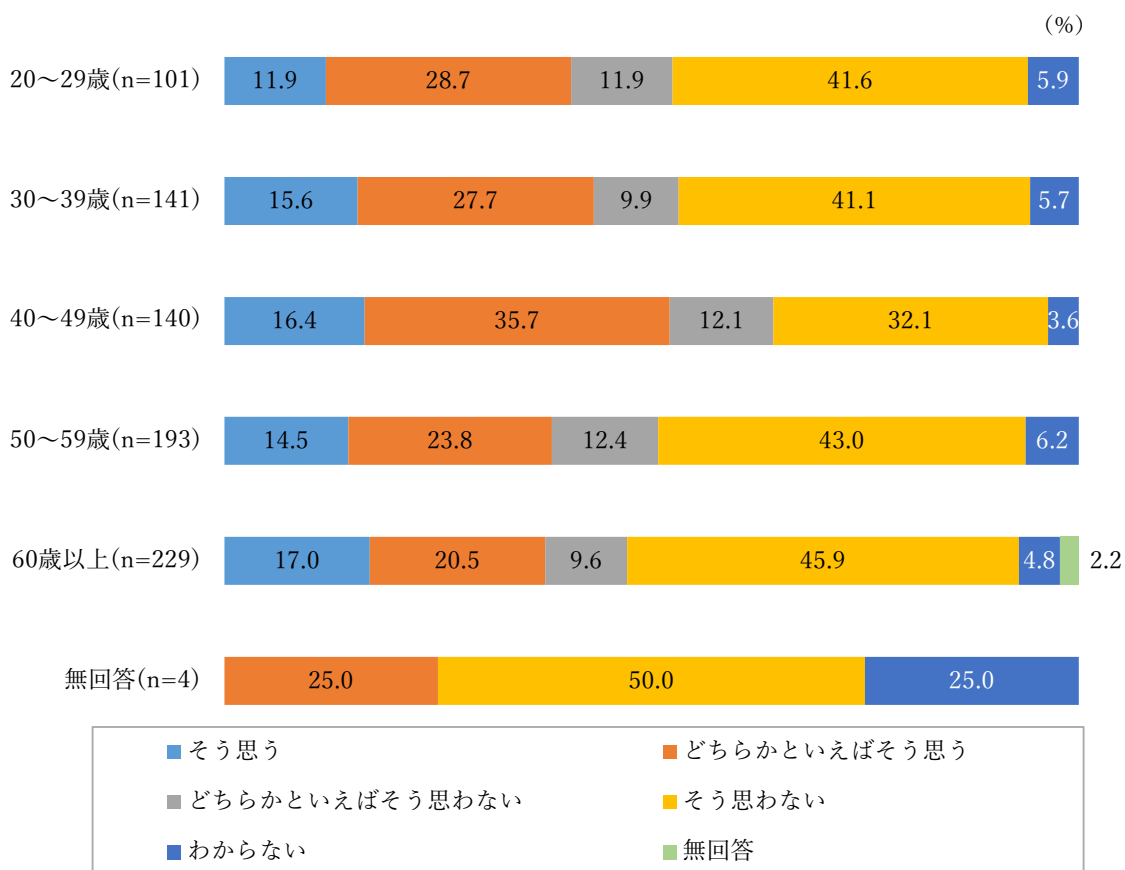
男女別でみると、『そう思う（計）』は男性が64.7%で女性の50.8%より13.9ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は女性が43.0%で男性の29.6%より13.4ポイント高くなっている。



## 【年代別】

年代別でみると、『そう思う（計）』は40～49歳が52.1%、次いで30～39歳が43.3%、20～29歳が40.6%などの順になっている。

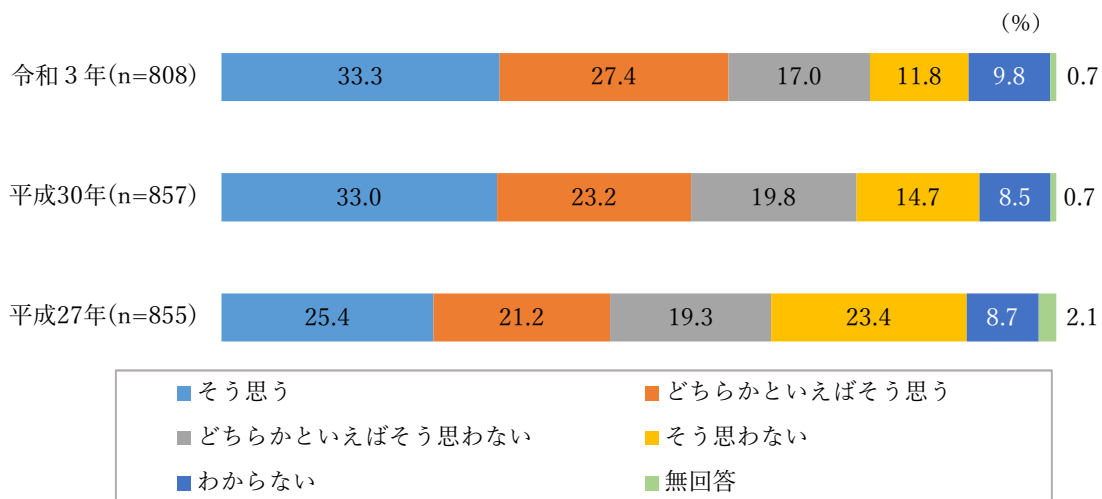
一方、『そう思わない（計）』は、全ての年代で50.0%を超えている。



⑤ 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない

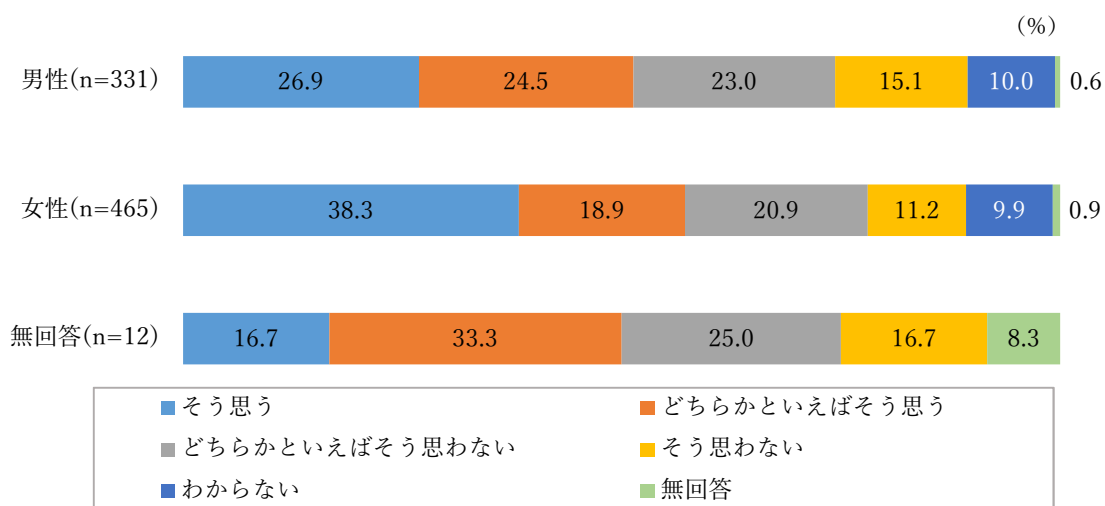
【全体】

「結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない」という考え方について聞いたところ、『そう思う（計）』は60.7%で前回調査に比べ4.5ポイント増加しているが、『そう思わない（計）』は28.8%で前回調査に比べると5.7ポイント減少している。



【性別】

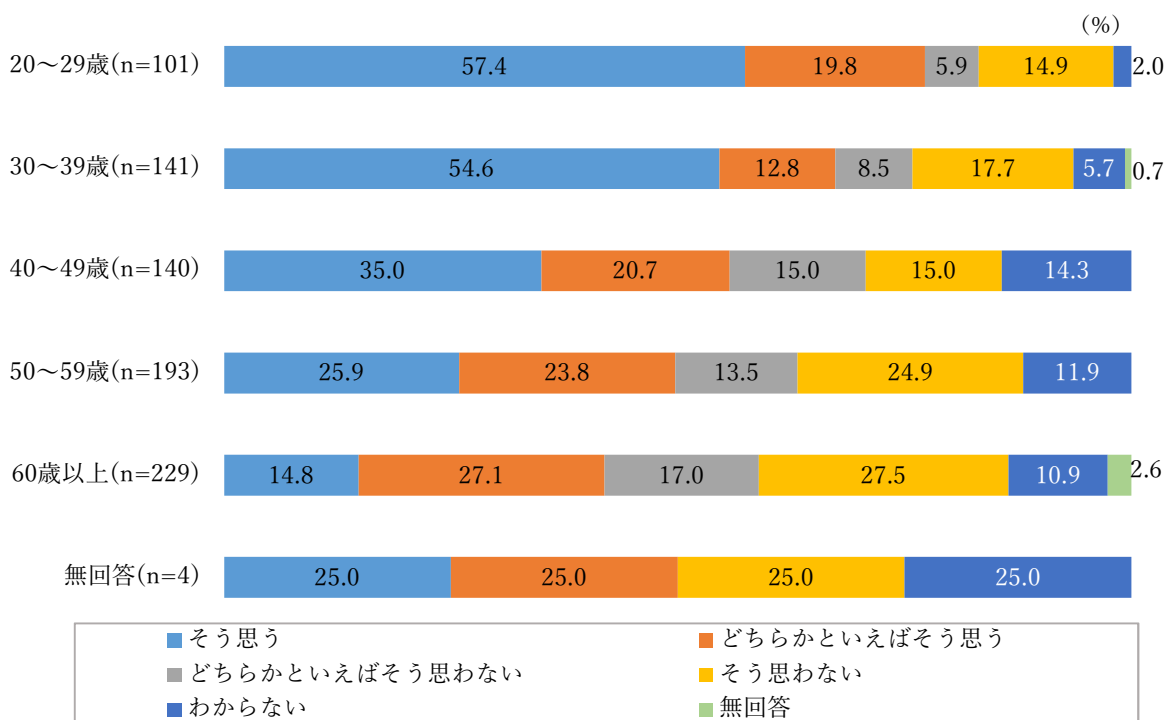
男女別で見ると、『そう思う（計）』は女性が57.2%で男性の51.4%より5.8ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性が38.1%で女性の32.1%より6.0ポイント高くなっている。



### 【年代別】

年代別でみると、『そう思う（計）』は20～29歳が77.2%で最も高く、年代が高くなるほど低くなっている。

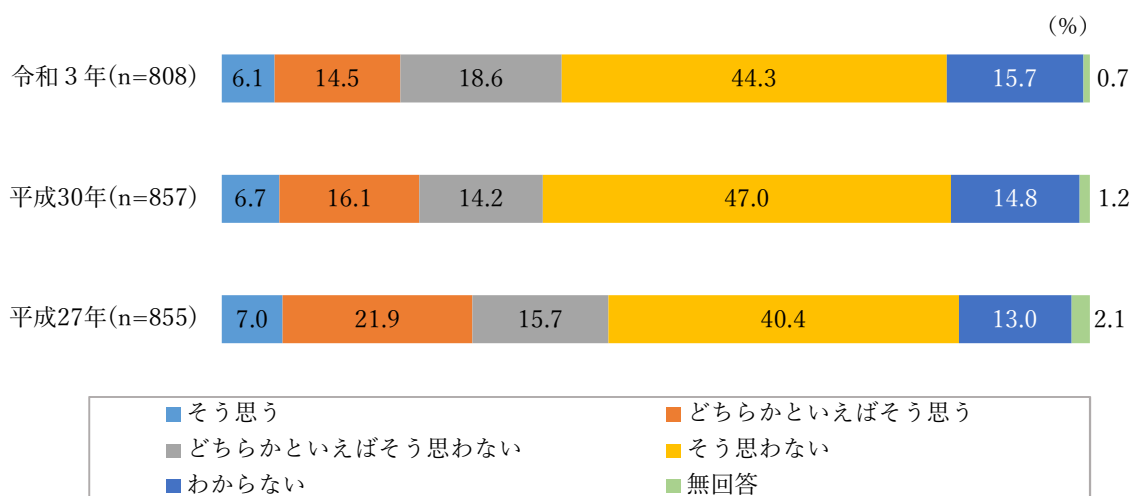
一方、『そう思わない（計）』は、全ての年代で50.0%を超えている。



### ⑥ 三世代同居で暮らすのが理想的だ

#### 【全体】

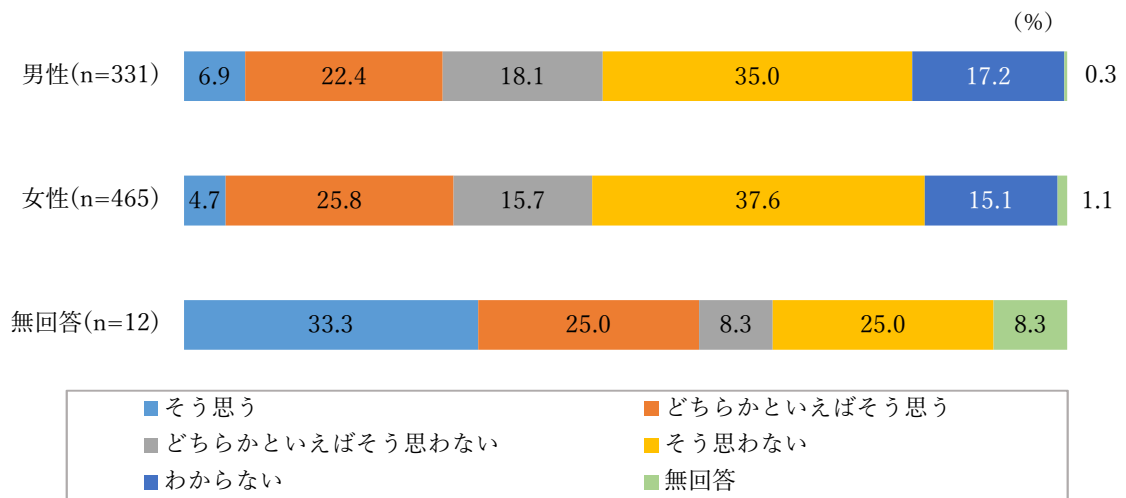
「三世代同居で暮らすのが理想的だ」という考え方について聞いたところ『そう思う（計）』は20.6%で前回調査に比べ2.2ポイント減少しているが、『そう思わない（計）』は62.9%で前回調査に比べると1.7ポイント増加している。





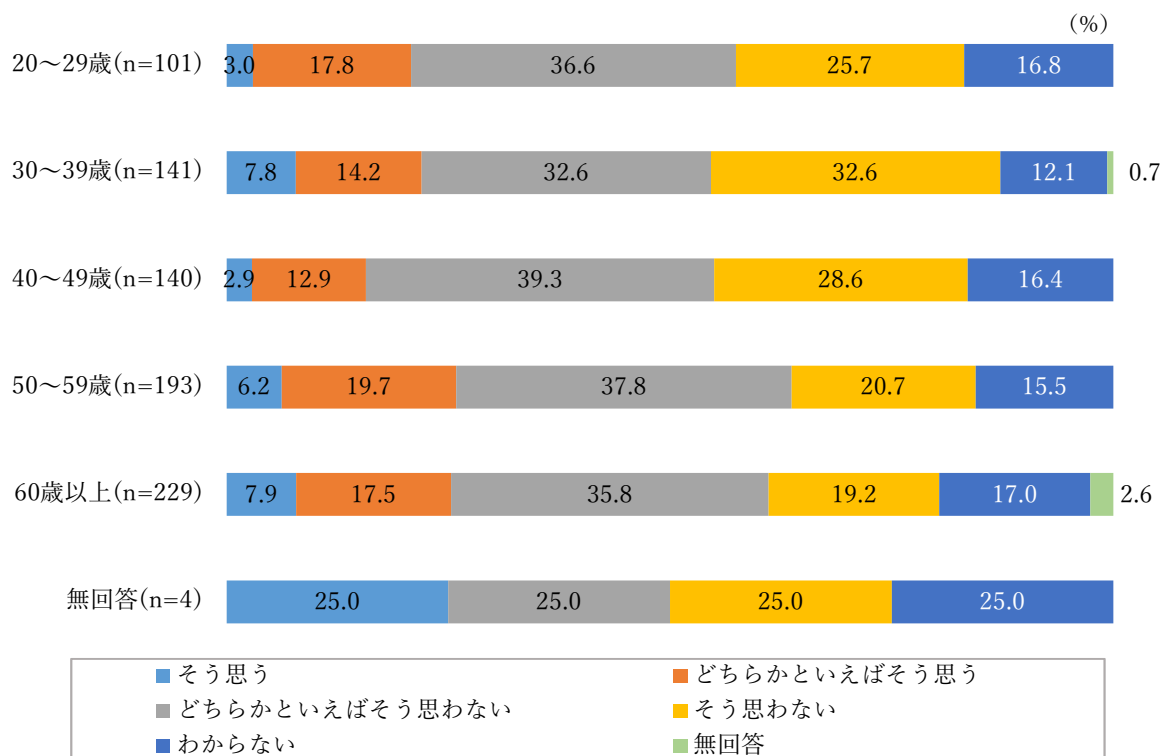
【性別】

男女別でみると、『そう思う（計）』は女性が30.5%で男性の29.3%より1.2ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性も女性も約5割となっている。



【年代別】

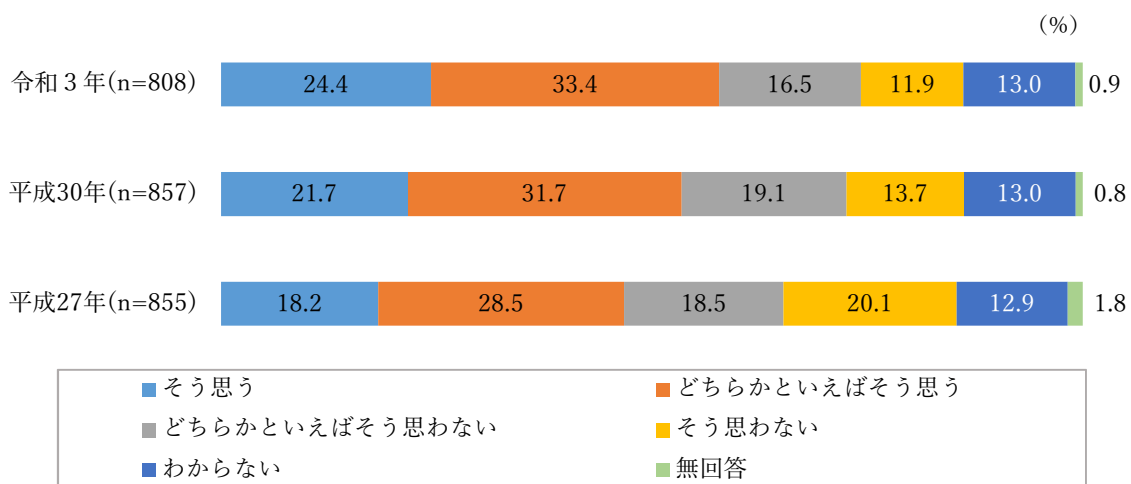
年代別でみると、『そう思う（計）』は50～59歳が25.9%で最も高く、次いで60歳以上が25.4%、30～39歳が22.0%などの順になっている。一方、『そう思わない（計）』は全ての年代で50.0%を超えている。



⑦ 結婚生活がうまくいかない時は、離婚すればよい

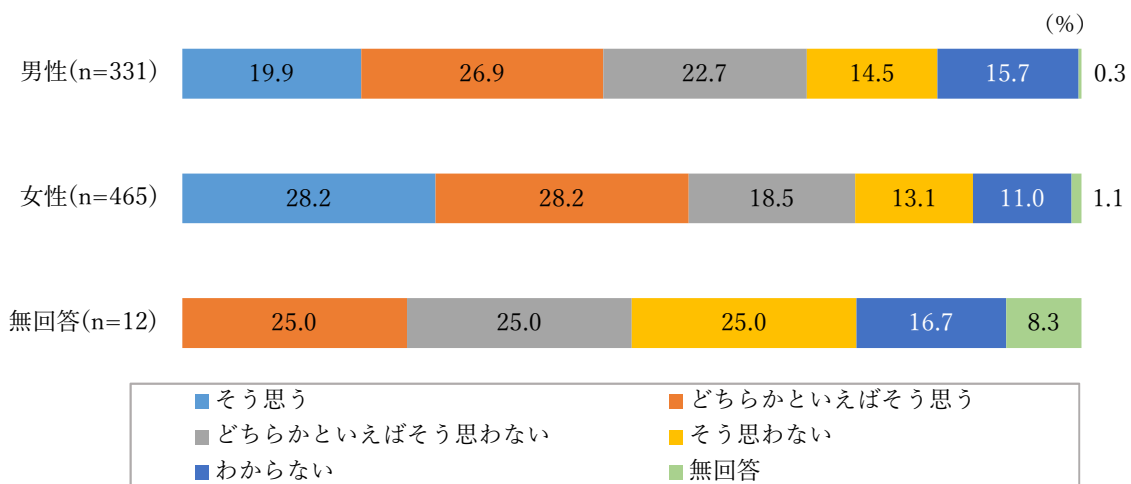
【全体】

「結婚生活がうまくいかない時は、離婚すればよい」という考え方について聞いたところ、『そう思う（計）』は57.8%で前回調査に比べ4.4ポイント増加しているが、『そう思わない（計）』は28.3%で前回調査に比べると4.4ポイント減少している。



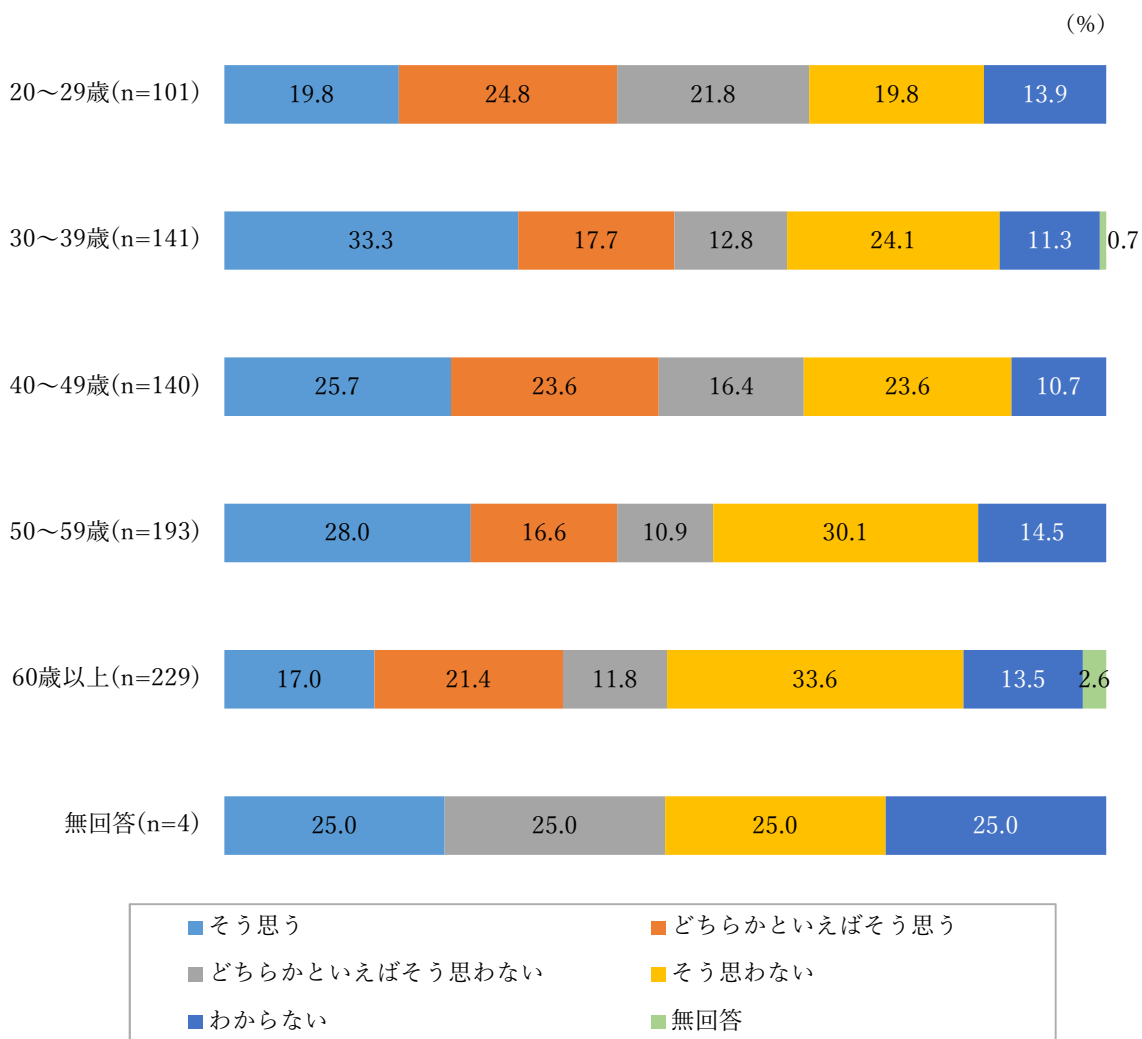
【性別】

男女別で見ると、『そう思う（計）』は女性が56.3%で男性の46.8%より9.5ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性が37.2%で女性の31.6%より5.6ポイント高くなっている。



【年代別】

年代別でみると、『そう思う（計）』は30～39歳が51.0%で最も高く、次いで40～49歳が49.3%、50～59歳が44.6%となっている。一方、『そう思わない（計）』は60歳以上で45.4%、20～29歳で41.6%と高くなっている。

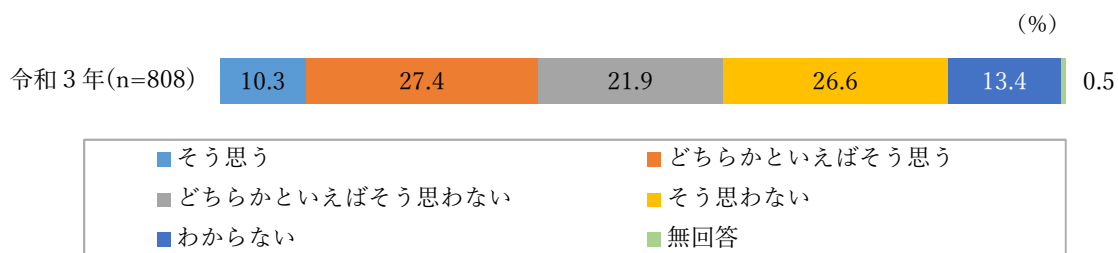


⑧ 子どもがいる場合は、離婚すべきでない

【全体】

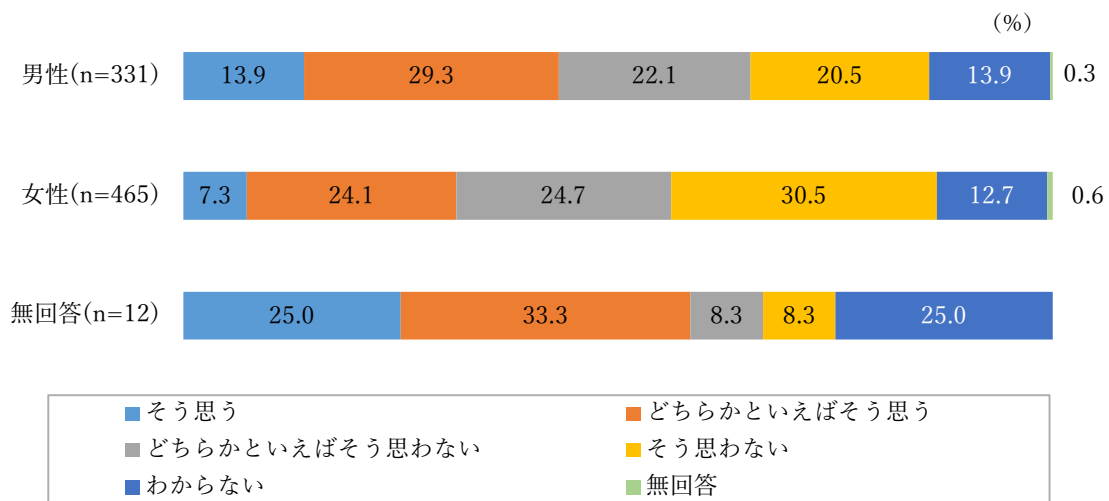
「子どもがいる場合は、離婚すべきでない」という考え方について聞いたところ、『そう思わない（計）』が48.5%、『そう思う（計）』が37.7%で10.8ポイント高くなっている。

※平成27年、30年は選択肢がなく、経年比較なし



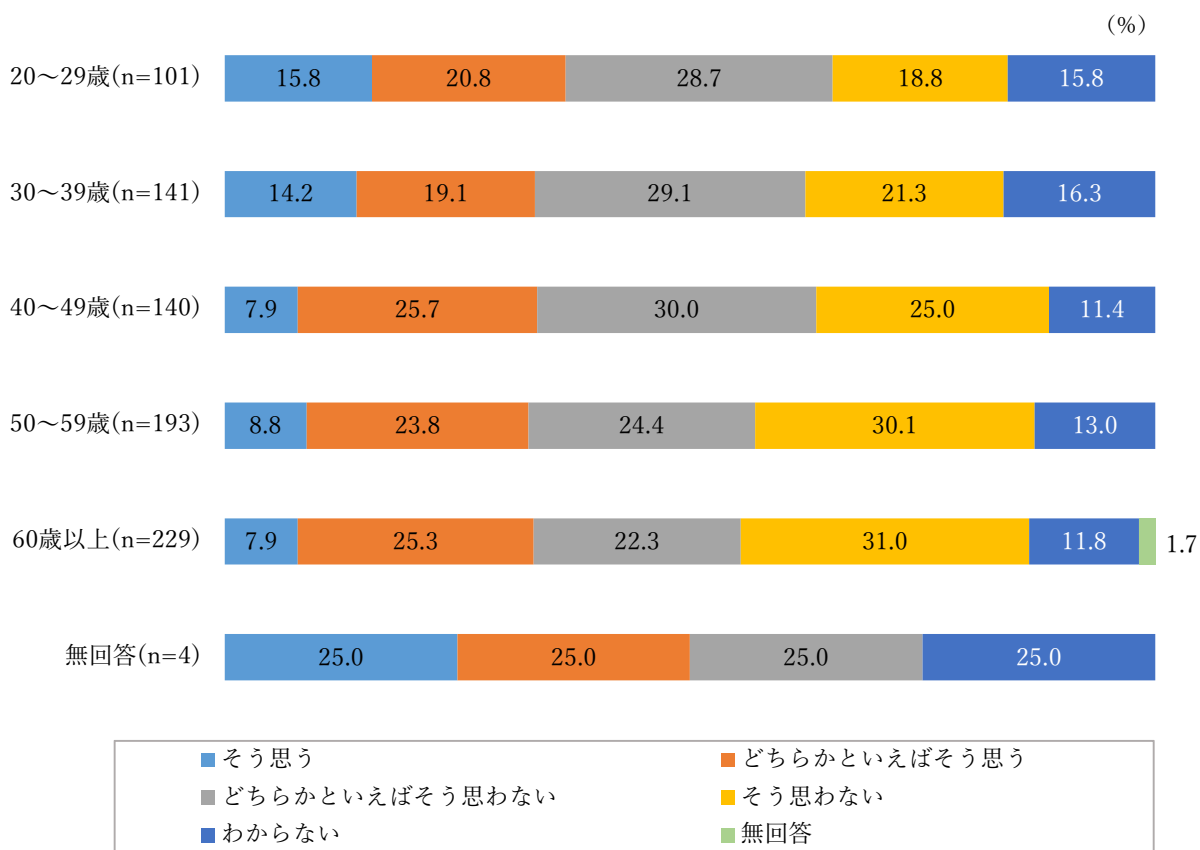
## 【性別】

男女別でみると、『そう思う（計）』は男性が43.2%で女性の31.4%より11.8ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は女性が55.2%で男性の42.6%より12.6ポイント高くなっている。



## 【年代別】

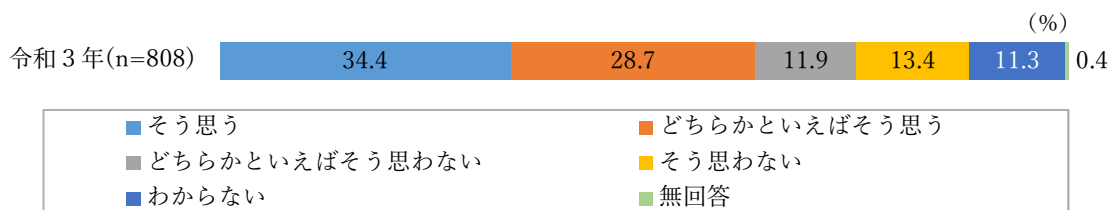
年代別でみると、『そう思う（計）』は全ての年代でほぼ同じ割合となっている。『そう思わない（計）』は20～29歳以外で50.0%を超えている。



⑨ 一般的に、今の社会では離婚すると男性より女性の方が不利である

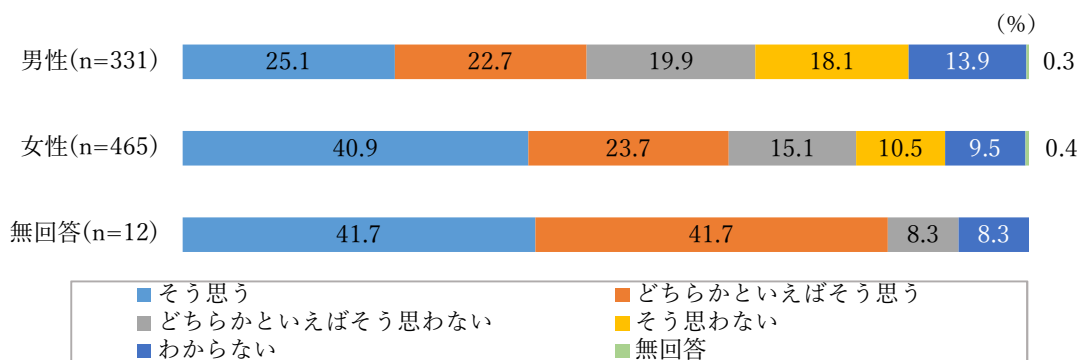
「一般的に、今の社会では離婚すると男性より女性の方が不利である」という考え方について聞いたところ、『そう思う（計）』が63.1%、『そう思わない（計）』が25.3%で37.8ポイント高くなっている。

※平成27年、30年は選択肢がなく、経年比較なし



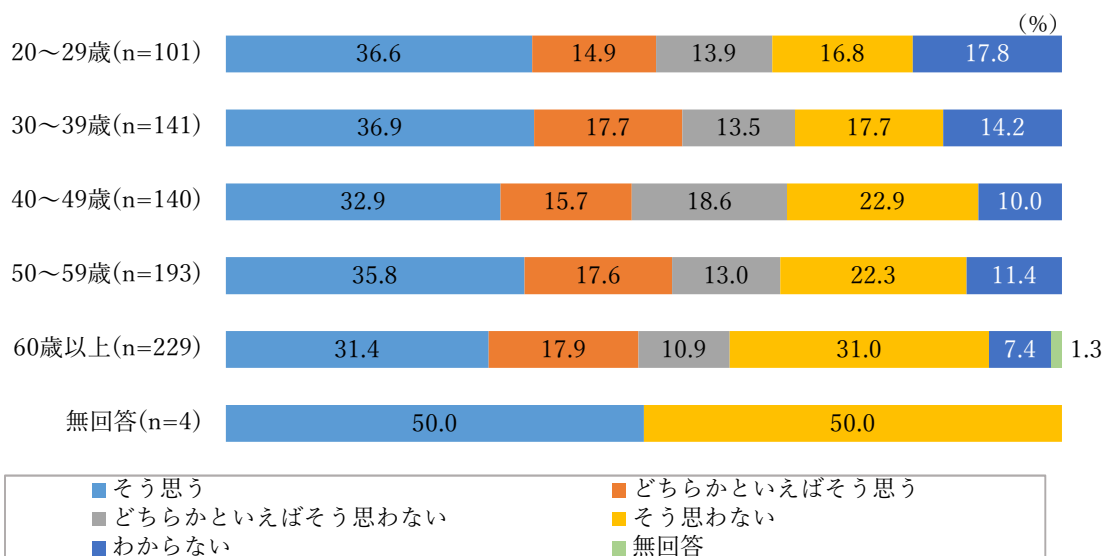
【性別】

男女別でみると、『そう思う（計）』は女性が64.6%で男性の47.8%より16.8ポイント高くなっている。一方、『そう思わない（計）』は男性が38.0%で女性の25.6%より12.4ポイント高くなっている。



【年代別】

年代別でみると、『そう思う（計）』は30～39歳で54.6%と最も高く、次いで、50～59歳で53.4%、20～29歳で51.5%などの順になっている。一方、『そう思わない（計）』は60歳以上で41.9%と最も高く、年代が高くなるほど高くなっている。



【問5】 あなたは、次の役割分担（(1)～(14)）について、夫婦の間でどのように分担していますか。

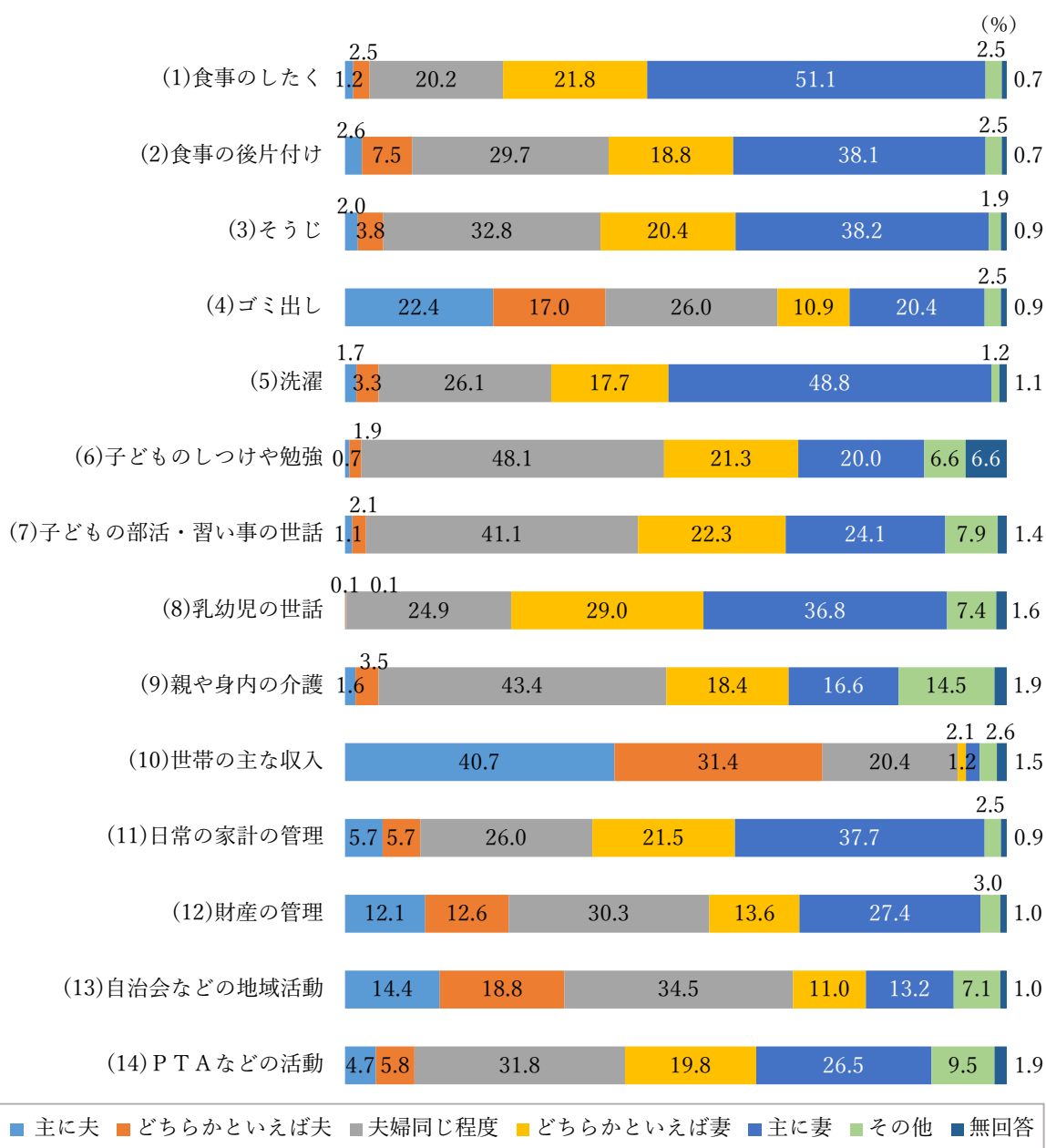
配偶者がいない場合は、配偶者がいるとしたらどのようにしたいと思いますか。

【全体】

夫婦の役割分担については、「主に夫」と「どちらかといえば夫」を合わせた割合（以下『夫（計）』という）は、「世帯の主な収入」が72.1%と最も高く、次いで、「ゴミ出し」が39.4%、「自治会などの地域活動」が33.2%などの順になっている。また、「夫婦同じ程度」は「子どものしつけや勉強」が48.1%と最も高く、次いで、「親や身内の介護」が43.4%、「子どもの部活・習い事の世話」が41.4%などの順になっている。

一方、「どちらかといえば妻」と「主に妻」を合わせた割合（以下『妻（計）』という）は、「食事のしたく」が72.9%で最も高く、次いで、「洗濯」が66.5%、「乳幼児の世話」が65.8%などの順になっている。

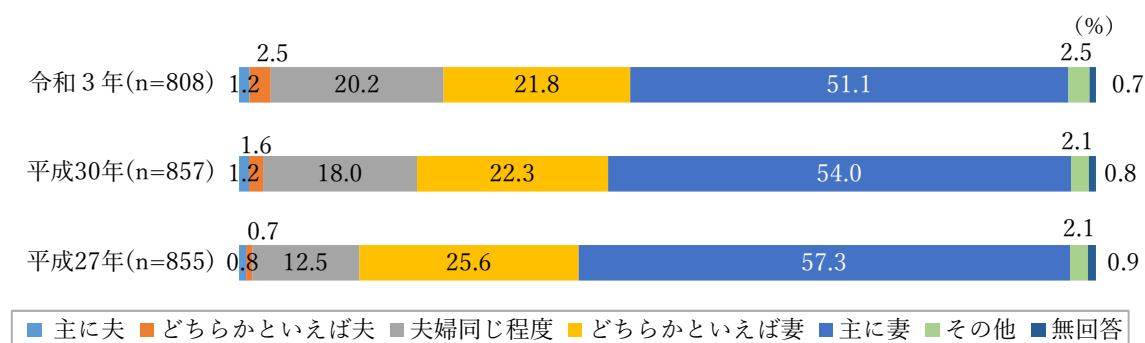
『夫（計）』と『妻（計）』を比較すると、「世帯の主な収入」、「自治会などの地域活動」、「ゴミ出し」以外は妻の割合が高くなっていて、多くの役割分担が女性に偏っているようだ。



## ① 食事のしたく

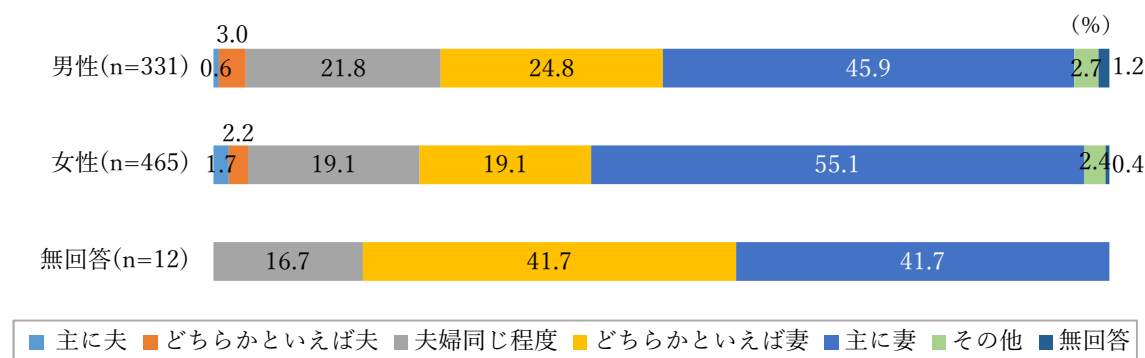
### 【全体】

「食事のしたく」について、「夫婦同じ程度」は20.2%で前回調査に比べ2.2ポイント増加している。



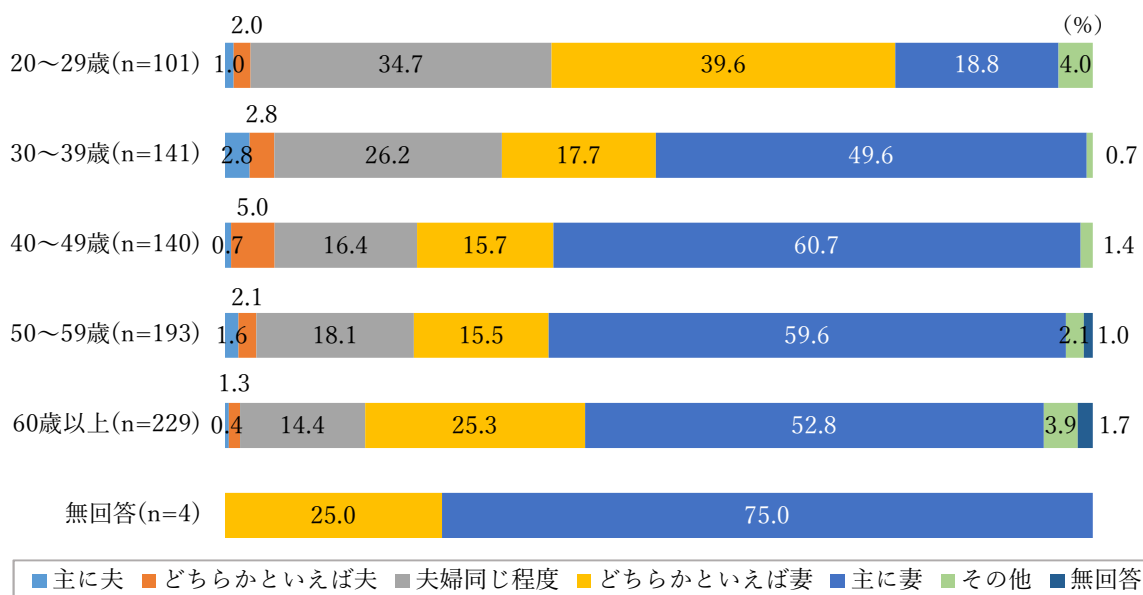
### 【性別】

男女別で見ると、「夫婦同じ程度」は男性が21.8%で女性の19.1%より2.7ポイント高くなっている。



### 【年代別】

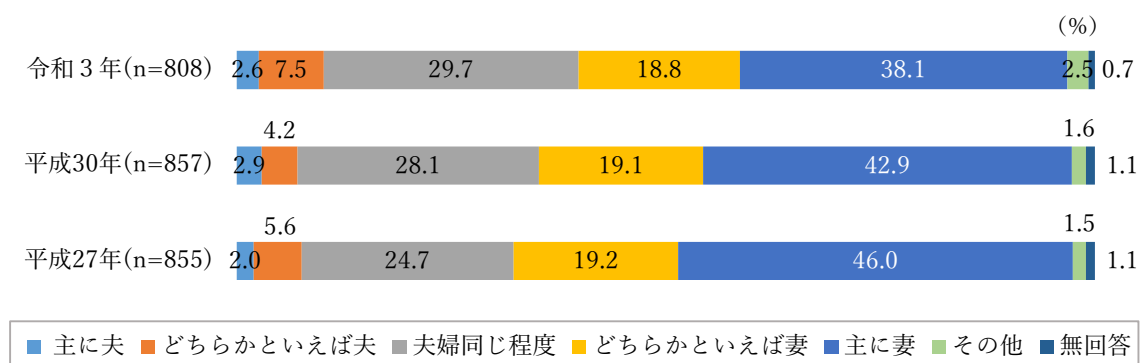
年代別で見ると、「夫婦同じ程度」は年代が低くなるほど、割合が高くなっている。



## ② 食事の後片付け

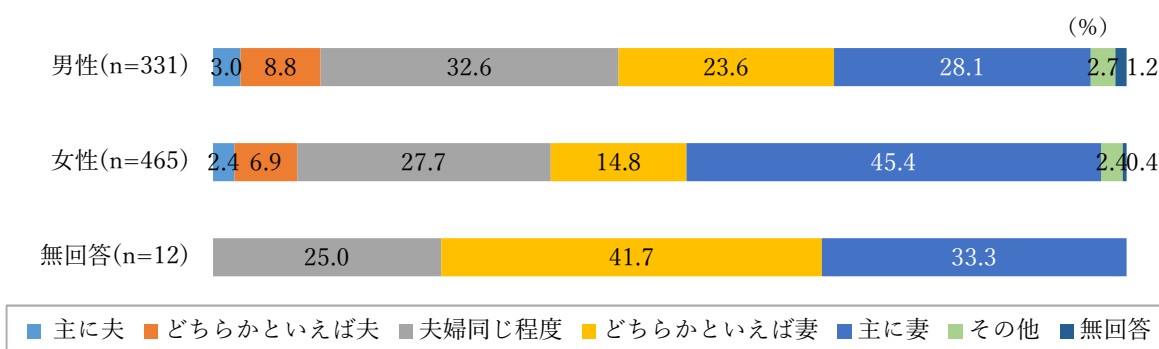
### 【全体】

「食事の後片付け」について、「夫婦同じ程度」は29.7%で前回調査に比べ1.6ポイント増加している。



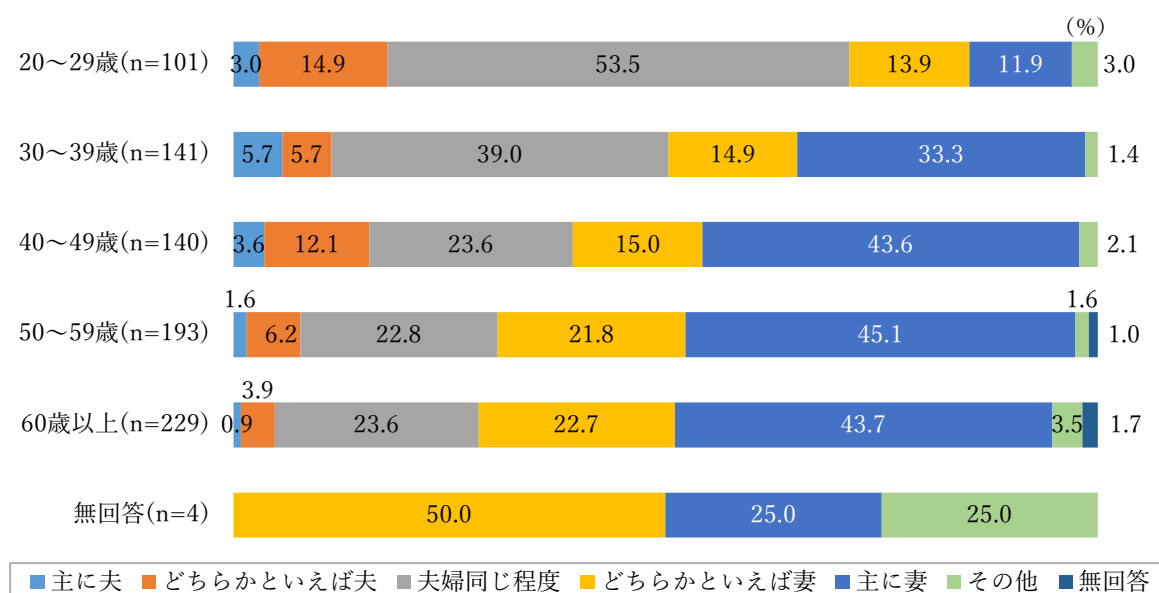
### 【性別】

男女別でみると、「主に妻」は女性が45.4%で男性の28.1%より17.3ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男性が32.6%で女性の27.7%より4.9ポイント高くなっている。



### 【年代別】

年代別でみると、「夫婦同じ程度」は20～29歳が50.0%を超えているが、年代が高くなるほど低くなっている。

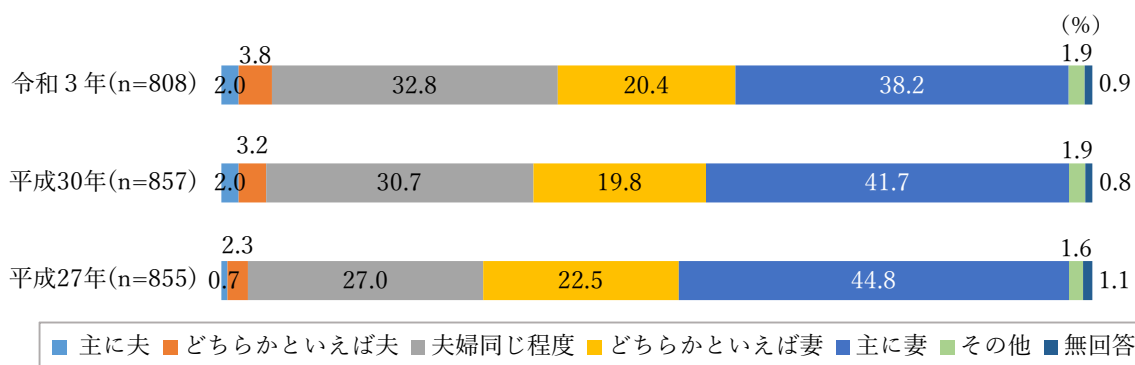




### ③ そうじ

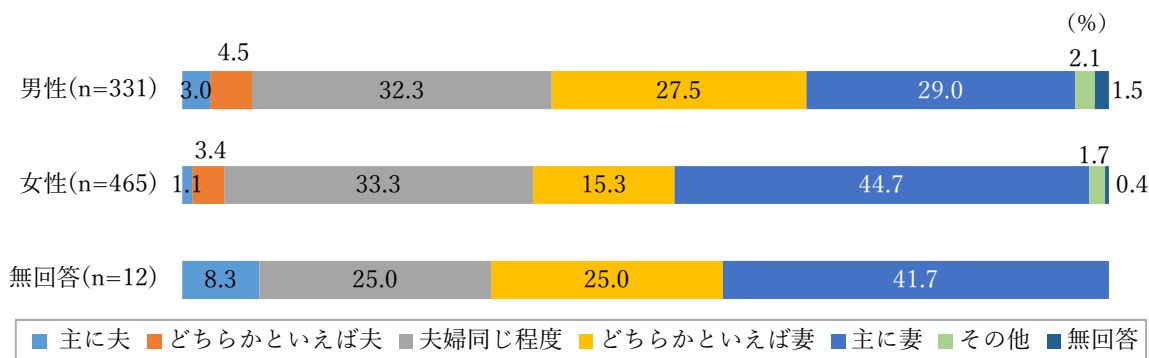
#### 【全体】

「そうじ」について、「夫婦同じ程度」は32.8%で前回調査に比べ2.1ポイント増加している。



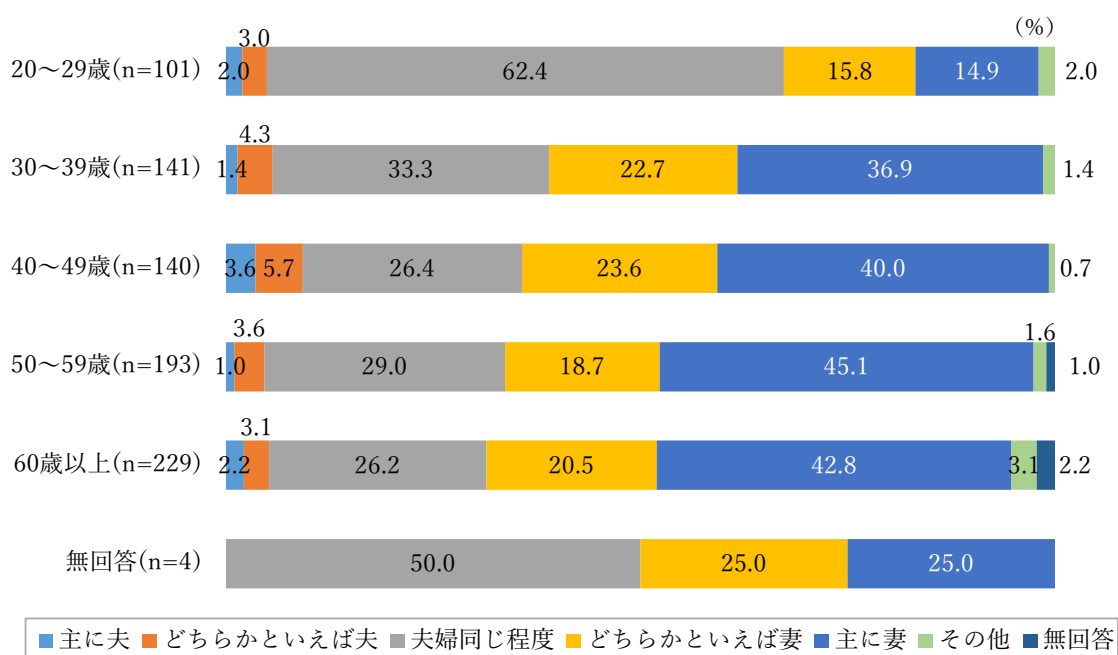
#### 【性別】

男女別でみると、「主に妻」は女性が44.7%で男性の29.0%より15.7ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男女ともにほぼ同じ割合となっている。



#### 【年代別】

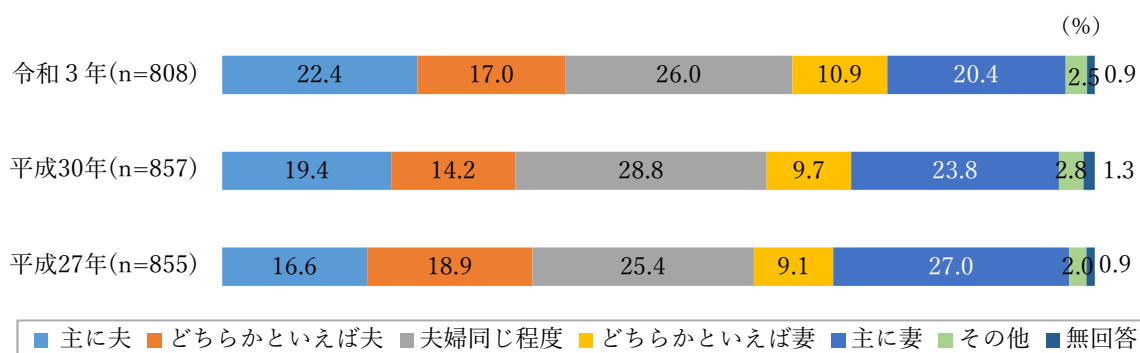
年代別でみると、「夫婦同じ程度」は20～29歳が6割を超えている。



#### ④ ゴミ出し

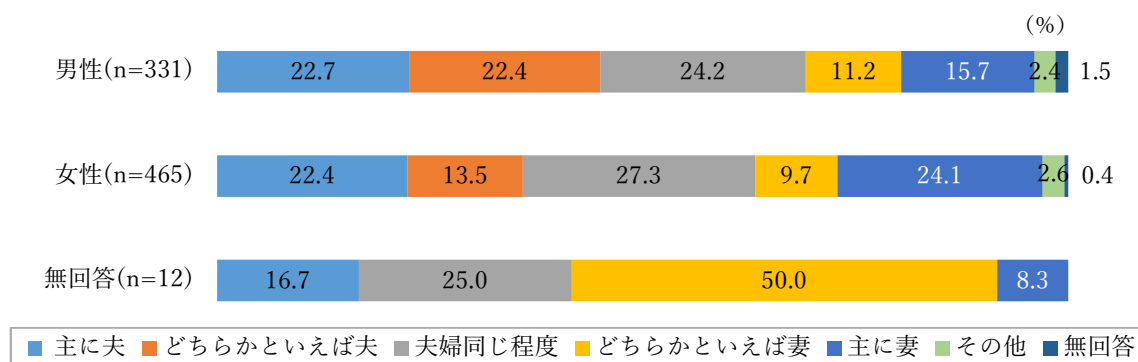
##### 【全体】

「ゴミ出し」について、「夫婦同じ程度」は26.0%で前回調査に比べ2.8ポイント減少し、『夫(計)』は今回調査が39.4%で前回調査に比べ5.8ポイント高くなっている。



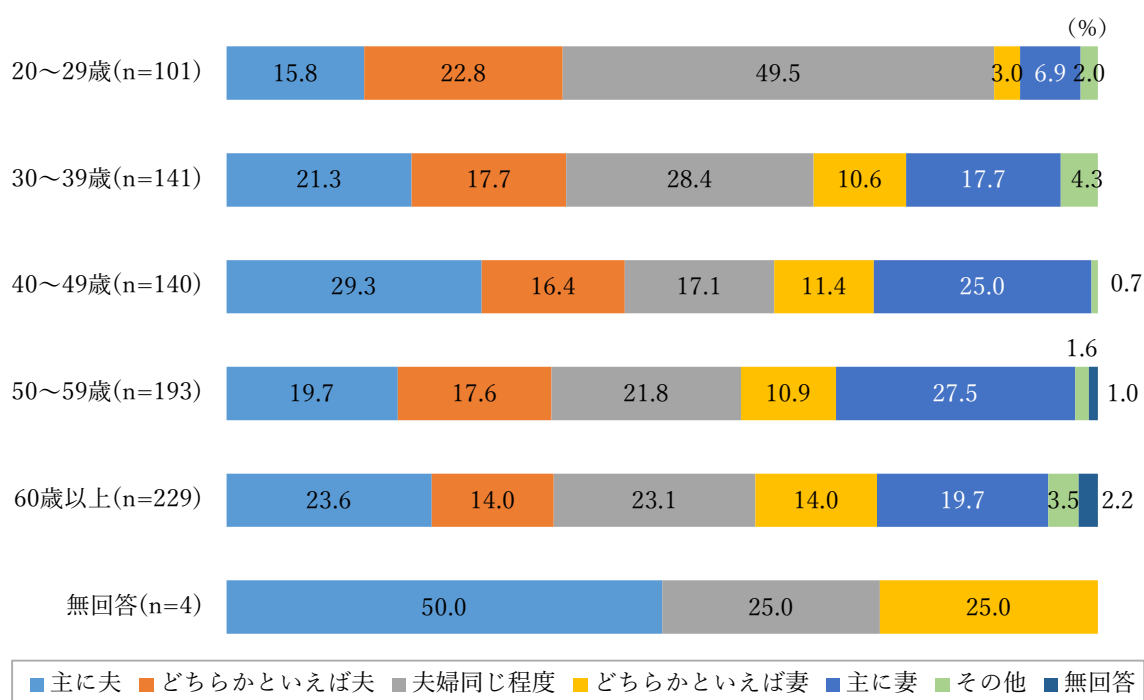
##### 【性別】

男女別でみると、『妻(計)』は女性が33.8%で男性の26.9%より6.9ポイント高くなっている。また、「夫婦同じ程度」は女性が27.3%で男性の24.2%より3.1ポイント高くなっている。



##### 【年代別】

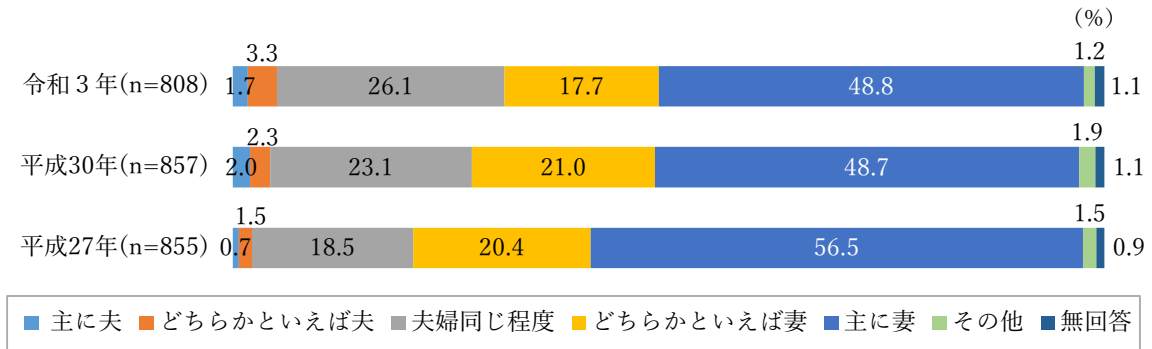
年代別でみると、「夫婦同じ程度」は20～29歳が49.5%で最も高くなっている。



⑤ 洗濯

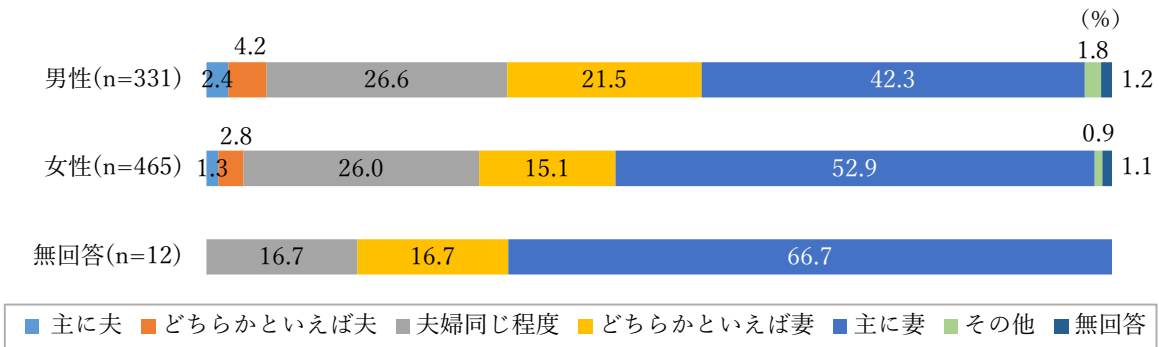
【全体】

「洗濯」について、「夫婦同じ程度」は26.1%で前回調査に比べ3.0ポイント増加している。



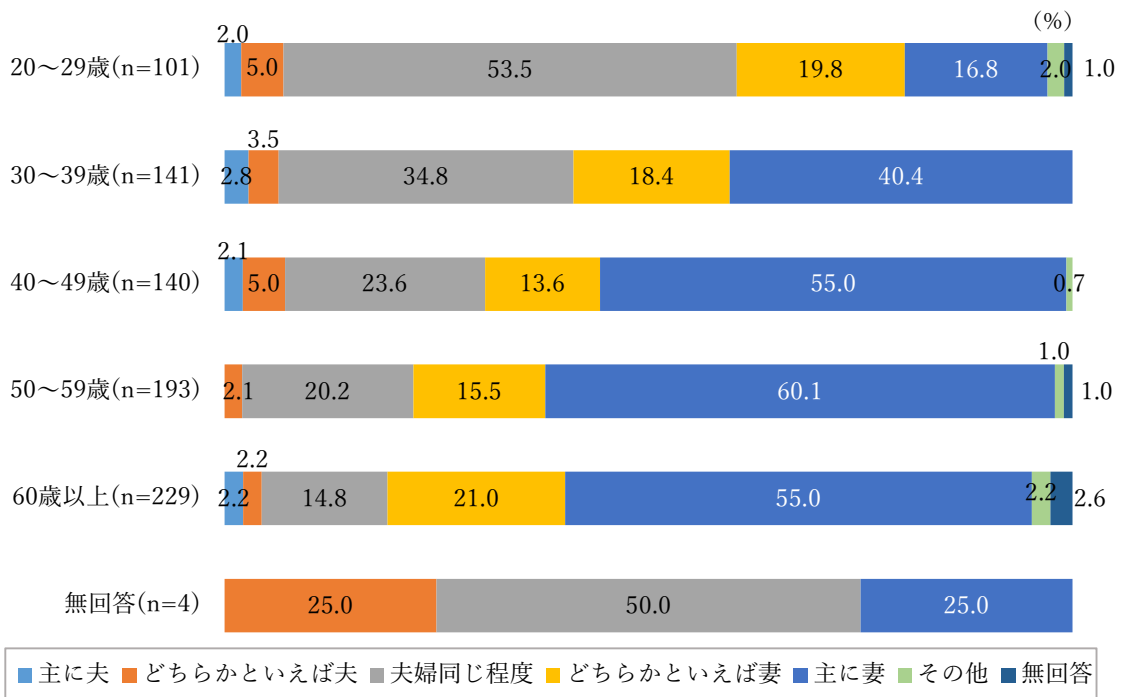
【性別】

男女別で見ると、「主に妻」は女性が52.9%で男性の42.3%より10.6ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男女ともにほぼ同じ割合となっている。



【年代別】

年代別で見ると、「夫婦同じ程度」は20～29歳が最も高く50.0%を超えている。年代が低くなるほど高くなっている。一方、「主に妻」は50～59歳が60.1%で最も高くなっている。

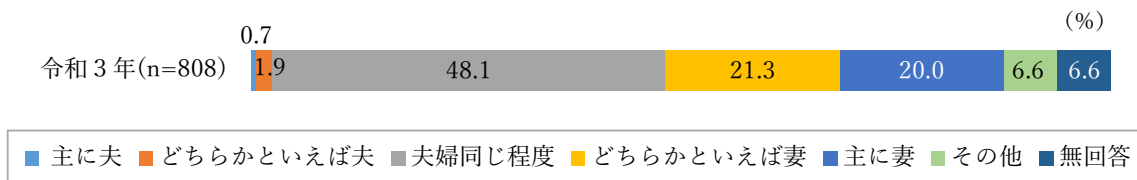


## ⑥ 子どものしつけや勉強

### 【全体】

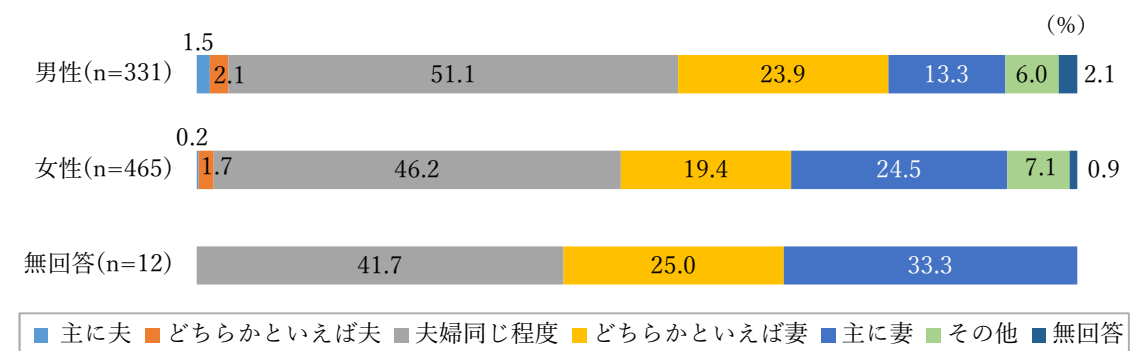
「子どものしつけや勉強」について、「夫婦同じ程度」が48.1%で最も高く、次いで「どちらかといえば妻」が21.3%、「主に妻」が20.0%などの順になっている。

※平成27年、30年は選択肢がなく、経年比較なし



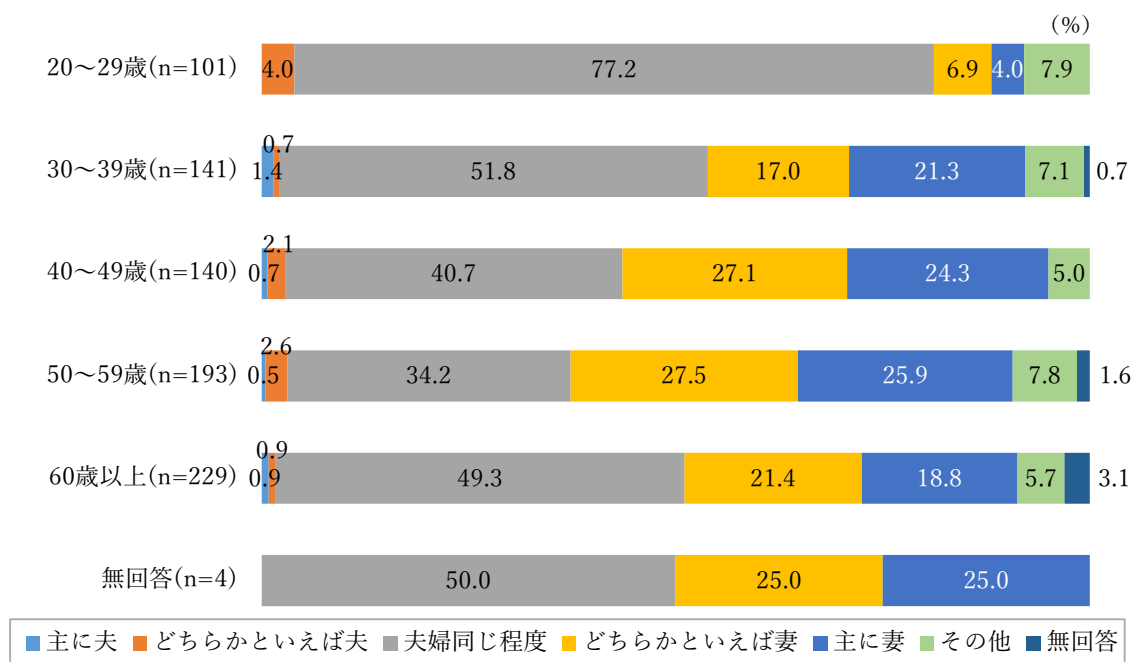
### 【性別】

男女別で見ると、『妻(計)』は女性が43.9%で男性の37.2%より6.7ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男性が51.1%で女性の46.2%より4.9ポイント高くなっている。



### 【年代別】

年代別で見ると、「夫婦同じ程度」は20～29歳が77.2%で最も高くなっている。『妻(計)』は50～59歳が50.0%を超えている。

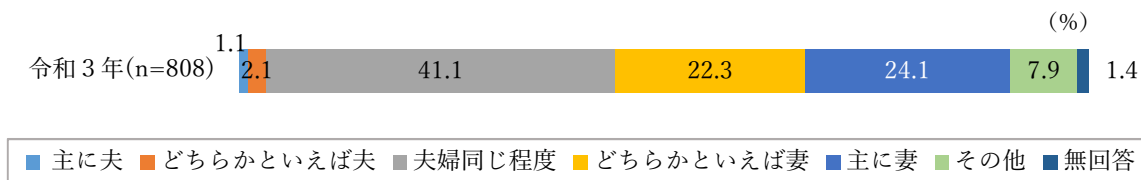


⑦ 子どもの部活・習い事の世話

【全体】

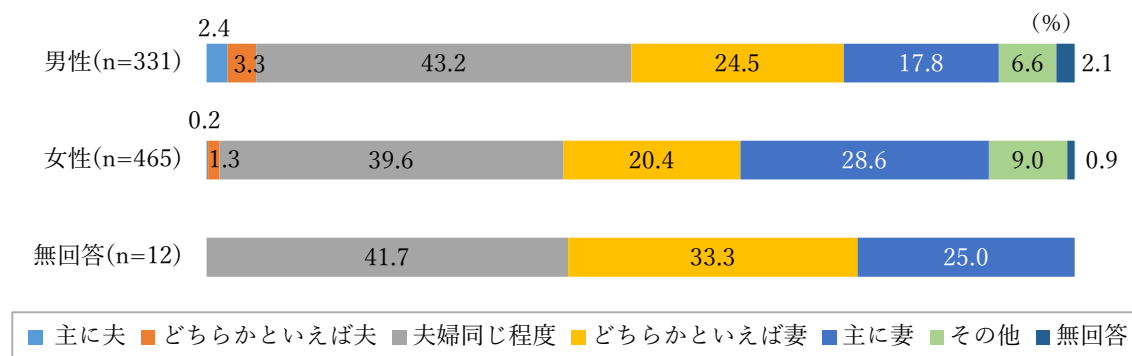
「子どもの部活・習い事の世話」について、「夫婦同じ程度」が41.1%で最も高く、次いで「主に妻」が24.1%、「どちらかといえば妻」が22.3%などの順になっている。

※平成27年、30年は選択肢がなく、経年比較なし



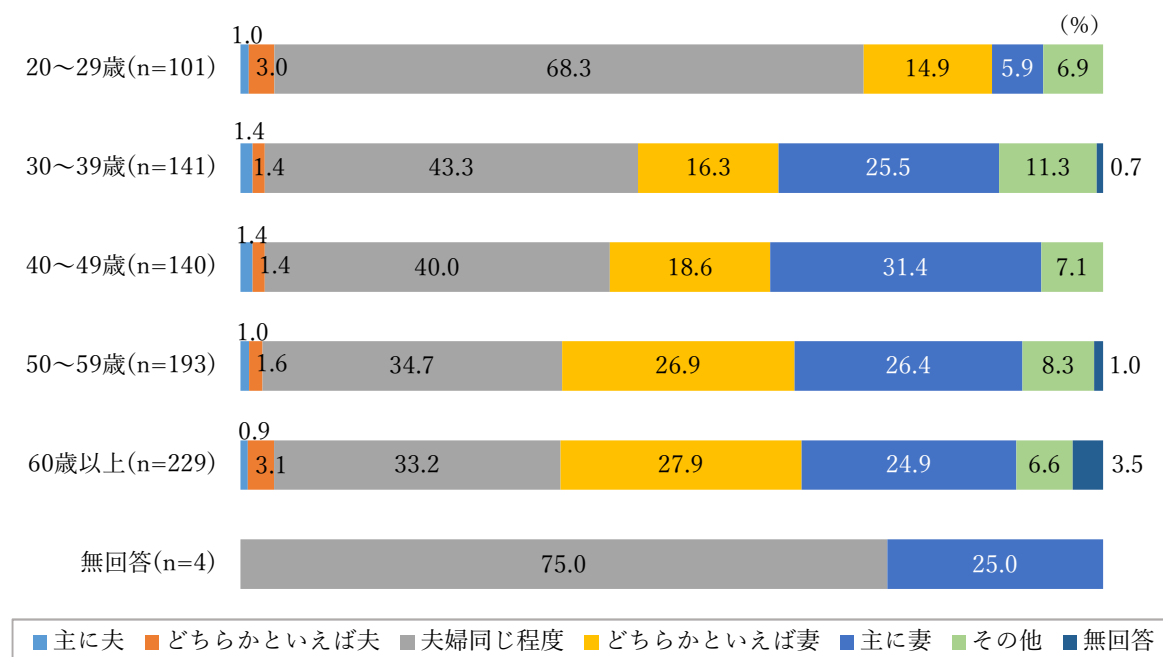
【性別】

男女別でみると、『妻（計）』は女性が49%で男性の42.3%より6.7ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男性が43.2%で女性の39.6%より3.6ポイント高くなっている。



【年代別】

年代別でみると、「夫婦同じ程度」は20～29歳が68.3%で最も高く、年代が低くなるほど高くなっている。

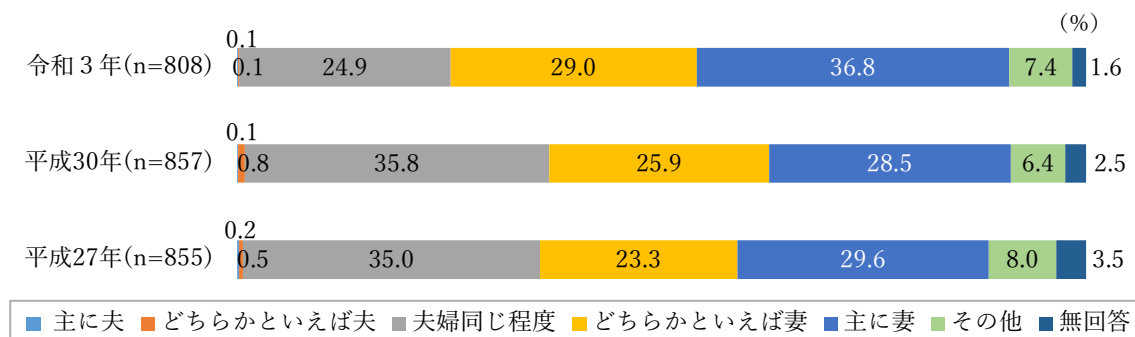


## ⑧ 乳幼児の世話

### 【全体】

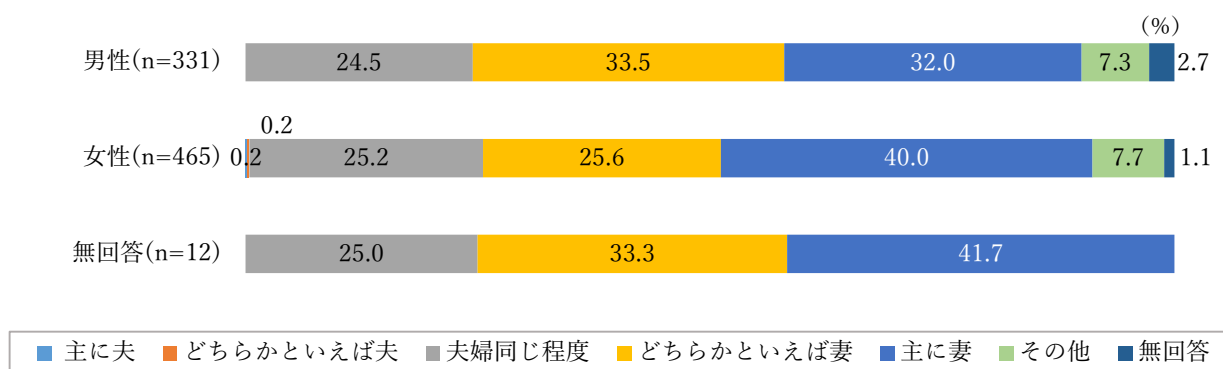
「乳幼児の世話」について、「夫婦同じ程度」は24.9%で前回調査（選択肢は「子どもの世話」）に比べ10.9ポイント減少している。

※平成27年、30年との選択肢違いあり（子どもの世話）



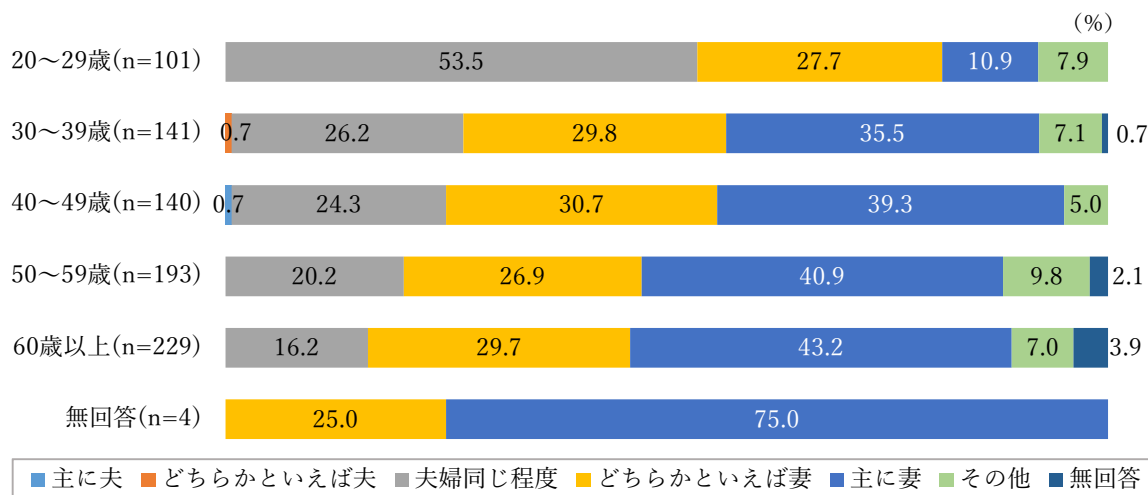
### 【性別】

男女別で見ると、『妻（計）』は男女ともにほぼ同じ割合となっている。「主に妻」は女性が40.0%で男性の32.0%より8ポイント高くなっている。



### 【年代別】

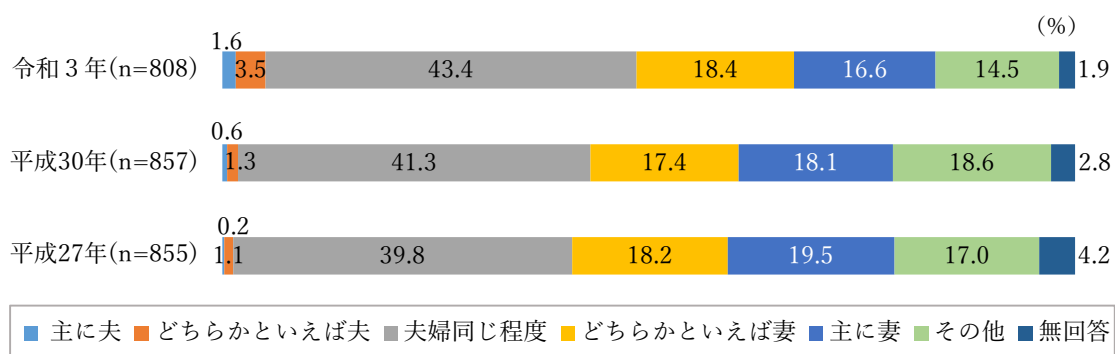
年代別で見ると、「夫婦同じ程度」は20～29歳が53.5%と最も高くなっている。一方、『妻（計）』は20～29歳以外で50.0%を超えている。



## ⑨ 親や身内の介護

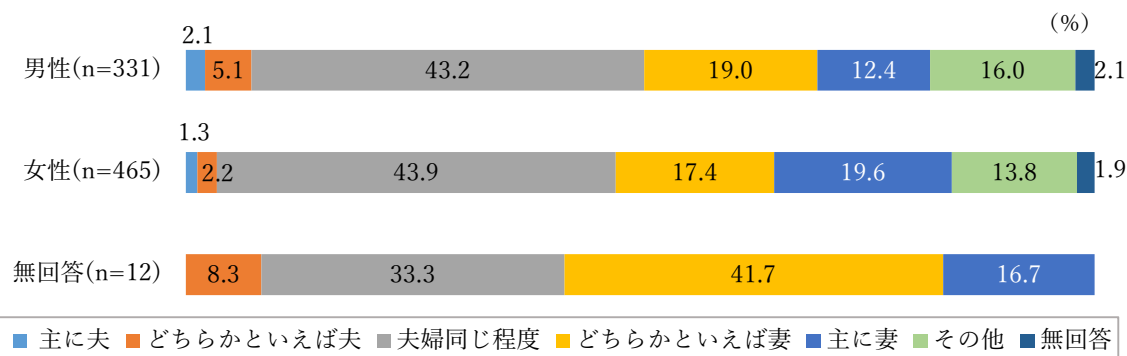
### 【全体】

「親や身内の介護」について、「夫婦同じ程度」は43.4%で前回調査に比べ2.1ポイント増加している。



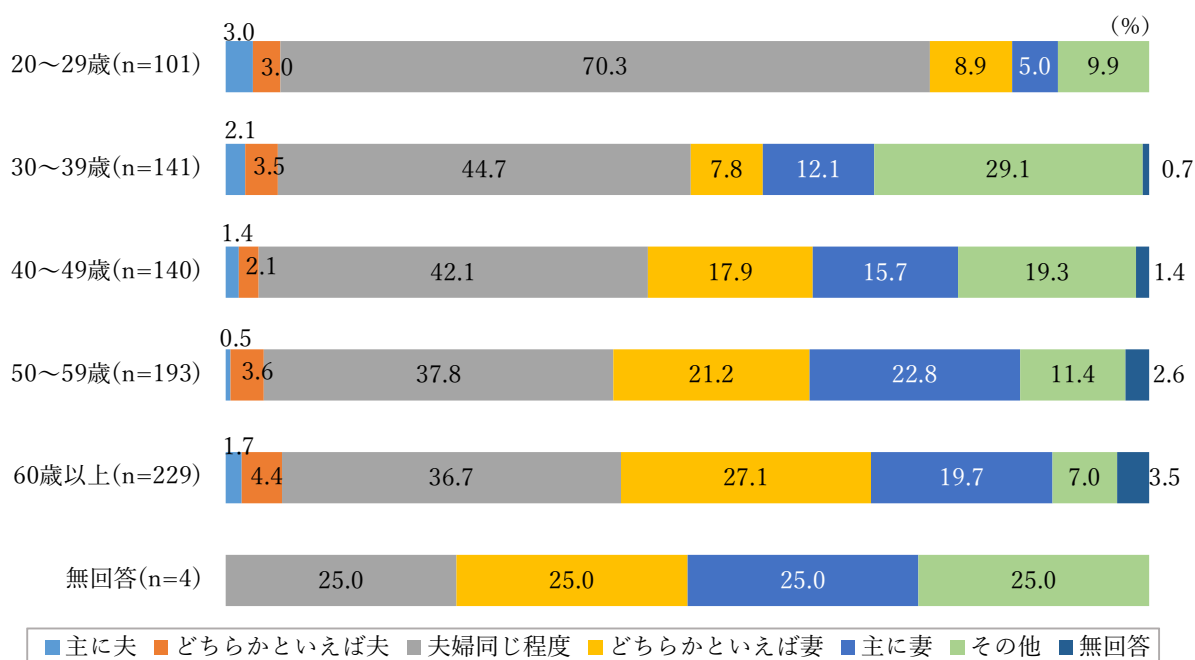
### 【性別】

男女別で見ると、『妻（計）』は女性が37.0%で男性の31.4%より5.6ポイント高くなっている。



### 【年代別】

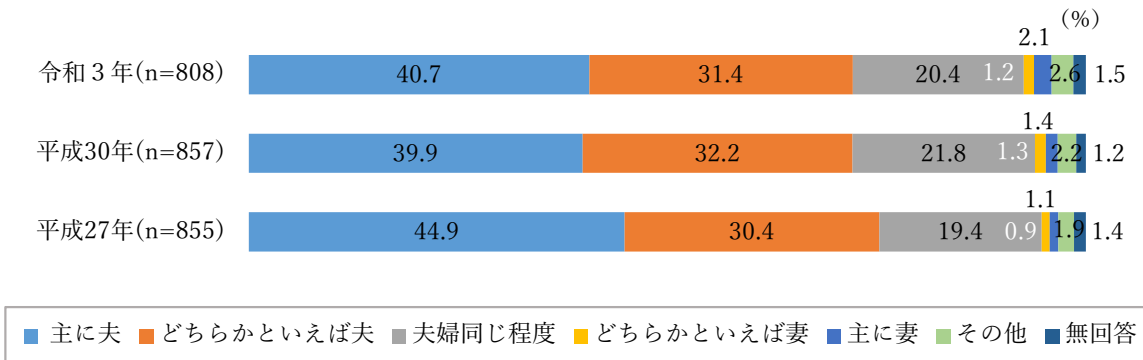
年代別で見ると、「夫婦同じ程度」は20～29歳が70.3%で最も高くなっている。『妻（計）』は60歳以上が46.8%で最も高くなっている。



⑩ 世帯の主な収入

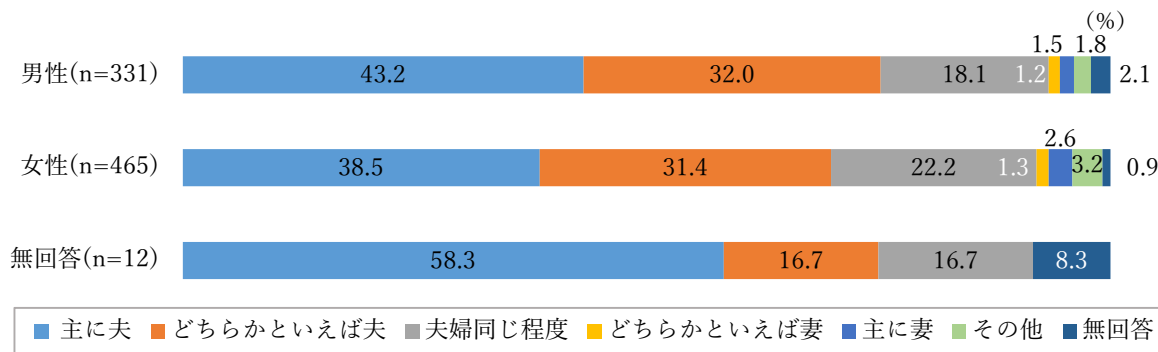
【全体】

「世帯の主な収入」について、「夫婦同じ程度」は20.4%で前回調査に比べ1.4ポイント増加している。



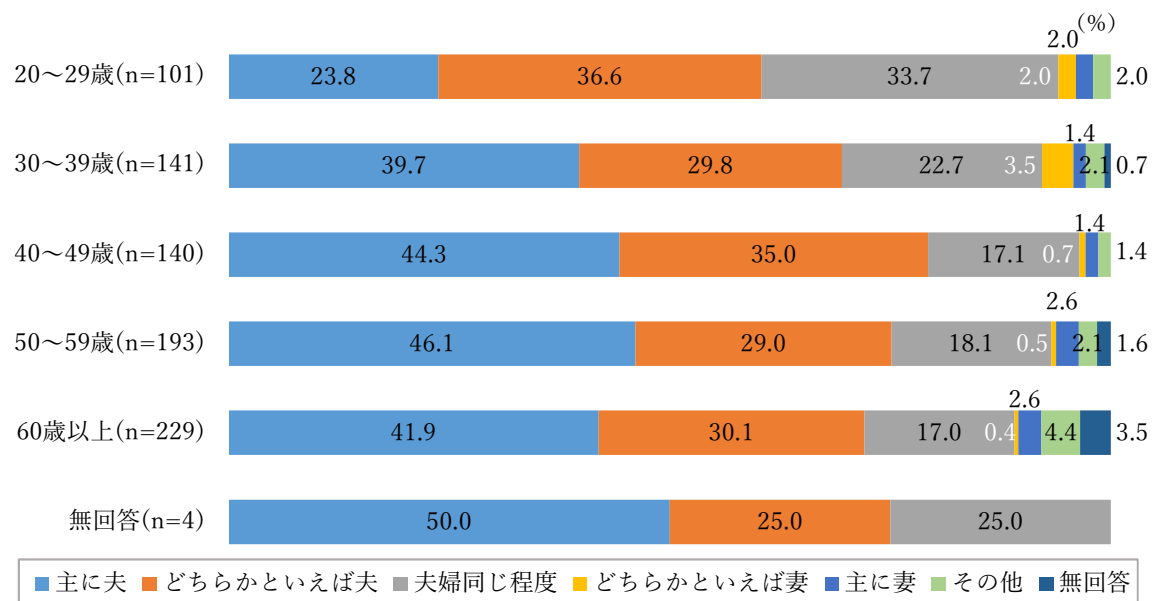
【性別】

男女別で見ると、『夫（計）』は男性が75.2%で女性の69.9%より5.3ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は女性が22.2%で男性の18.1%より4.1ポイント高くなっている。



【年代別】

年代別で見ると、「夫婦同じ程度」は20～29歳で33.7%と最も高くなっている。

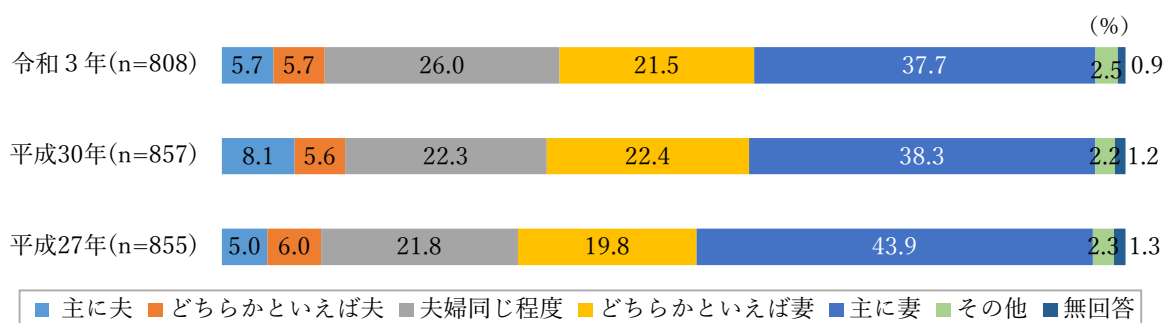




## ⑪ 日常の家計の管理

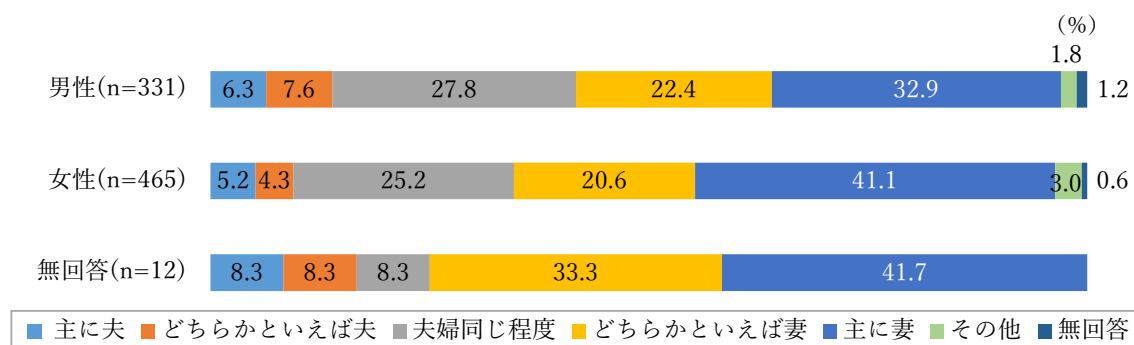
### 【全体】

「日常の家計の管理」について、「夫婦同じ程度」は26.0%で前回調査に比べ3.7ポイント増加している。



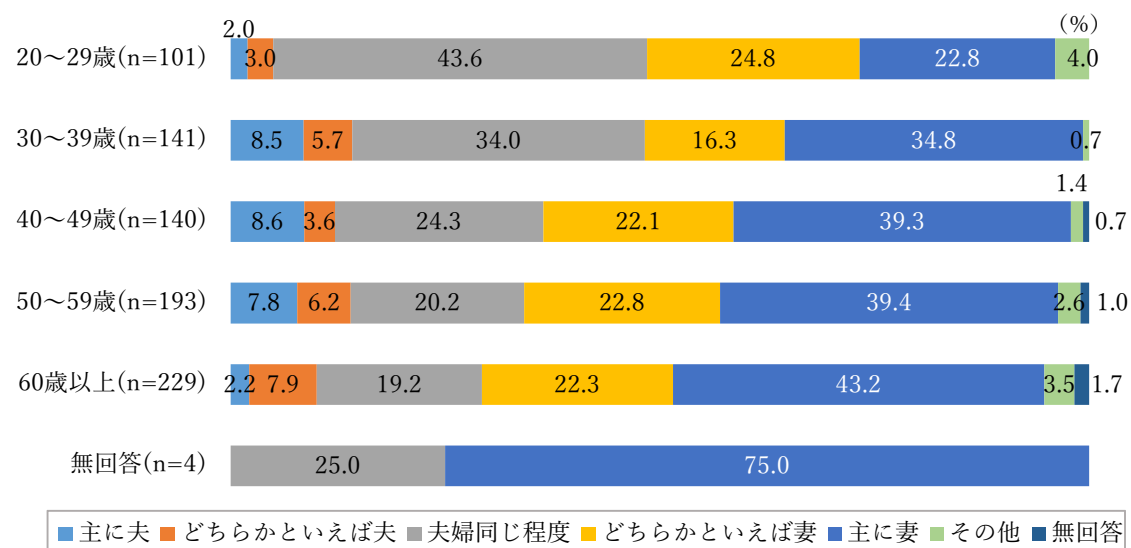
### 【性別】

男女別でみると、『妻（計）』は女性が61.7%で男性の55.3%より6.4ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男性が27.8%で女性の25.2%より2.6ポイント低くなっている。



### 【年代別】

年代別でみると、「夫婦同じ程度」は20～29歳が43.6%が一番高くなっている。一方、『妻（計）』は20～29歳以外の年齢で、50.0%を超えている。

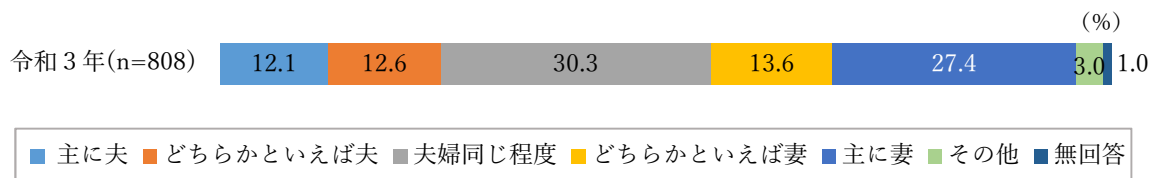


⑫ 財産の管理

【全体】

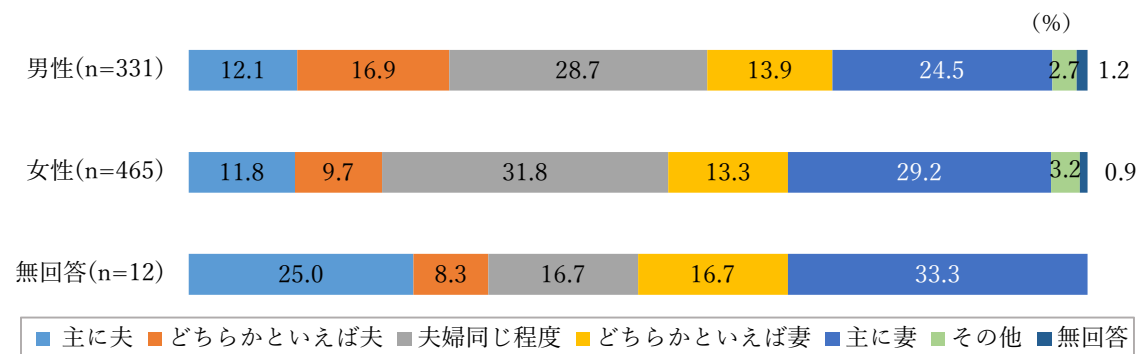
「財産の管理」について、「夫婦同じ程度」は30.3%で最も高くなっている。次いで、「主に妻」が27.4%、「どちらかといえば妻」が13.6%などの順になっている。

※平成 27 年、30 年は選択肢がなく、経年比較なし



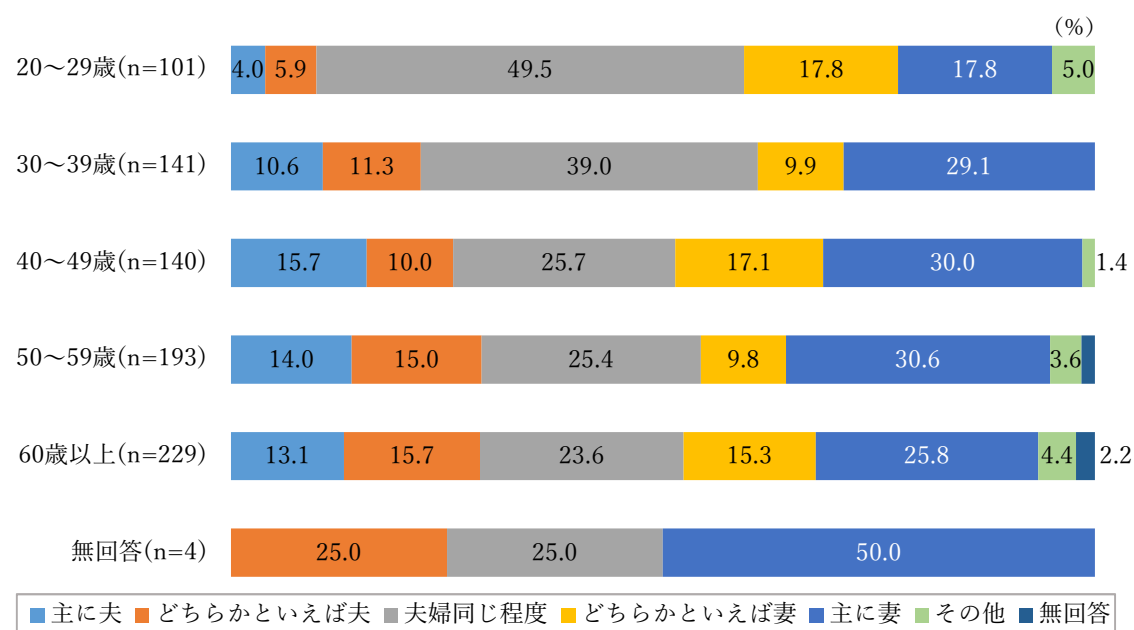
【性別】

男女別で見ると、『妻（計）』は女性が42.5%で男性の38.4%より4.1ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男性が28.7%で女性の31.8%より3.1ポイント低くなっている。



【年代別】

年代別で見ると、「夫婦同じ程度」は20～29歳が49.5%が一番高くなっており、年代が高くなるほど、低くなっている。

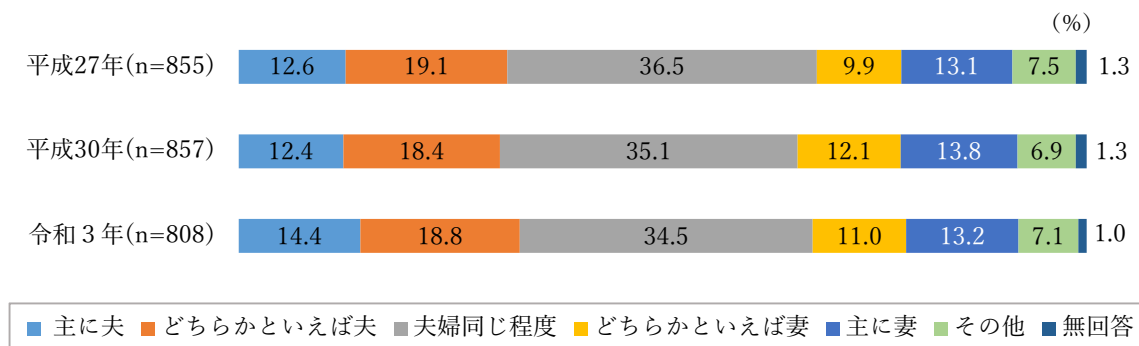


⑬ 自治会などの地域活動

【全体】

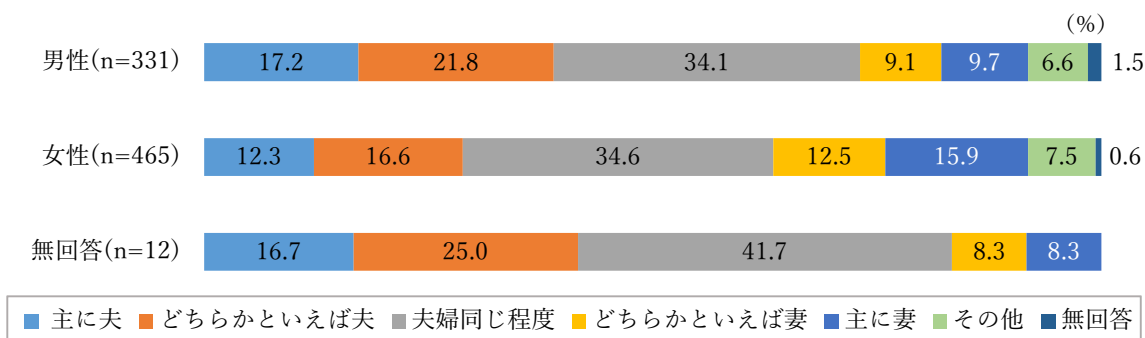
「自治会などの地域活動」について、「夫婦同じ程度」は36.5%で前回調査（選択肢は「町内行事などの地域活動」）に比べ1.4ポイント増加している。

※平成27年、30年との選択肢違いあり（町内行事などの地域活動）



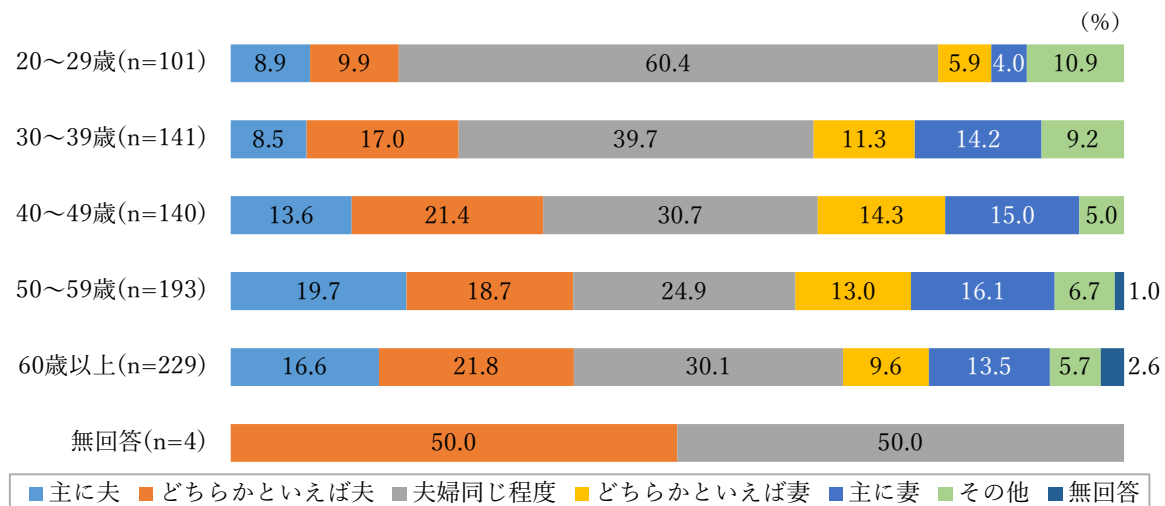
【性別】

男女別でみると、『妻（計）』は女性が28.4%で男性の18.8%より9.6ポイント高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男性が34.1%で女性の34.6%より0.5ポイント低くなっている。



【年代別】

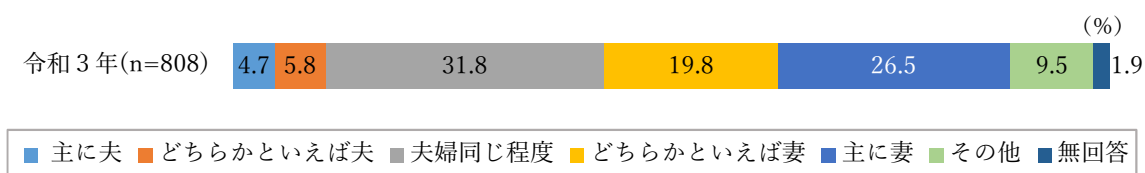
年代別でみると、「夫婦同じ程度」は20～29歳が60.4%で最も高くなっている。年齢が低くなるほど、高くなっている。



⑭ P T Aなどの活動

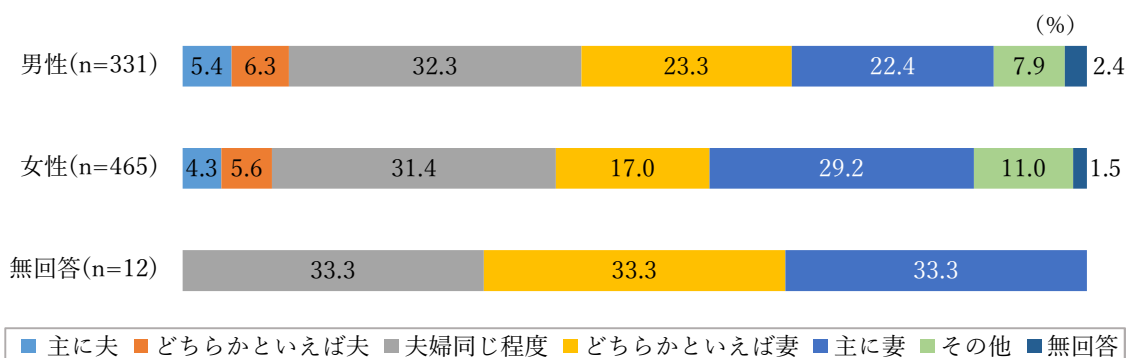
【全体】

「P T Aなどの活動」について、「夫婦同じ程度」が31.8%で最も高く、次いで「主に妻」が26.5%、「どちらかといえば妻」が19.8%などの順になっている。



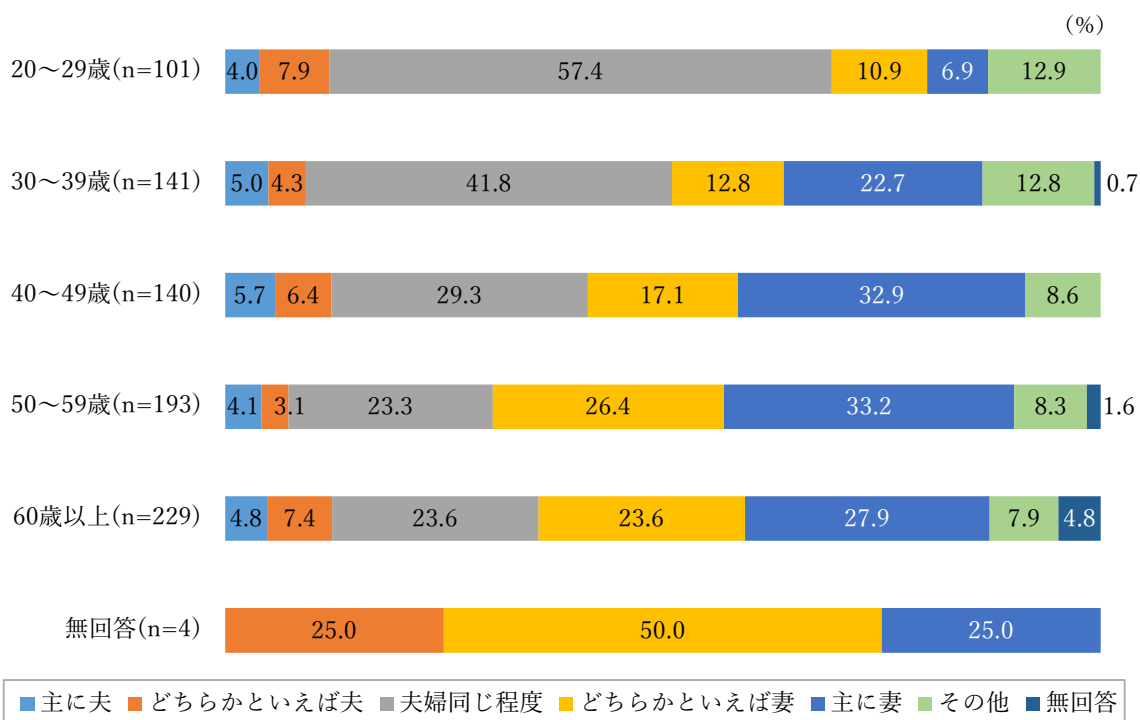
【性別】

男女別で見ると、「主に妻」は女性が29.2%で男性の22.4%より6.8高くなっている。一方、「夫婦同じ程度」は男女ともにほぼ同じ割合となっている。



【年代別】

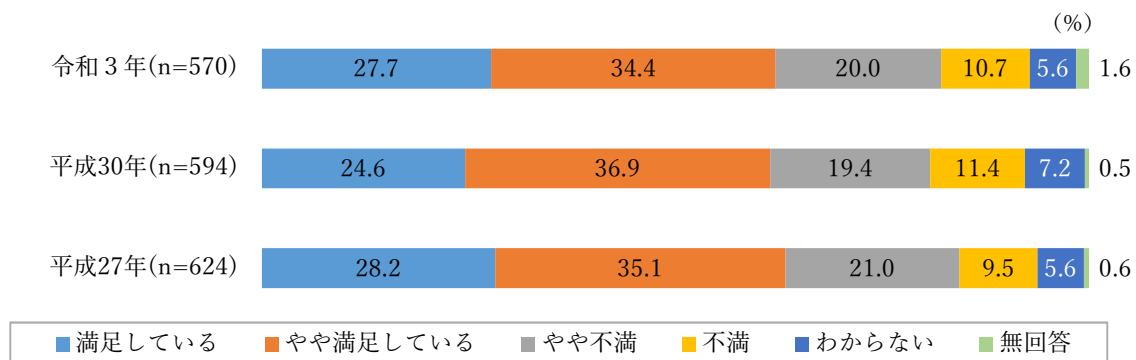
年代別で見ると、「夫婦同じ程度」は20～29歳が57.4%で最も高くなっている。



**【問6】 あなたは、夫婦間の役割分担の現状について、どのように思っていますか。(配偶者がいる方のみ)**

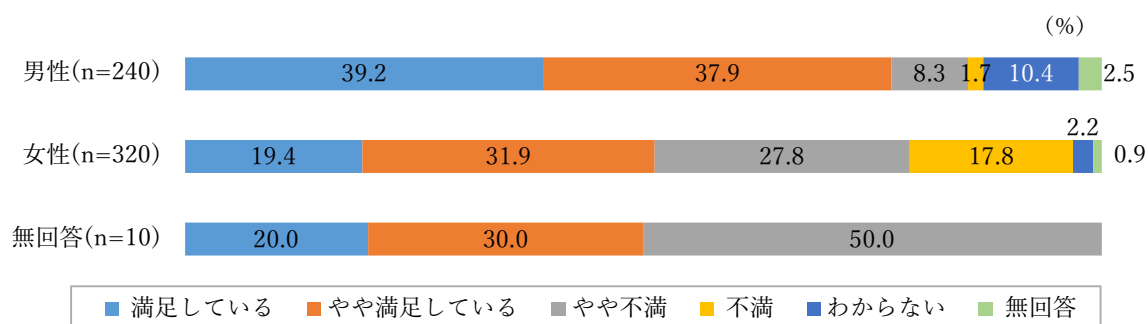
**【全体】**

夫婦の役割分担の現状については、「満足」「やや満足」を合わせた割合（以下『満足（計）』という）は62.1%で、前回調査と比べて0.6ポイント増加している。



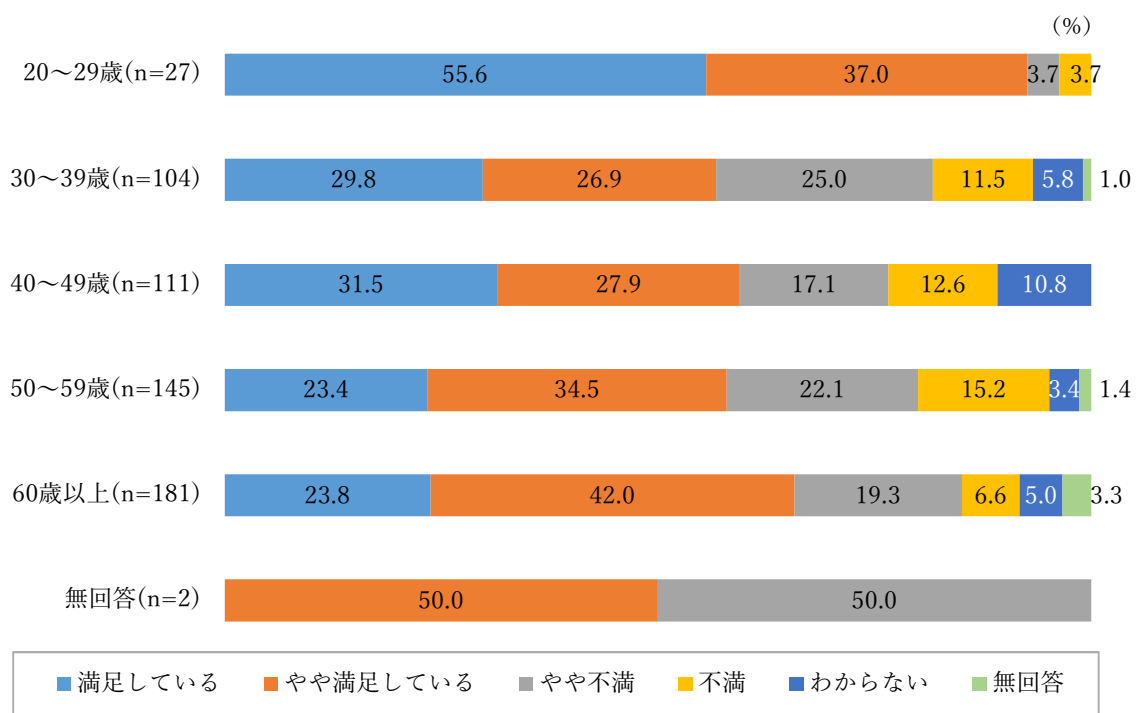
**【性別】**

男女別で見ると、『満足（計）』は男性が77.1%で女性の51.3%より25.8ポイント高くなっている。一方、「不満」「やや不満」を合わせた割合（以下『不満（計）』という）は女性が45.6%で男性の10.0%より35.6ポイント高くなっている。



### 【年代別】

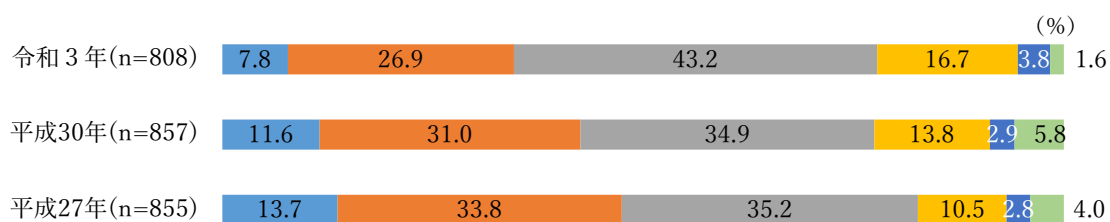
年代別でみると、『満足（計）』は20～29歳では92.6%が最も高く、各年代でもすべて50.0を超えている。一方、『不満（計）』は女性の50～59歳が37.3%で最も高く、次いで30～39歳が36.5%の順で高くなっている。



**【問7】** あなたは、自分の子どもをどのように育てたいと思いますか。子どもがいない場合は、いと仮定して選んでください。

### 【全体】

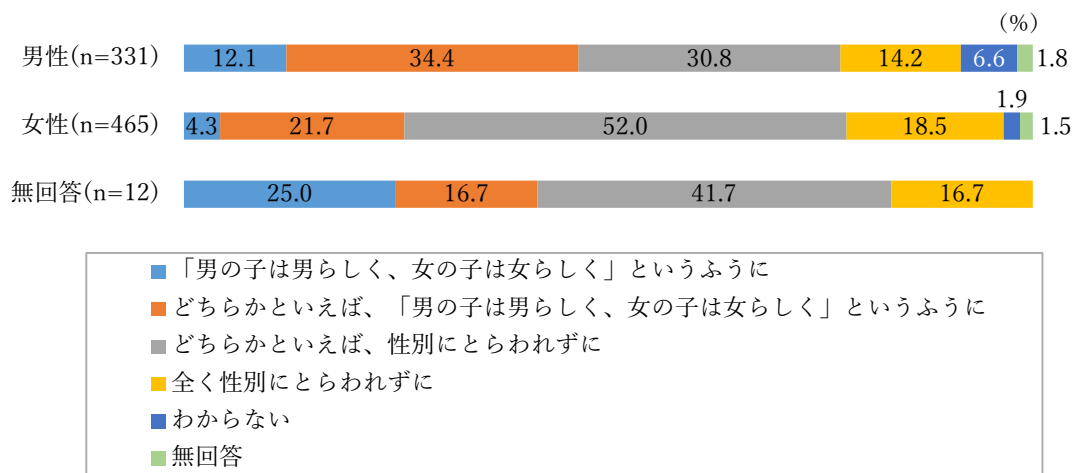
自分の子どもの育て方については、「どちらかといえば性別にとらわれずに」「全く性別にとらわれずに」を合わせた割合（以下『性別にとらわれず（計）』という）は59.9%で、前回調査に比べて11.2ポイント増加している。



- 「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに
- どちらかといえば、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに
- どちらかといえば、性別にとらわれずに
- 全く性別にとらわれずに
- わからない
- 無回答

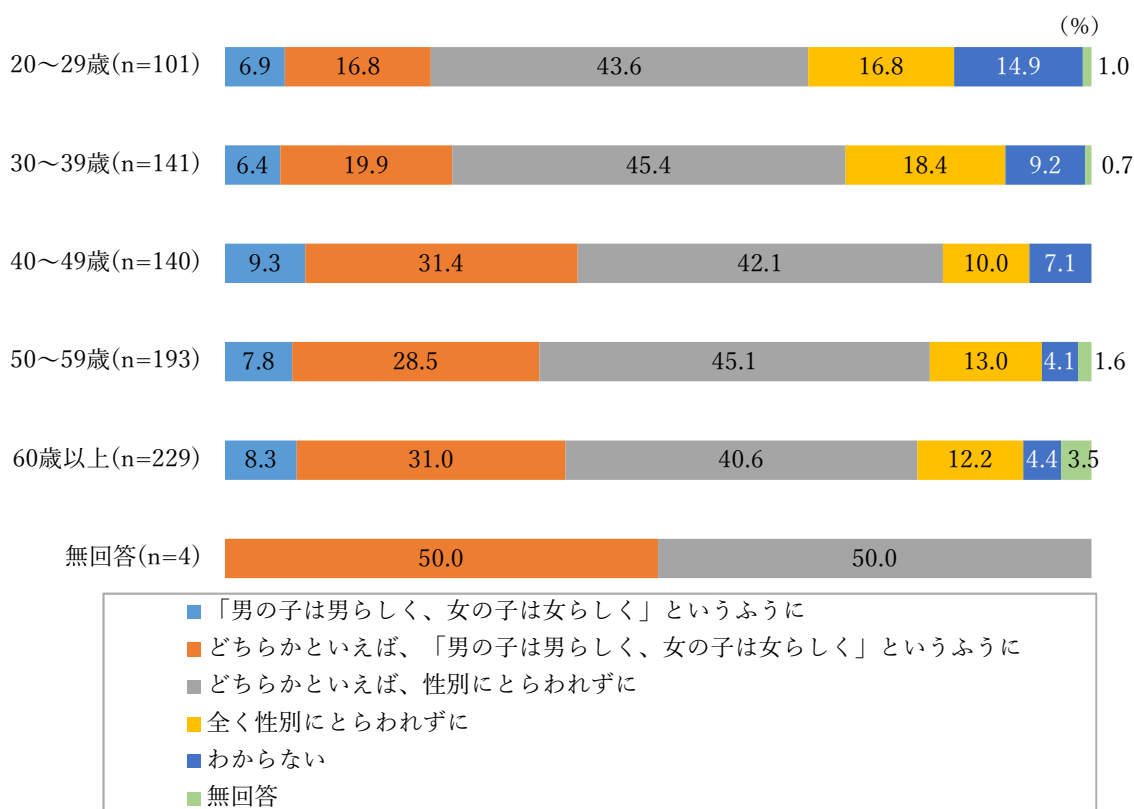
## 【性別】

男女別でみると、『男の子は男らしく、女の子は女らしく』というふうに』と『どちらかといえば、「男の子は男らしく、女の子は女らしく」というふうに』を合わせた割合（以下『男らしく、女らしく（計）』という）は、男性が46.5%で女性の26.0%より20.5ポイント高くなっている。



## 【年代別】

年代別でみると、『男らしく、女らしく（計）』は女性の40～49歳が40.7%で最も高く、次いで60歳以上が39.3%で高くなっている。一方、『性別にとらわれずに（計）』は全ての世代で50.0%を超えている。

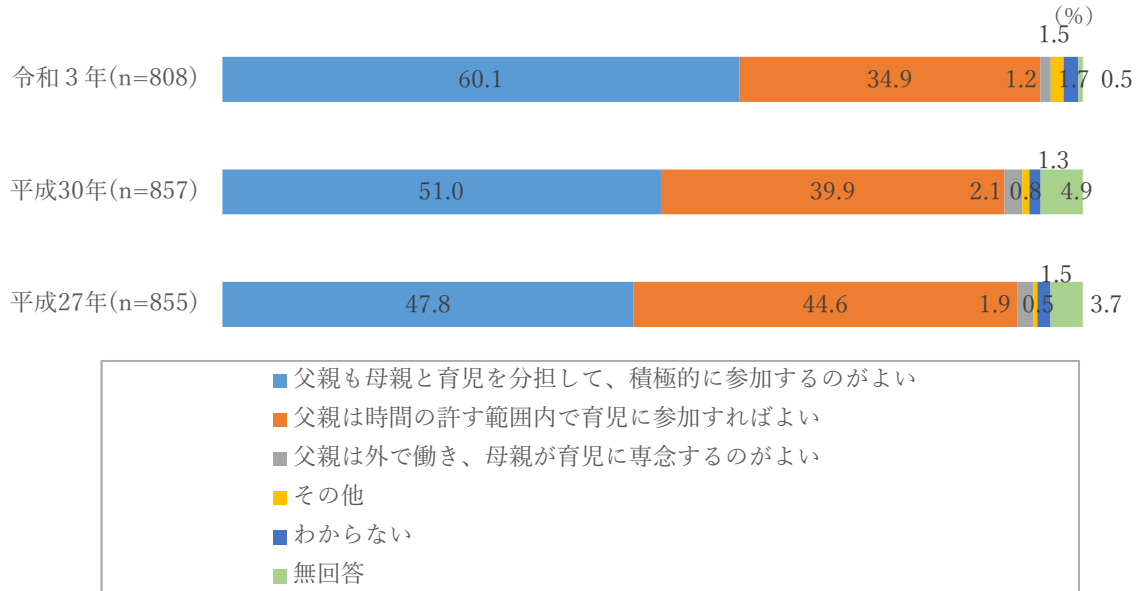


**【問8】 父親が育児に参加することについて、どう思いますか。**

**【全体】**

父親の育児参加については、「父親も母親と育児を分担して、積極的に参加するのがよい」が60.1%と前回調査に比べて9.1ポイント増加している。

その他の意見では「父親も母親も協力すればよい」という内容が多数あった。

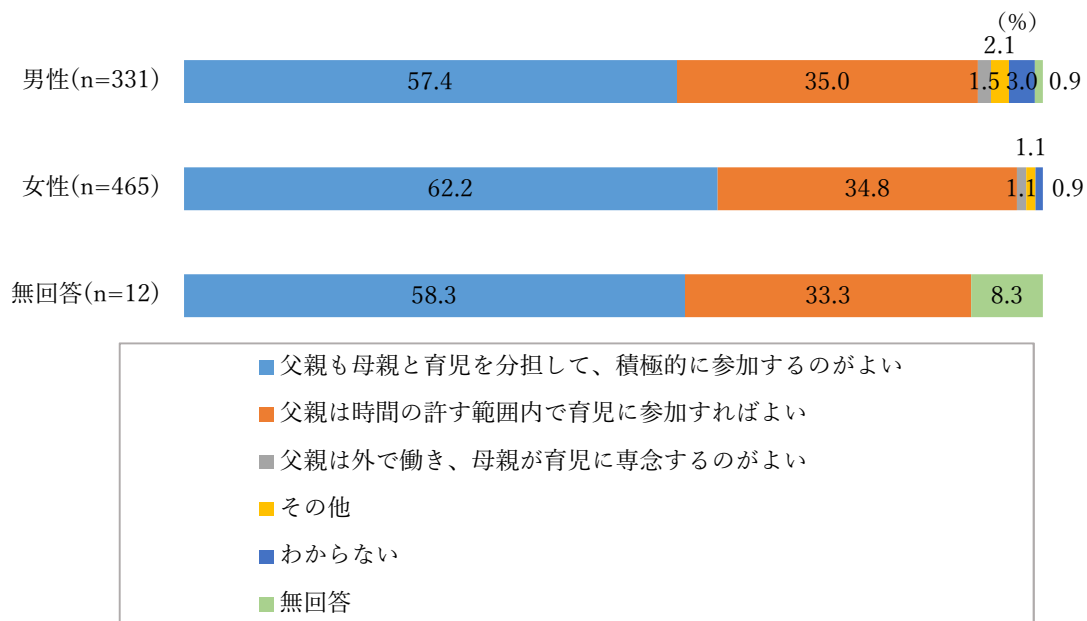


- 【その他の意見】**
- 基本的には両方で行うものだと認識している。
  - 父親も母親もお互いの時間の範囲でやればよい。どちらかがという概念があまり私はないです。
  - 父親も母親も分担しないで互いに協力して育児をすればよい。
  - できることを積極的にやればよい。分担は流動的、柔軟に。
  - 分担する必要はないが積極的に参加すべき。どちらも全ての育児をこなせるのが理想。
  - どちらかがやるという固定概念じゃなく夫婦の状況に合わせてやれる方がやればよい。
  - どうするのがよいとかではなく、するのが普通。
  - それぞれの家庭に適した状態があると思うので、一概には言えない。
  - 母親を支える。母親に気持ちのゆとりをもってもらおうべく自由になる時間を作ってあげる。それが「育児に参加する」ということであるなら"2"を選択するが。
  - 思いやり
  - この質問自体ナンセンス。
  - 意識の問題があると考えます。



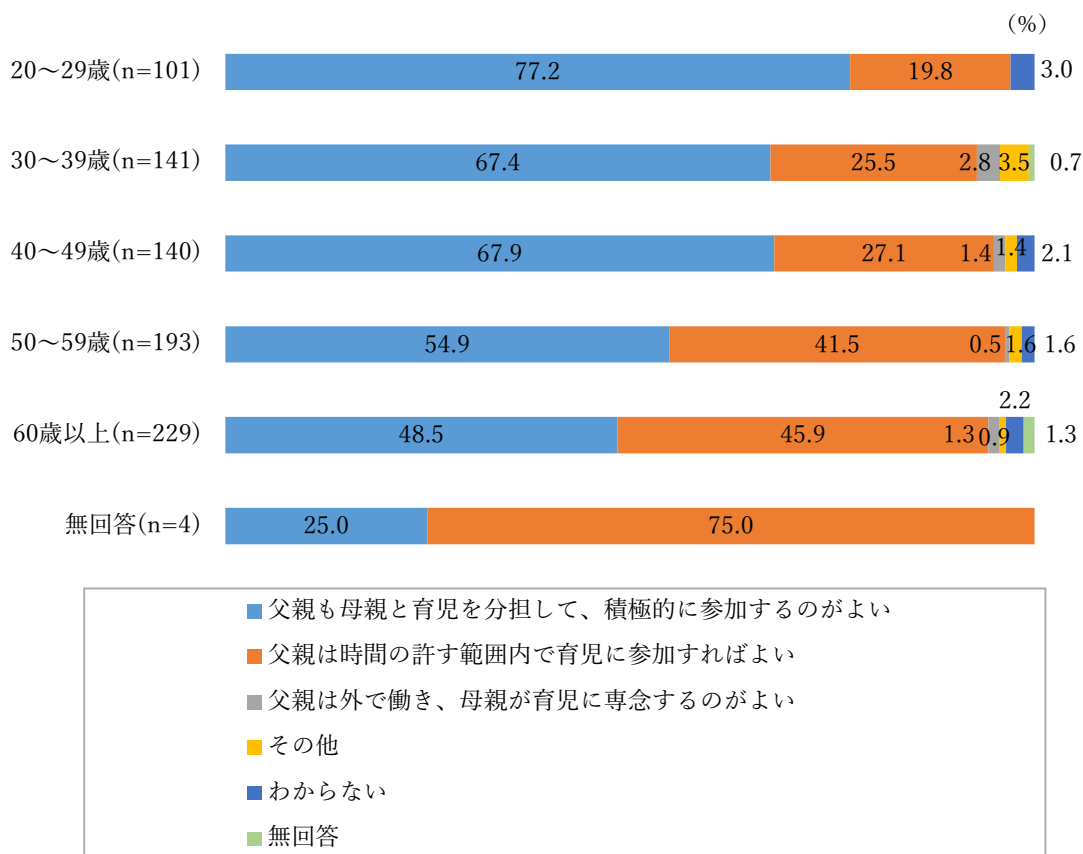
### 【性別】

男女別で見ると、「父親も母親と育児を分担して、積極的に参加するのがよい」は女性が62.2%で男性の57.4%より4.8ポイント高くなっている。



### 【年代別】

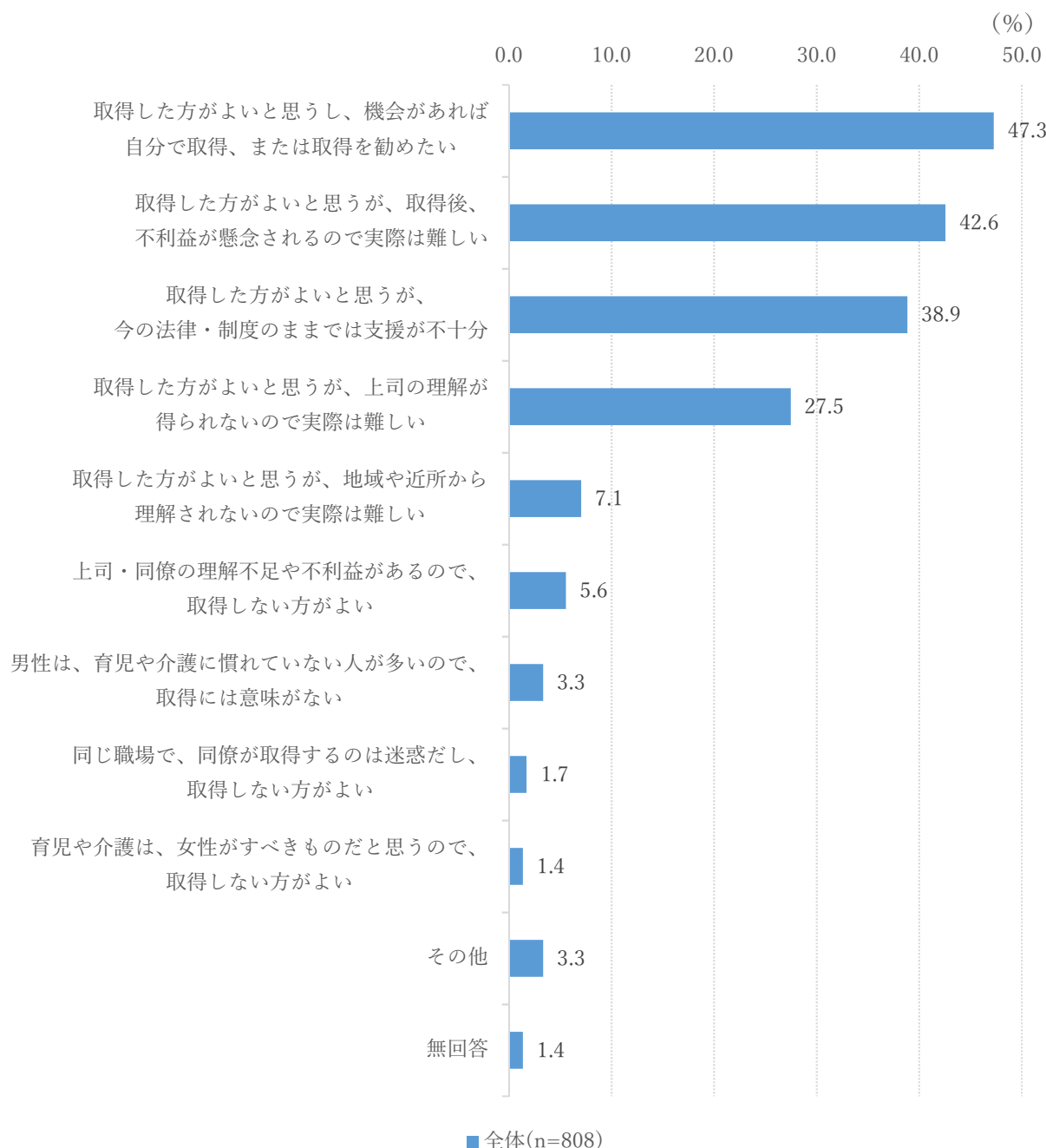
年代別で見ると、「父親も母親と育児を分担して、積極的に参加するのがよい」は20～29歳が77.2%で最も高く、年代が低くなるほど割合が高くなっている。一方、「父親は時間の許す範囲内で育児に参加すればよい」は年代が高くなるほど割合が高くなっている。



**【問9】 育児や家族介護を行うために、法律に基づく育児休業や介護休業の制度を活用して、男性が育児休業や介護休業を取得することについてどのように思いますか。**

**【全体】**

男性が育児休業を取得することについては、「取得した方がよいと思うし、機会があれば自分で取得、または取得を勧めたい」が47.3%で最も高く、次いで「取得した方がよいと思うが、取得後、不利益が懸念されるので実際は難しい」が42.6%、「取得した方がよいと思うが、今の法律・制度のままでは支援が不十分」が38.9%などの順となっている。

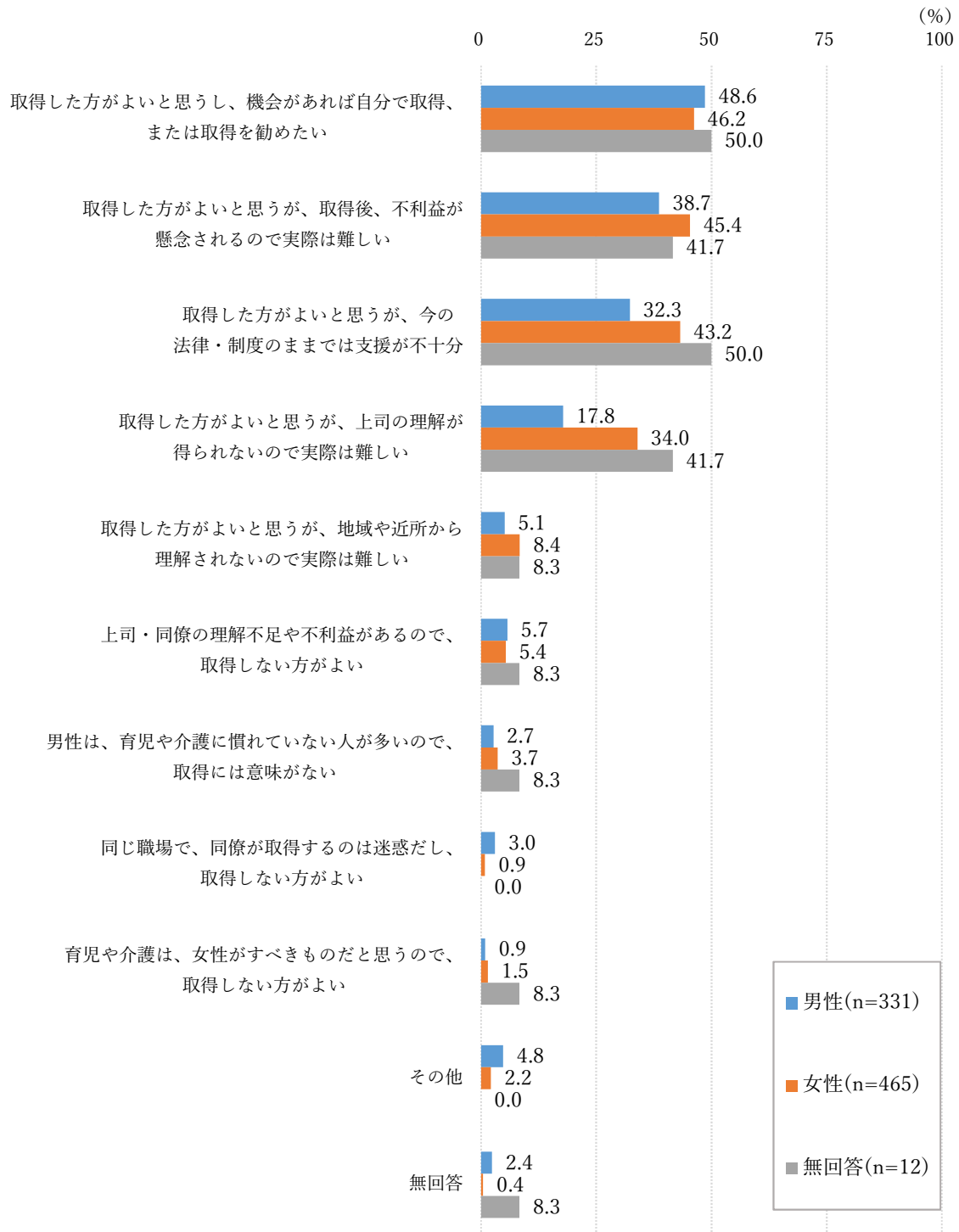


### 【その他の意見】

- 取得自体には肯定的ですが、経済的な余裕とのバランスによるかと思います。
- 育児に関しては父親も積極的に参加すべし。
- 配偶者との話し合いで決める。
- その人が好きなようにしたらいい。自由に選択できるように。
- 制度が活用しやすいように年に〇日と決めて有給のように自由に取得できるようになると良いのでは？例：予防接種の日に育児休暇をとる、妻の美容室や病院の日など。
- 期間など平等性に欠けるもの個人の判断で良いのではないか。
- 現状の休業期間は長いと思う。
- 育休でもらえる金額が増えればとりやすい。
- 制度があるなら利用すれば良いと思うが、現状は休暇取得によって生じる職場の負担増加を補うところまでルールが出来ていないように思う。
- 男性中心の社会のせいでも男性自身も休暇が取りづらい雰囲気がある。
- 取得したいが周りで誰も取らないので取りづらい、長期間仕事に穴を開けるのは難しい。
- 取得した方がよいと思うが、収入が減るので取れない。
- 取得した方がよいと思うが、取得期間中に職場の同僚に業務負担が増えるので、困難である。
- 取得してほしいが、周囲からの関心が少なすぎるので難しい。
- 取得した方がよいと思うが、職場によってはカバーできる人材が不足。
- 取得して仕事に支障があるかないかによる。
- 会社や上司がこの制度を理解している日本社会ですか？
- 制度が利用できる職場ではない。
- 同僚や上司に迷惑をかけたくない。
- 介護休暇取得後に部署変えされた。制度に意味なし。
- あまり平等に平等にというのなんか嫌いなので。
- 逆にイライラする。
- わからない

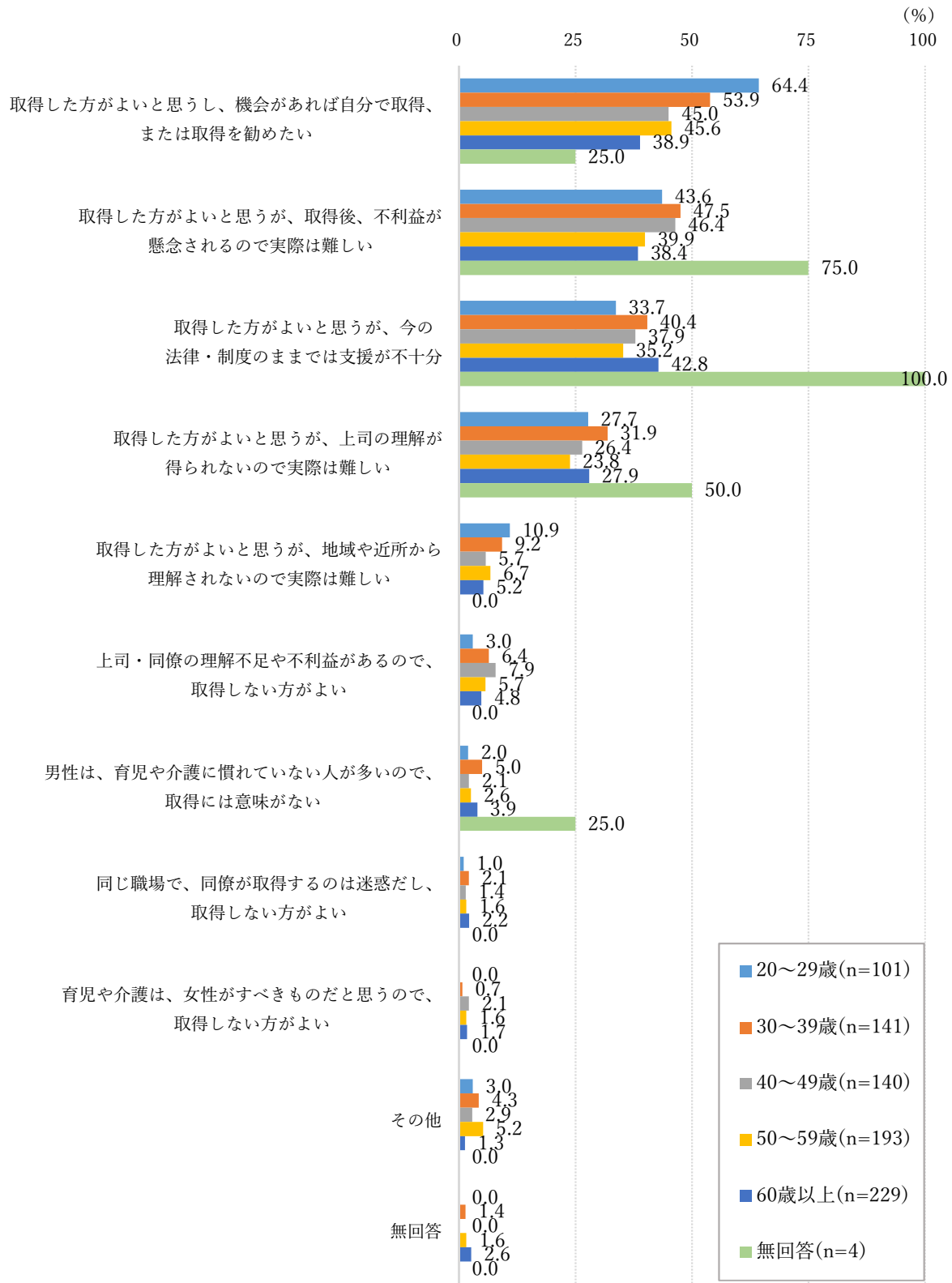
【性別】

男女別でみると、「取得した方がよいと思うが、上司の理解が得られないので実際は難しい」は女性が34.0%で男性の17.8%より16.2ポイント高くなっている。



【年代別】

年代別でみると、「取得した方がよいと思うし、機会があれば自分で取得、または取得を進めたい」は20～29歳が64.4%で最も高く、年代が高くなるほど低くなっている。



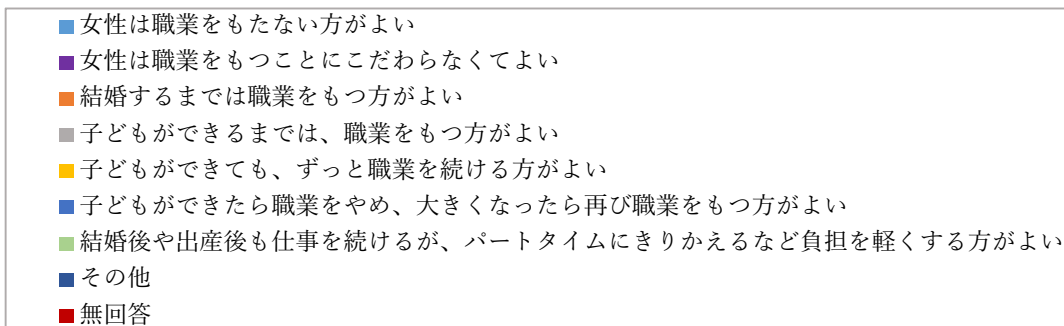
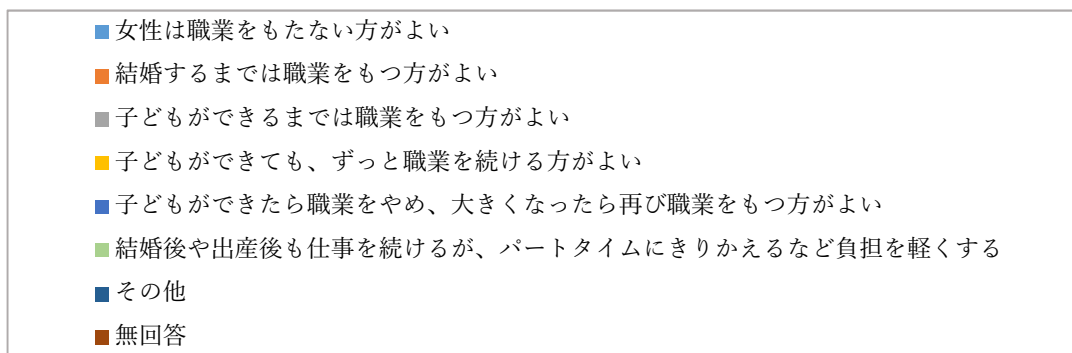
#### 4. 女性と仕事について

##### 【問10】 女性が職業を持つことについてどうお考えですか。

###### 【全体】

女性が職業を持つことについては、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が41.5%で前回調査に比べ10.2ポイント増加し最も高く、次いで、「結婚後や出産後も仕事を続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい」が30.7%で前回調査に比べ4.8ポイント増加し、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」が15.0%で前回調査に比べ0.2ポイント減少している。

※平成27年、30年との選択肢違いあり（令和3年「女性は職業をもつことにこだわらなくてよい」無し）

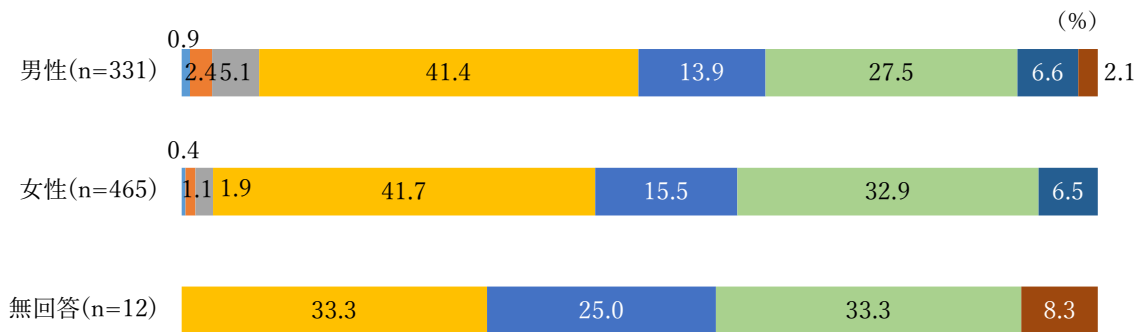


### 【その他の意見】

- その時の環境や事情によって考えを変えればよい。
- 働きたい人、働く必要のある人が働けばよいかと。
- 自分のしたいことを、したい時に好きだけやればよいと思う。
- 本人の自由であり人それぞれ働き方の考えが違うのは当たり前。
- 個人の自由であり、その意見が尊重される社会であるべきだと思う。
- 結婚、出産に関係なくやりたい仕事をすればよい。
- その人の家庭裁量で決めれば良いが、1番はその女性本人が納得と覚悟を持ってできるのがベスト。
- 職業を持つか持たないかは、その人の生き方なので、こうあるべきと形はない。
- 女性の望むようにするべきである。
- 結婚前の仕事による。
- 理想としては子どもの成長に応じて仕事を選択できればよいが、配偶者の協力次第ではないか？社会的に結婚・出産後も雇用形態を切り替える等して仕事を継続させるのは、凄く反対、女性の負担が大きすぎると思います。
- 結婚や出産で仕事をするかしないかを選ぶのが女性だけが不快、質問自体平等ではないのでは？
- 子供のため一部の優遇されている人だけでなく、全ての親が不利益を被らず上記、結婚・出産後も雇用形態を切り替えて仕事を継続できる働き方ができるような社会制度が必要だと思う。
- 働きたいという強い意思と周囲の理解があるなら、働くべき。
- 子供の教育は重要、次代を担う人物を育てること。心を育てる。
- 家庭の状況や子供の成長過程で働く時間を検討し今も働き続けていられることを、幸せに思っている。(大卒より現在まで)
- 女性といっても人それぞれなのでその人が自由に選択できる事ができればよいと思う。
- 夫が家事育児に消極的であり経済的に仕事をせざる負えない場合の時は、せめてパートタイムに切り替え負担を軽くする。
- 職業をもち結婚してもそのまま働きつづける子どもなしで。
- 職業につかなくても良い環境であれば、職業を持ちたくないのであれば持つ必要はない。職業は人との関わって行われるもののため辛い思いをしているのであれば区切りをつけて休息も必要。

【性別】

男女別でみると、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」は男女ともに一番高く、ほぼ同じ割合となっている。「結婚後や出産後も仕事を続けるが、パートタイムにきりかえる等負担を軽くする方がよい」は女性が32.9%で男性の27.5%より5.4ポイント高くなっている。

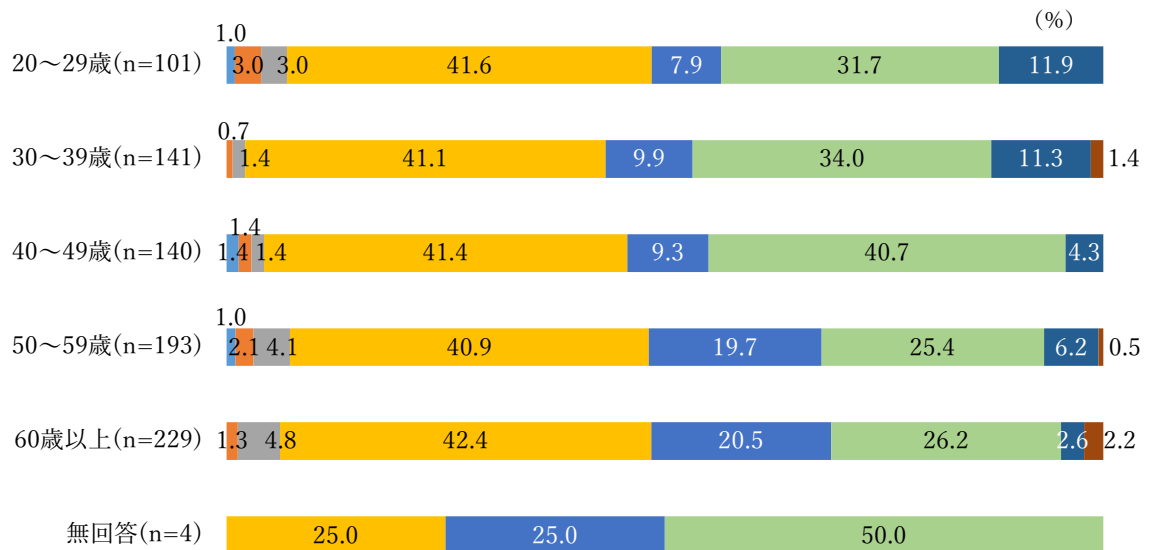


- 女性は無職の方がよい
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができるまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい (問11へ)
- 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい (問12へ)
- 結婚後や出産後も仕事を続けるが、パートタイムにきりかえる等負担を軽くする方がよい
- その他
- 無回答



【年代別】

年代別でみると、「結婚後や出産後も仕事を続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい」は40～49歳が40.7%、30～39歳が34.0%で高く、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」は60歳以上が42.4%、20～29歳が41.6%と高くなっている。



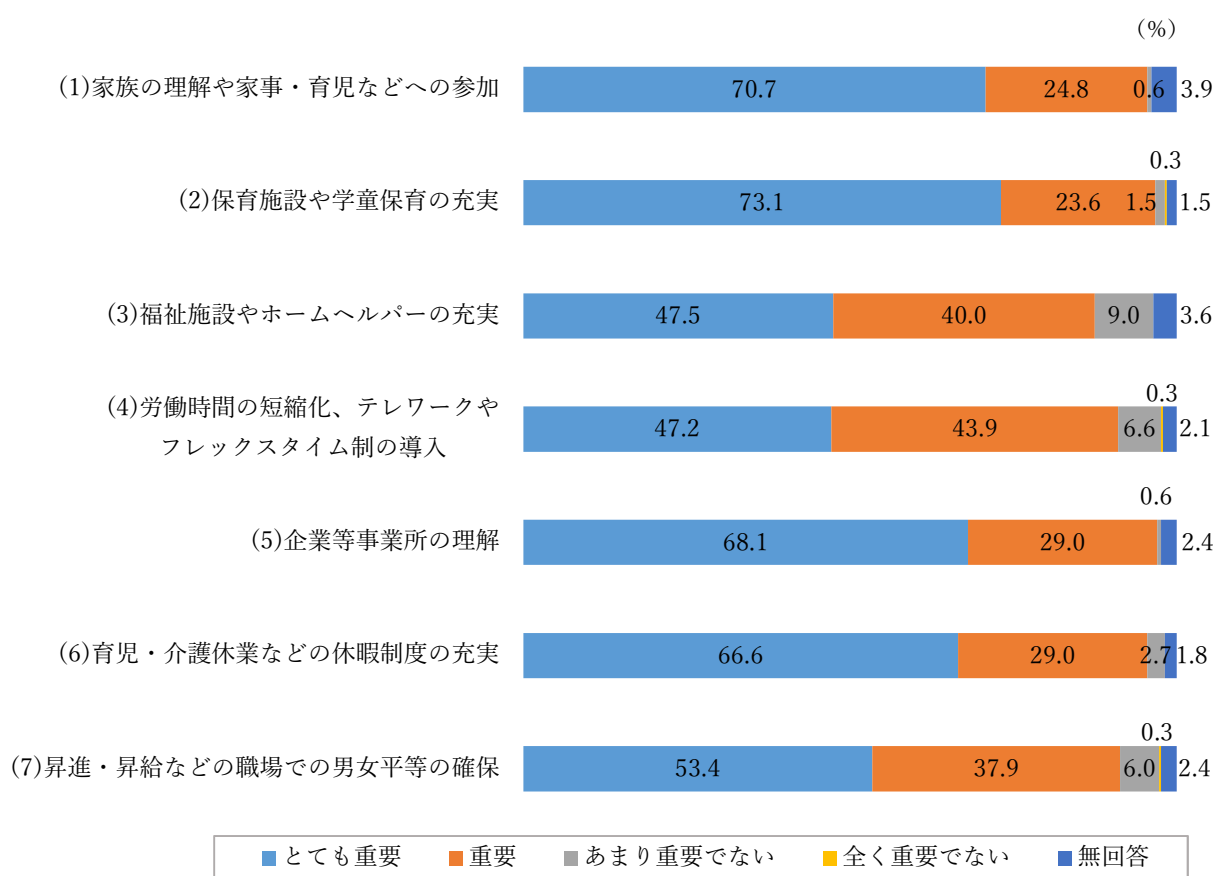
- 女性は無職の方がよい
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができるまでは職業をもつ方がよい
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい (問11へ)
- 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい (問12へ)
- 結婚後や出産後も仕事を続けるが、パートタイムにきりかえる等負担を軽くする方がよい
- その他
- 無回答

**【問11】 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思いますか。**

**【全体】**

問10の女性が職業を持つことについて、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がいい」と回答した335人に働き続けるために重要なことを聞いたところ、「とても重要」は「保育施設や学童保育の充実」で73.1%と最も高く、次いで「家族の理解や家事・育児などへの参加」の70.7%、「企業等事業所の理解」の68.1%などの順となっている。

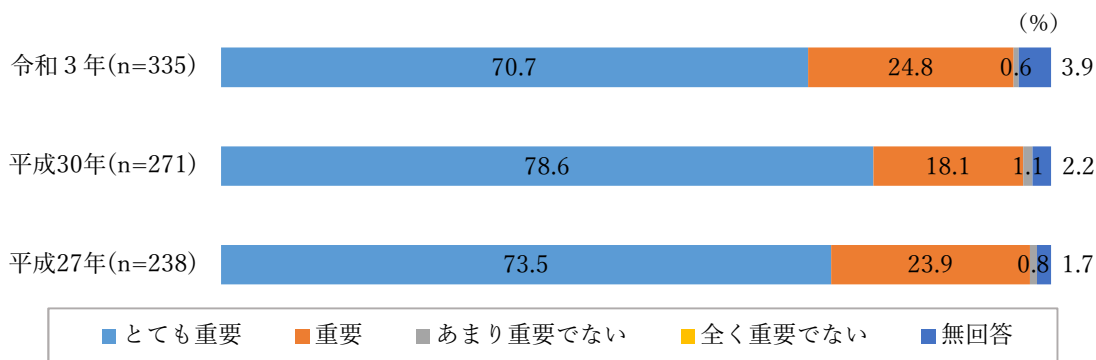
また、「とても重要」と「重要」を合わせた割合（以下『重要（計）』という）は「企業等事業所の理解」が97.1%と最も高く、次いで、「保育施設や学童保育の充実」の96.7%、「育児・介護休業などの休暇制度の充実」の95.6%などの順となっている。



① 家族の理解や家事・育児などへの参加

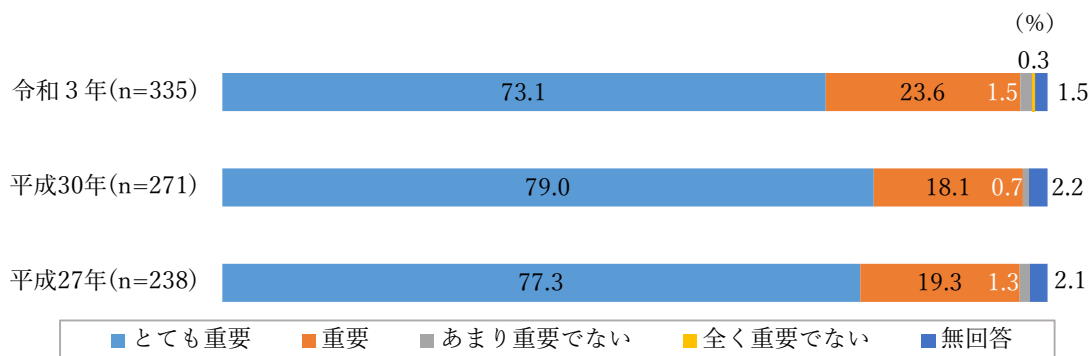
家族の理解や家事・育児などへの参加について、『重要（計）』は95.5で前回調査（選択肢は「パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加」）より1.2ポイント減少している。

※平成27年、30年との選択肢違いあり（パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加）



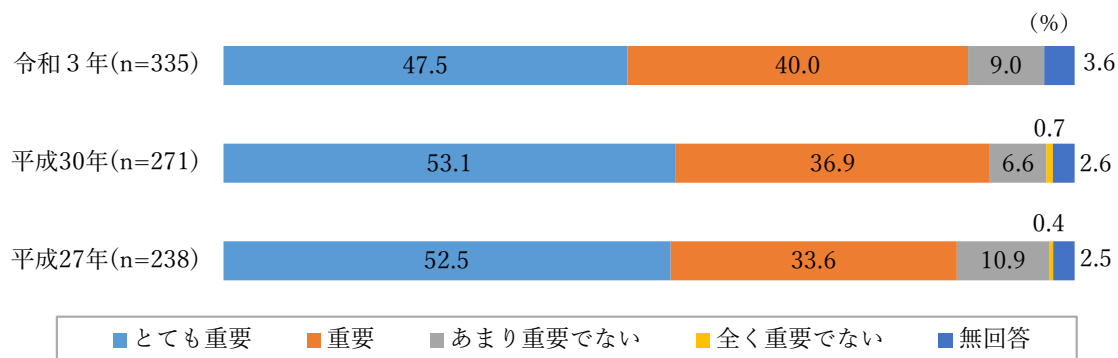
② 保育施設や学童保育の充実

保育施設や学童保育の充実について、『重要（計）』は96.7%で前回調査より0.4ポイント減少している。



③ 福祉施設やホームヘルパーの充実

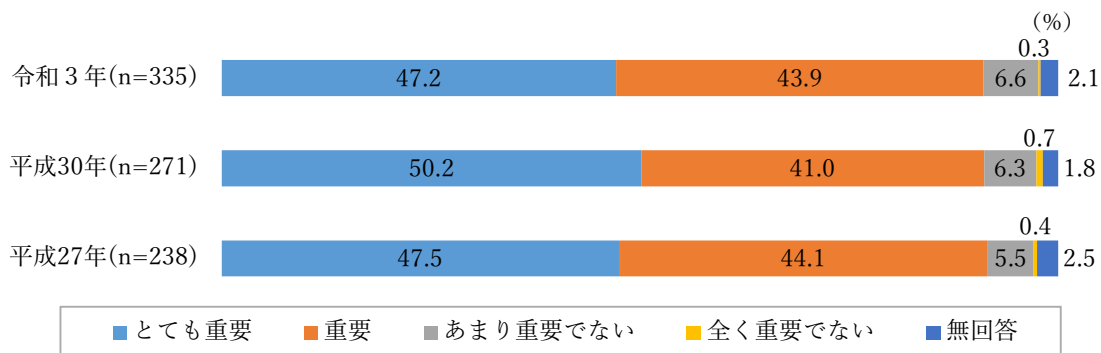
福祉施設やホームヘルパーの充実について、『重要（計）』は87.5%で前回調査より2.5ポイント減少している。



④ 労働時間の短縮化、テレワークやフレックスタイム制の導入

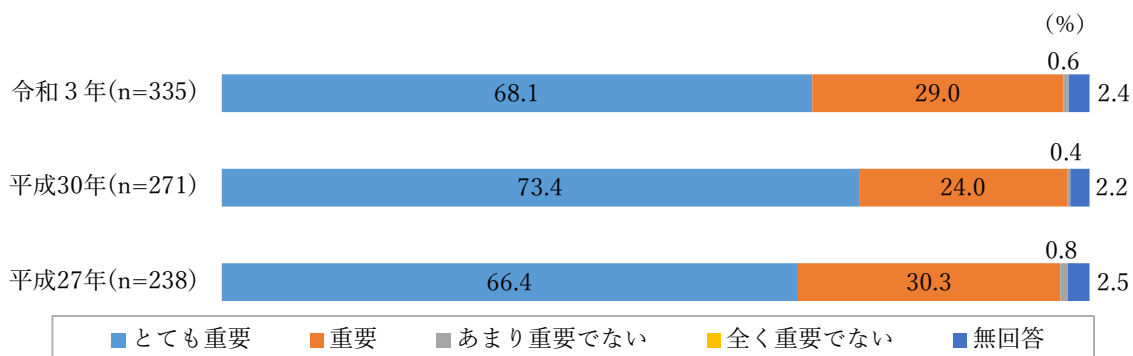
労働時間の短縮化、テレワークやフレックスタイム制の導入について、『重要（計）』は91.1%で前回調査（選択肢は「労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入」）とほぼ同じ割合となっている。

※平成27年、30年との選択肢違いあり（労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入※テレワーク無し）



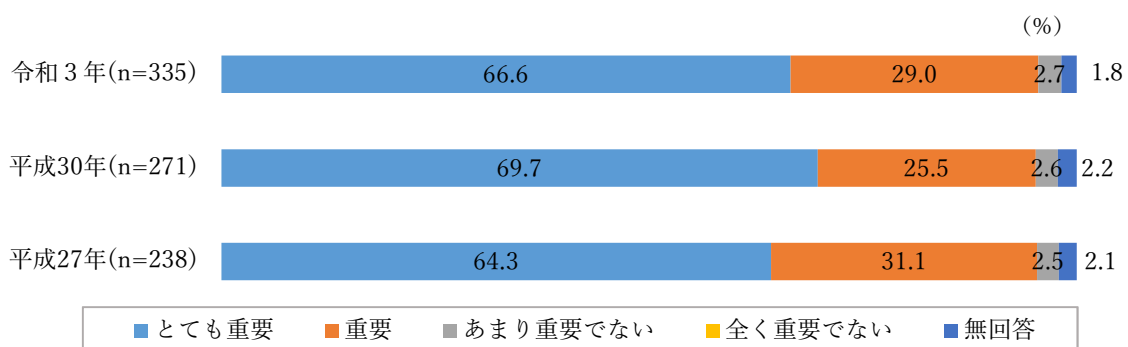
⑤ 企業等事業所の理解

企業等事業所の理解について、『重要（計）』は97.1%で前回調査より0.3ポイント減少している。



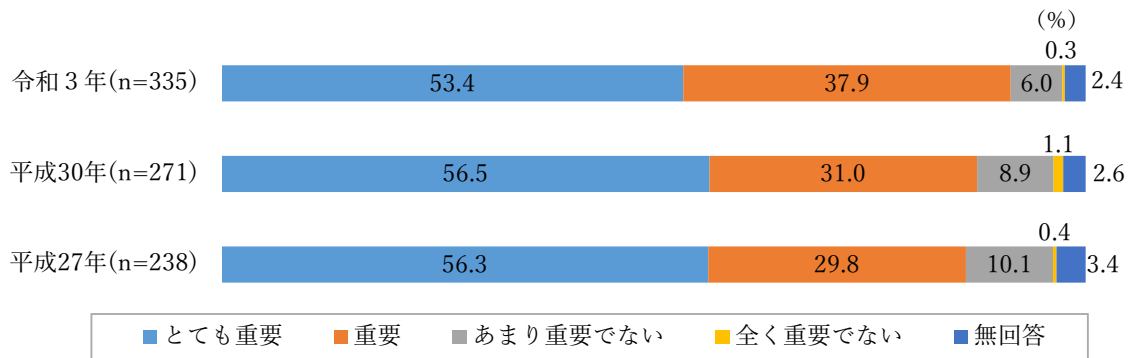
⑥ 育児・介護休業などの休暇制度の充実

育児・介護休業などの休暇制度の充実について、『重要（計）』は95.6%で前回調査より0.4ポイント増加している。



⑦ 昇進・昇給などの職場での男女平等の確保

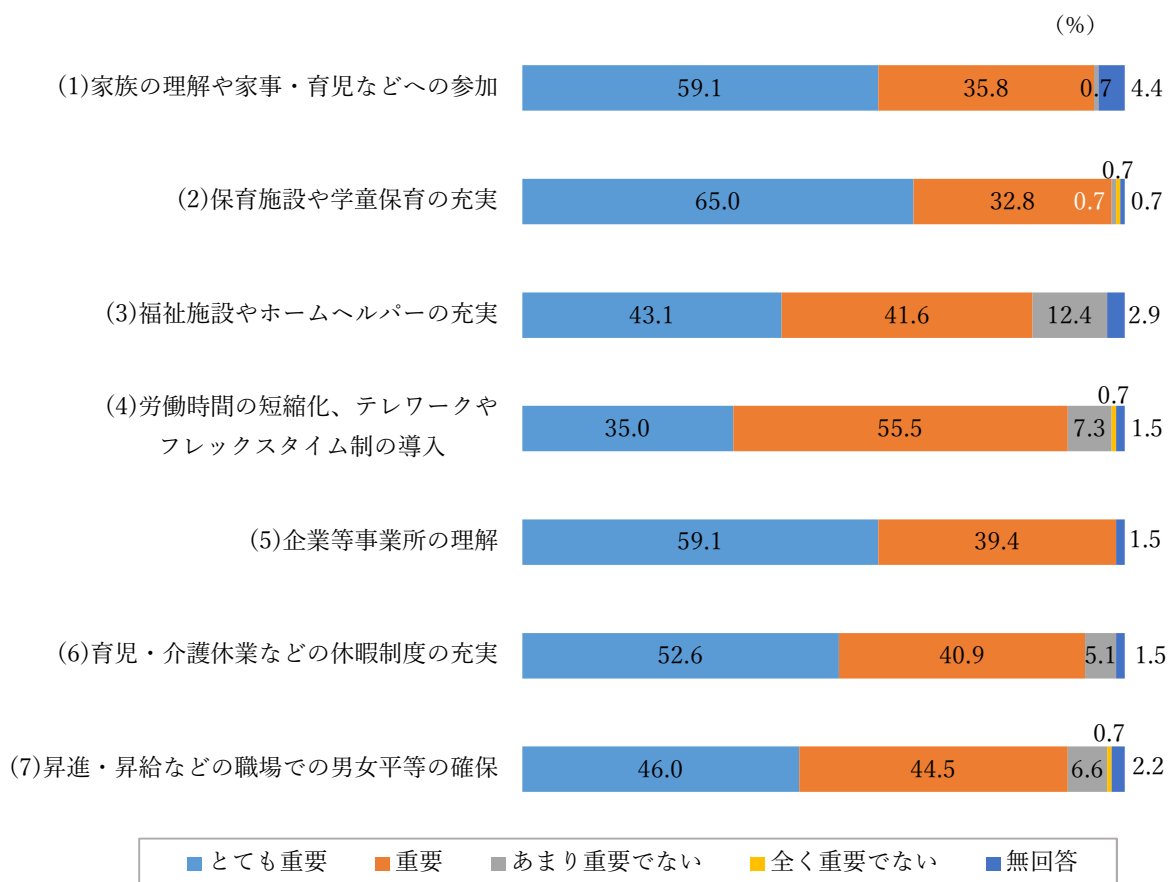
昇進・昇給などの職場での男女平等の確保について、『重要（計）』は91.3%で前回調査より3.8ポイント増加している。



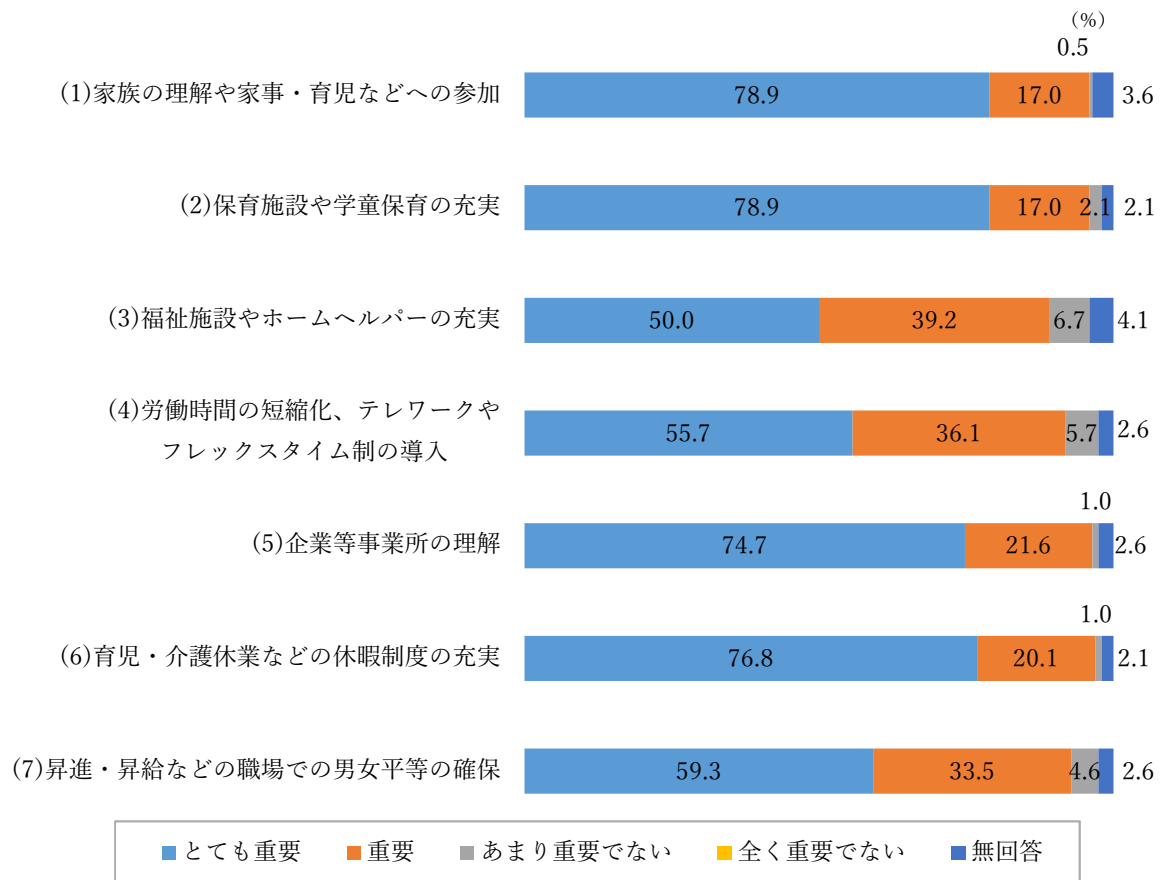
【性別】

男女別で見ると、『重要（計）』は「福祉施設やホームヘルパーの充実」では女性が89.2%で男性の84.7%より4.5ポイント、「育児・介護休業などの休暇制度の充実」では女性が96.9%で男性の93.5%より3.4ポイント、「昇進・昇給などの職場での男女平等の確保」では女性が92.8%で男性の90.5%より2.3ポイント、「企業等事業所の理解」では男性が98.5%で女性の96.3%より2.2ポイント、それぞれ高くなっている。

男性



女性



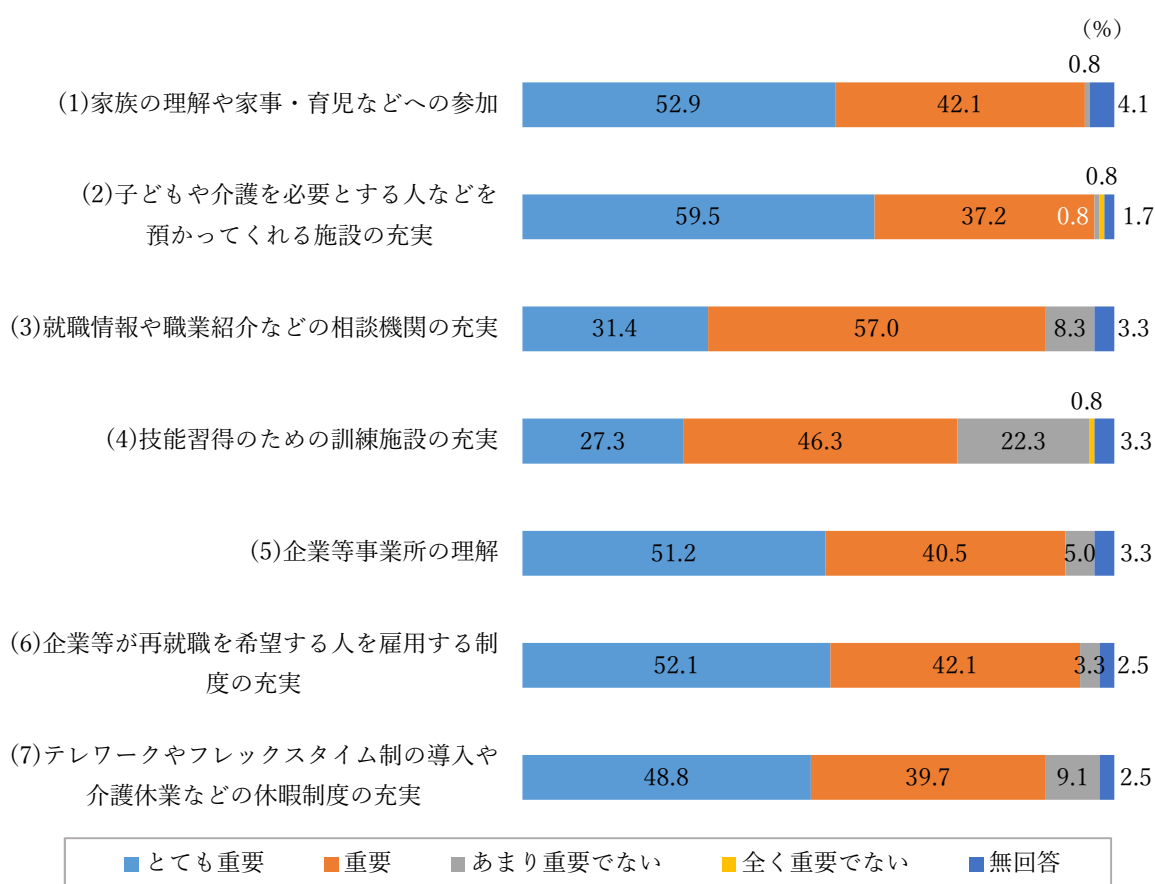
**【問12】 女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するためには、どのようなことが重要だと思いますか。**

**【全体】**

問10の女性が職業を持つことについて、「子どもができれば職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した121人に再就職するために重要なことを聞いたところ、「とても重要」は「子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実」で59.5%と最も高く、次いで、「家族の理解や家事・育児などへの参加」の52.9%、「企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」の52.1%などの順となっている。

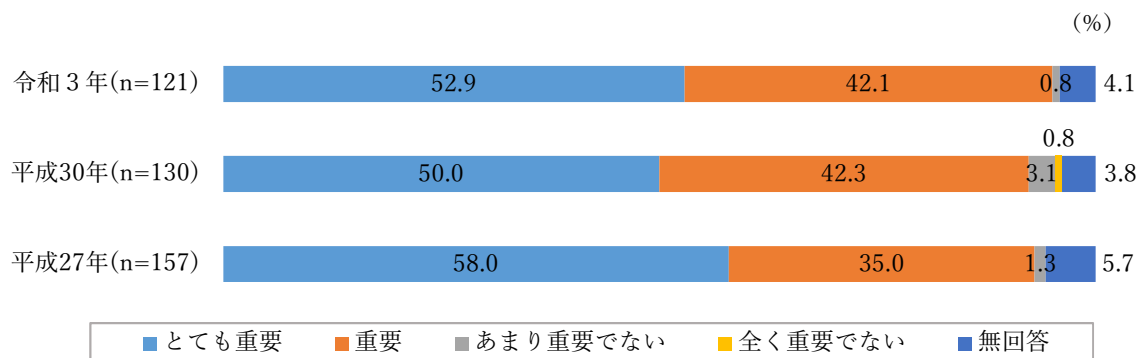
また、『重要（計）』は「子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実」が96.7%と最も高く、次いで、「家族の理解や家事・育児などへの参加」の95.0%、「企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実」の94.2%などの順となっている。

一方、「あまり重要でない」と「全く重要でない」を合わせた割合（以下『重要でない（計）』という）は「技能習得のための訓練施設の充実」の23.1%が最も高くなっている。



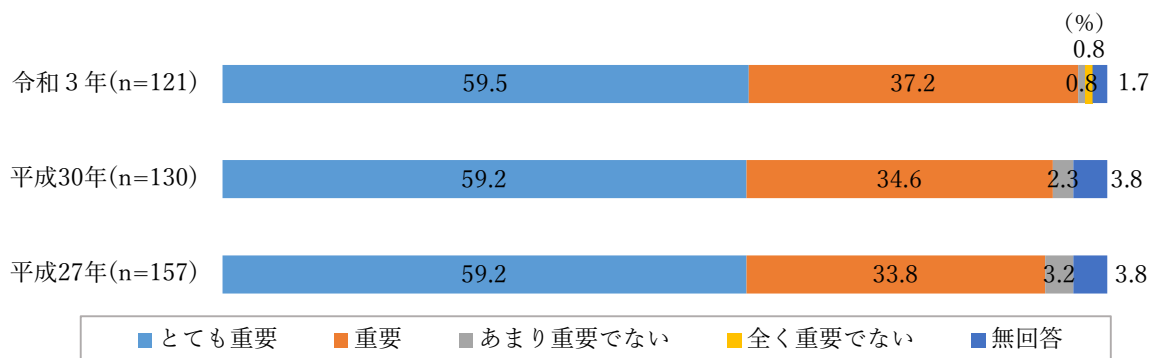
① 家族の理解や家事・育児などへの参加

家族の理解や家事・育児などへの参加について、『重要（計）』は95.0%で前回調査より2.7ポイント増加している。



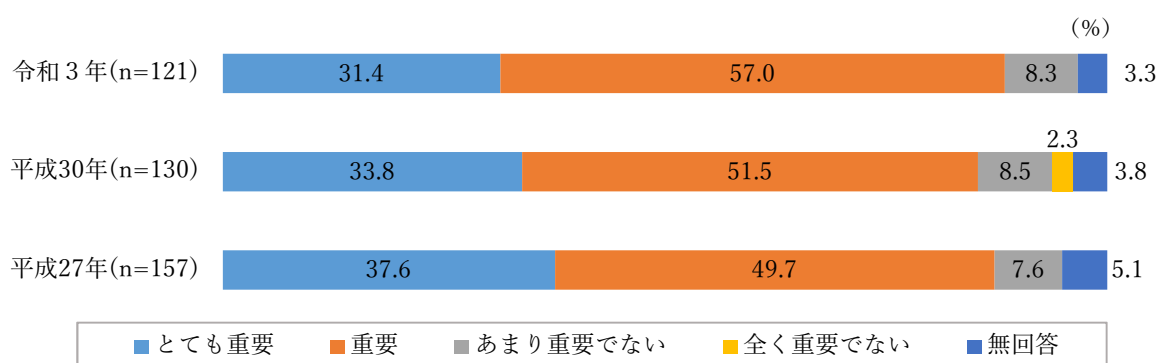
② 子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実

子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実について、『重要（計）』は96.7%で前回調査より2.9ポイント増加している。



③ 就職情報や職業紹介などの相談機関の充実

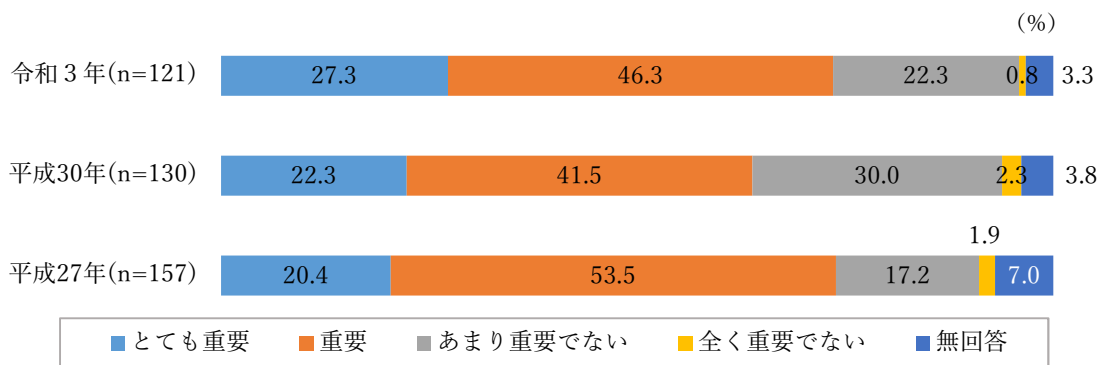
就職情報や職業紹介などの相談機関の充実について、『重要（計）』は88.4%で前回調査より3.1ポイント増加している。





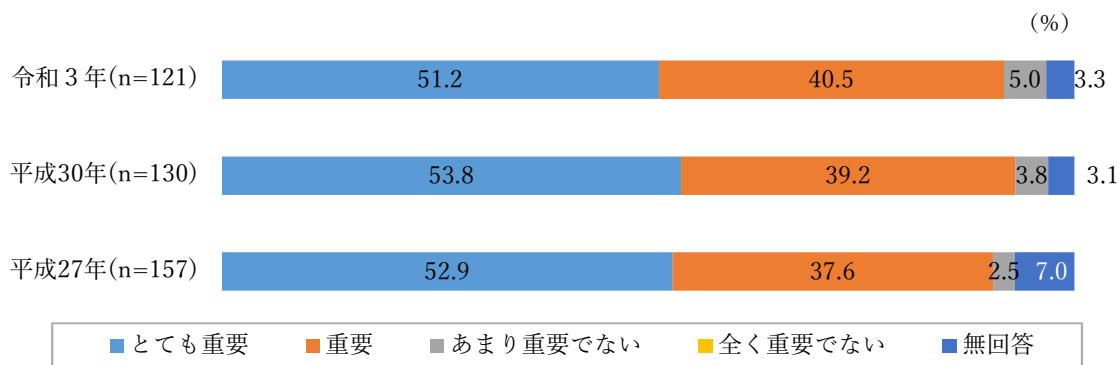
④ 技能習得のための訓練施設の充実

技能習得のための訓練施設の充実について、『重要（計）』は73.6%で前回調査より9.8ポイント増加している。



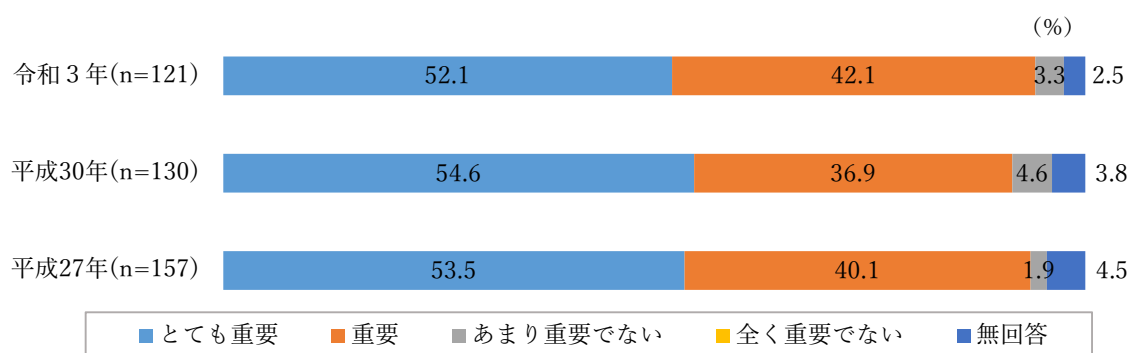
⑤ 企業等事業所の理解

企業等事業所の理解について、『重要（計）』は91.7%で前回調査より1.3ポイント減少している。



⑥ 企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実

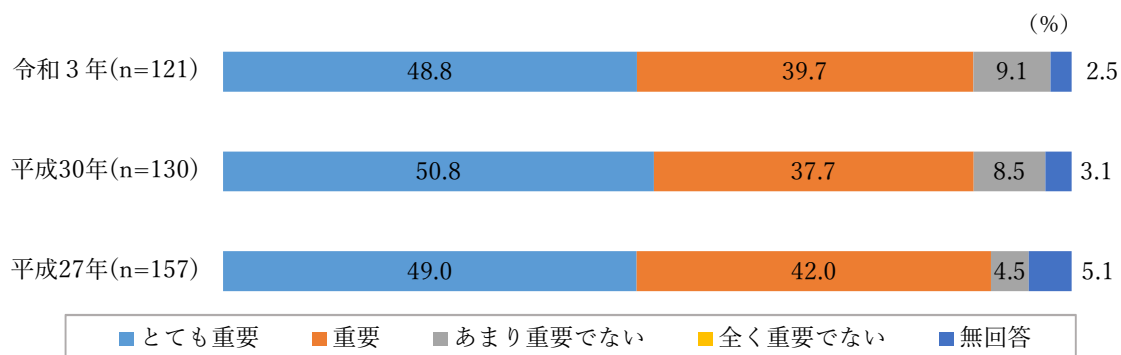
企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実について、『重要（計）』は94.2%で前回調査より2.7ポイント増加している。



⑦ テレワークやフレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実

テレワークやフレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実について、『重要（計）』は88.5%で前回調査（選択肢は「労働時間の短縮化、フレックスタイム制の導入」）と同じ割合となっている。

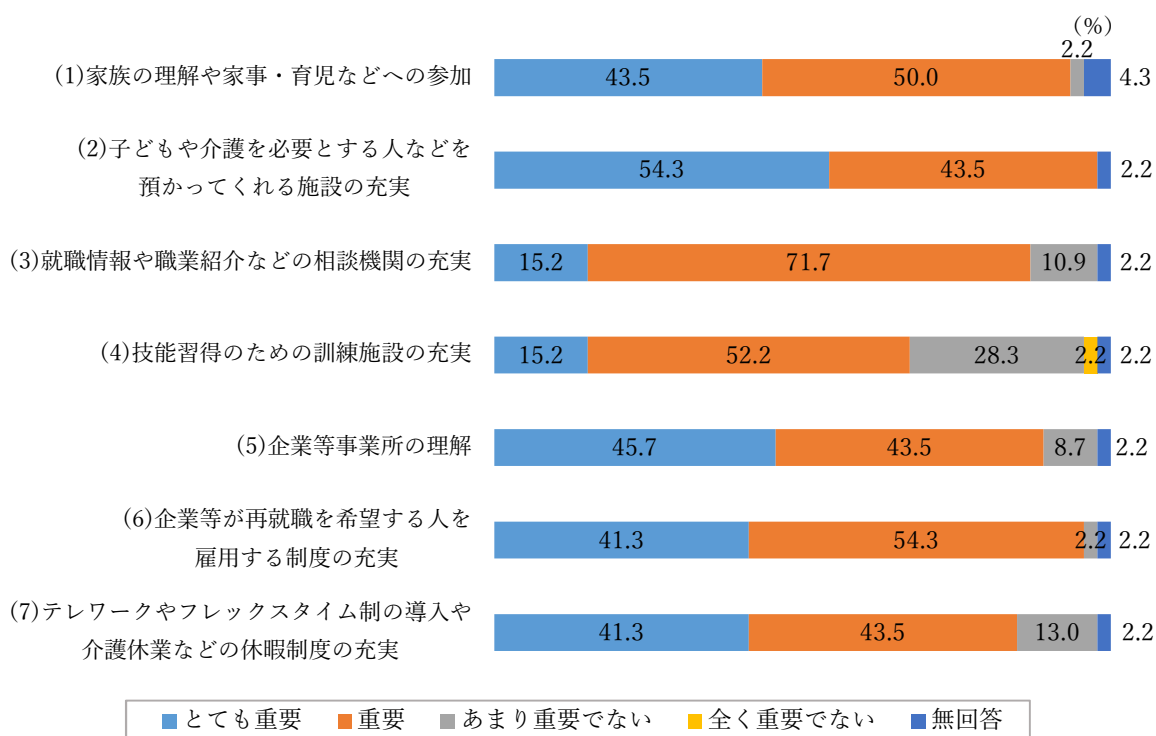
※平成27年、30年との選択肢違いあり（テレワーク無し：フレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実）



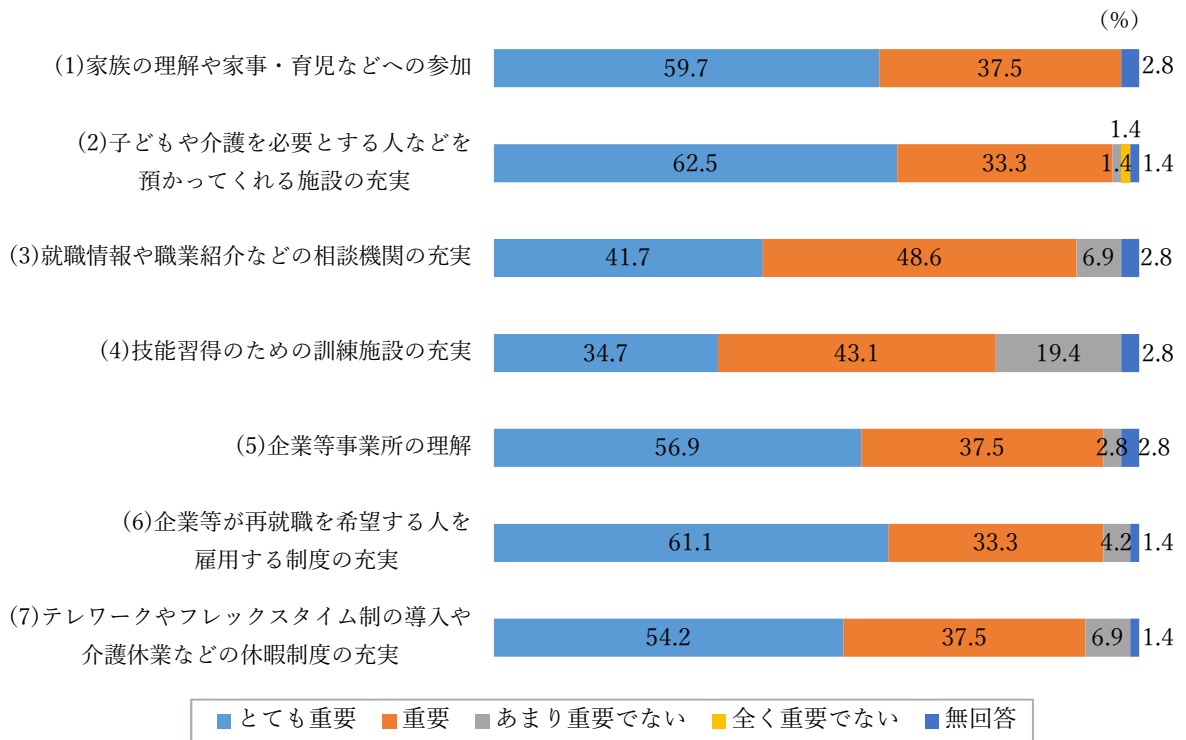
【性別】

男女別で見ると、『重要（計）』は「技能習得のための訓練施設の充実」では女性が77.8%で男性の67.4%より10.4ポイント、「テレワークやフレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実」では女性が91.7%で男性の84.8%より6.9ポイント、「企業等事業所の理解」では女性が94.4%で男性の89.2%より5.2ポイント、「家族の理解や家事・育児などへの参加」では女性が97.2%で男性の93.5%より3.7ポイント、「就職情報や職業紹介などの相談機関の充実」では女性が90.3%で男性の86.9%より3.4ポイント、それぞれ高くなっている。

男性



女性



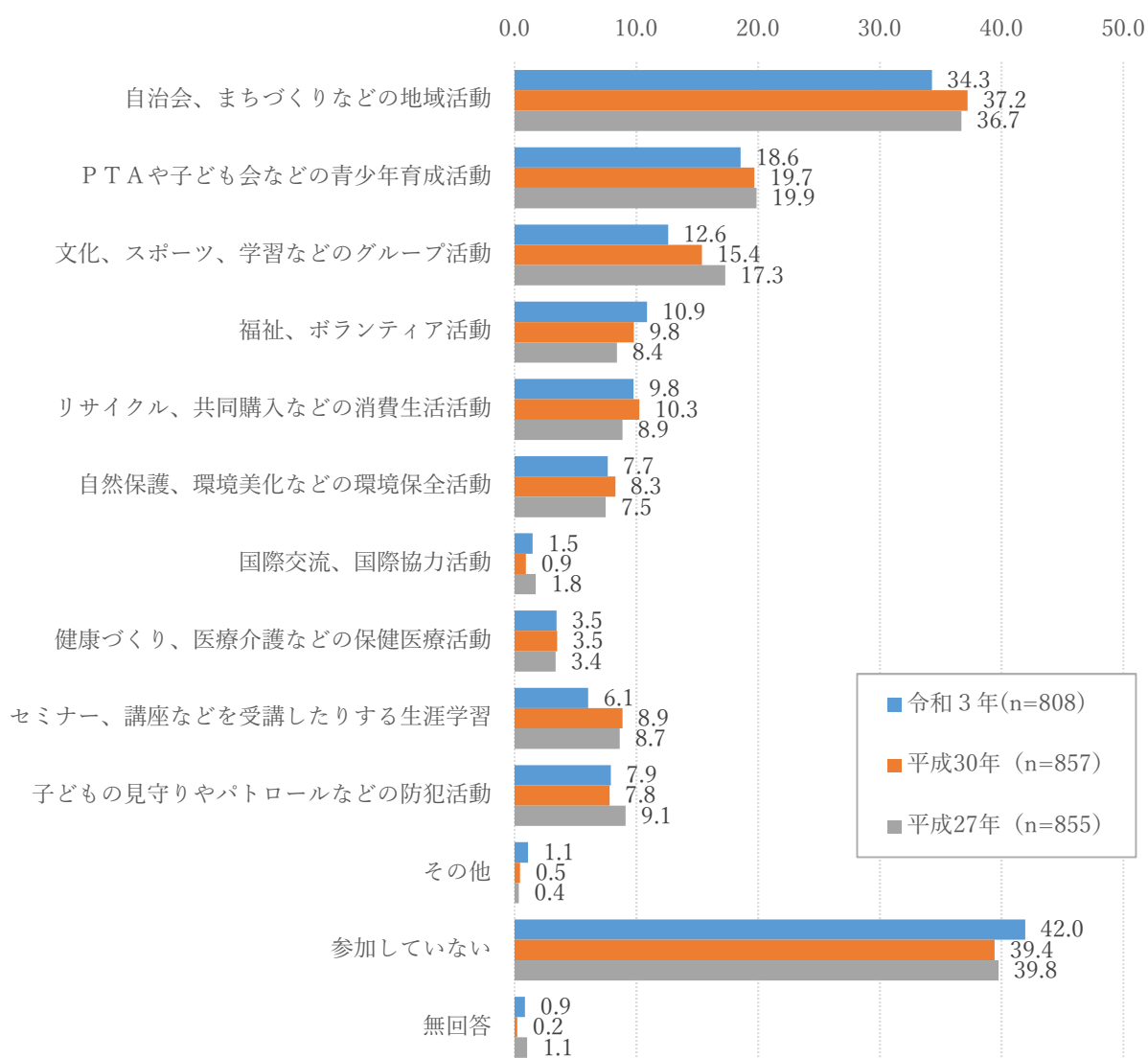
## 5. 男女の地域・社会参画について

【問13】 次にあげるような活動に参加していますか。

【全体】

地域活動の参加状況については、「自治会、まちづくりなどの地域活動」が34.3%で最も高く、次いで、「PTAや子ども会などの青少年育成活動」が18.6%、「文化、スポーツ、学習などのグループ活動」の12.6%などの順となっている。

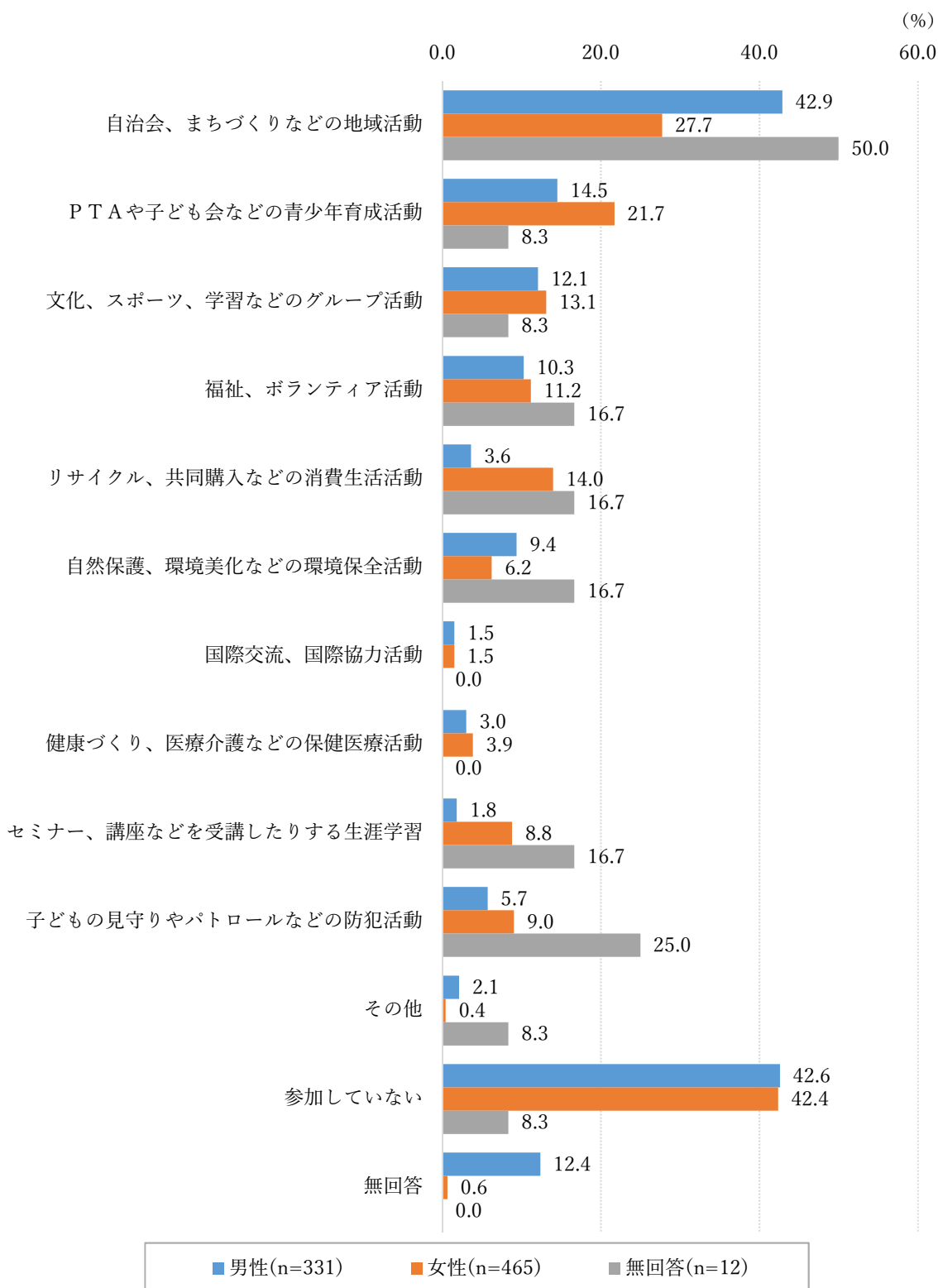
一方、「参加していない」は42.0%で最も高くなっている。



【性別】

男女別で見ると、「自治会、まちづくりなどの地域活動」は男性が42.9%で女性の27.7%より15.2ポイント、「自然保護、環境美化などの環境保全活動」は男性が9.4%で女性の6.2%より3.1ポイント、それぞれ高くなっている。

一方、「リサイクル、共同購入などの消費生活活動」は、女性が14.0%で男性の3.6%より10.4ポイント「PTAや子ども会などの青少年育成活動」は、女性が21.7%で男性の14.5%より7.2ポイント、それぞれ高くなっている。



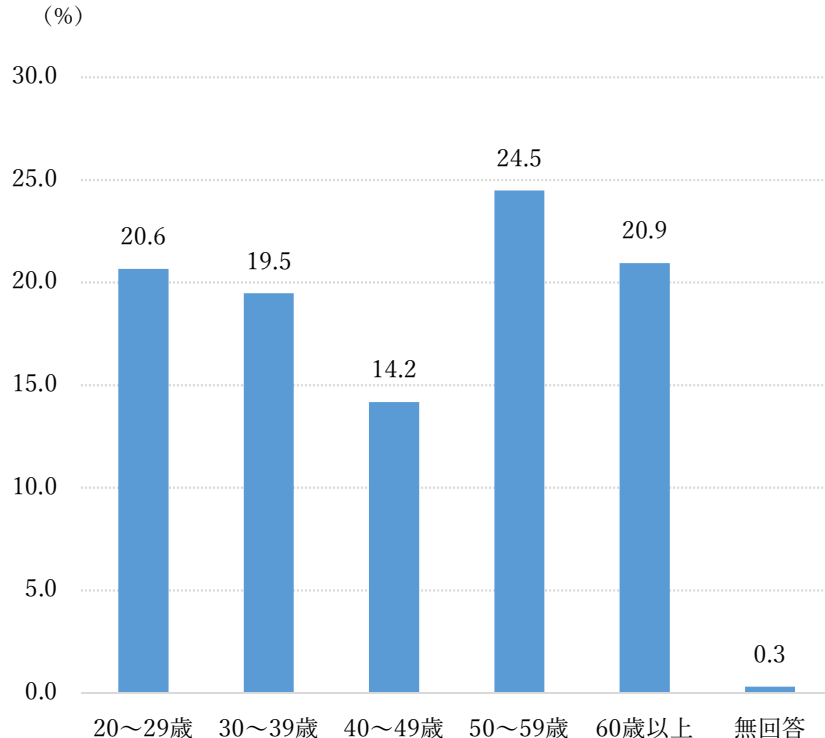
#### 【その他の意見】

- 自分だけで出来る事を実施、例えば外食でのマイはし・盲導犬協会等への寄付
- 会社としては、地域活動、ボランティア活動等に参加、個人で参加する時間（余裕）は無い。
- 子育て中は地域活動、ボランティア活動、生涯活動等に時々参加していたが、今はあまりしていない。また病気で最低限度に。
- 地球温暖化防止運動
- 避難所や対策本部に女性を配置せずとも、女性の巡回等も良いと思う。
- カヤの外にされた。
- 黒磯では参加していましたが、4月に本郷町に引っ越しをしてからは参加していません。今の住まいの場所ではアパートに入っている人は自治会とは切り離されているように感じます。
- 孫たちがいるので園の子供達（名前はわかりません）に目を向け散歩などをしています。

#### 地域・社会活動に参加していない人の割合

地域活動に「参加していない」と回答した339人を年代別にみると、50～59歳が24.5%と最も高く、次いで60歳以上が20.9%、20～29歳が20.6%などの順になっている。

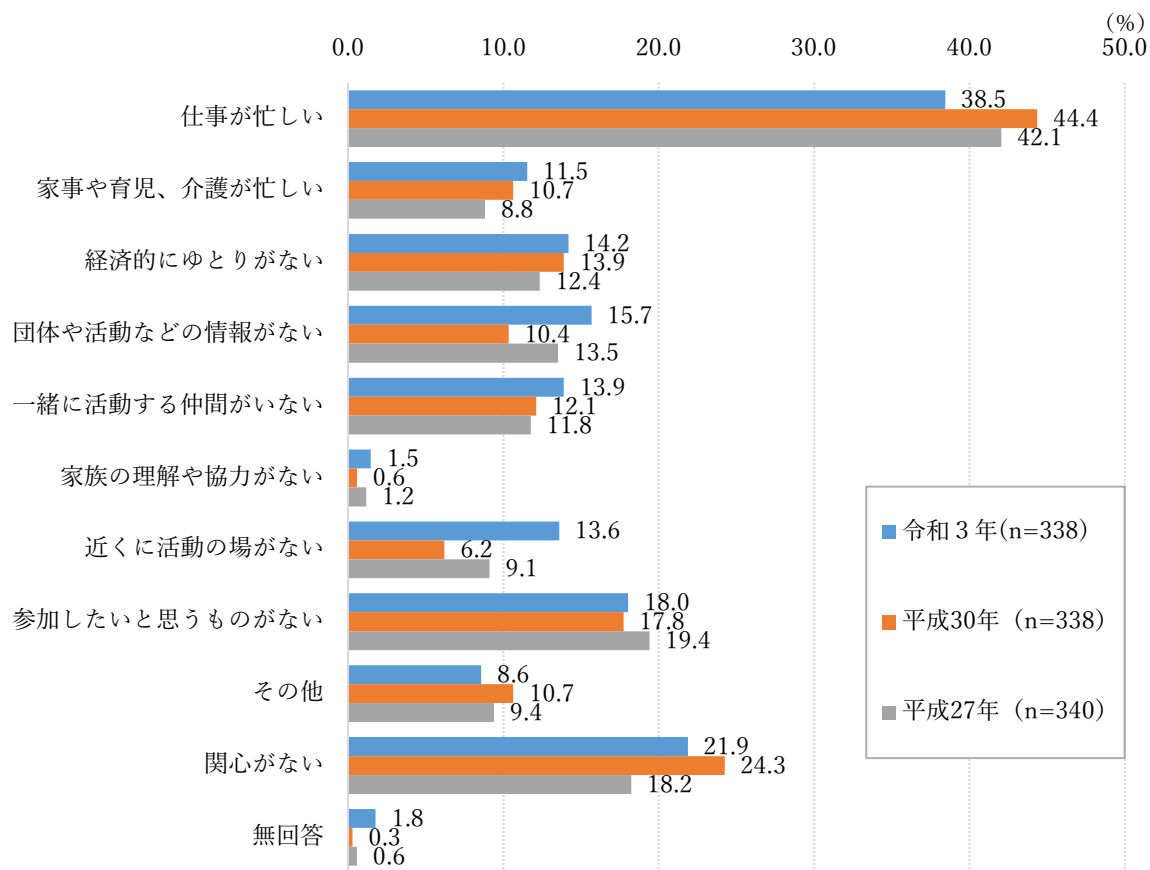
#### 【年齢別】



**【問14】 あなたが地域活動に参加していないのはなぜですか。**

**【全体】**

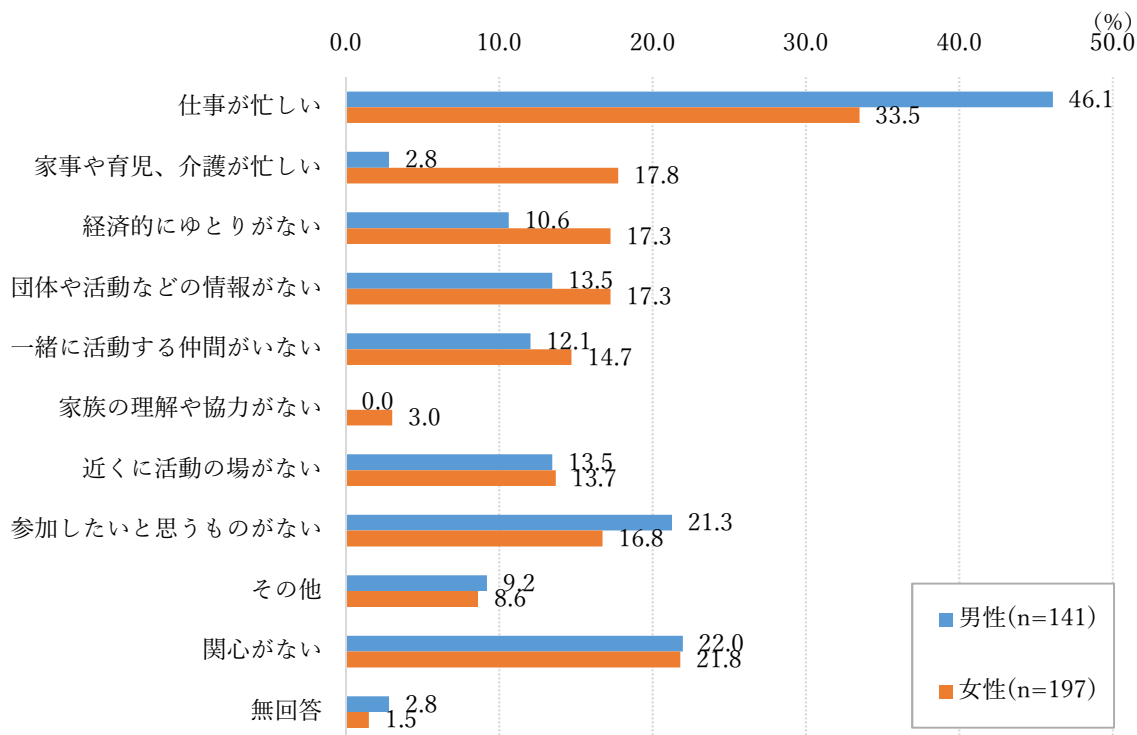
地域活動に「参加していない」と回答した339人に、参加していない理由を聞いたところ「仕事が忙しい」が38.5%で最も高く、次いで、「関心がない」の21.9%、「参加したいと思うものがない」の18.0%、「団体や活動などの情報がない」の15.7%などの順となっている。



## 【性別】

男女別でみると、「仕事が忙しい」は男性が46.1%で女性の33.5%より12.6%、「参加したいと思うものがない」は男性21.3%で女性の16.8%より4.5%、それぞれ高くなっている。

一方、「家事や育児、介護が忙しい」は、女性が17.8%で男性の2.8%より15.0%高くなっている。



## 【その他の意見】

- 地域の活動がある事を知らない。参加する機会も情報もない。
- 活動の始め方がわからない。
- 参加日、時間が合わない。
- 土・日・祭日に休めない。
- 地元の人間ではないので中々難しい。
- 子供が成長した為、参加しなくなった。
- 未婚者ははじかれるため。
- 子供もいないので参加する機会がない。
- 人づきあいが苦手。
- 人間関係が煩わしい。
- よく分からない。
- お金にならない。
- 年だから
- 4月に県外から引っ越してきたばかりで参加する機会がない。
- 現在、都内の大学へ進学し、普段は東京で生活している。
- 身体上の理由
- 身体に障害がある為
- 妻が病弱のため
- 嫌がらせにあった。

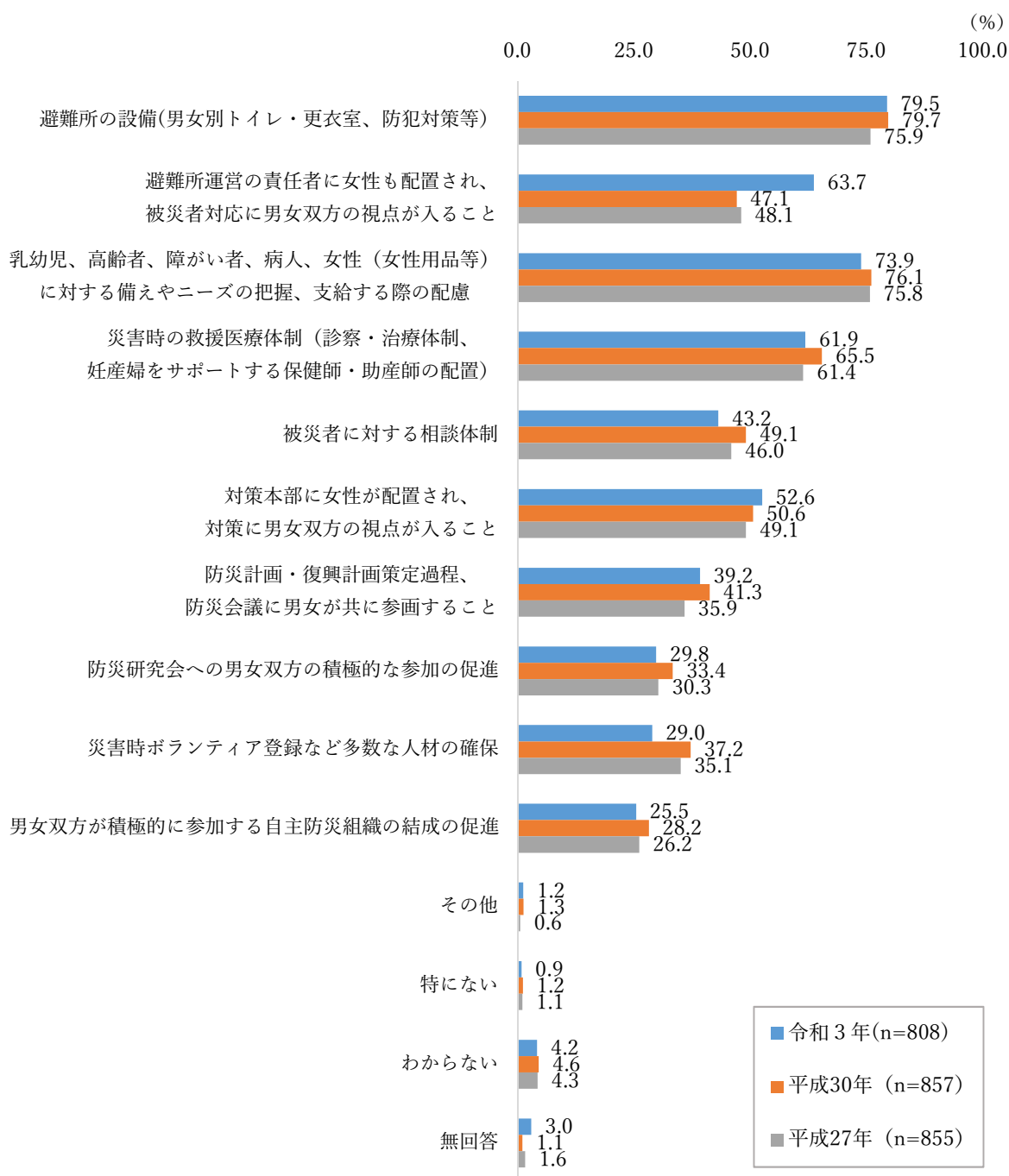


## 6. 男女共同参画の視点からの防災について

【問15】 防災活動に関して男女共同参画社会を推進していくためには、特にどのようなことが必要と考えますか。

【全体】

防災活動に関して男女共同参画社会を推進していくためには、特にどのようなことが必要かについて、「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策等）」が79.5%で最も高く、次いで、「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性（女性用品等）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」の73.9%、「避難所運営の責任者に女性も配置され、被災者対応に男女双方の視点が入ること」の63.7%などの順となっている。



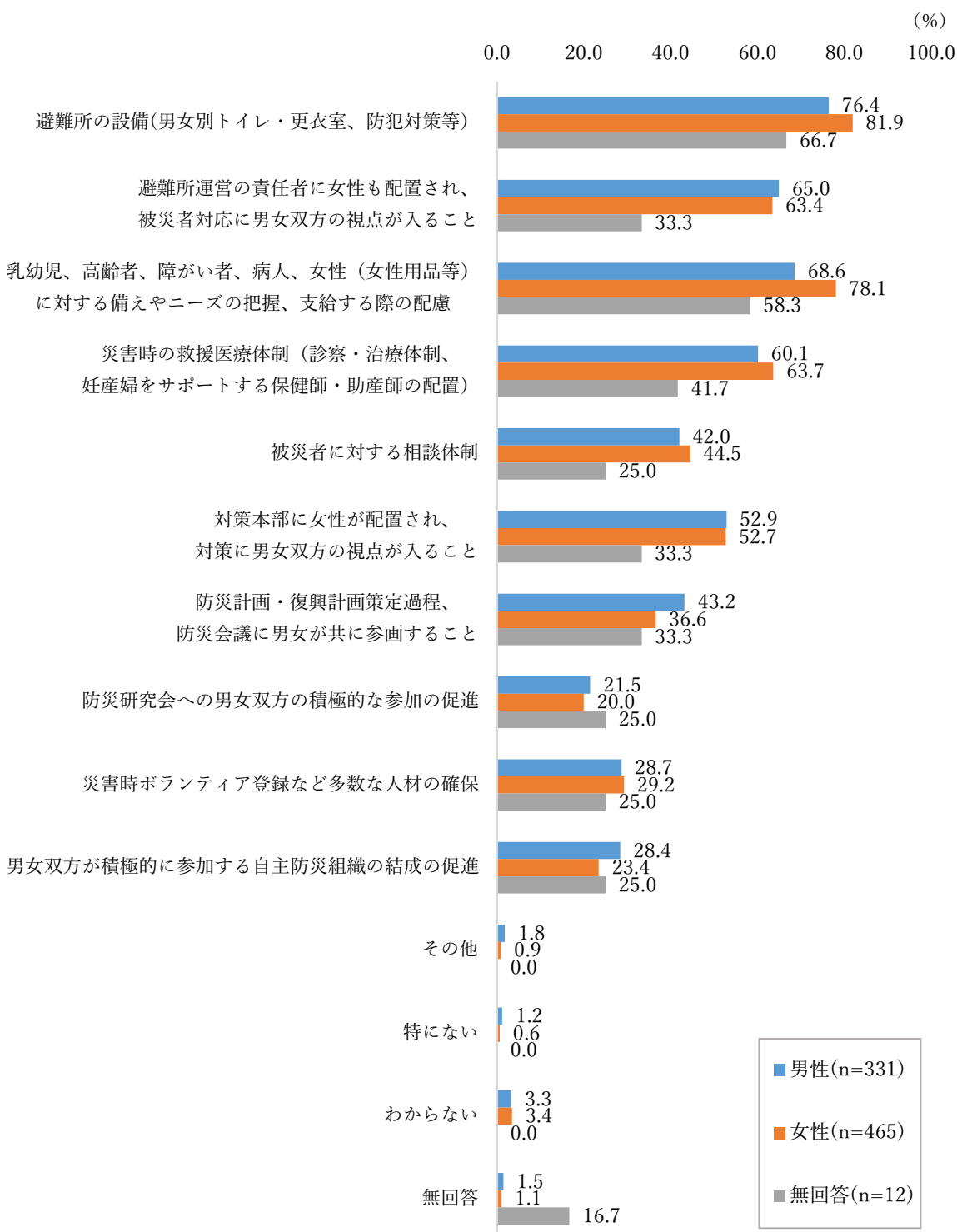
【その他の意見】

- スマホを使いこなせない高齢者の分散避難した先への連絡網。仲の良い友人の避難先を母は知りたがったため。
- 災害時に女性に対する性犯罪など報道されないことが多いと聞きます。避難所も守ってくれる男性家族がない場合はすぐに設営はムリでも、数日で女性用避難所があればと思います。
- SNS などによる情報発信
- 男女共に、若い世代の視点が入ることも大切だと思う。
- 那須水害の経験より、女性の積極的登用が必須。
- 男女共同はもとより、外国人のケア。
- 公務員(消防士等)の男女バランスが大切。
- 男女差を理解できない人を防災推進組織から排除すべき。
- 「あなたの職場では、男女平等になっていると思いますか」の問いの責任者に女性も配置されるという選択肢に対し、まるで女性は配置しないのが普通のような質問、わざわざ女性が配置されなんて文字はいらない「対策に男女多方の視点が入ること」で十分。

## 【性別】

男女別でみると、「防災計画・復興計画策定過程、防災会議に男女が共に参加すること」は男性が43.2%で女性の36.6%より6.6%、「男女双方が積極的に参加する自主防災組織の結成の促進」は男性が28.4%で女性の23.4%より5.0%、それぞれ高くなっている。

一方、「乳幼児、高齢者、障がい者、病人、女性（女性用品等）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」は、女性が78.1%で男性の68.6%より9.5ポイント、避難所の設備（男女別トイレ・更衣室・防犯対策等）は、女性が81.9%で男性の76.4%より5.5ポイント、それぞれ高くなっている。



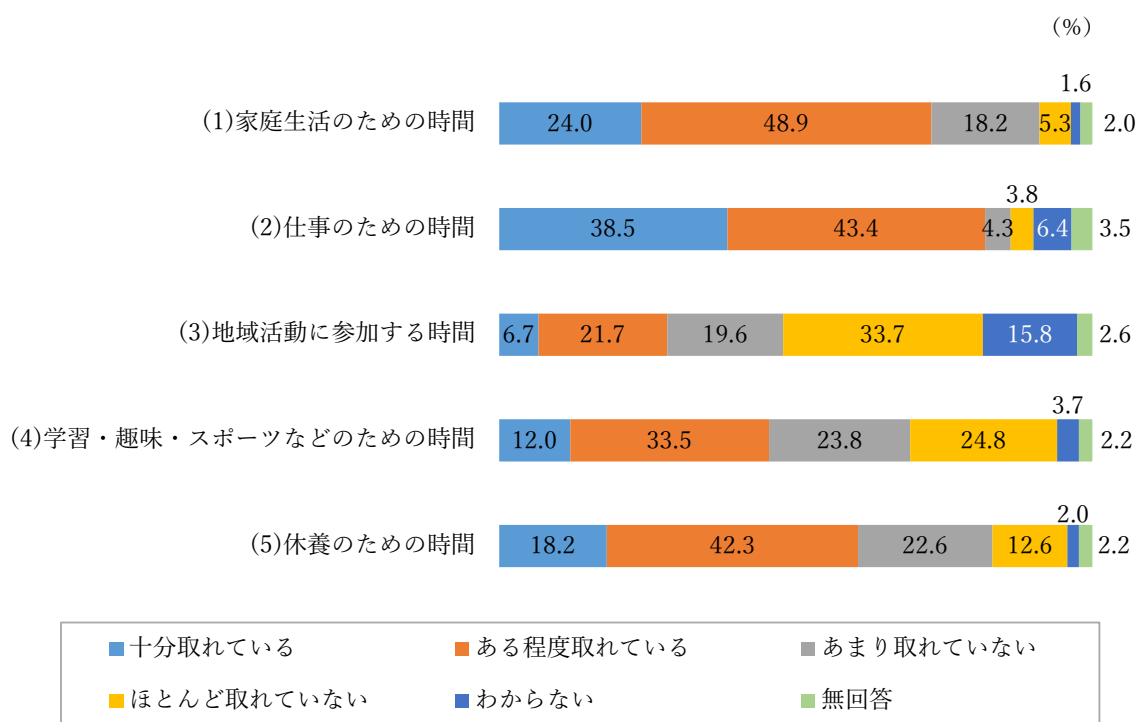
## 7. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について

**【問16】** 日常生活の中で、次のワーク・ライフ・バランスについて、満足する時間が取れていますか

**【全体】**

日常生活の満足度について、「十分取れている」と「ある程度取れている」を合わせた割合は、「仕事のための時間」が81.9%と最も高く、次いで、「家庭生活のための時間」の72.9%、「休養のための時間」の60.5%などの順になっている。

一方、「あまり取れていない」と「ほとんど取れていない」を合わせた割合は、「地域活動に参加する時間」が53.3%と最も高く、次いで、「学習・趣味・スポーツなどのための時間」の48.6%などの順になっている。

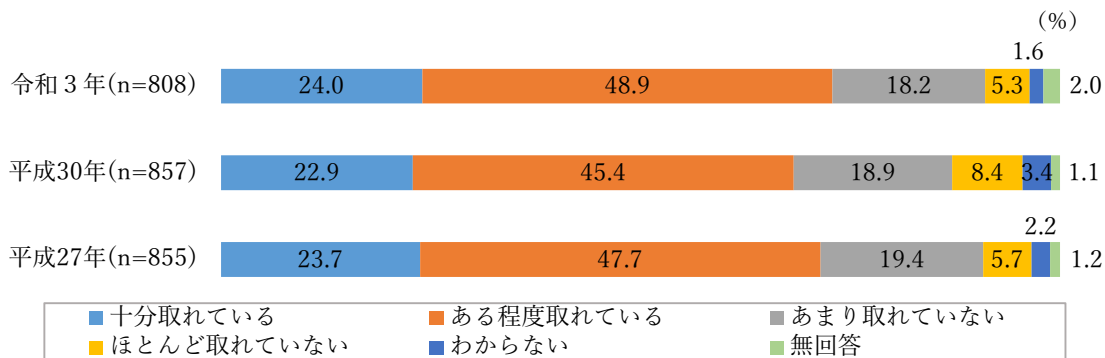


## ① 家庭生活のための時間

### 【全体】

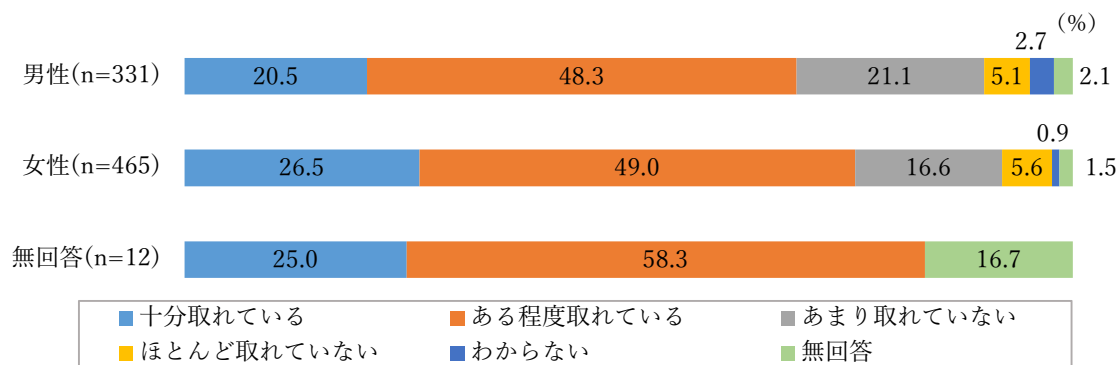
家庭生活のための時間において、『取れている（計）』は72.9%で前回調査から4.6ポイント増加している。

一方で、『取れていない（計）』は23.5%で前回調査から3.8ポイント減少している。



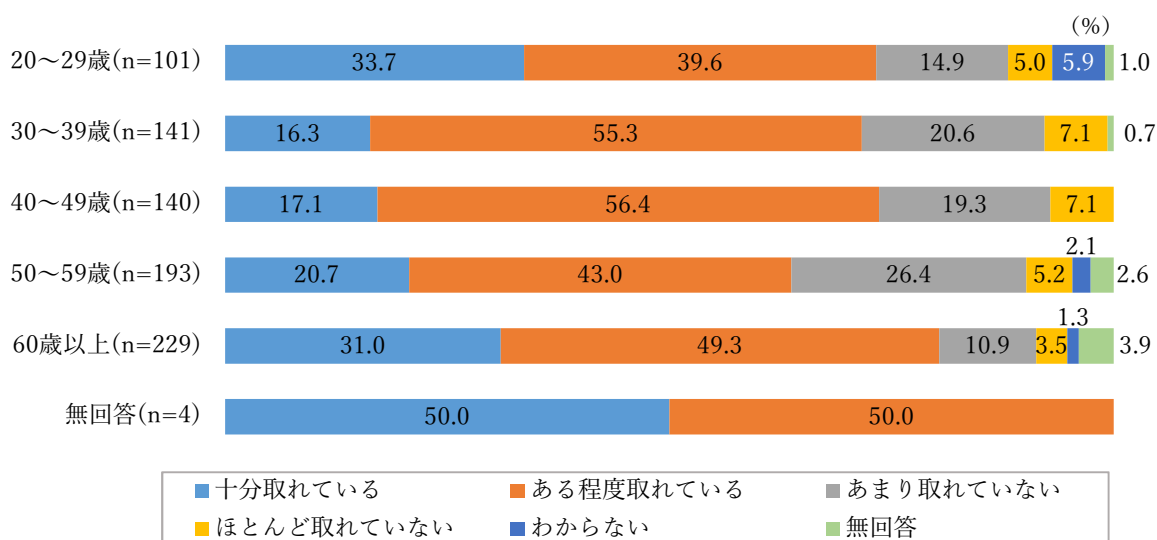
### 【性別】

男女別で見ると、『取れている（計）』は男性が68.8%で女性の75.5%より6.7ポイント低くなっている。



### 【年代別】

年代別で見ると、『取れている（計）』は50～59歳が63.7%で最も低く、そのほかの年代では、7割を超えている。

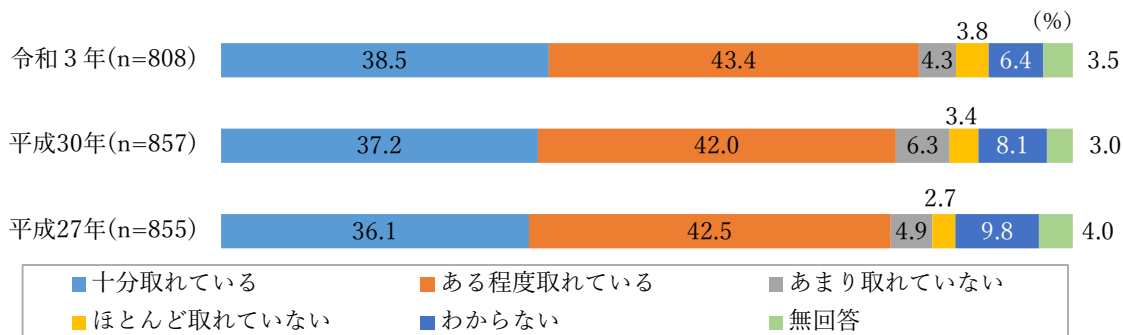


## ② 仕事のための時間

### 【全体】

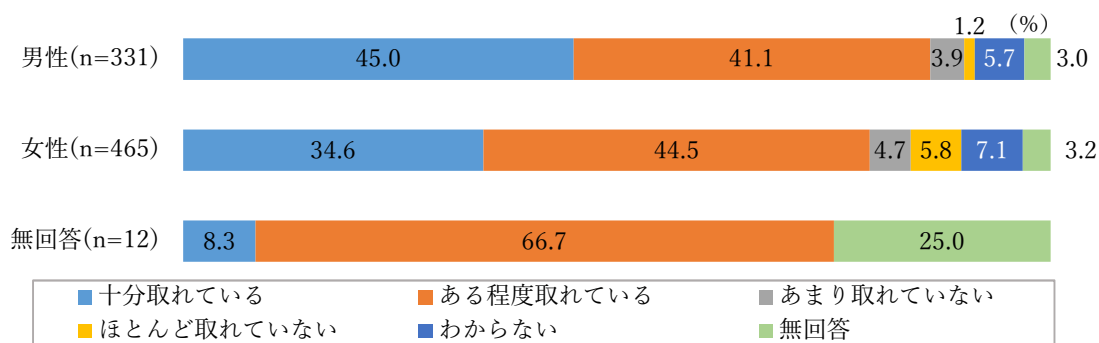
仕事のための時間において、『取れている（計）』は81.9%で前回調査から2.7ポイント増加している。

一方で、『取れていない（計）』は8.1%で前回調査から1.6ポイント減少している。



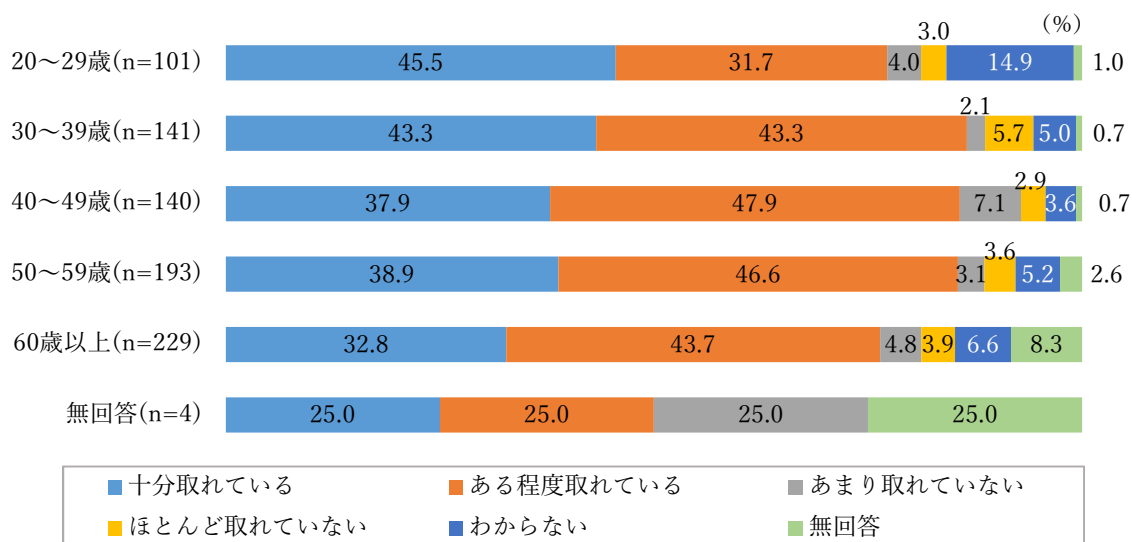
### 【性別】

男女別で見ると、『取れている（計）』は男性が86.1%で女性の79.1%より7.0ポイント高くなっている。



### 【年代別】

年代別で見ると、『取れている（計）』は60歳以上が76.5%で最も多く、そのほかの年代では、7割を超えている。

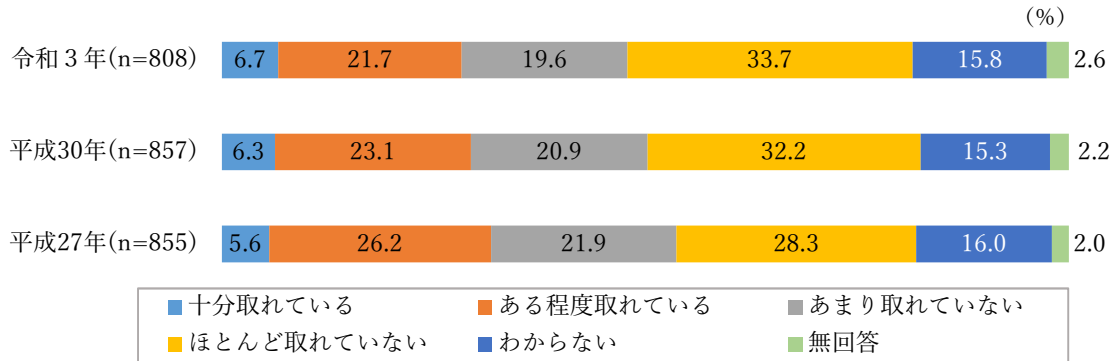


### ③ 地域活動に参加する時間

#### 【全体】

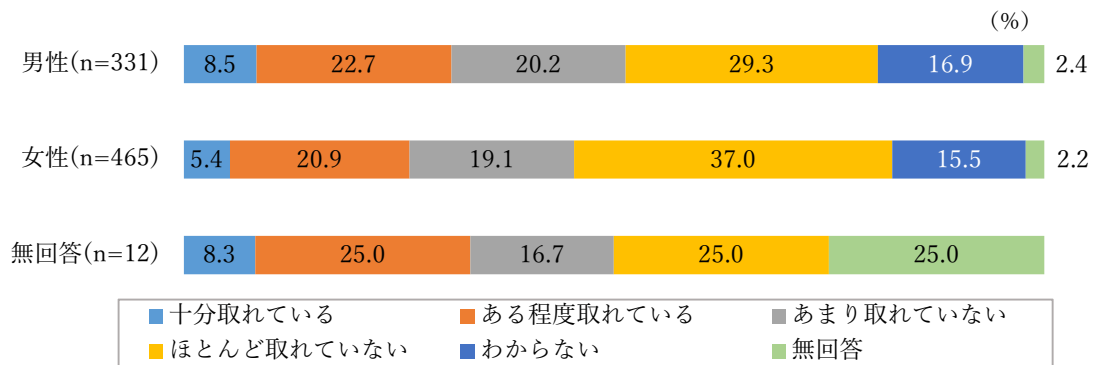
地域活動に参加する時間において、『取れている（計）』は28.4%で前回調査から1.0ポイント減少している。

また、『取れていない（計）』は53.3%で前回調査から0.2ポイント減少している。



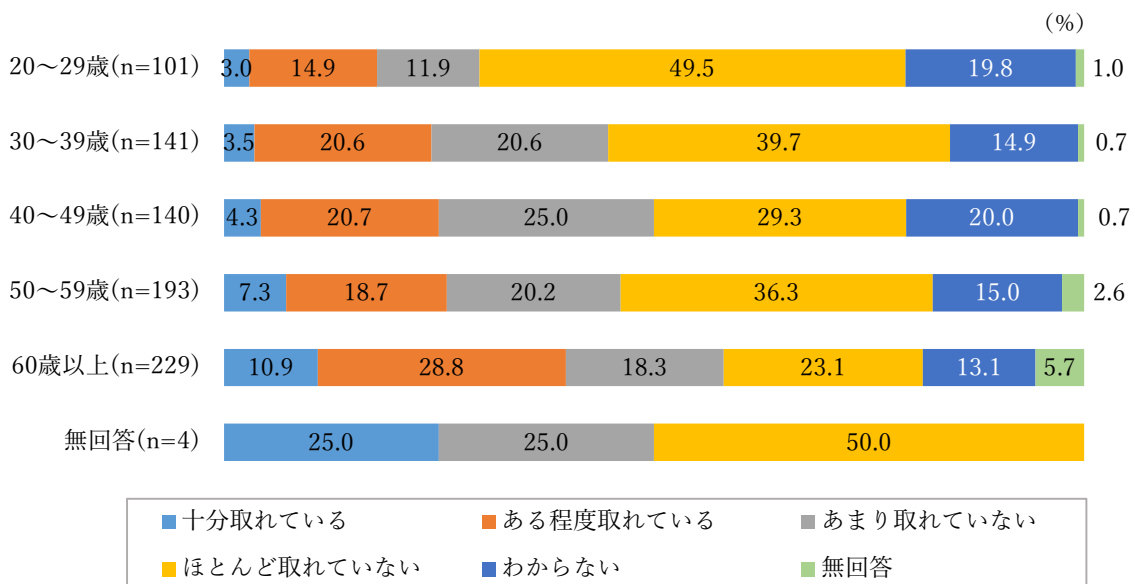
#### 【性別】

男女別で見ると、『取れている（計）』は男性が31.2%で女性の26.3%より4.9ポイント高くなっている。



#### 【年代別】

年代別で見ると、『取れている（計）』は60歳以上が39.7%で最も高く、若い年代になるほど低い割合になっている。

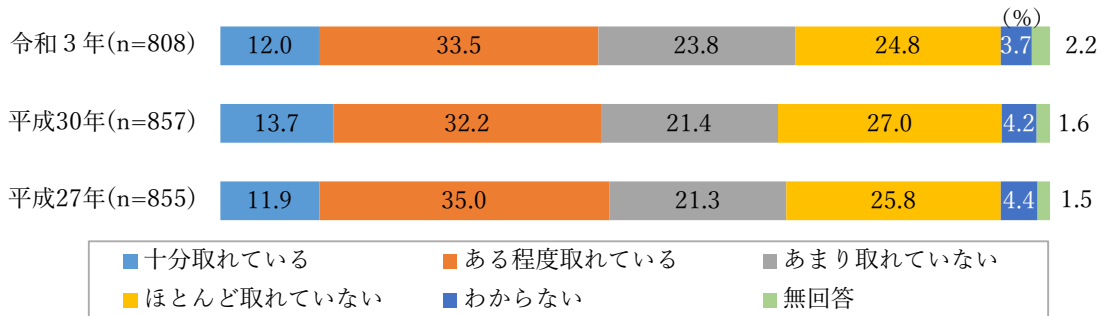


④ 学習・趣味・スポーツなどのための時間

【全体】

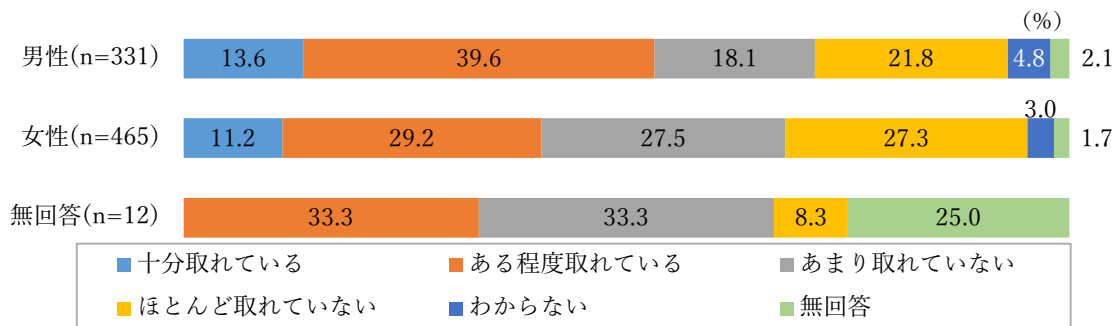
学習・趣味・スポーツなどのための時間において、『取れている（計）』は45.5%で前回調査から0.4ポイント減少している。

一方、『取れていない（計）』は48.6%で前回調査から0.2ポイント増加している。



【性別】

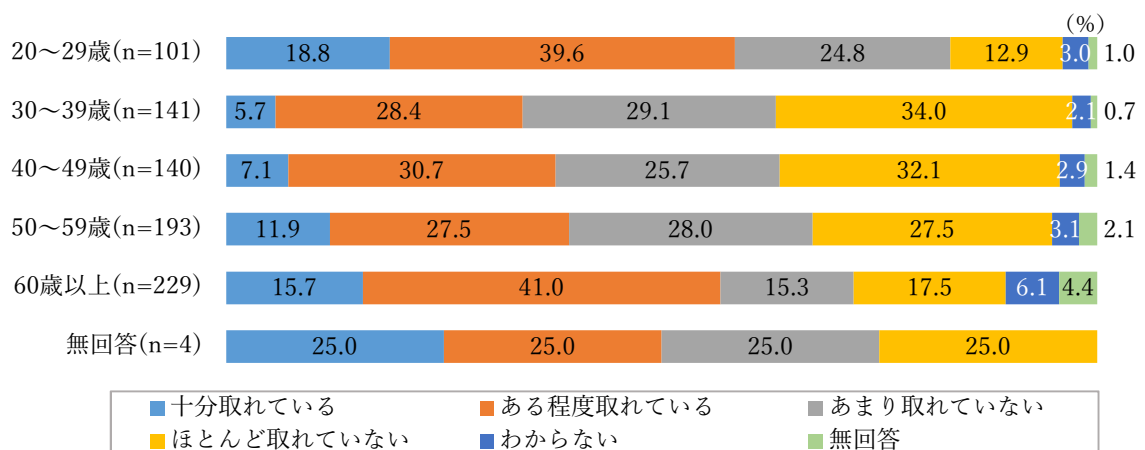
男女別で見ると、『取れている（計）』は男性が53.2%で女性の40.4%より12.8ポイント高くなっている。



【年代別】

年代別で見ると、『取れている（計）』は20～29歳が58.4%で最も高く、次いで60歳以上が56.7%となっている。

一方、『取れていない（計）』は30～39歳が63.1%で最も高く、次いで40～49歳が57.8%となっている。



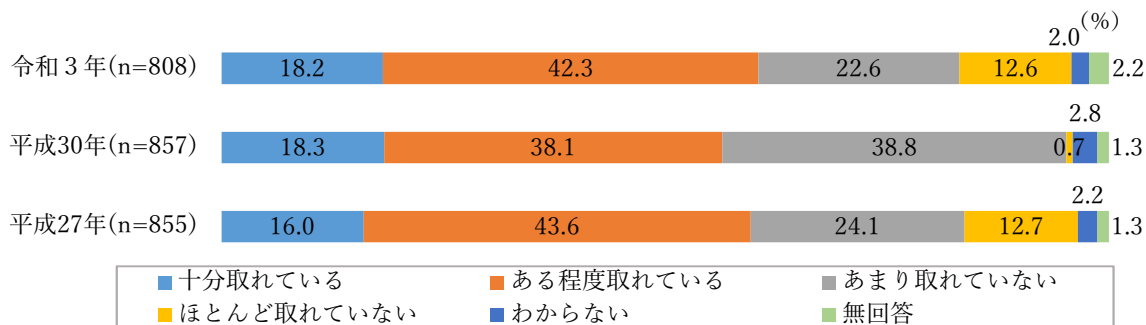


### ⑤ 休養のための時間

#### 【全体】

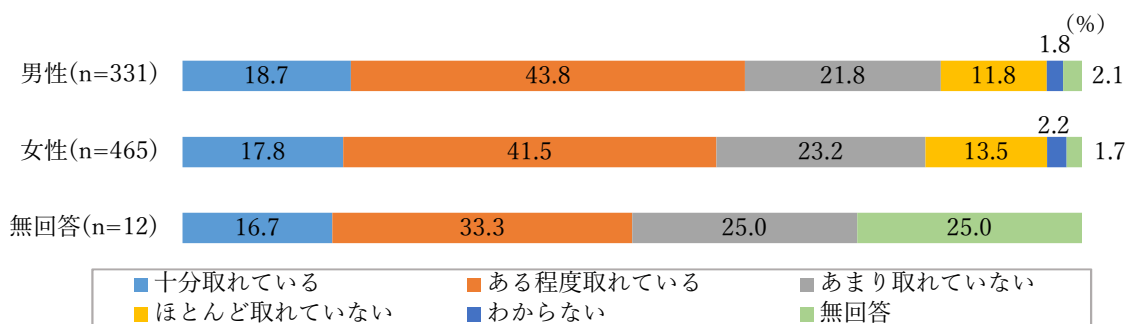
休養のための時間において、『取れている（計）』は60.5%で前回調査から4.1ポイント増加している。

一方、『取れていない（計）』は35.2%で前回調査から4.3ポイント減少している。



#### 【性別】

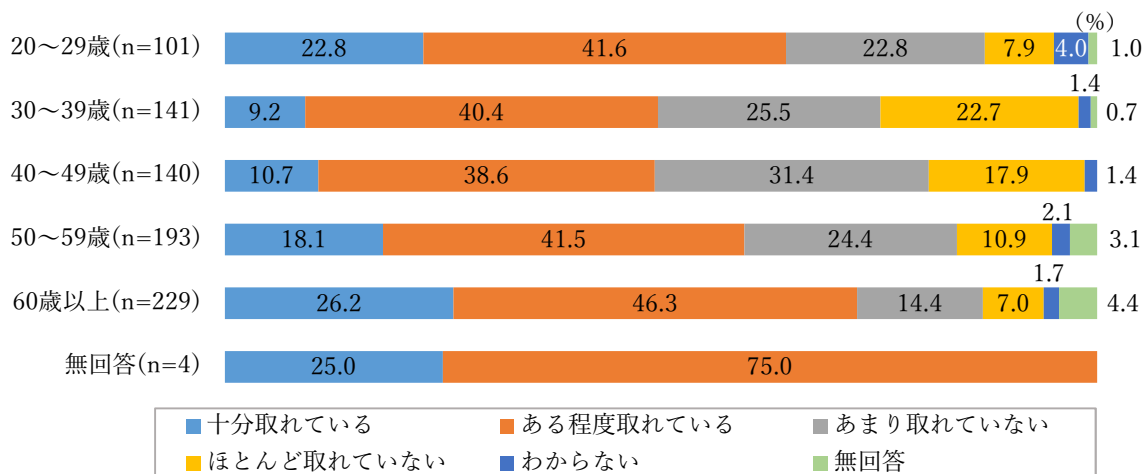
男女別で見ると、『取れている（計）』は男性が62.5%で女性の59.3%より3.2ポイント高くなっている。



#### 【年代別】

年代別で見ると、『取れている（計）』は60歳以上が72.5%で最も高く、次いで20～29歳が64.4%となっている。

一方、『取れていない（計）』は40～49歳が49.3%で最も高く、次いで30～39歳が48.2%となっている。

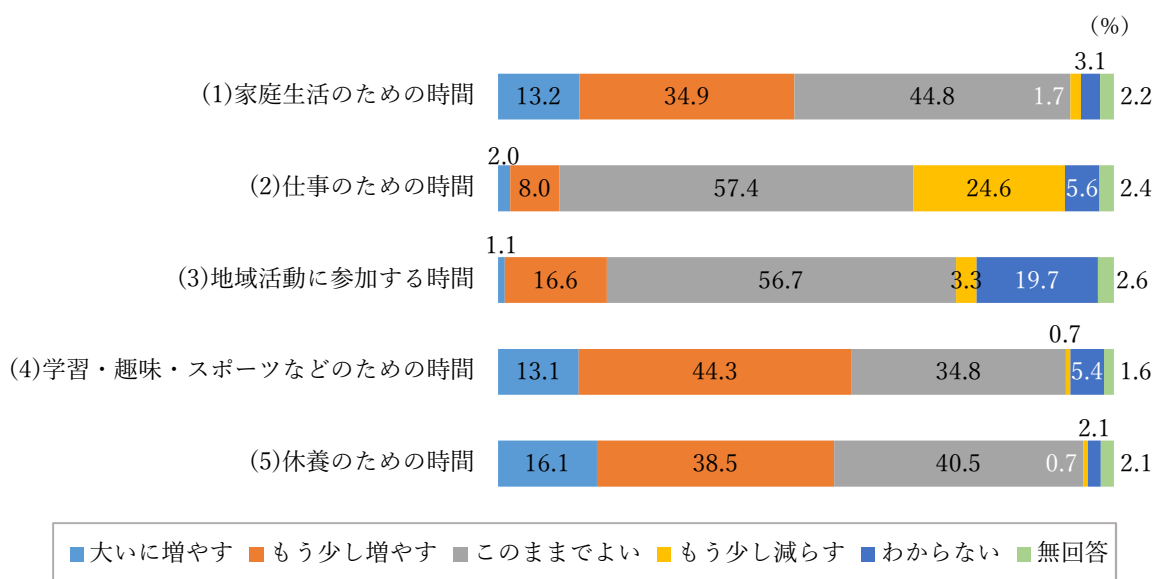


**【問17】** 日常生活の中で、次のワーク・ライフ・バランスについて、どのような時間の使い方をすれば、いきいきと充実した生活を送ることができると思いますか。

**【全体】**

日常生活における理想の時間について、「大いに増やす」と「もう少し増やす」を合わせた割合（以下『増やす（計）』という。）は、「学習・趣味・スポーツなどのための時間」が57.4%と最も高く、次いで、「休養のための時間」が54.6%、「家庭生活のための時間」の48.1%などの順になっている。

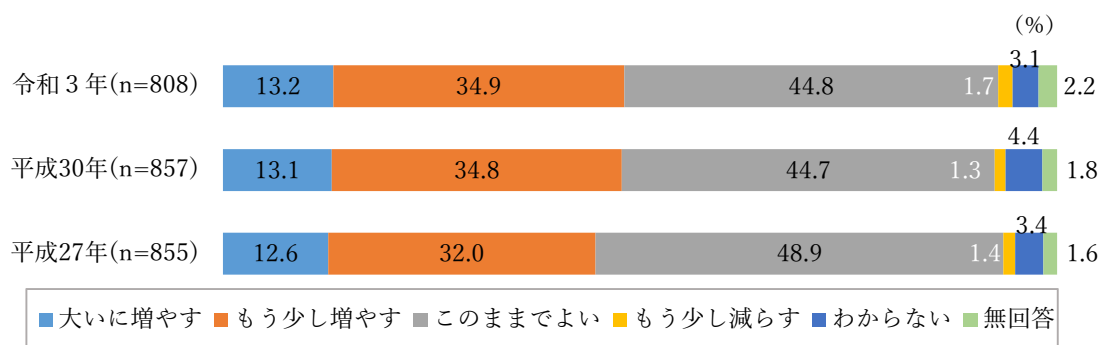
一方、「仕事のための時間」では「もう少し減らす」が24.6%で、全項目の中で最も高くなっている。



① 家庭生活のための時間

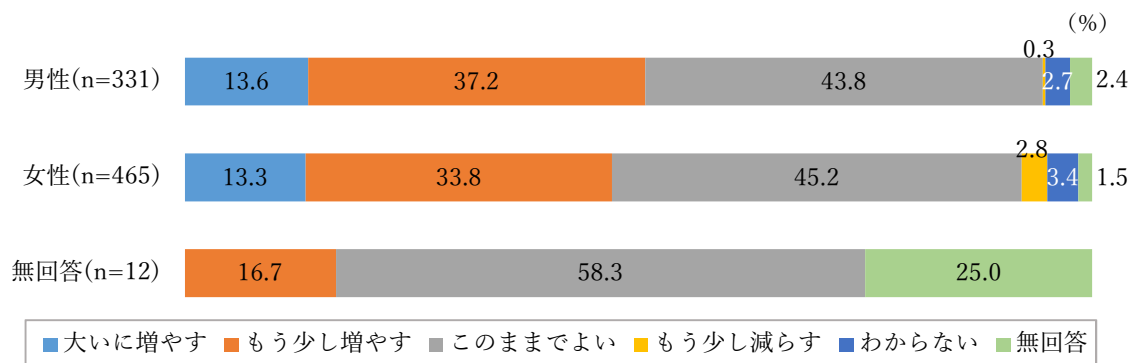
**【全体】**

家庭生活のための時間において、『増やす（計）』は48.1%で前回調査から0.2ポイント増加している。



### 【性別】

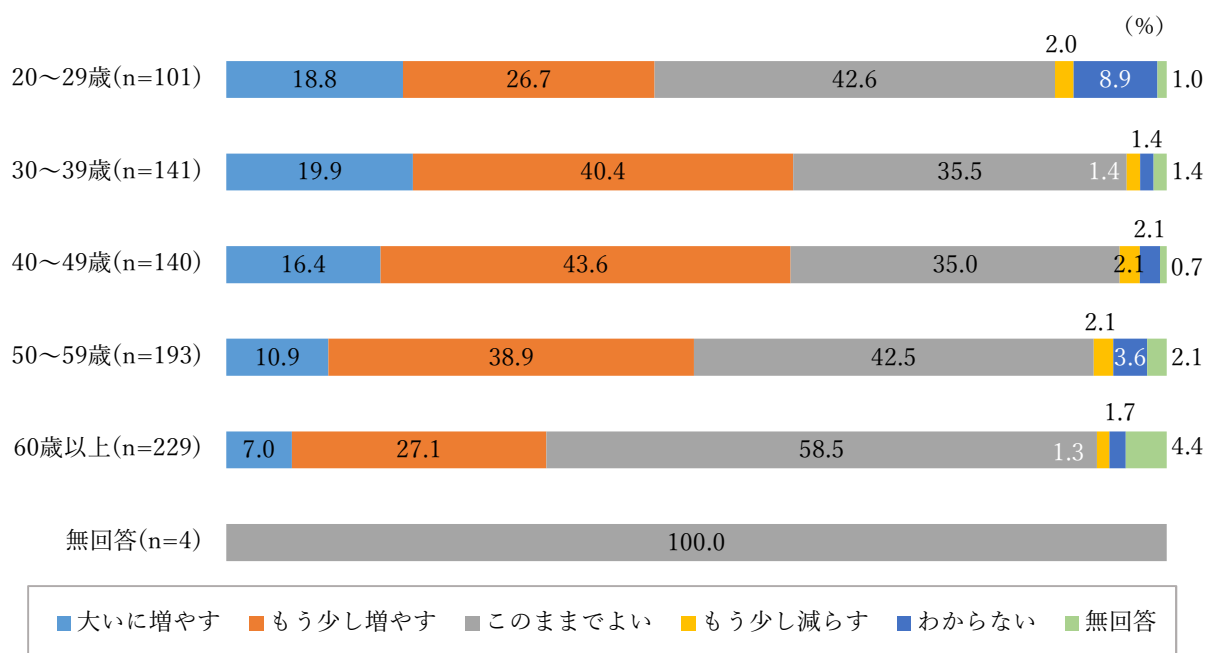
男女別でみると、『増やす（計）』は男性が50.8%で女性の47.1%より3.7ポイント高くなっている。



### 【年代別】

年代別でみると、『増やす（計）』と考える人の割合は、30～39歳が60.3%で最も高くなっている。

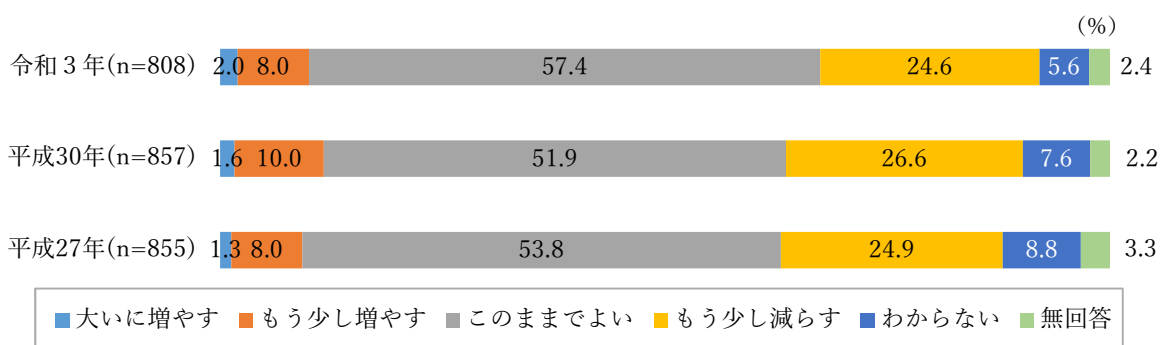
一方で、「このままでよい」と考える割合は、60歳以上が58.5%で最も高くなっている。



## ② 仕事のための時間

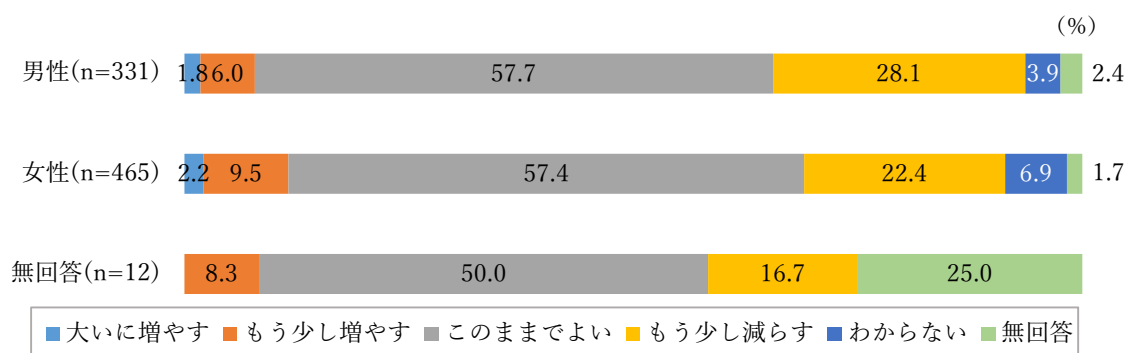
### 【全体】

仕事のための時間において、「もう少し減らす」と考える人の割合は24.6%で、前回調査から2.0ポイント減少している。



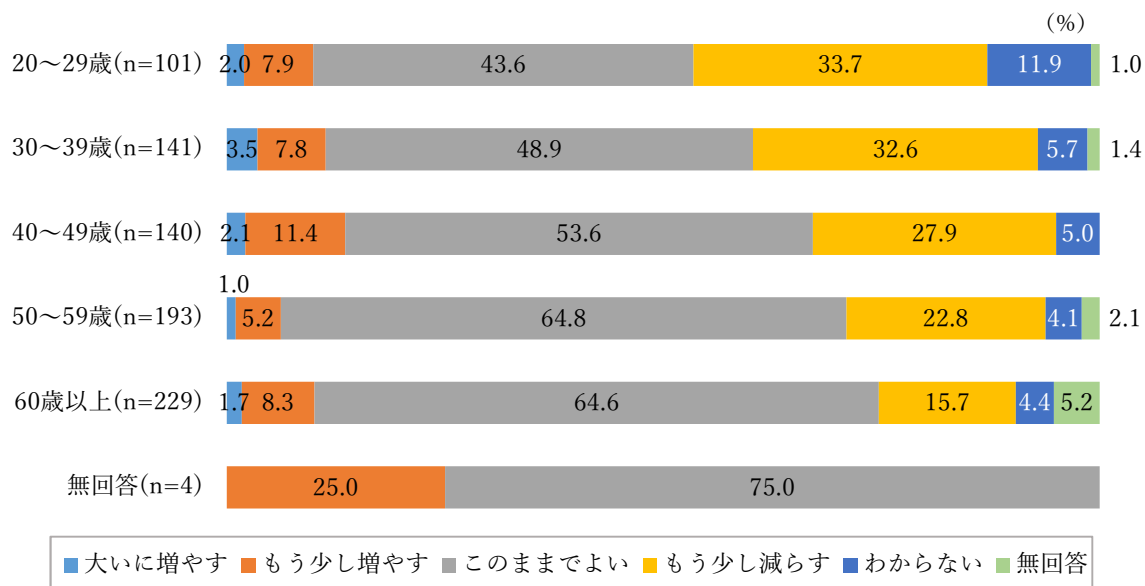
### 【性別】

男女別で見ると、「もう少し減らす」と考える人の割合は、男性が28.1%で女性の22.4%より5.7ポイント高くなっている。



### 【年代別】

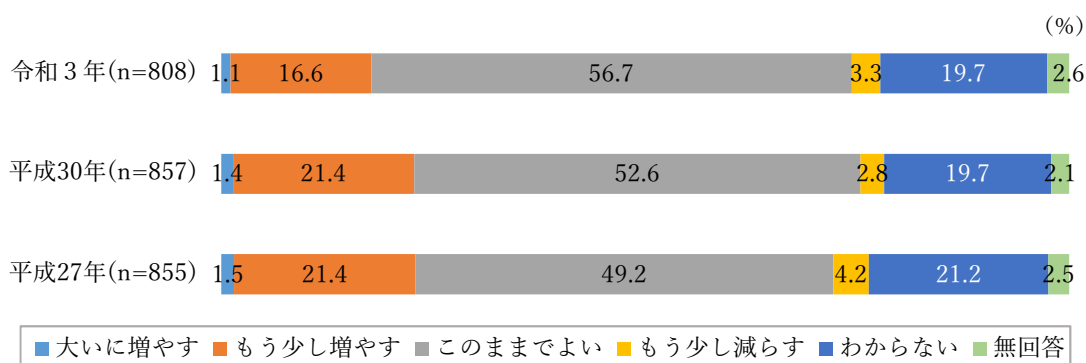
年代別で見ると、「もう少し減らす」と考える人の割合は、20～29歳が33.7%で最も高く、高い年代になるほど低い割合になっている。



### ③ 地域活動に参加する時間

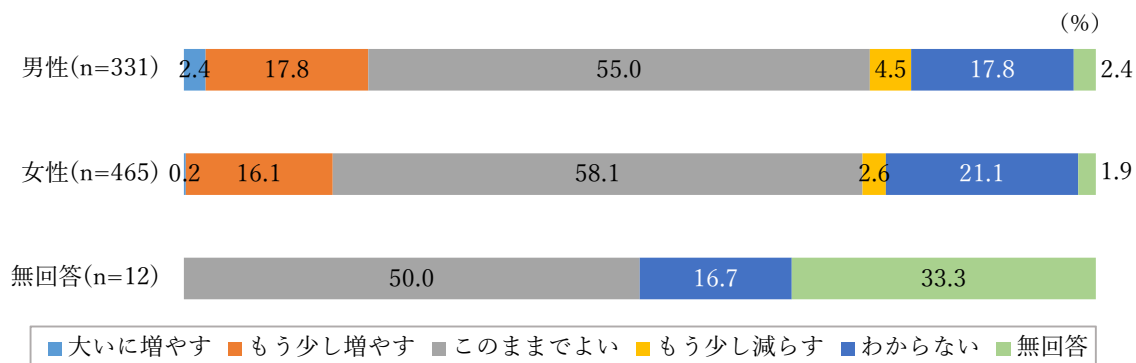
#### 【全体】

地域活動に参加する時間において、『増やす（計）』と考える人の割合は 17.7%で、前回調査から 5.1 ポイント減少している。



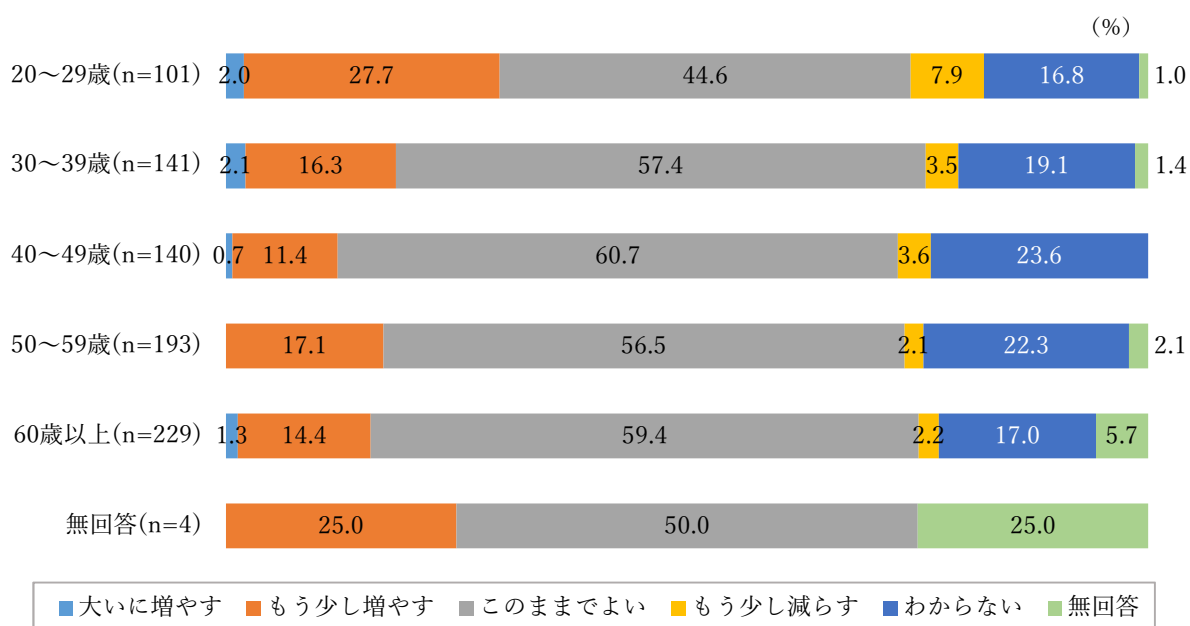
#### 【性別】

男女別で見ると、『増やす（計）』と考える人の割合は、男性が 20.2%で女性の 16.3%より 3.9 ポイント高くなっている。



#### 【年代別】

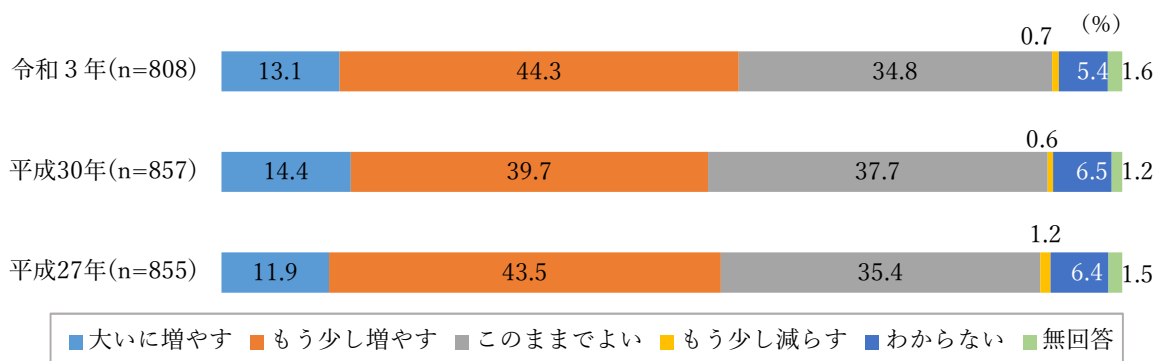
年代別で見ると、『増やす（計）』と考える人の割合は、20～29歳が29.7%で最も高く、40～49歳が12.1%で最も低くなっている。



#### ④ 学習・趣味・スポーツなどのための時間

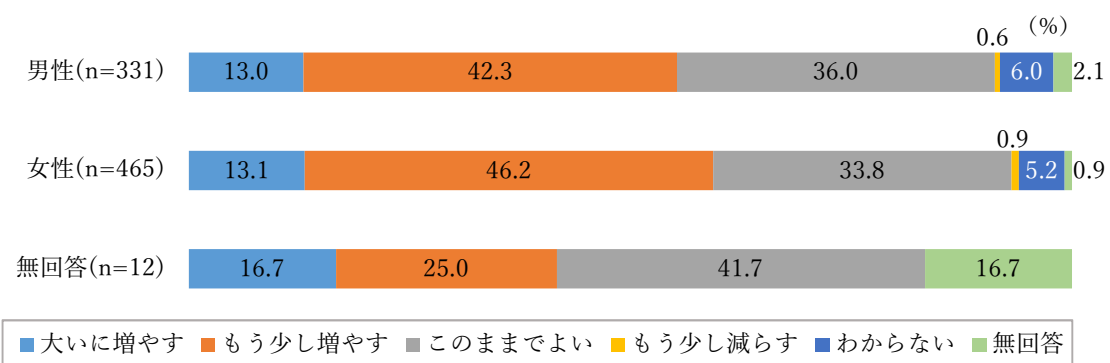
##### 【全体】

学習・趣味・スポーツなどのための時間において、『増やす(計)』と考える人の割合は、57.4%で、前回調査から 3.3 ポイント増加している。



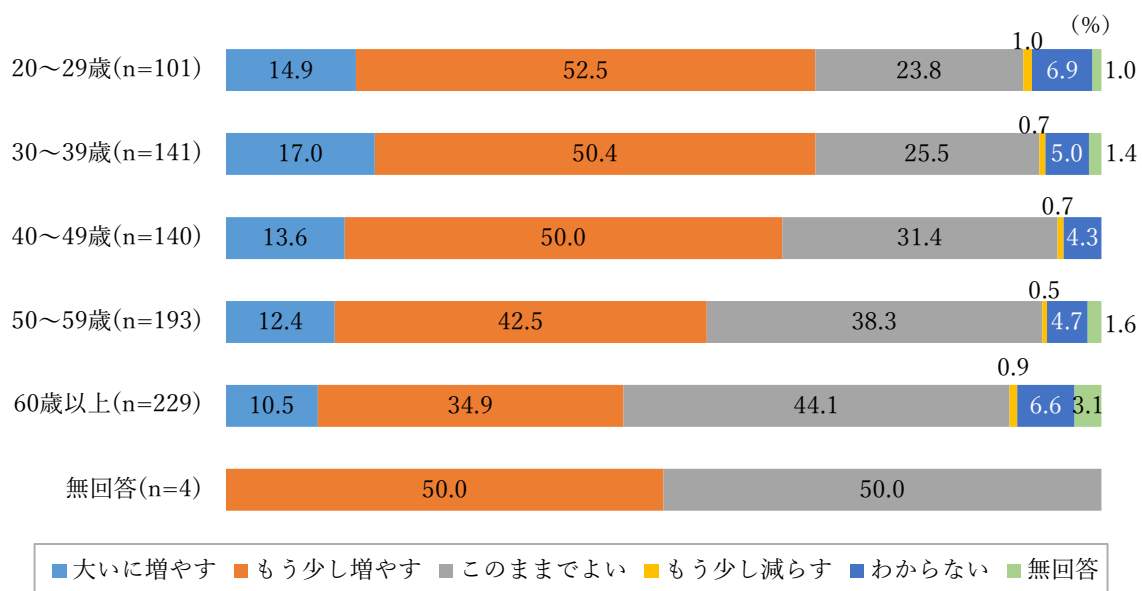
##### 【性別】

男女別で見ると、『増やす(計)』と考える人の割合は、男性が 55.3%で女性の 59.3%より 4.0 ポイント低くなっている。



##### 【年代別】

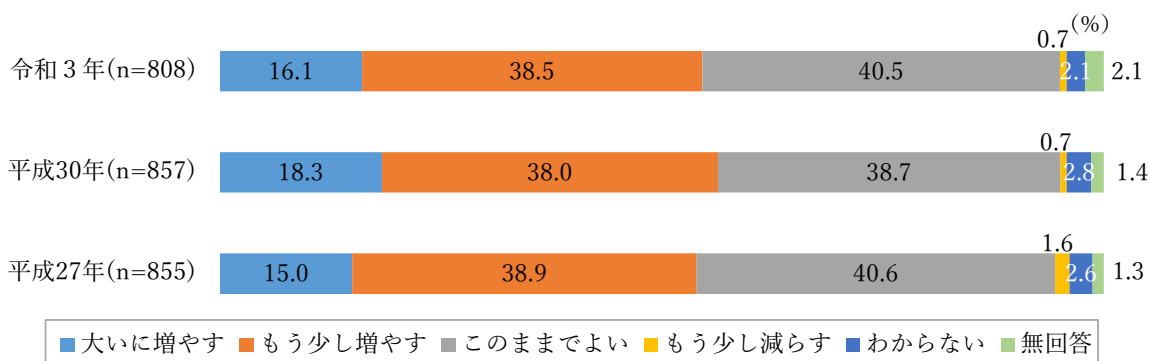
年代別で見ると、『増やす(計)』と考える人の割合は、20～29歳と30～39歳が67.4%で最も高く、高い年代になるほど低い割合になっている。



### ⑤ 休養のための時間

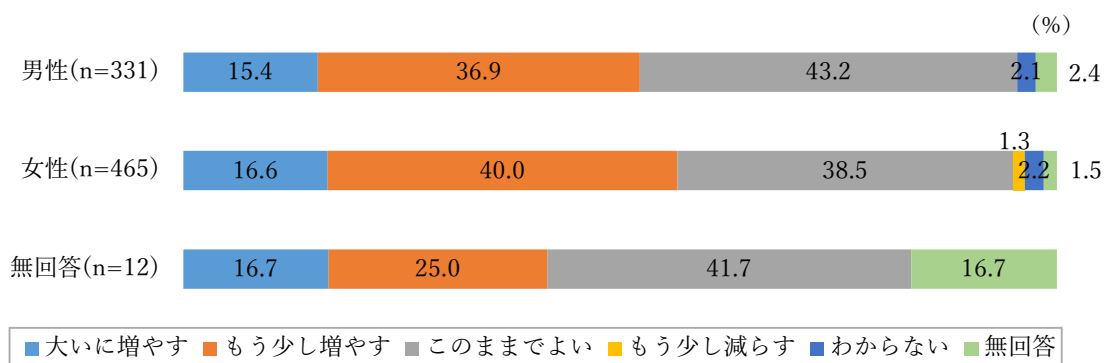
#### 【全体】

休養のための時間において『増やす（計）』と考える人の割合は、54.6%で、前回調査から1.7ポイント減少している。



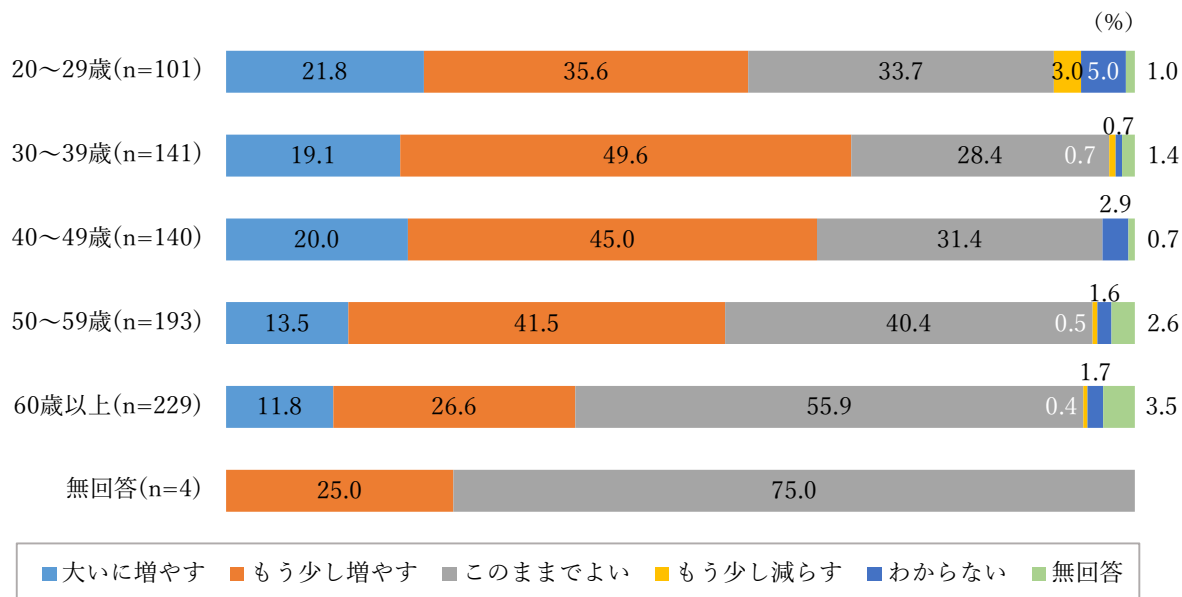
#### 【性別】

男女別で見ると、『増やす（計）』と考える人の割合は、男性が52.3%で女性の56.6%より4.3ポイント低くなっている。



#### 【年代別】

年代別で見ると、『増やす（計）』と考える人の割合は、30～39歳が68.7%で最も高く、次いで40～49歳が65.0%、20～29歳が57.4%などの順になっている。

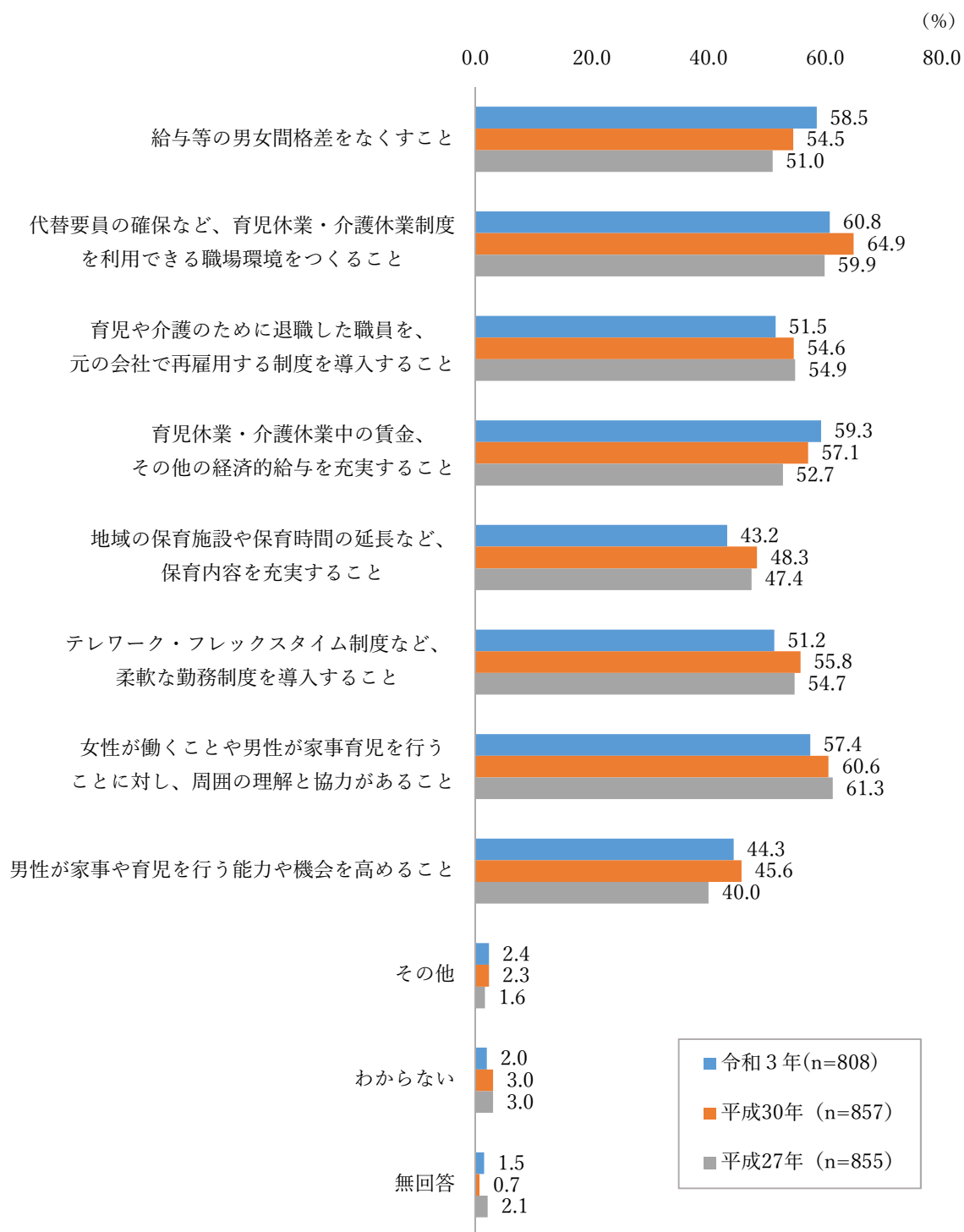


【問18】 男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために、どのような条件が必要だと思いますか。

【全体】

男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために必要な条件について、前回調査から大きな変化は見られない。「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が60.8%で最も高く、次いで、「育児休業・介護休業中の賃金、その他の経済的給与を充実すること」が59.3%、「給与等の男女間格差をなくすこと」が58.5%などの順となっている。

※平成27年、30年との選択肢違いあり（在宅勤務やフレックスタイム制度、・・・）



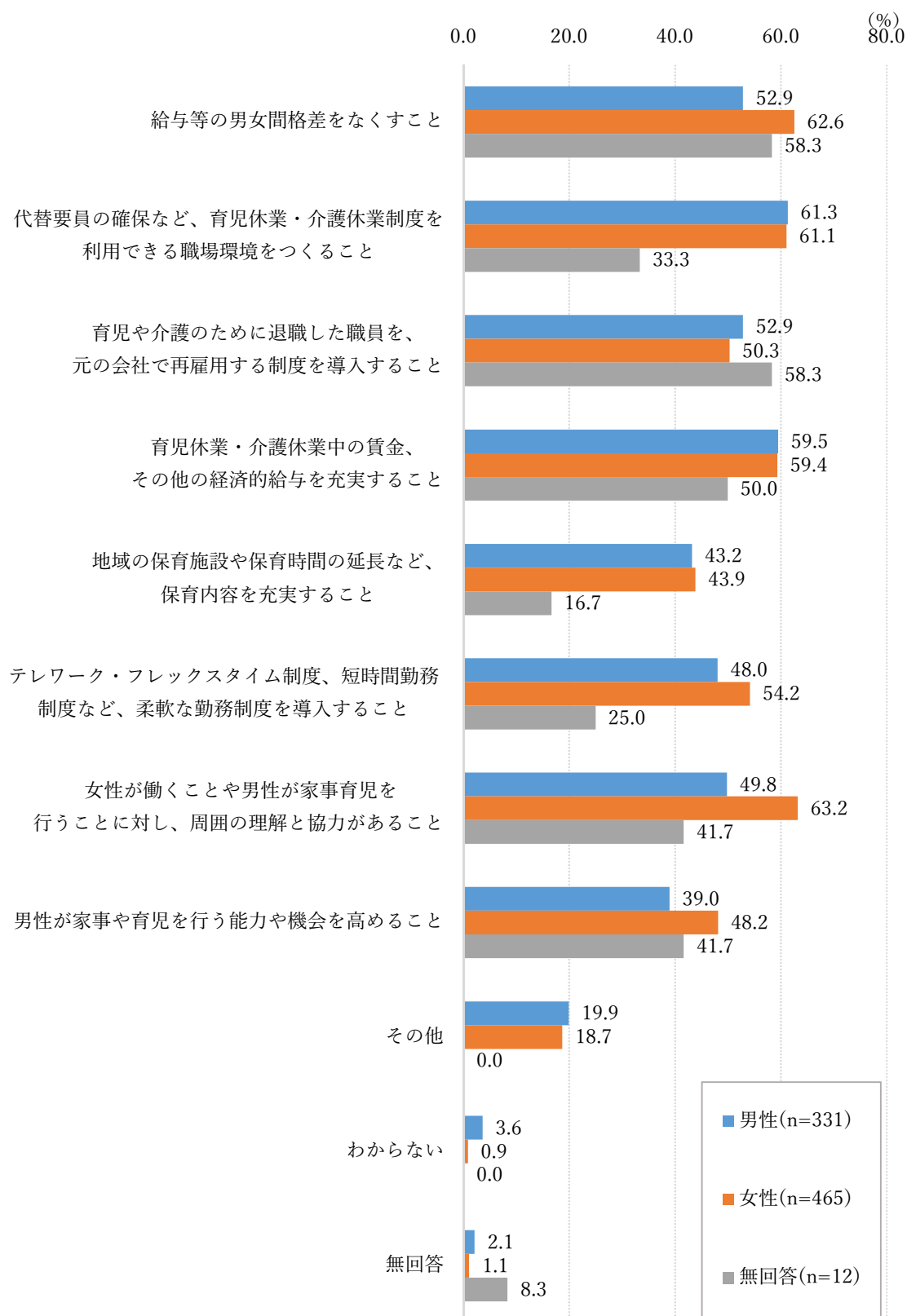


#### 【その他の意見】

- 歴史が作った価値観、常識を少しずつ変えていくこと。常識とルールの変更。
- 介護は女性という考え方を変えること。オムツ交換は男性でも出来る。
- 費用を気にせず利用できる介護施設。
- 男性が職種を問わず労働するのではなく、一生懸命仕事をする事で、女性の負担を軽減させること！
- 法律や制度がないとフォローし合えないのか、今一度考える事が大切かもしれません。税金でどこまでできるのかによって判断が異なるので一概に答えられない。
- 女性が子育てなどを理由に働けない状況にあっても豊かで幸せに過ごせる地域と家庭環境があること。
- 金がないからどちらかを犠牲にしていると思う。
- 男女の生理的な問題も多く、すべてを平等にすることは無いと思う。
- 男性側の意識改革
- 経済面・家庭生活/育児面等、いずれの面もパートナー同士が主体性を持って担うこと。
- ひとり親でも変わらない子育てが出来る環境にすること。
- 例えば 70 才を過ぎたら政治に参加できない仕組みを作ること。そうすれば現在の老害が減り、人材更新・視点の更新が進み、政治に愛想を尽かした有能な人材が帰ってくる。そうならないうちは、何も変わらない。
- 働かなくても収入が得られる仕組み。競争しない意識。
- 派遣の(男性)労働条約や保障をしっかりとしてほしい。ボーナス無し、手当なし、何年働いても何もなし、酷すぎる。もっと安心して生活できるよう、家族手当などもっと配慮してほしい。
- 会計年度任用職員のような不安定な非正規雇用を改善し、安定した収入のもと、制度を使いながら子育てしていくこと。
- その場面にあった働き方
- 子供のうちからそれが当たり前であると教育すること。
- 各家庭による

【性別】

男女別でみると、「女性が働くことや男性が家事育児を行うことに対し、周囲の理解と協力があること」は、女性が63.2%で男性の49.8%より13.4ポイント、「給与等の男女間格差をなくすこと」は、女性が62.6%で男性の52.9%より9.7ポイント、「男性が家事や育児を行う能力や機会を高めること」は、女性が48.2%で男性の39.0%より9.2ポイント、それぞれ高くなっている。

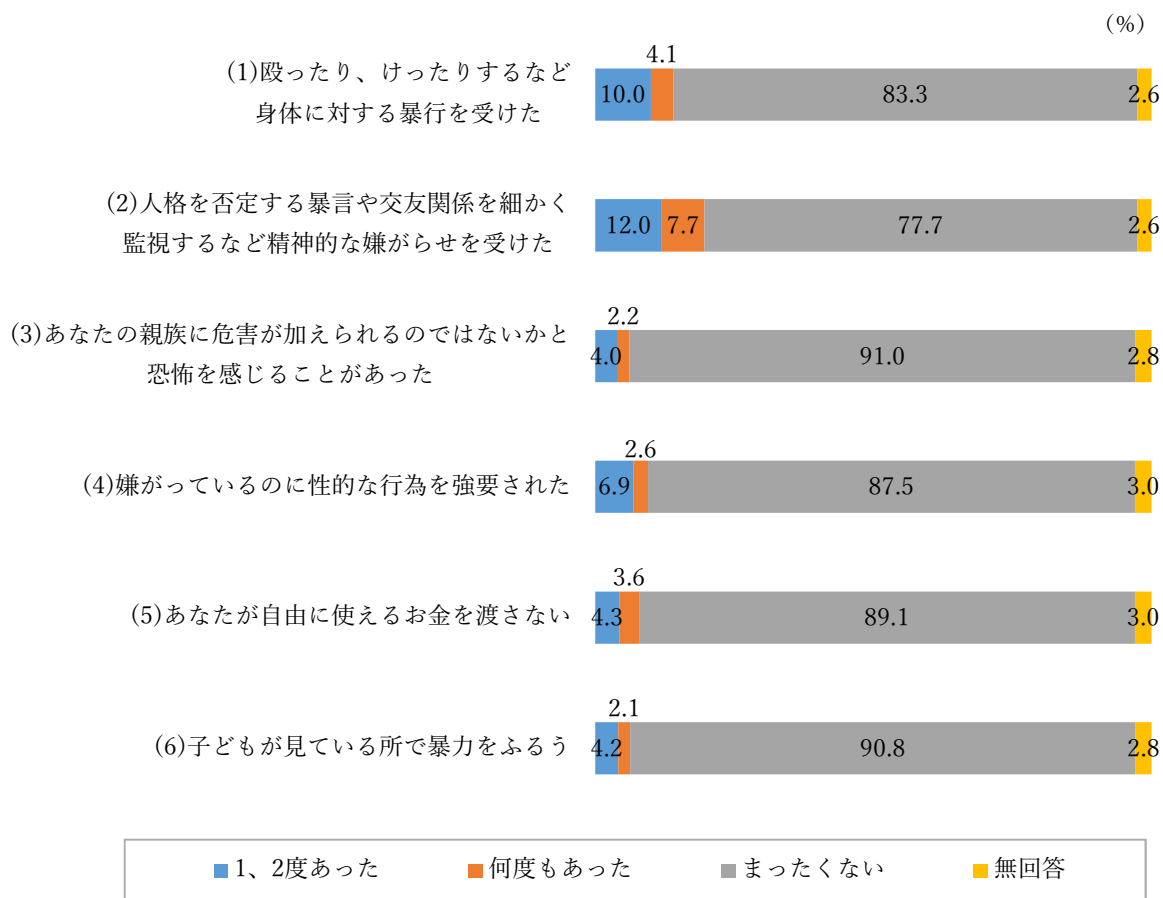


## 8. パートナー間での暴力（DV）やセクハラについて

**【問19】** あなたは、今までに配偶者・パートナー・恋人から次の暴力（DV）等のようなことをされたことがありますか。

**【全体】**

配偶者・パートナー・恋人から受けた行為について、「1、2度あった」と「何度もあった」を合わせた割合（以下『あった（計）』という）は、「人格を否定する暴言や交友関係を細かく監視するなど精神的な嫌がらせを受けた」が19.7%と最も高く、次いで「殴ったり、けったりするなど身体に対する暴行を受けた」が14.1%、「嫌がっているのに性的な行為を強要された」が9.5%などの順になっている。

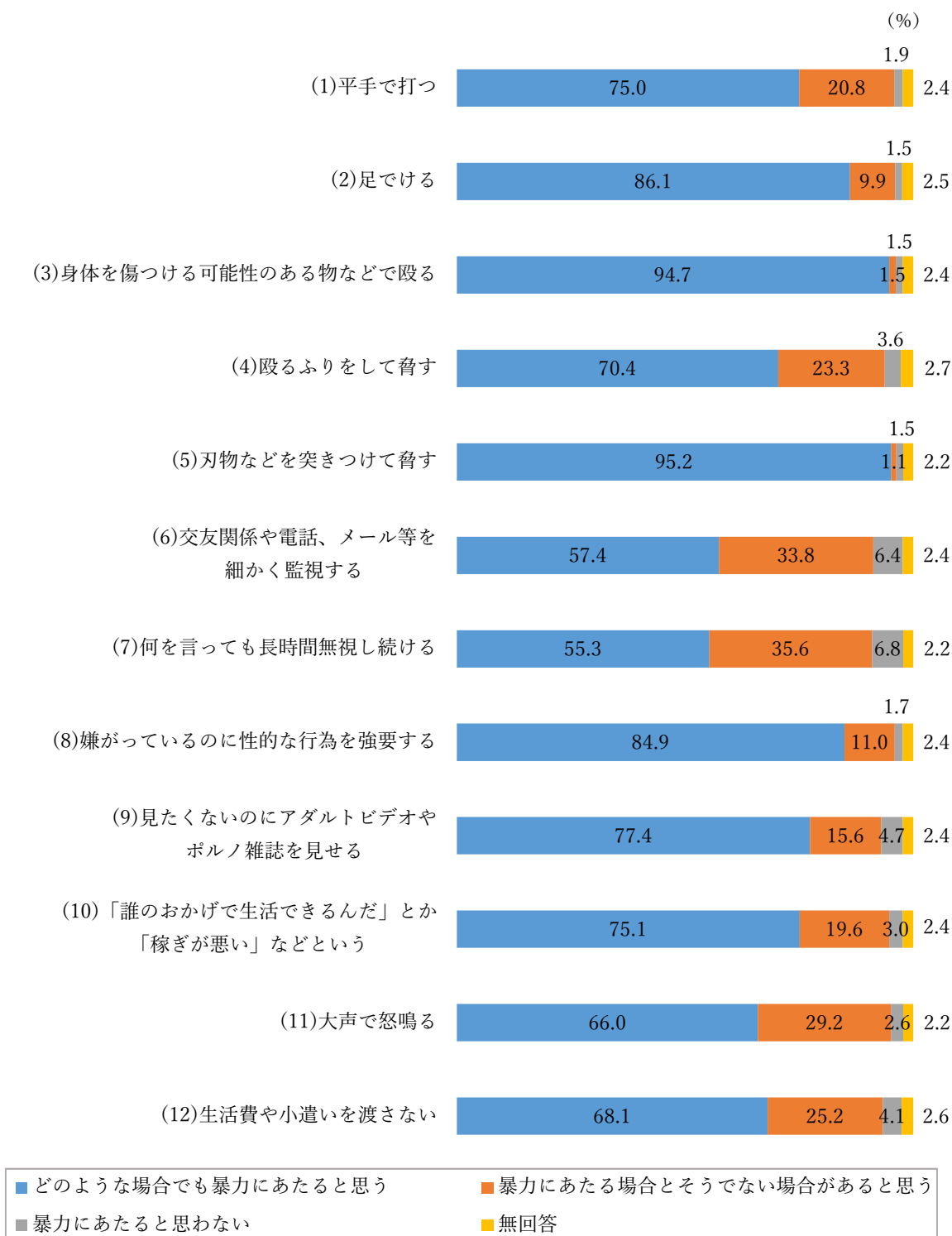


**【問20】 次の暴力（DV）等のようなことが配偶者・パートナー・恋人の間で行われた場合、それは暴力だと思いますか。**

**【全体】**

配偶者・パートナー・恋人間での暴力に対する考えについて、「どのような場合でも暴力にあたる」では「刃物などを突きつけて脅す」で95.2%と最も高く、次いで、「身体を傷つける可能性のある物などで殴る」が94.7%、「足でける」が86.1%などの順になっている。

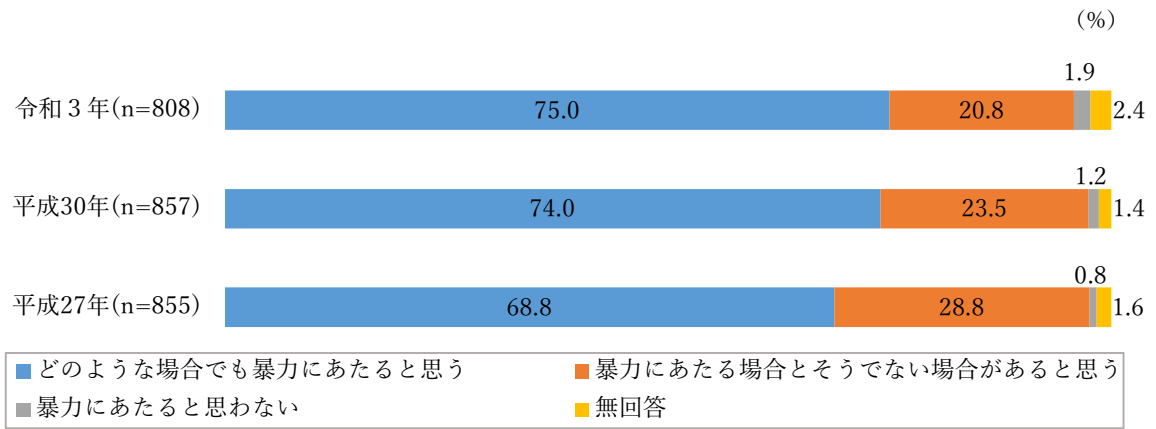
また、「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」では、「何を言っても長時間無視し続ける」で35.6%と最も高く、次いで、「交友関係や電話、メール等を細かく監視する」が33.8%、「大声で怒鳴る」が29.2%などの順になっている。



① 平手で打つ

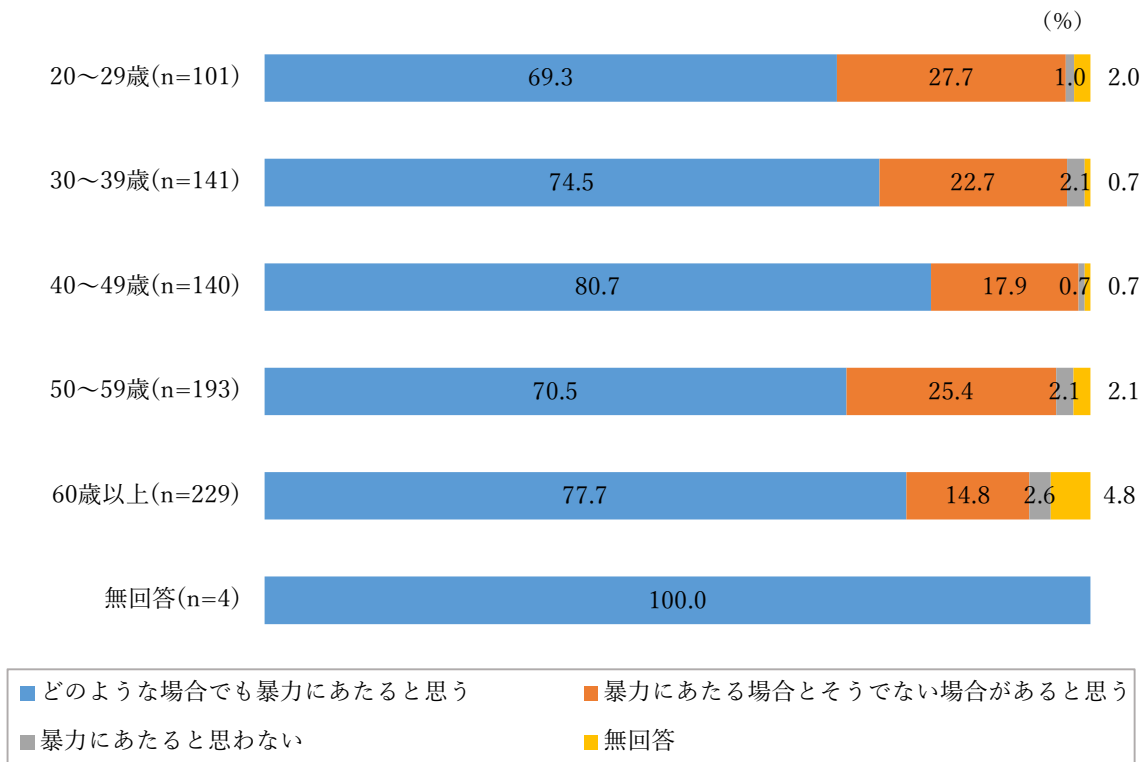
【経年比較】

平手で打つについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は 75.0%で前回調査から 1.0 ポイント増加している。



【年代別】

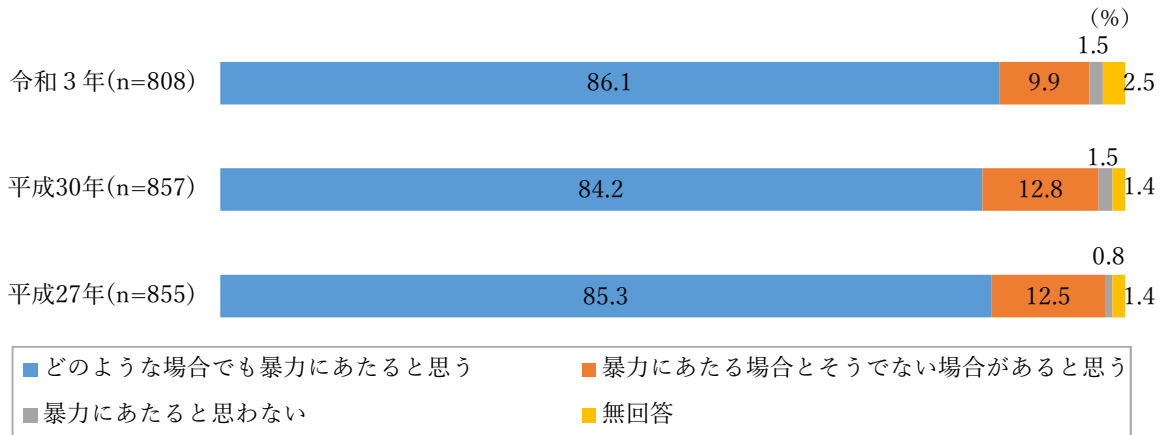
平手で打つについて、年代別で見ると、40～49歳が 80.7%と最も高く、次いで 60歳以上が 77.7%、30～39歳が 74.5%などの順になっている。



② 足でける

【経年比較】

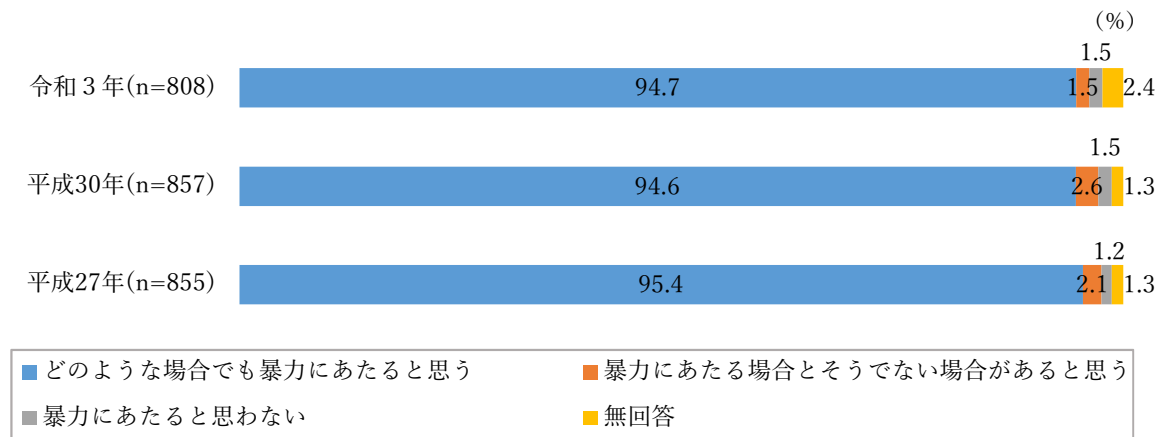
足でけるについて、「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」は9.9%で前回調査から2.9ポイント減少している。



③ 身体を傷つける可能性のある物などで殴る

【経年比較】

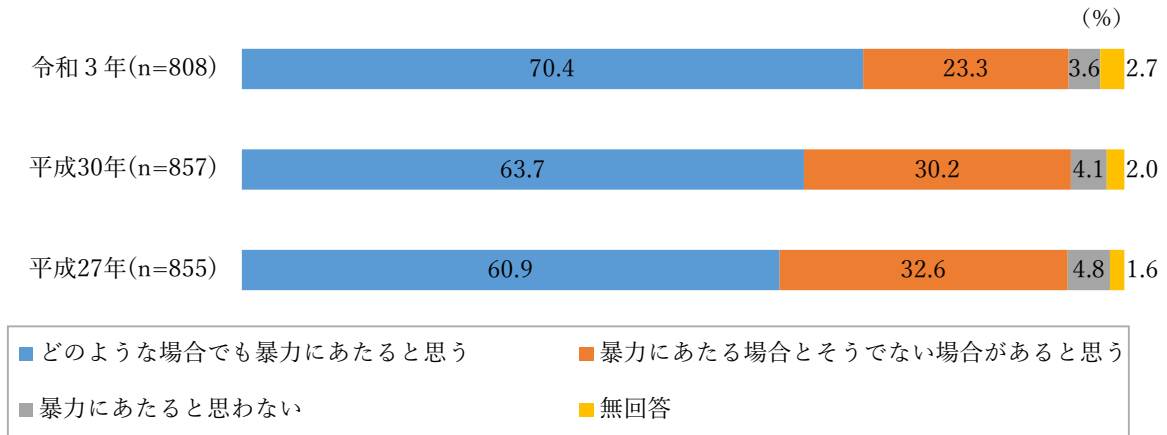
身体を傷つける可能性のある物などで殴るについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は前回調査とほぼ同じ割合となっている。



④ 殴るふりをして脅す

【経年比較】

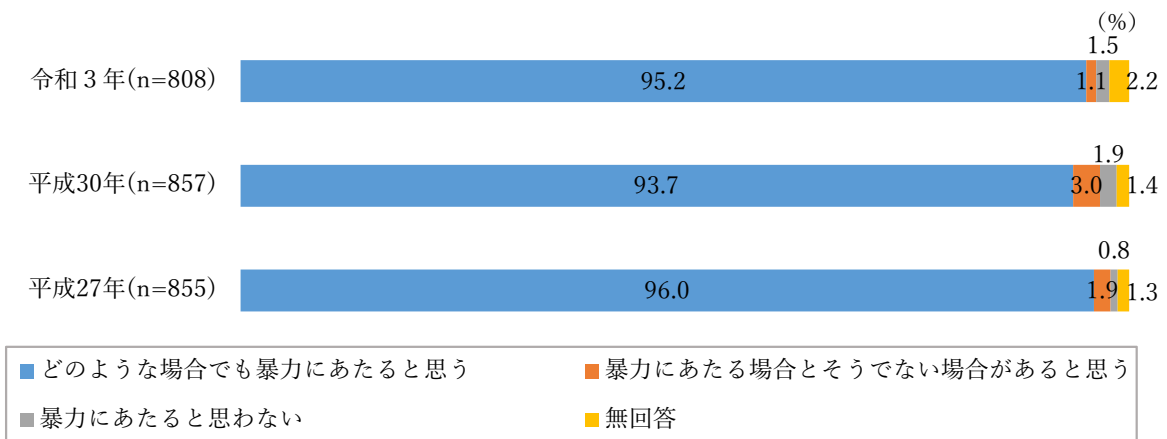
殴るふりをして脅すについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は 70.4%で前回調査から 6.7 ポイント増加し、「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」は 23.3%で前回調査から 6.9 ポイント減少している。



⑤ 刃物などを突きつけて脅す

【経年比較】

刃物などを突きつけて脅すについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は 95.2%で前回調査から 1.5 ポイント減少し、「暴力にあたる場合とそうでない場合がある」は 1.1%で前回調査から 1.9 ポイント減少している。

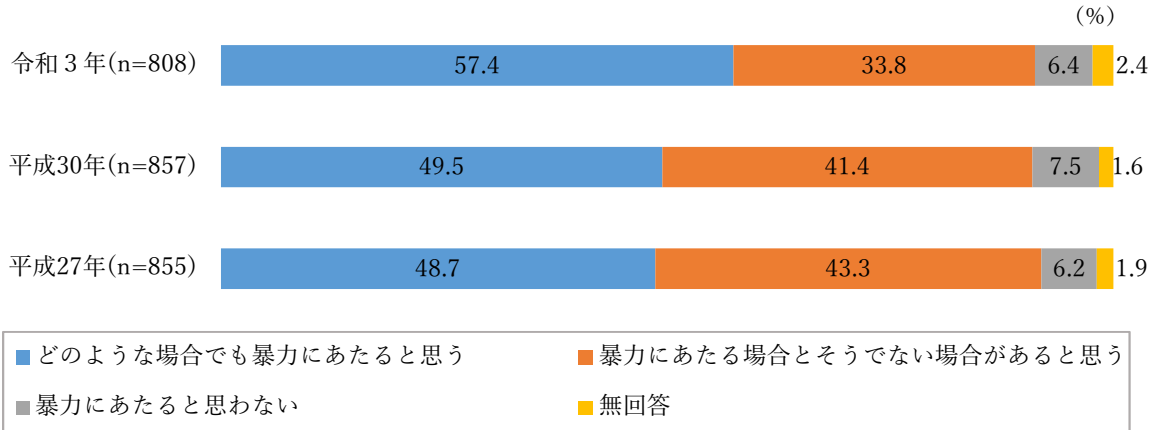


⑥ 交友関係や電話、メール等を細かく監視する

【経年比較】

交友関係や電話、メール等を細かく監視するについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は57.4%で前回調査から7.9ポイント増加している。

一方、「暴力にあたると思わない」は6.4%で前回調査から1.1ポイント減少している。

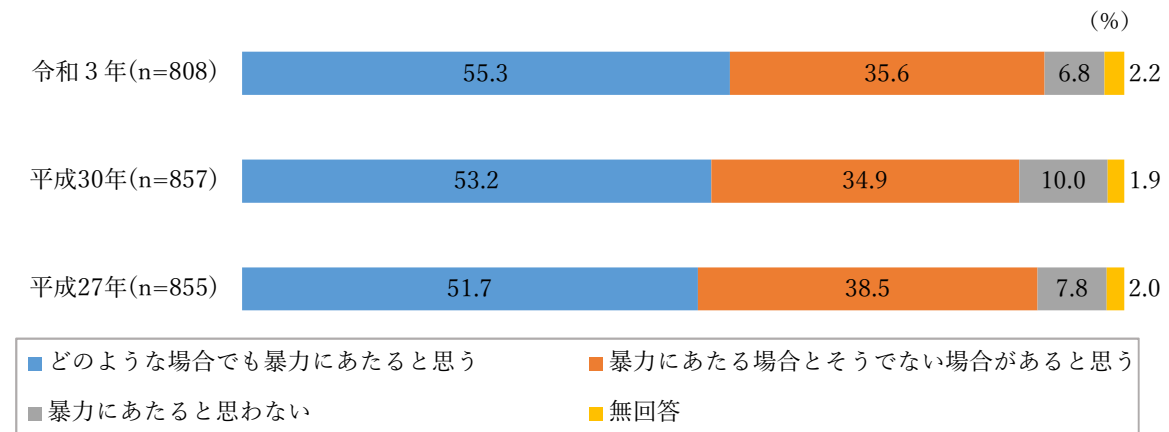


⑦ 何を言っても長時間無視し続ける

【経年比較】

何を言っても長時間無視し続けるについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は55.3%で前回調査から2.1ポイント増加し。

一方、「暴力にあたると思わない」は6.8%で前回調査から3.2ポイント減少している。

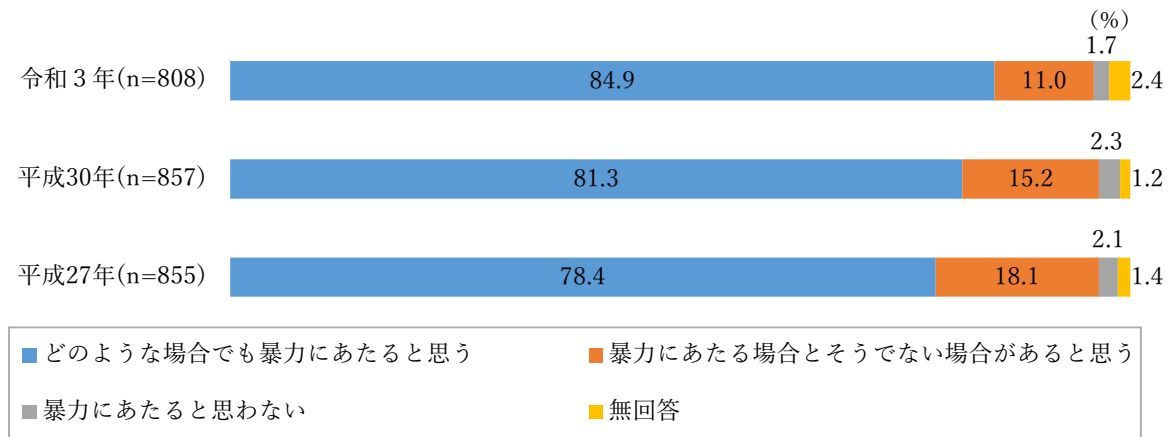




⑧ 嫌がっているのに性的な行為を強要する

【経年比較】

嫌がっているのに性的な行為を強要するについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は84.9%で前回調査から3.6ポイント増加している。

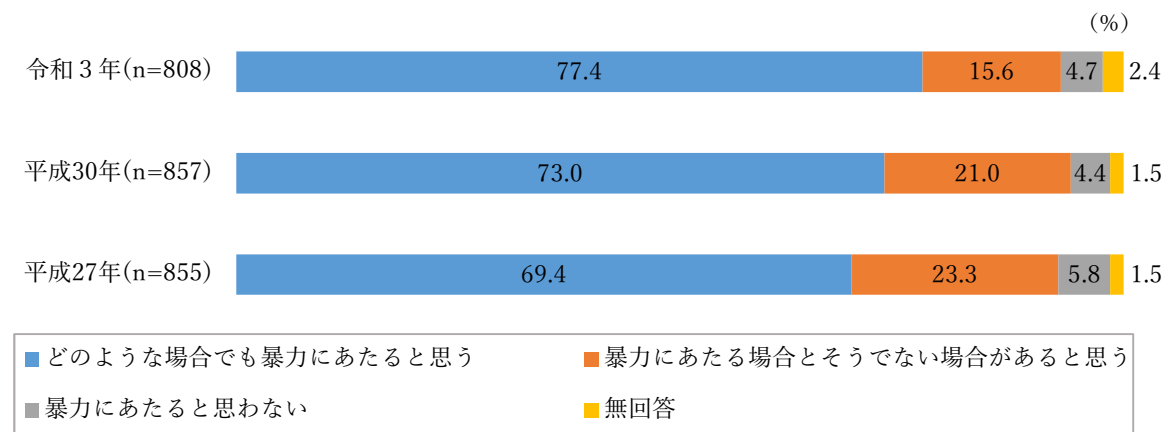


⑨ 見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せる

【経年比較】

見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せるについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は77.4%で前回調査から4.4ポイント増加している。

一方、「暴力にあたる場合とそうでない場合があると思う」は15.6%で前回調査から5.4ポイント増加している。

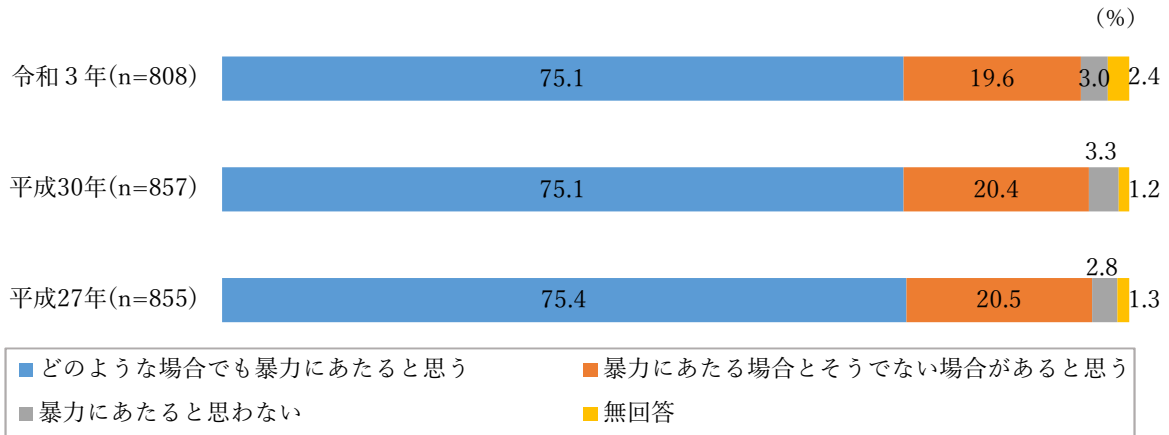


⑩ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか「稼ぎが悪い」などという

【経年比較】

「誰のおかげで生活できるんだ」とか「稼ぎが悪い」などというについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は前回調査と同じ割合になっている。

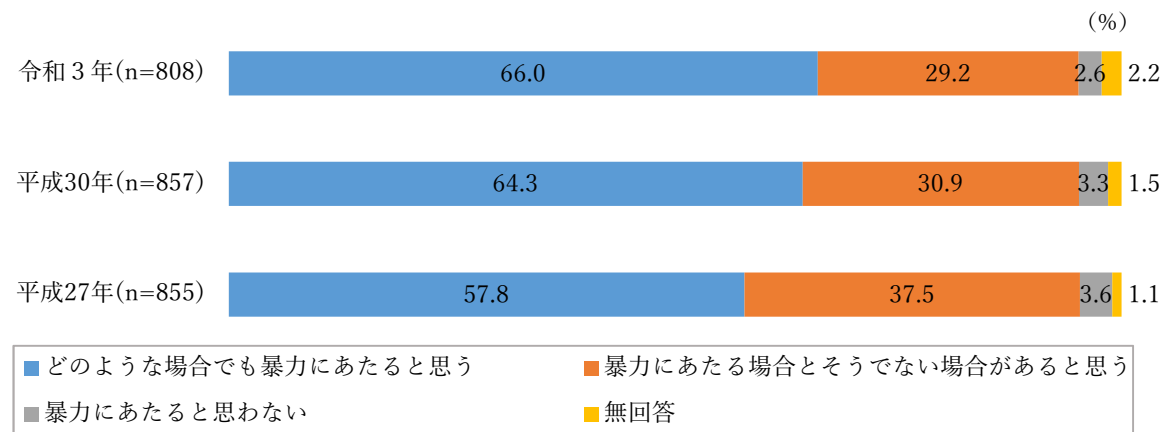
一方、「暴力にあたると思わない」は3.0%で前回調査から0.3ポイント減少している。



⑪ 大声で怒鳴る

【経年比較】

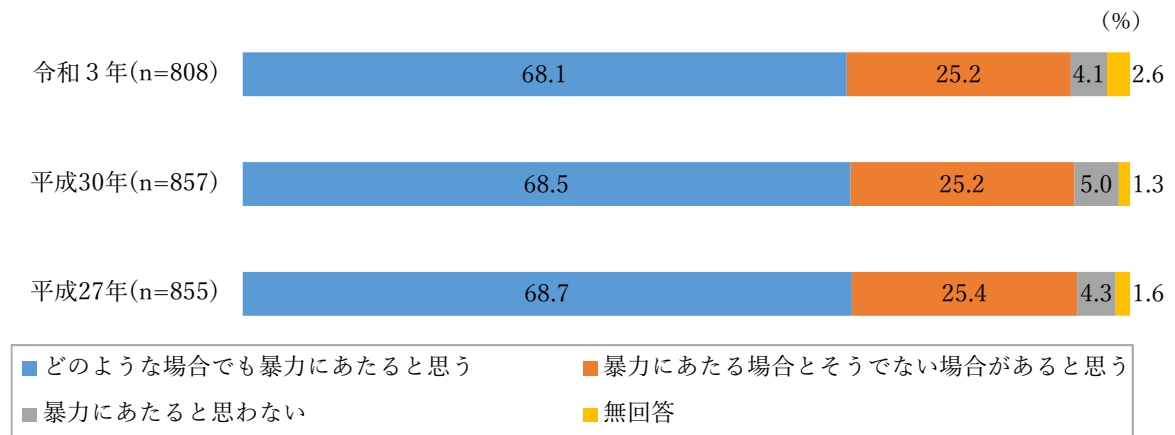
大声で怒鳴るについて、「どのような場合でも暴力にあたる」は66.0%で前回調査から1.7ポイント増加している。



⑫ 生活費や小遣いを渡さない

【経年比較】

生活費や小遣いを渡さないについて、「暴力にあたると思わない」は4.1%と前回調査から0.9ポイント減少している。

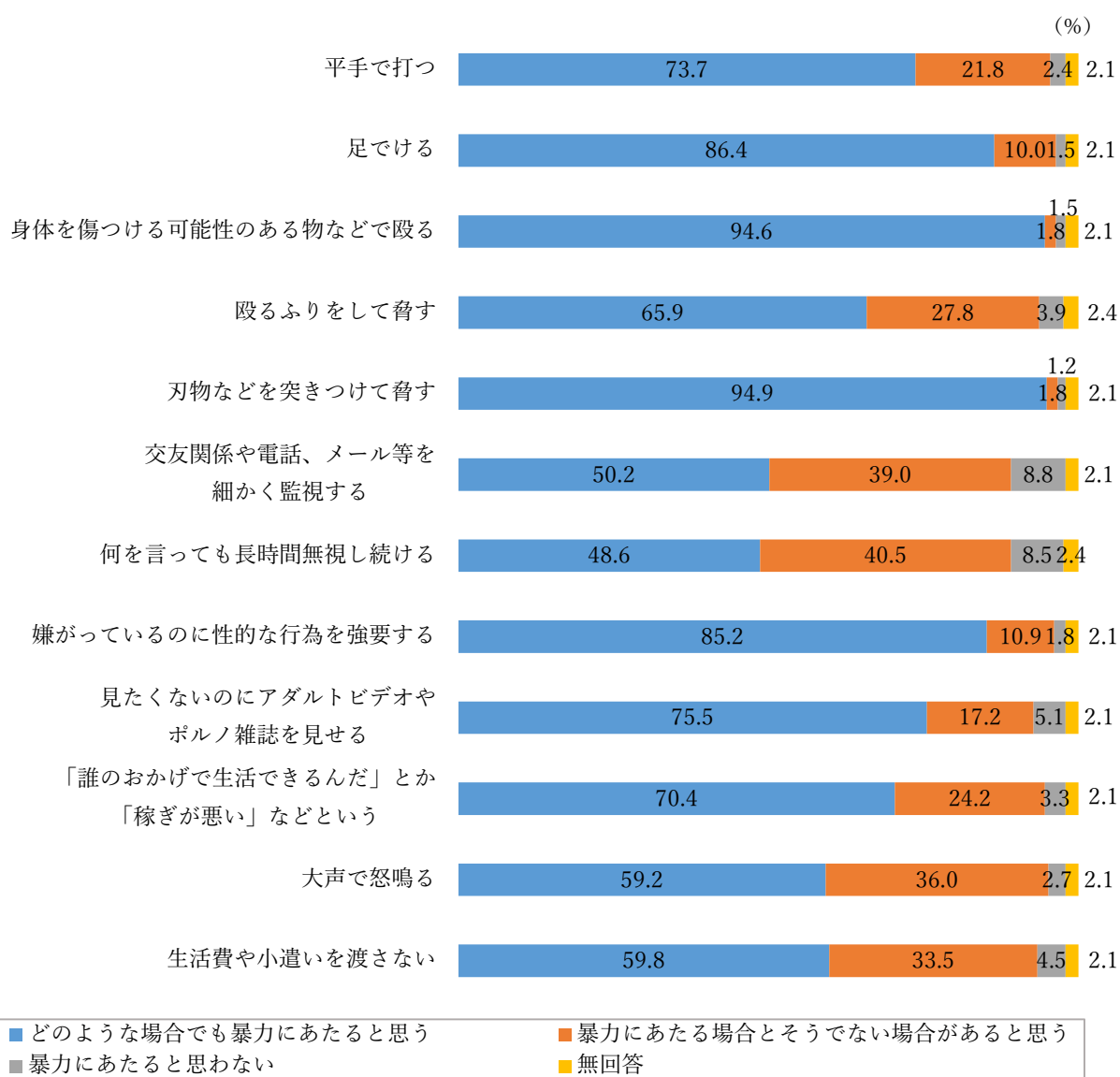


【性別】

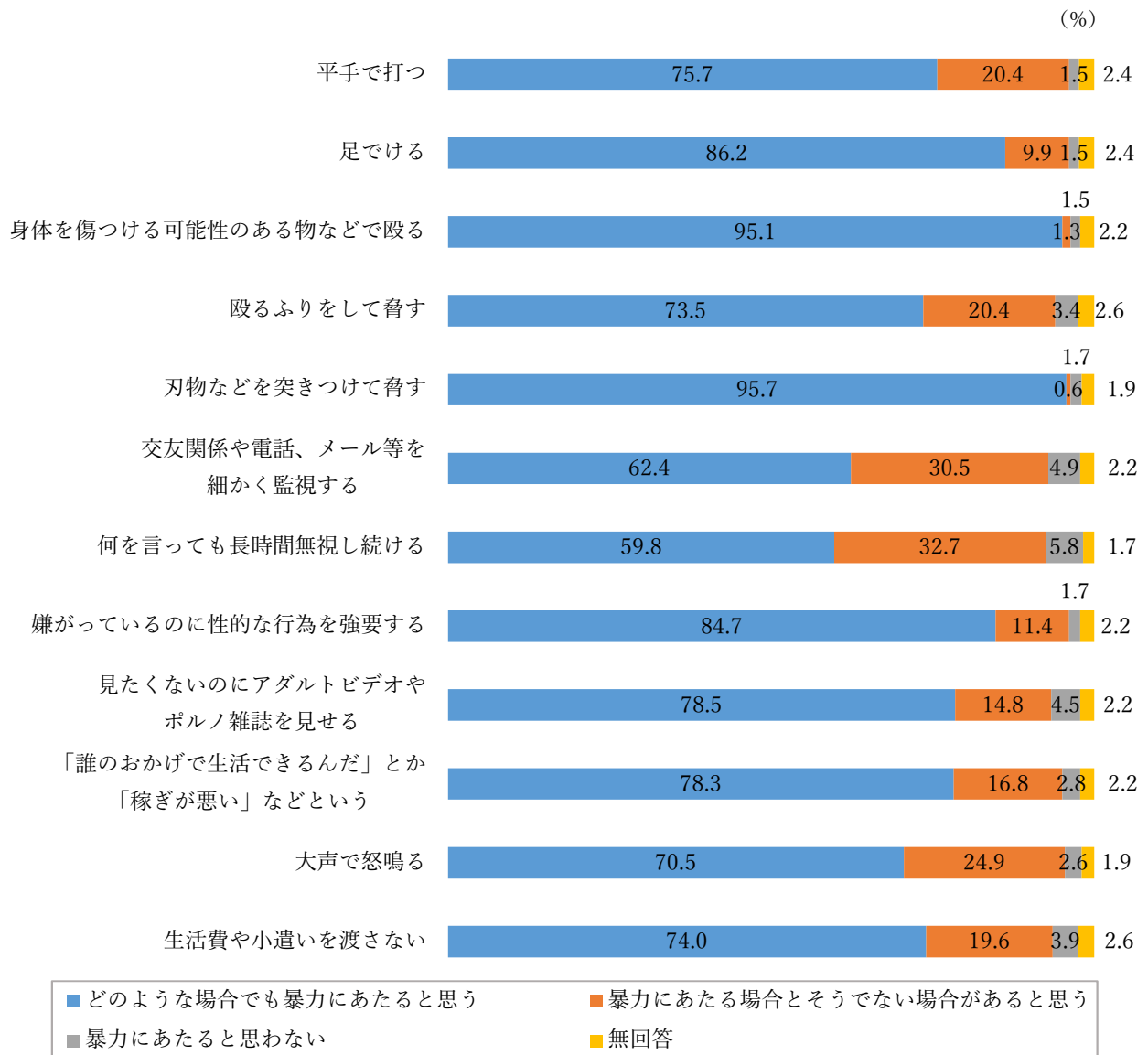
性別でみると、「どのような場合でも暴力にあたる」は12項目中10項目で女性が男性より高く、「生活費や小遣いを渡さない」では、女性が74.0%で男性の59.8%より14.2ポイント、「交友関係や電話、メール等を細かく監視する」では、女性が62.4%で男性の50.2%より12.2ポイント、それぞれ高くなっている。

一方、男性が女性より高くなっている残りの2項目は、「足でける」で男性が女性より0.2ポイント、「嫌がっているのに性的な行為を強要する」で男性が女性より0.5ポイント、それぞれ高くなっている。

男性



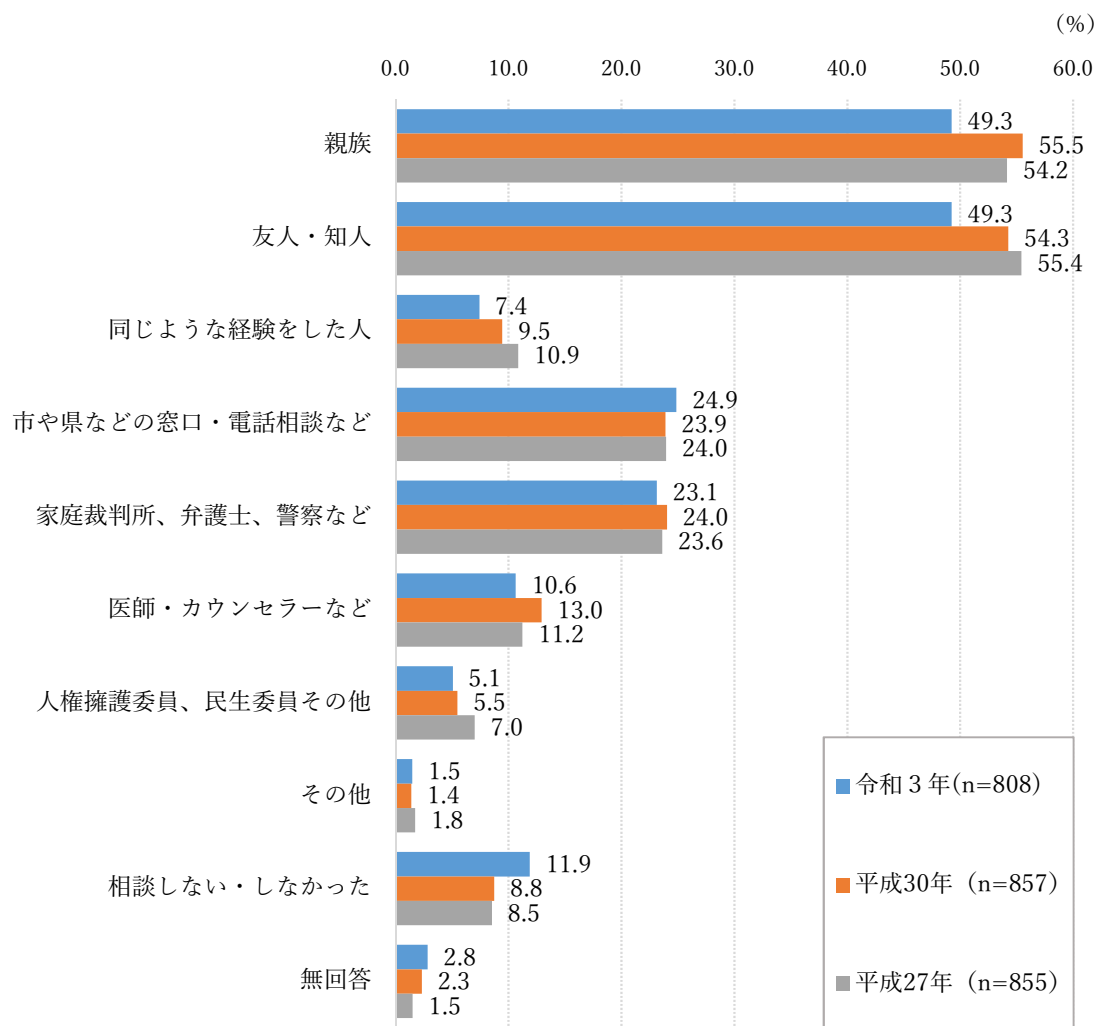
女性



【問21】 今後もし暴力を「受けたり、見聞きしたら」、あるいは今までに「受けたり、見聞きしたことがある」場合は、だれに打ち明けたり、相談したりしますか、または相談しましたか。

【全体】

暴力の相談先について、「親族」と「友人・知人」が49.3%で最も高いが、前回調査と比べて「親族」は6.2ポイント、「友人・知人」は5.0ポイント減少している。次いで、「市や県などの窓口・電話相談など」が24.9%となっていて、前回調査と比べて1.0ポイント増加している。

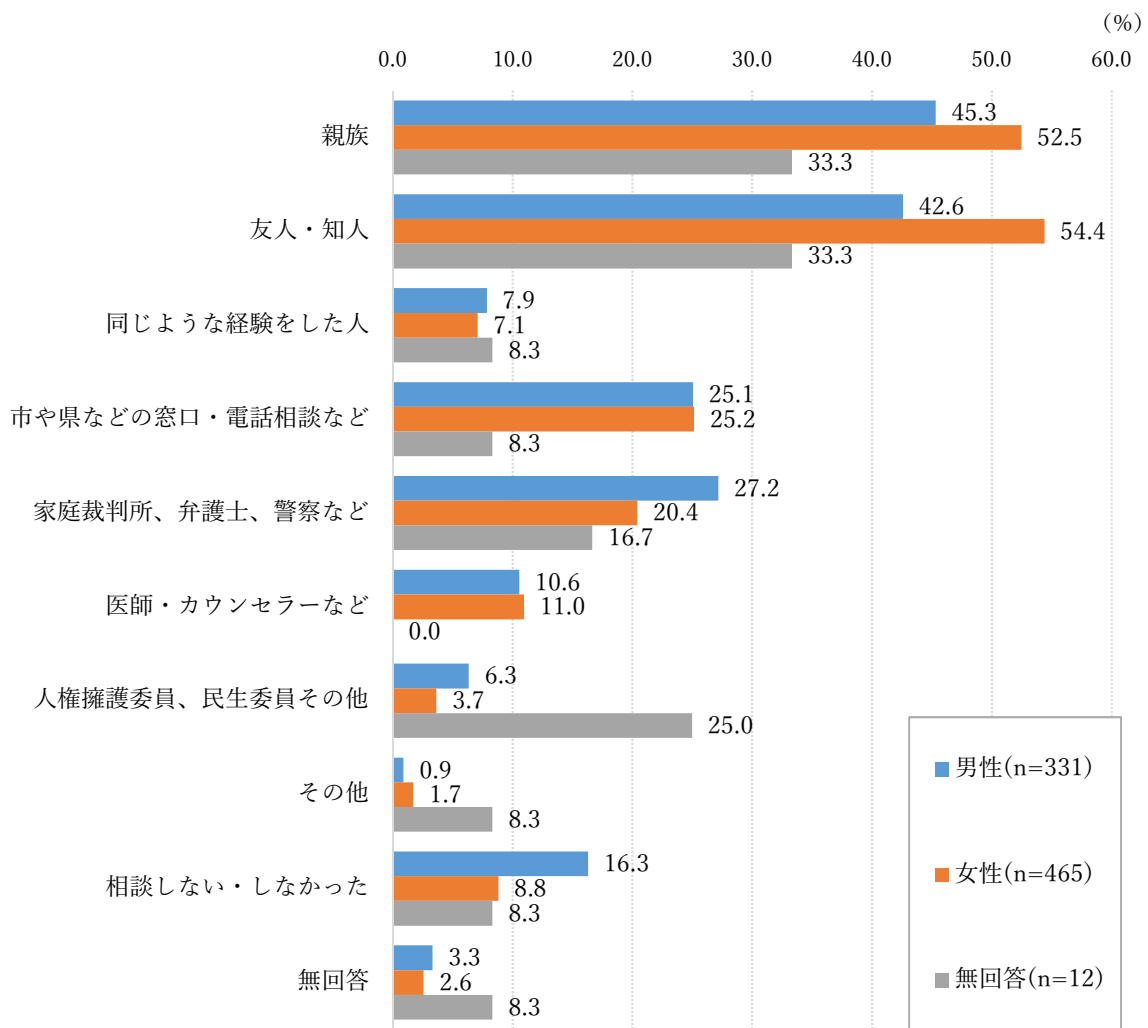


【その他の意見】

- やられないので分からない。
- SNS、ネットの匿名掲示板
- 時と場合による相談場所相手
- 娘に相談する。
- 成人した子ども

【性別】

男女別で見ると、「親族」は女性が52.5%で男性の45.3%より7.2ポイント、「友人・知人」は女性が54.4%で男性の42.6%より11.8ポイント高くなっている。



**【問22】 <問21で、「9. 相談しない・しなかった」と回答した方に>  
相談しない・しなかったのはなぜですか。**

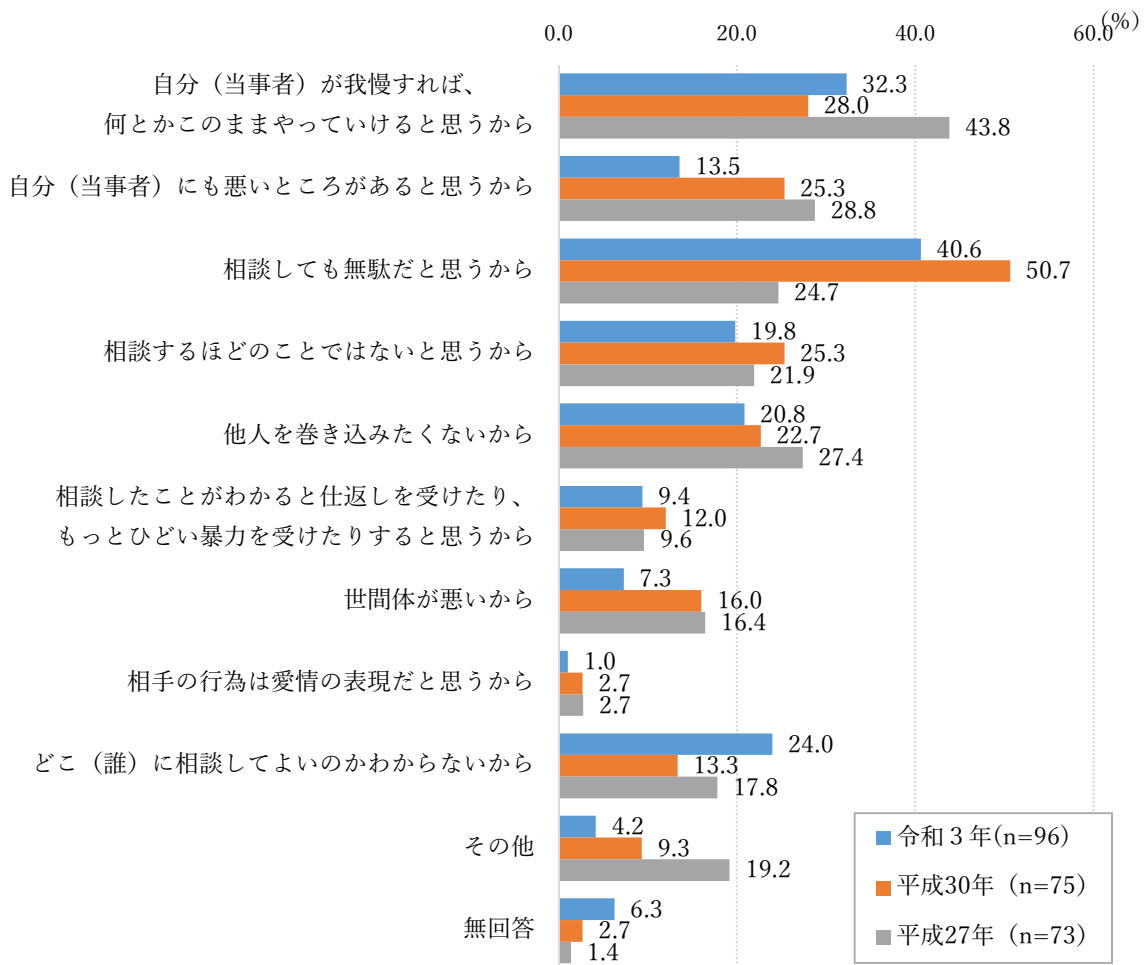
**【全体】**

暴力を相談しない理由について、「相談しても無駄だと思うから」が40.6%で最も高く、次いで、「自分（当事者）が我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから」が32.3%、「どこ（誰）に相談してよいのかわからないから」が24.0%などの順になっている。

**【経年比較】**

経年比較をみると、前回調査と比べ「相談しても無駄だと思うから」は10.1ポイント、「相談するほどのことではないと思うから」は5.5ポイント減少している。

一方、「どこ（誰）に相談してよいのかわからないから」は10.7ポイント増加している。



**【その他の意見】**

- 自分で解決するものと思うから。（必要なら弁護士を使う）
- 自力で解決したから。
- 親族を心配させたくない。
- 友人・知人の良かれと思った行動が離婚につながったから、もう誰にも相談しない。
- 暴力を受けて育つとその子にも暴力をふるうようになる。その連鎖をなくす教育が必要。
- 暴力の原因影響など双方が見つめ直す再考する機会が教育の中にあるといいと思います。（自分の弱さの認識などもできる回避の仕方なども有るといいのかもしれない。）

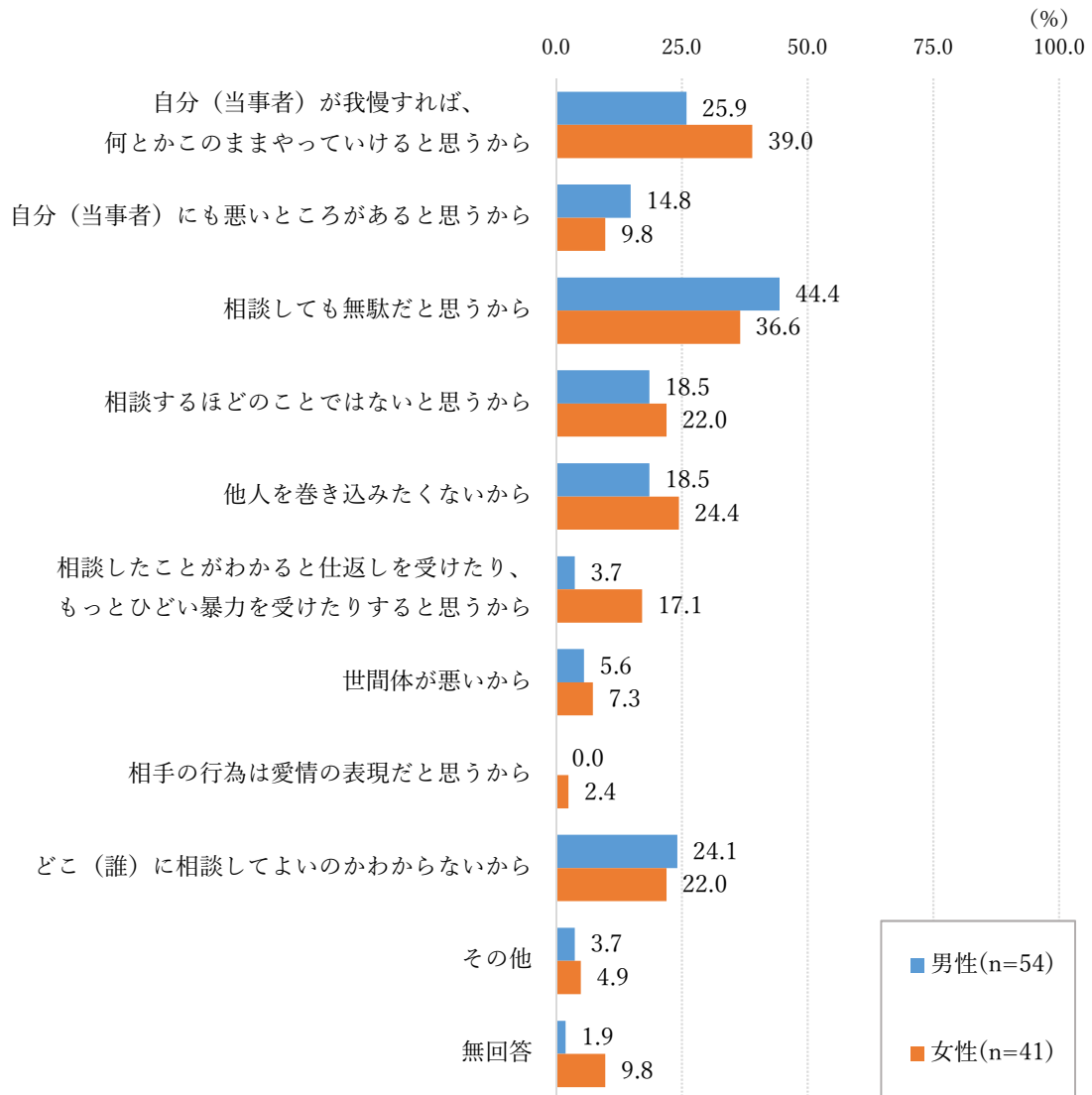


【性別】

男女別でみると、「相談しても無駄だと思うから」は男性が44.4%で女性の36.6%より7.8ポイント高くなっている。

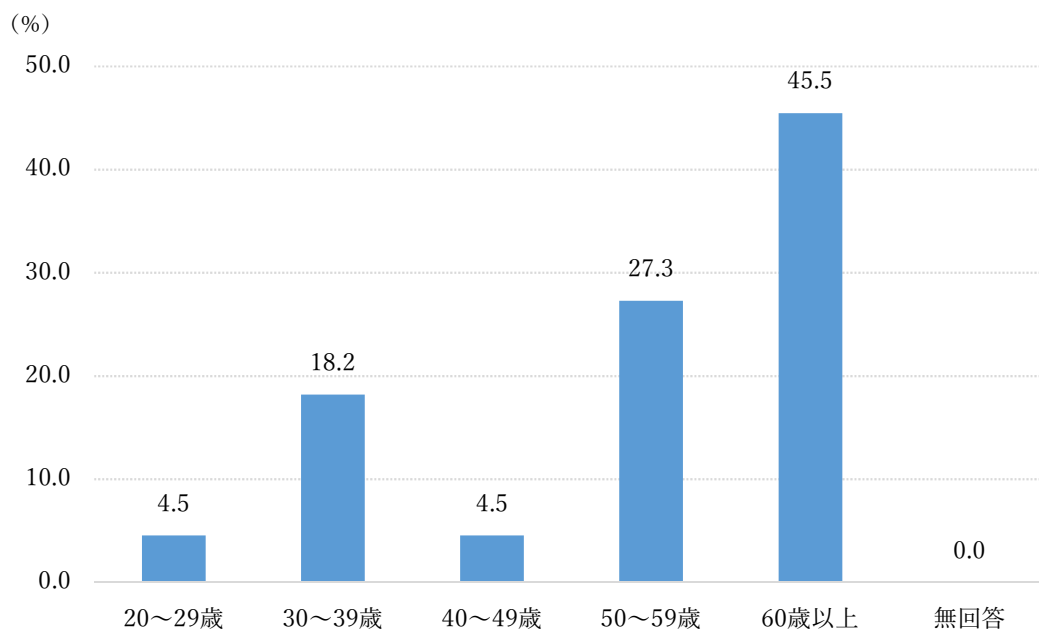
一方、「相談したことがわかると仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思うから」は女性が17.1%で男性の3.7%より13.4ポイント高くなっている。

※無回答（性別）は少数のため、結果省略。



### 【年代別】

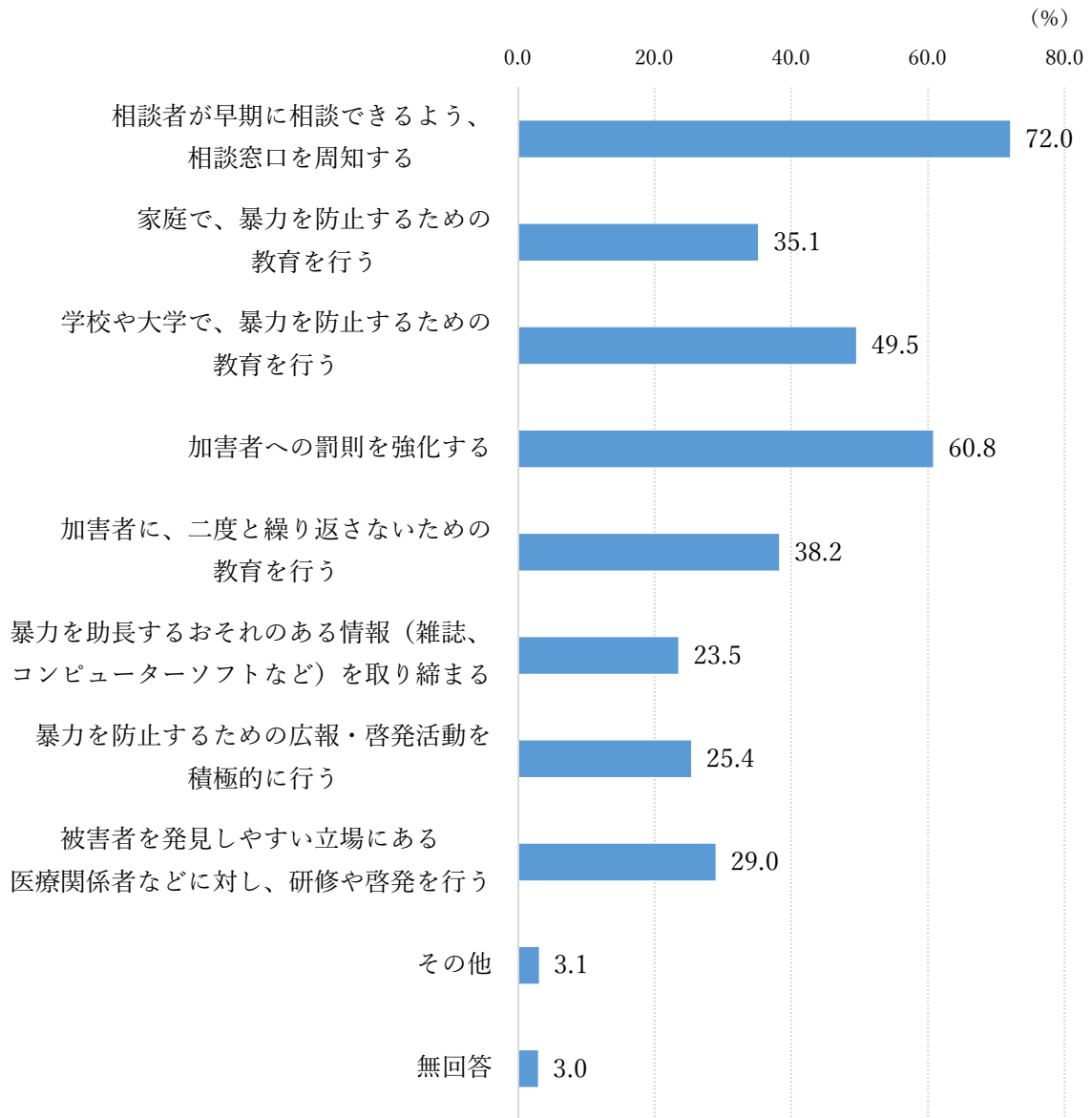
暴力について、「どこ（誰）に相談してよいのか分からない」と答えた22人を年代別にみると、60歳以上が45.5%と最も高く、次いで50～59歳が27.3%、30～39歳が18.2%などの順になっている。



【問23】 DVやデートDVを防止するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。

【全体】

DVやデートDVを防止するために必要なことについて、「相談者が早期に相談できるよう、相談窓口を周知する」で72.0%と最も高く、次いで、「加害者への罰則を強化する」が60.8%、「学校や大学で、暴力を防止するための教育を行う」が49.5%などの順になっている。



### 【その他の意見】

- 被害者が被害であると自覚できるような教育。←被害者は自分が悪いからと思いがち（DVされても仕方ない）と聞いたことがあるので、加害しない教育よりも、被害者になった場合の対応（逃げ方、助けの求め方、DVされていると理解できる様な）教育情報の提供。
- 幼少期から生活環境改善、育児教育、時間がかかると思うけど取り組むべき。
- 子供の頃からの教育(道徳)以外無いと思う。
- 家族内に暴力ではないが、精神的にDVをする者がいた。小さい時からずっとされていたため、それがDVであると気がつかなかった。まずDVであると気づかせないといけない。学校などで教えるべき。
- 被害者が被害者にならないための教育や訓練を行う。
- 何を教育し何を啓発してもする人は何度もします。今後の大きな課題ですね。
- これは暴力なのだ、声を上げていいのだという事をもっと知る機会を作る。
- アプリを活用した相談ツール
- 被害者へ気付かせる。暴力を受けても、そのあと優しくされると、我慢してしまう人がいる。また早めの対応。何か起きてからでは遅い。
- 被害者本人が自覚して別れる。
- そんな相手とはきっぱり別れる、別れて良いという認識を持つ。
- DVなどの家のこと(恥)を隠しておきたいと思う。電話などで早期に相談できる窓口は良いと思う。夫の暴力ってエスカレートしますよね。罰則の強化を！！すみません熱くなってしまいました。
- 行為に対して考察するより行為に至る精神性について考察すべき。
- 加害者の精神的な治療
- 二度と会わないとできるように死刑にする。そうでないと本人は通報や相談は怖くてできないと思う。
- 重罪にする。
- 各家庭の情報を把握する。
- 経験したことがないので分からない。
- 周りにないことなので良く分からない。

【問24】 次のようなことでセクハラだと感じたことがありますか。またそれはどんな場所で感じましたか。

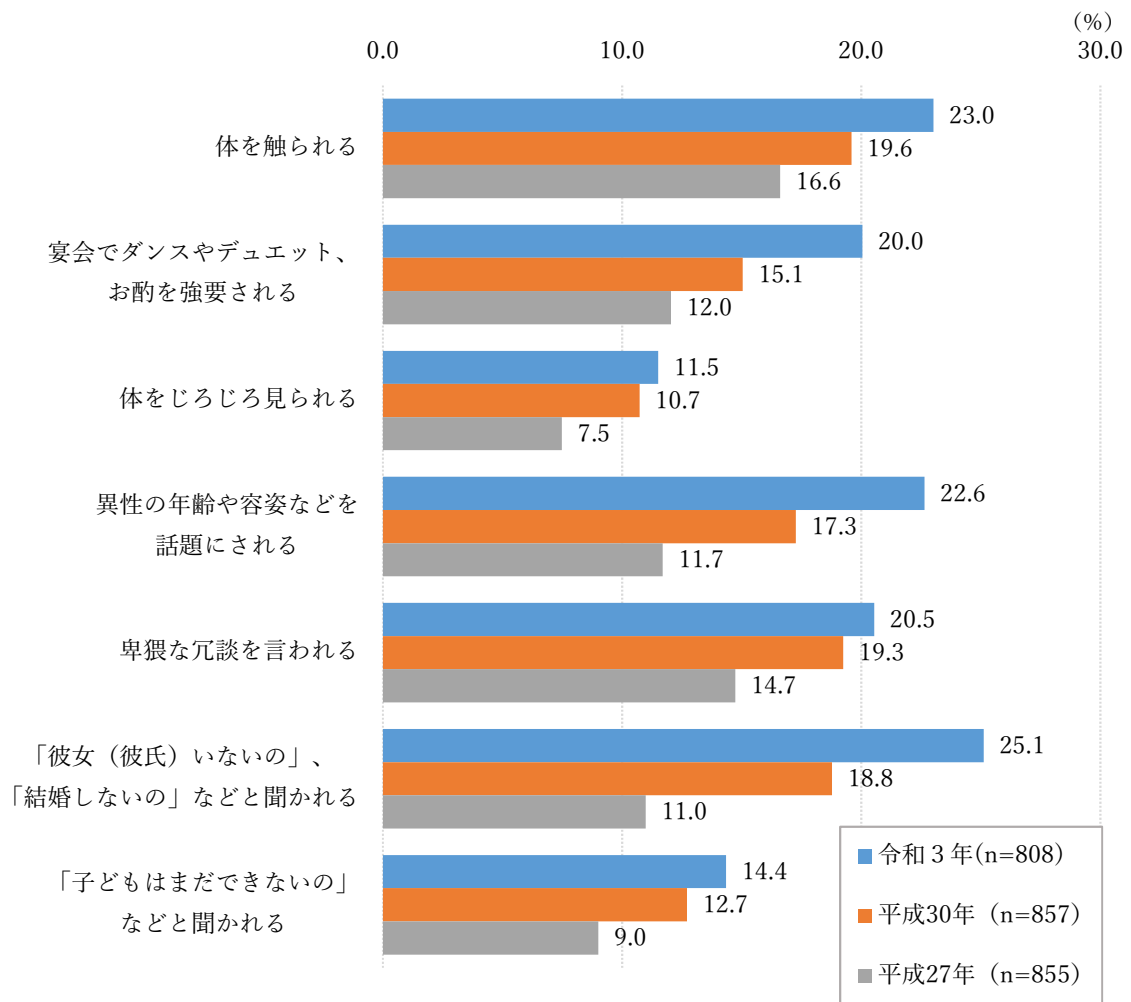
① 職場

【全体】

職場においてセクハラだと感じることにについて、「『彼女（彼氏）いないの』、『結婚しないの』などと聞かれる」が25.1%と最も高く、次いで、「体を触られる」が23.0%、「異性の年齢や容姿などを話題にされる」が22.6%などの順になっている。

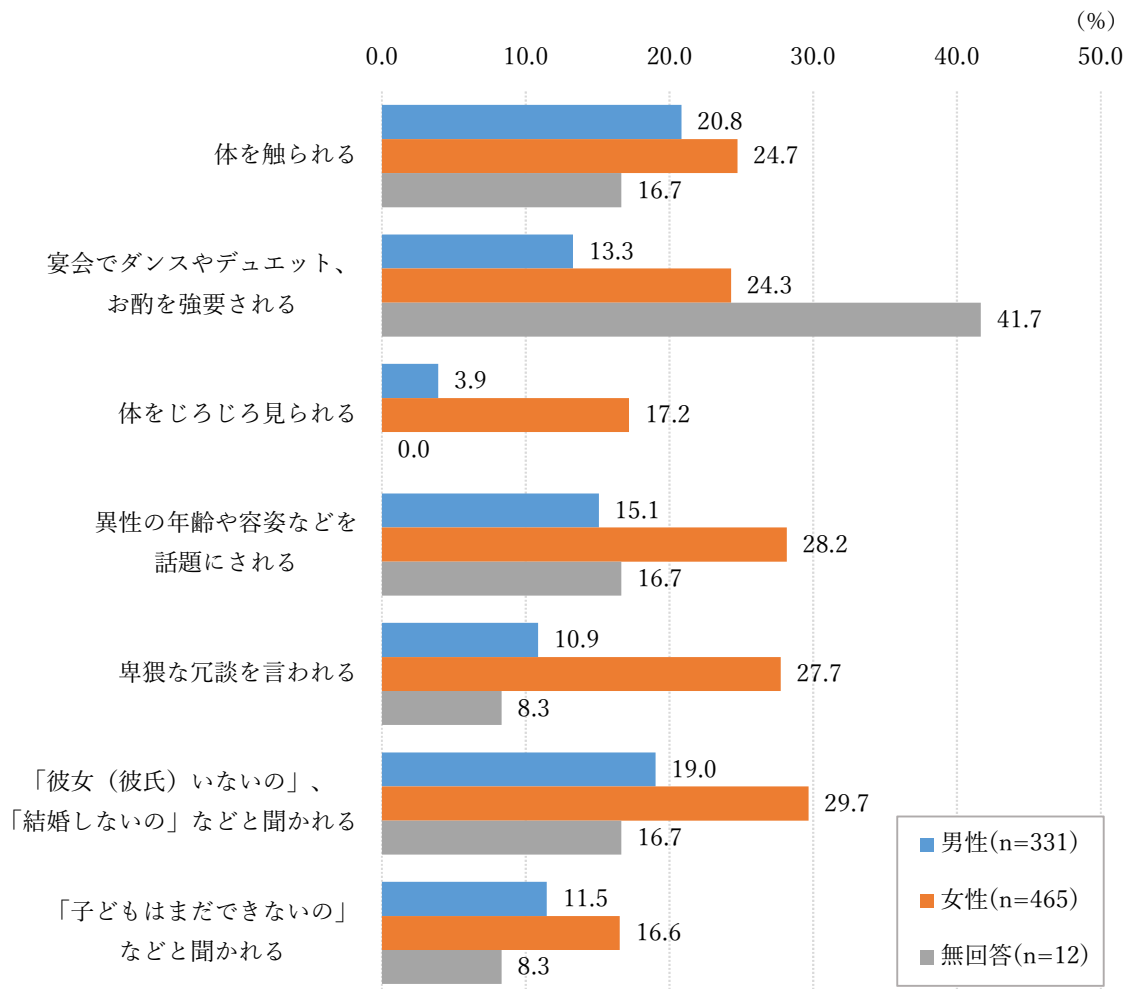
【経年比較】

経年比較をみると、前回調査から「『彼女（彼氏）いないの』、『結婚しないの』などと聞かれる」は6.3ポイント、「異性の年齢や容姿などを話題にされる」は5.3ポイント増加している。



【性別】

男女別で見ると、すべての選択肢で女性が男性より高くなっている。「卑猥な冗談を言われる」は女性が27.7%で男性の10.9%より16.8ポイント、「体をじろじろ見られる」は女性が17.2%で男性の3.9%より13.3ポイント高くなっている。



## ② 地域

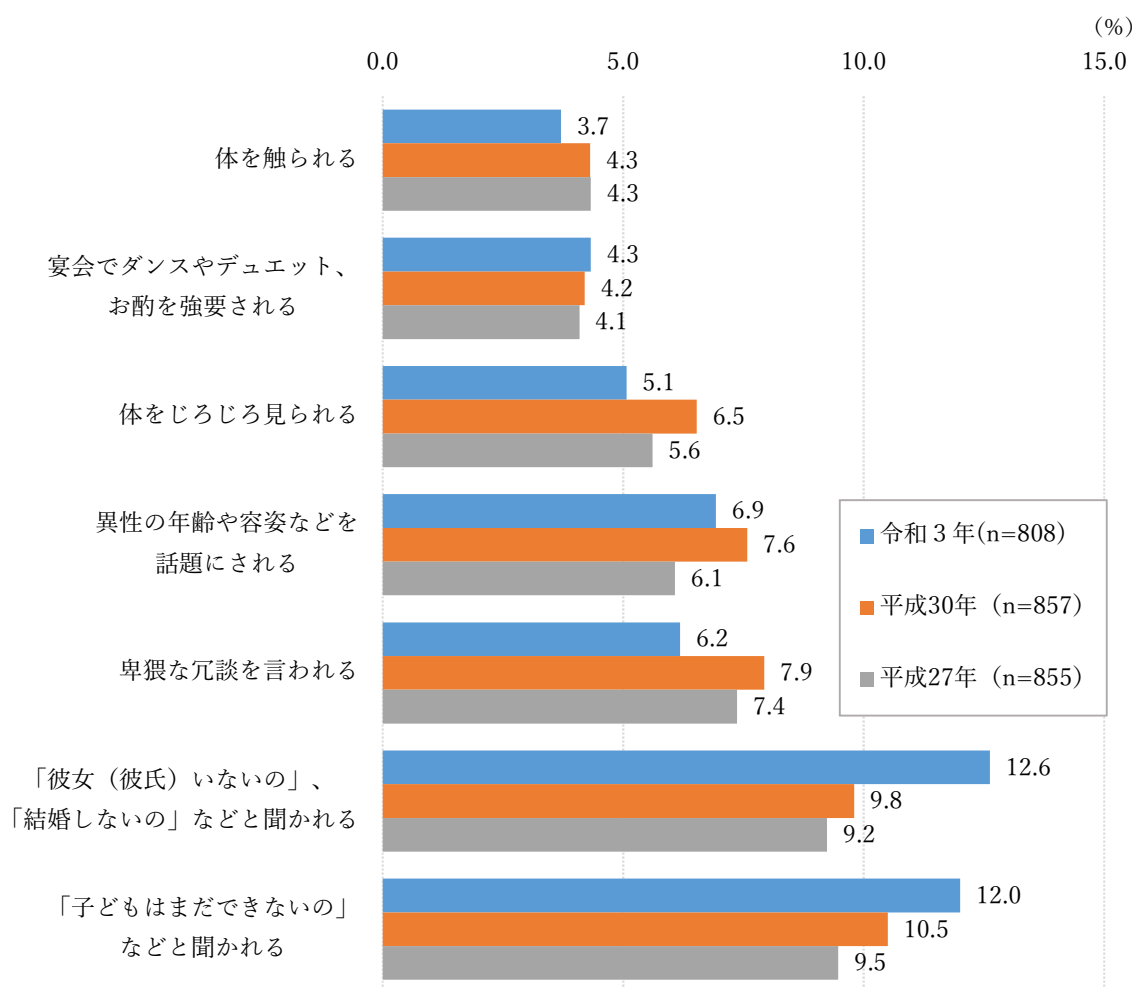
### 【全体】

地域においてセクハラだと感じることにについて、「『彼女（彼氏）いないの』、『結婚しないの』などと聞かれる」が12.6%と最も高く、次いで、「『子どもはまだできないの』などと聞かれる」が12.0%、「異性の年齢や容姿などを話題にされる」が6.9%などの順になっている。

### 【経年比較】

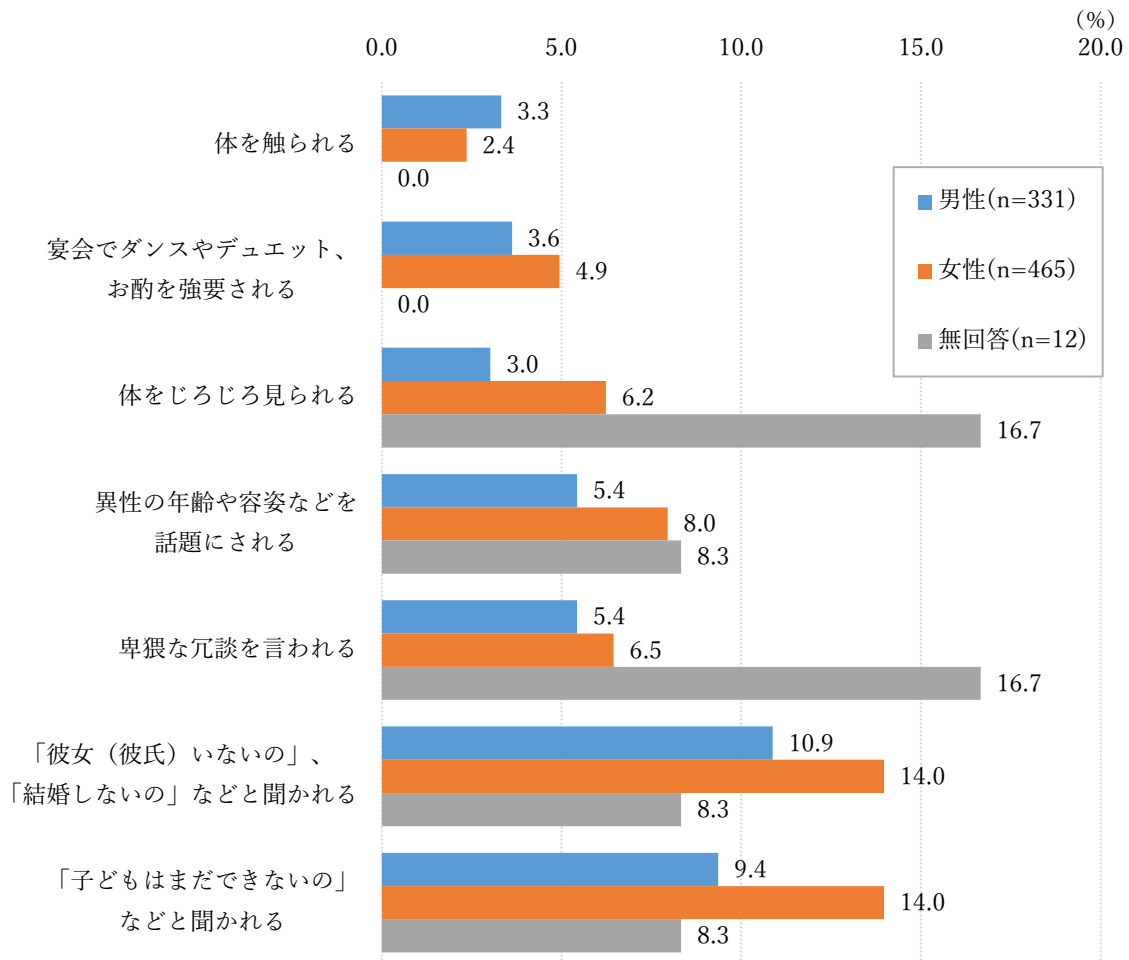
経年比較をみると、「宴会でダンスやデュエット、お酌を強要される」と「『彼女（彼氏）いないの』、『結婚しないの』などと聞かれる」、「『子どもはまだできないの』などと聞かれる」以外は、全て前回調査から減少している。

なお、「『彼女（彼氏）いないの』、『結婚しないの』などと聞かれる」は12.6%で前回調査と比べ2.8ポイント増加している。



## 【性別】

男女別でみると、「『子どもはまだできないの』などと聞かれる」は女性が14.0%で男性の9.4%より4.6ポイント、「『彼女（彼氏）いないの』、『結婚しないの』などと聞かれる」は女性が14.0%で男性の10.9%より3.1ポイント高くなっている。





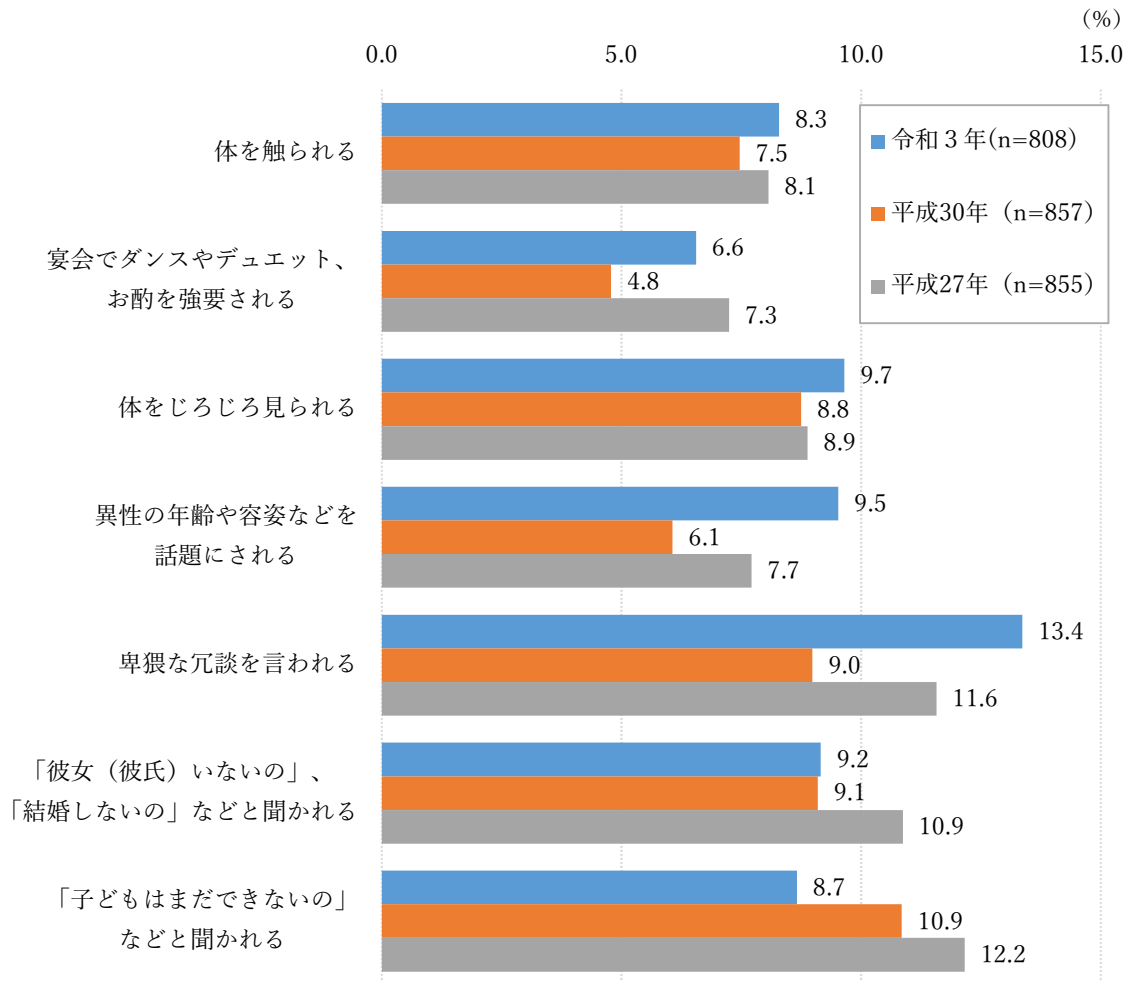
### ③ その他

#### 【全体】

その他においてセクハラだと感じることについて、「卑猥な冗談を言われる」が13.4%と最も高く、次いで、「体をじろじろ見られる」が9.7%、「異性の年齢や容姿などを話題にされる」が9.5%などの順になっている。

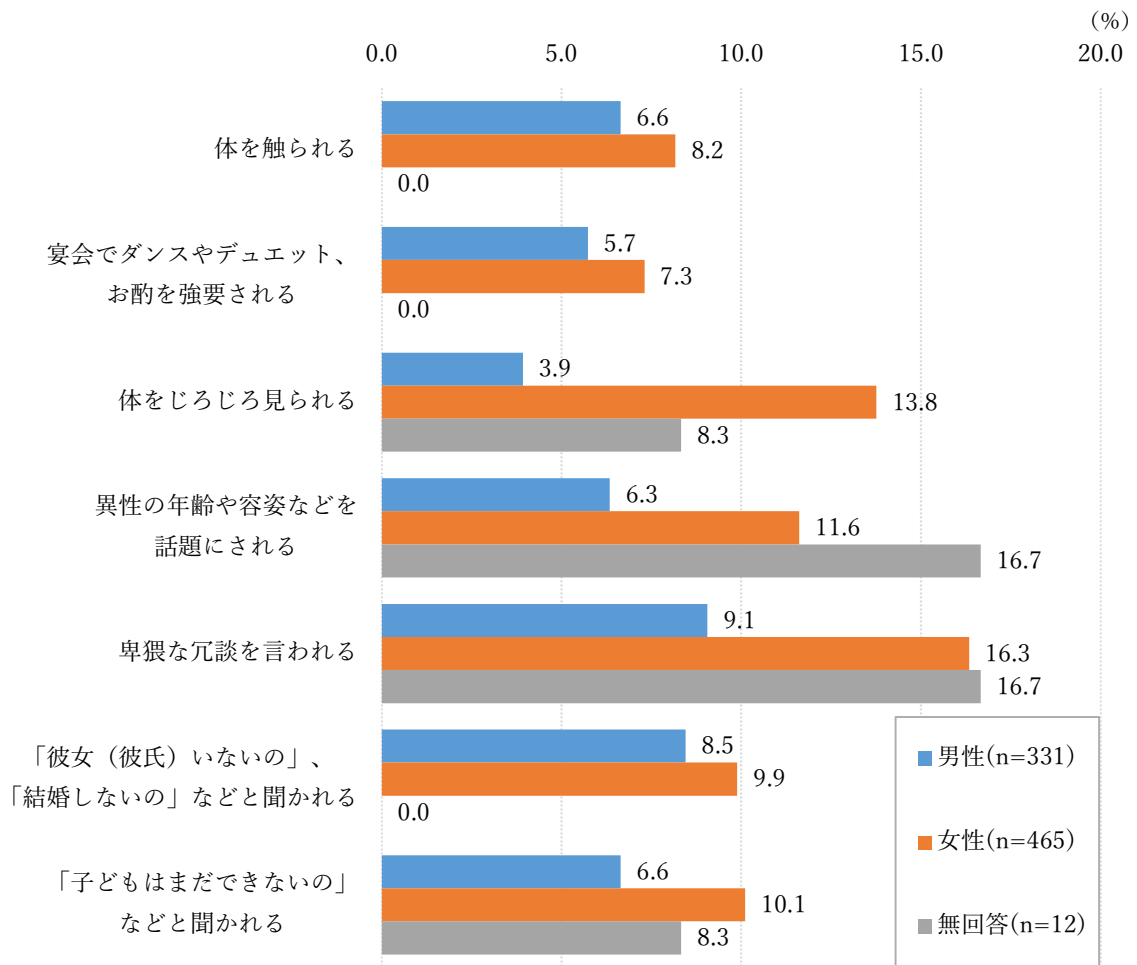
#### 【経年比較】

経年比較をみると、『『子どもはまだできないの』などと聞かれる』は8.7%で前回調査と比べ2.2ポイント減少している。それ以外では前回調査より増加している。



【性別】

男女別でみると、「体をじろじろ見られる」は女性が13.8%で男性の3.9%より9.9ポイント、「卑猥な冗談を言われる」は女性が16.3%で男性の9.1%より7.2ポイント、「異性の年齢や容姿などを話題にされる」は女性が11.6%で男性の6.3%より5.3ポイント高くなっている。



## 9. 男女共同参画社会づくりのための取組について

**【問25】** 男女共同参画社会を築いていくために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。

**【全体】**

市が今後力を入れていくべきことについて、「学校教育の場で男女の平等についての学習や人権教育を進める」が38.6%で最も高く、次いで、「保育施設や学童保育などの子どもを預かってくれる施設を充実する」が33.5%、「女性リーダーなど人材を育成する」が30.7%などの順になっている。

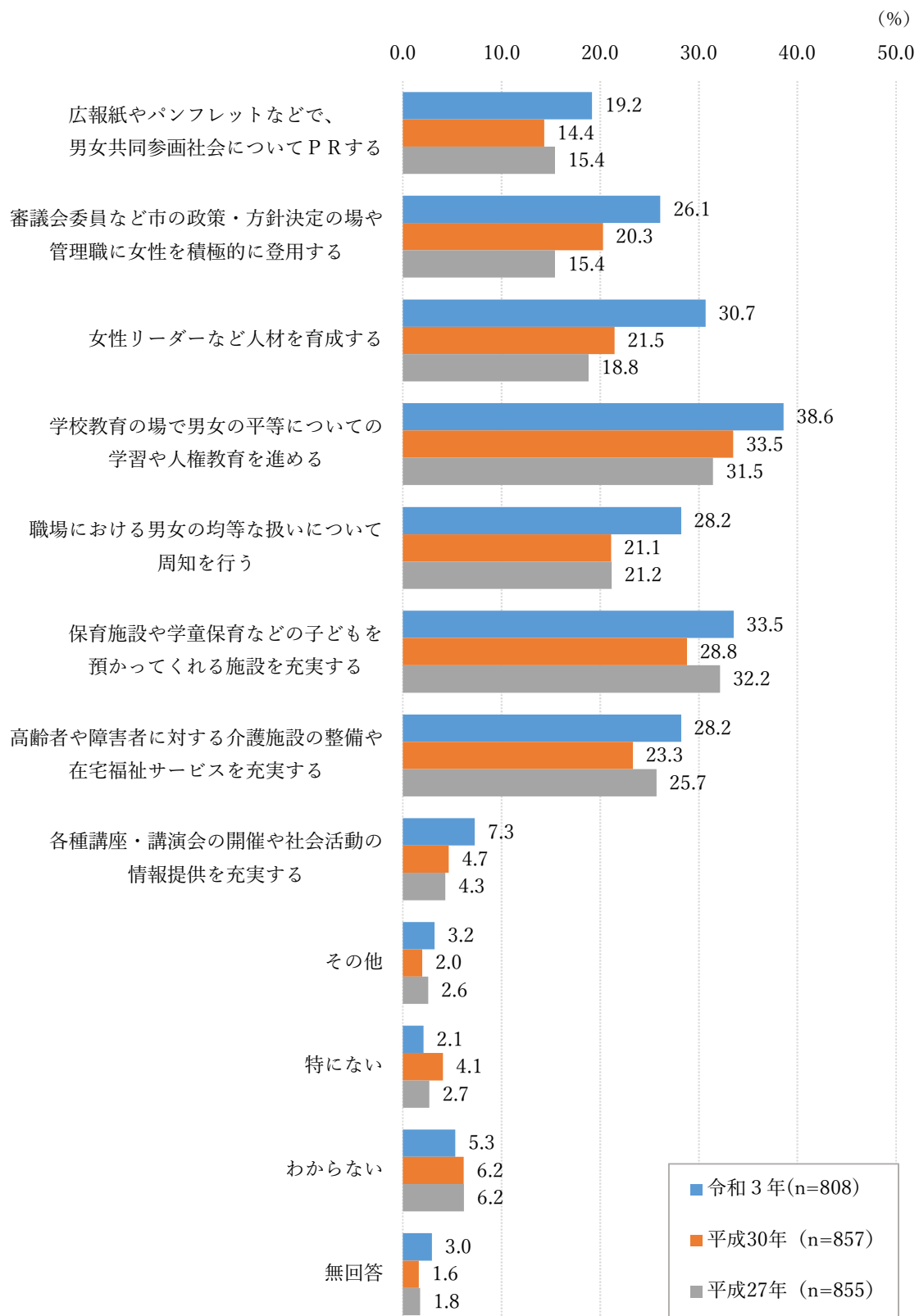
**【経年比較】**

経年比較をみると、「女性リーダーなど人材を育成する」が前回調査から9.2ポイント増加するなど、全ての項目について前回調査から増加している。

※平成27年、30年との選択肢違いあり（意味はほぼ同じだが、文面が一部違う）

1. 広報紙などのPR活動
2. 市政の場、管理職への女性の登用
3. 女性リーダーなど人材育成
4. 学校での男女平等の学習や人権教育
5. 職場での男女の均等について周知
6. 保育施設、学童施設の充実
7. 介護施設、在宅福祉サービスの充実
8. 講演会や社会活動の情報提供

★「○は2つまで」だが、2つ以上選択者多数。すべて結果に含めている。



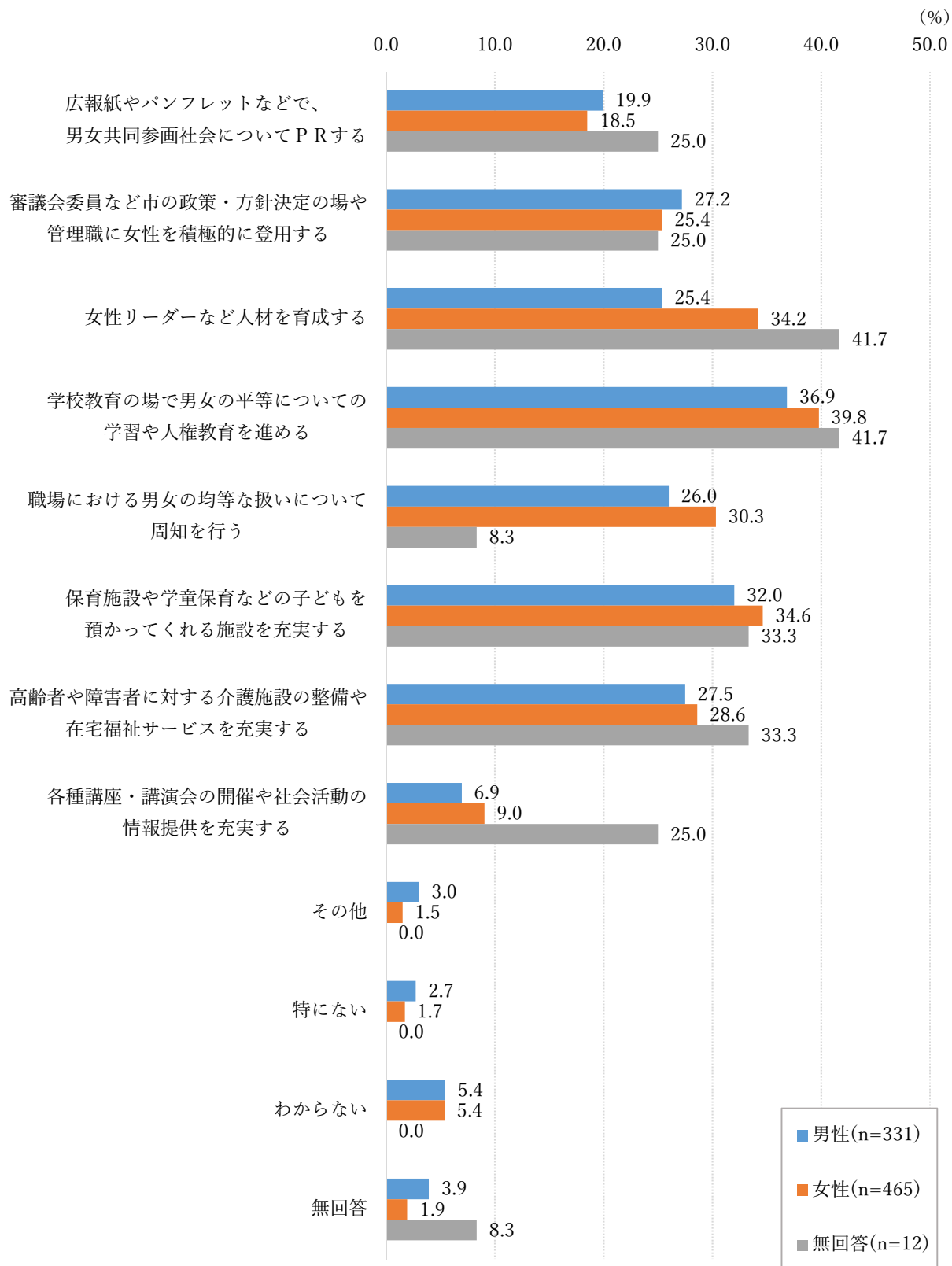
### 【その他の意見】

- 最近は、よく夫婦の方が協力し合っていると思うのでこれからの人達に充実を。
- 家庭で学べる環境づくり
- 年齢にとらわれず道徳(倫理)をとくべきかと思う。保育園・デイ・職場とか。
- 男性管理職の意識改革のためのセミナーを行う。
- 女性の発言を偏見なく認められる人材育成。
- 高齢者が男尊女卑や、高齢者優遇を唱えている所から再教育が必要なのではないかと思う。
- 市内全体(特に高齢者)への意識改革が必要だと思う。もう男女にこだわる時代ではない。
- 市民に届く制度やルールの情報発信
- 見本を体現させればよいと思う。「男女共同参画社会」の理念を知らない方が多い。PRでなく理念の教えを!!
- 性差も考慮した上で、無理のない政策を取り入れてほしい。
- 全ての施策において広報誌やパンフレットの配布は効果が低いと思う。
- 市議会で男女共同参画を積極的に扱う。
- ジェンダーフリートイレの設置
- 男女の身体的な違い。考え方の違い。機能の違いを学ぶ。同じことをやらせるのは生物学的に不平等。
- 人権の尊重は大事だが、「男だからできる事」「女だからできる事」が存在し、そこまで「平等」にこだわらなくても良いのでは?と感ずます。
- 簡単に情報が入る SNS を作る。
- 女性が働きやすい環境の充実。
- 男女と分けている時点で差別。
- 子育ては女性がすべきで暖かい家庭ですべき。介護も同じで、便利なコンビニ用品でなく心のこもったものを与えられる時間と余裕が持てるような財力が必要です。
- 保育士の給料を上げる。
- 保育の拡充と3世帯住みの推進
- 子供を預かってもらわなければ、できないということに少し違和感がある。結局は女性が子供とセットで見られている気がする。男性が時短にしてみてもいいのだし、祖父母も参加するべきだと思う。今の高齢者は若々しいが、自分の時間>孫なので、母親が追いつめられる。地域全体で子供を育てるなんて全くのキレイごと。
- 家庭内の嫁いびり、いじめは、親がやっている、まず親。それも70代の親、農家の親世代、70代から上が、バカなんだよ。
- 思い付く事はとりあえずやってみる。
- 質の向上
- この中から2つ以上あてはまる回答があるので、2つまでとする意味が分からない!!

【性別】

男女別でみると、「女性リーダーなど人材を育成する」は女性が 34.2%で男性の 25.4%より 8.8 ポイント高くなっている。

一方、「審議会委員など市の政策・方針決定の場や管理職に女性を積極的に登用する」は男性が 27.2%で女性の 25.4%より 1.8 ポイント高くなっている。



【問26】 市で取り組んでいる次の男女共同参画施策を知っていますか。

【全体】

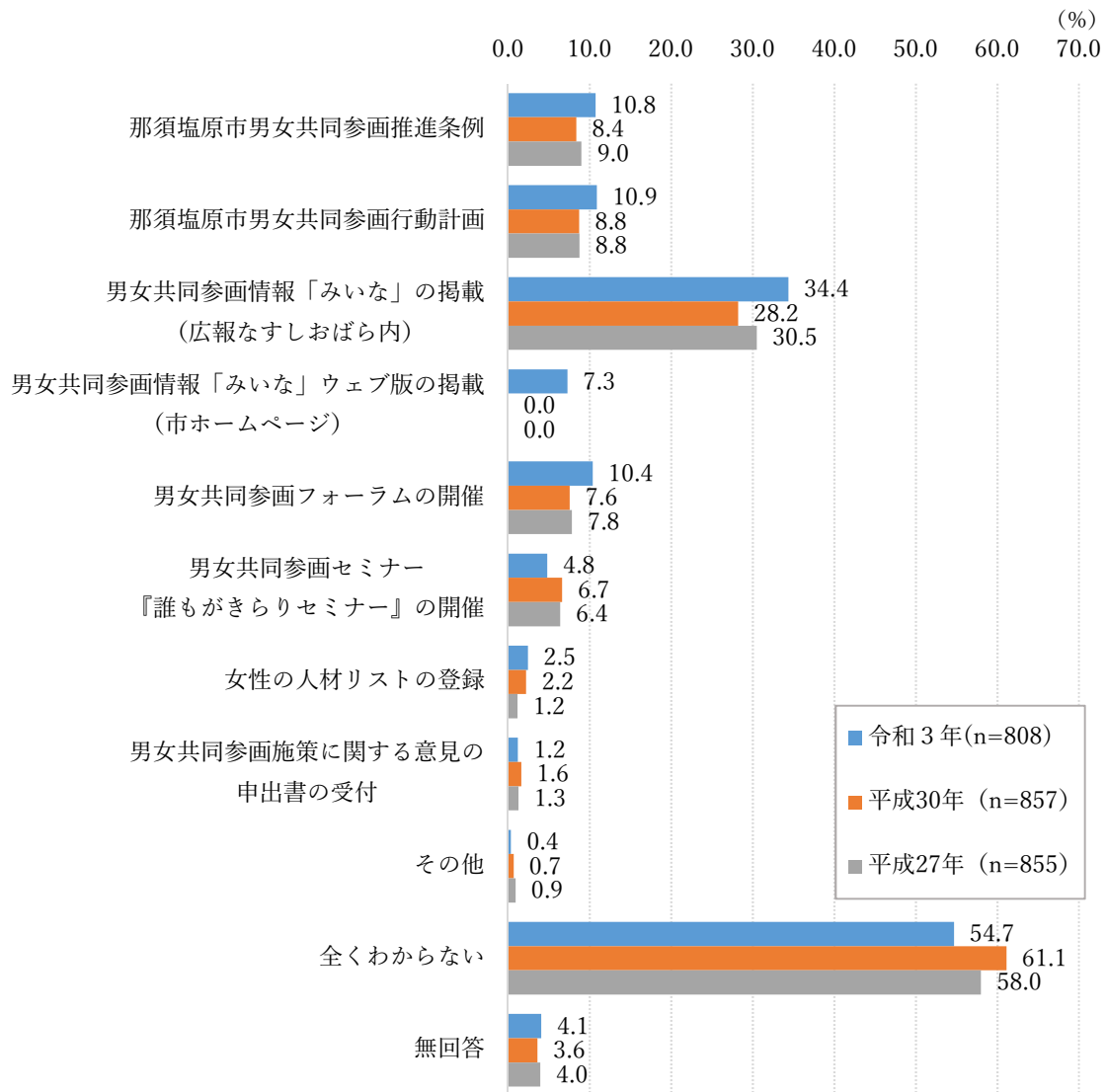
市で取り組んでいる男女共同参画施策の認知度について、「男女共同参画広報紙『みいな』の掲載（広報しおばら内）」は34.4%で最も高く、次いで、「那須塩原市男女共同参画行動計画」が10.9%、「那須塩原市男女共同参画推進条例」が10.8%などの順になっている。

【経年比較】

経年比較すると、「男女共同参画広報紙『みいな』の掲載」（広報なすしおばら内）」は常に高く前回調査から6.2ポイント増加している。

一方、「男女共同参画セミナー『誰もがきりりセミナー』の開催」は1.9ポイント減少している。

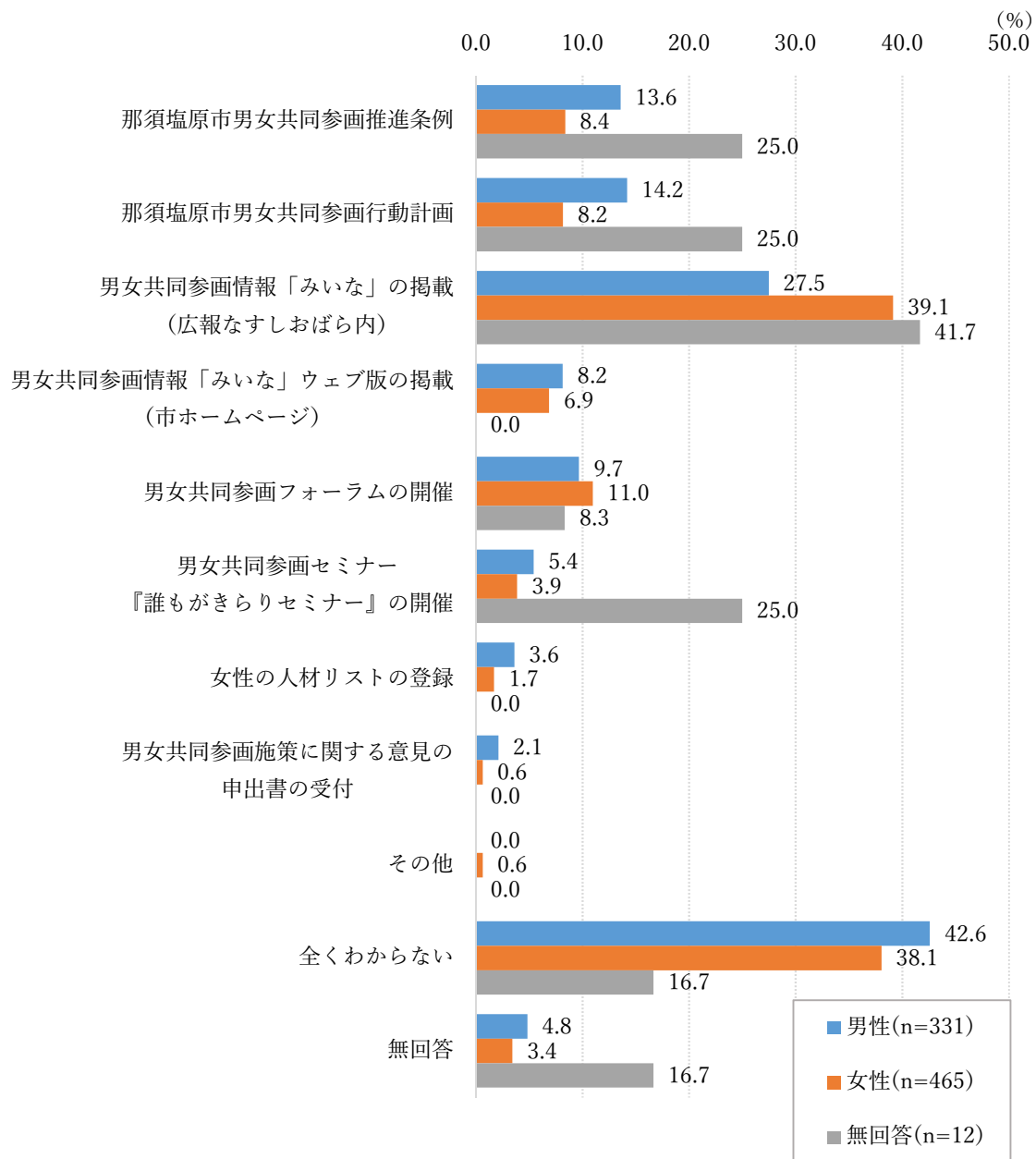
※平成27年、30年との選択肢違いあり（「男女共同参画情報「みいな」ウェブ版の掲載（市ホームページ）」なし、「ひとつでも知っている」と答えた人あり）



【性別】

性別で見ると、「男女共同参画情報『みいな』の掲載（広報なすしおばら内）」は女性が39.1%で男性の27.5%より11.6ポイント高くなっている。

一方、「那須塩原市男女共同参画行動計画」は男性が14.2%で女性の8.2%より6.0ポイント高くなっている。



【その他の意見】

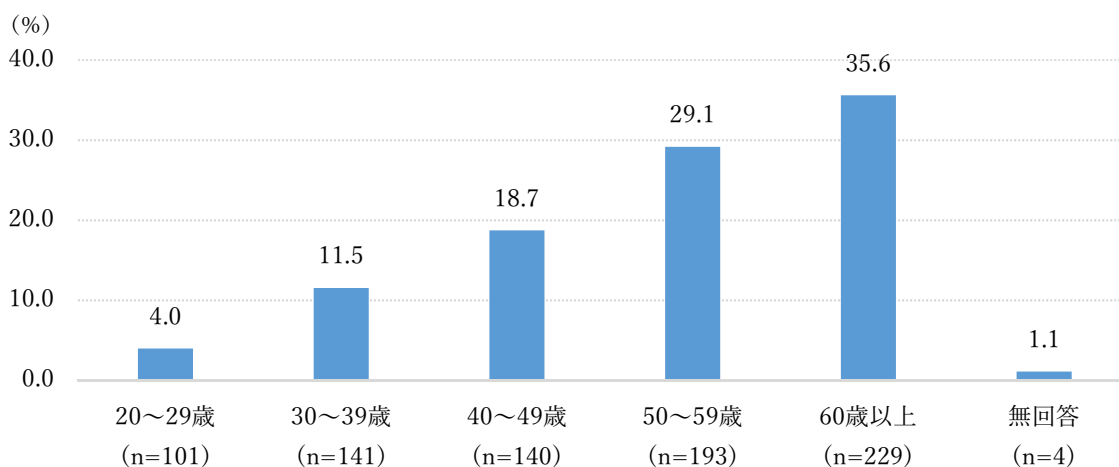
- 言葉は広報等で見かけるけれど内容は良く知らない。



## 男女共同参画広報誌「みいな」の認知度

### 【年代別】

「男女共同参画情報『みいな』の掲載（広報なすしおぼら内）」の認知度について、年代別で見ると、60歳以上が35.6%と最も高く、年齢が高くなるほど高くなっている。

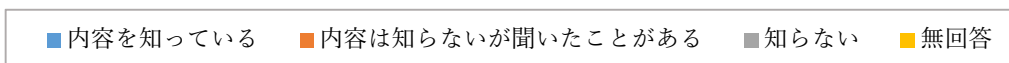
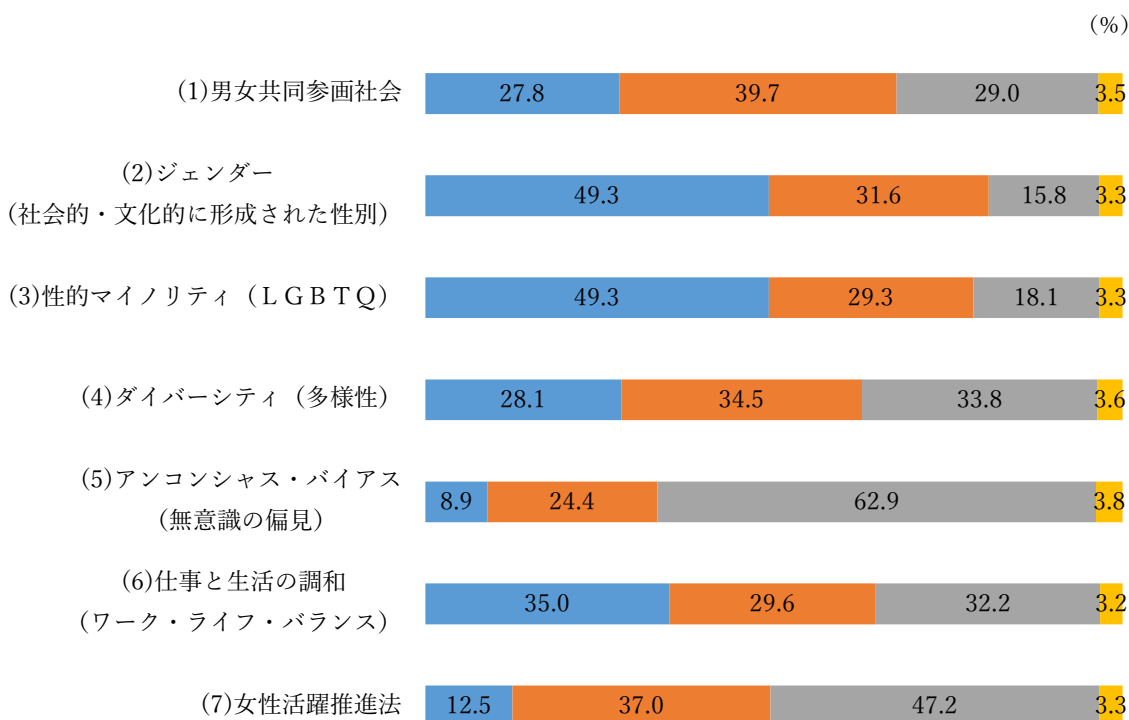


### 【問27】 男女共同参画に関する次の言葉について、どの程度知っていますか。

#### 【全体】

男女共同参画に関する言葉の認知度について、「内容を知っている」は「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」と「性的マイノリティ（LGBTQ）」が49.3%で最も高く、次いで、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」が35.0%などの順になっている。

一方、「知らない」は「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」が62.9%で最も高く、次いで、「女性活躍推進法」が47.2%などの順になっている。



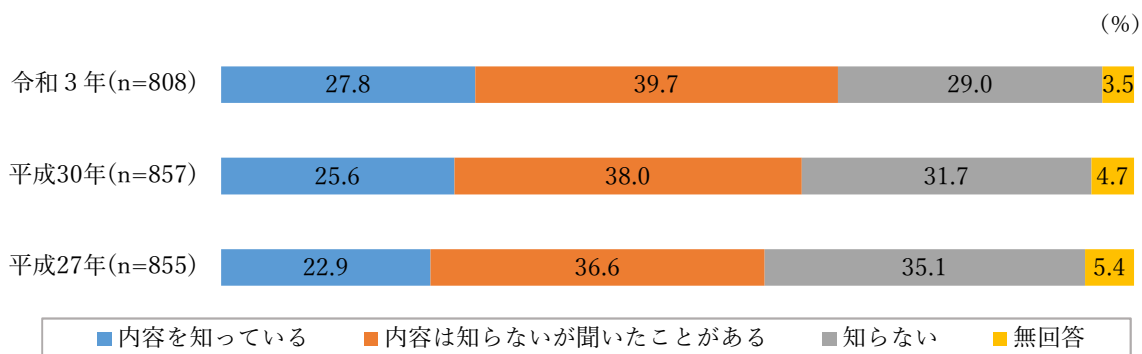
### 【経年比較】

経年比較すると、前回と同じ調査項目で「内容を知っている」は、4項目中で全ての項目が前回より高くなっている。

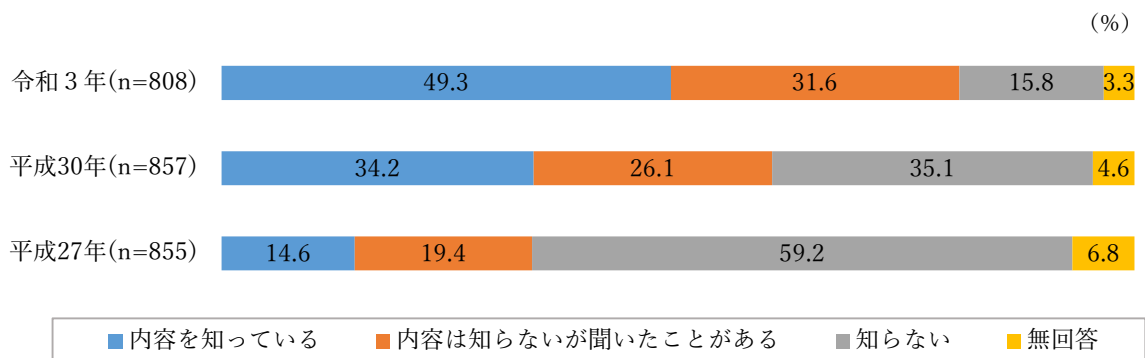
今回、新たな調査項目で「内容を知っている」と回答した割合は、「性的マイノリティ(LGBTQ)」が49.3%と高くなっている。

一方、「アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)」は8.9%、「女性活躍推進法」は12.5%と低い割合になっている

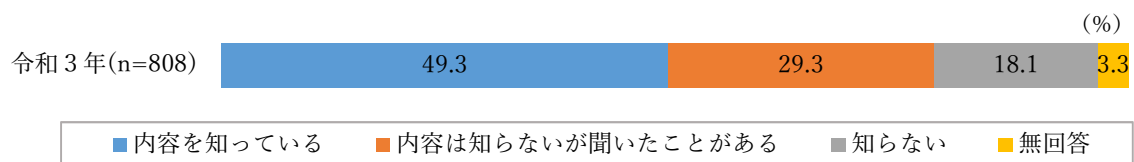
#### ① 男女共同参画社会



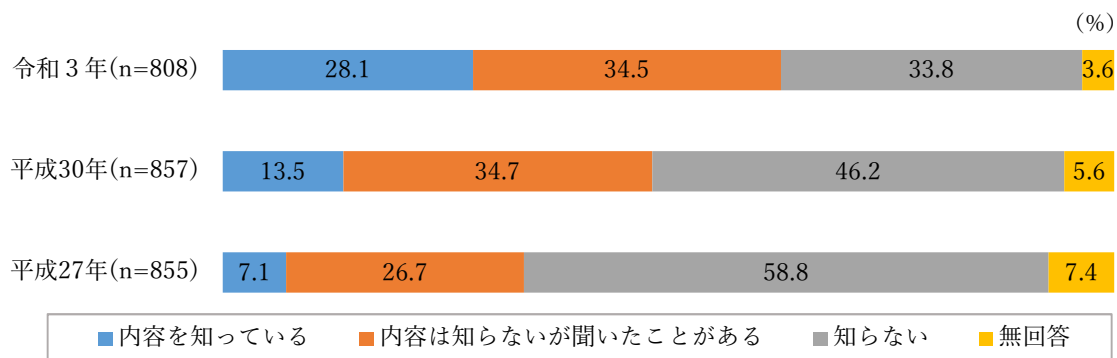
#### ② ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)



#### ③ 性的マイノリティ(LGBTQ)



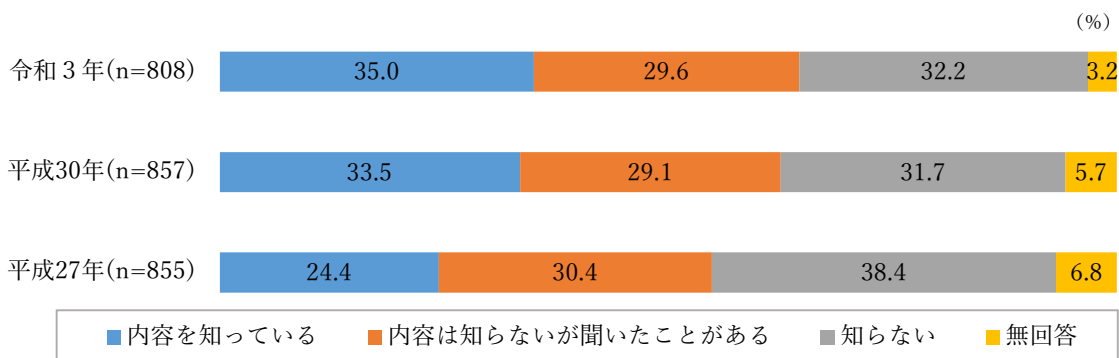
④ ダイバーシティ（多様性）



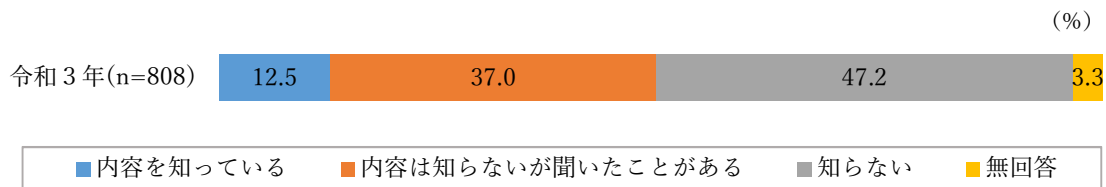
⑤ アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）



⑥ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）



⑦ 女性活躍推進法



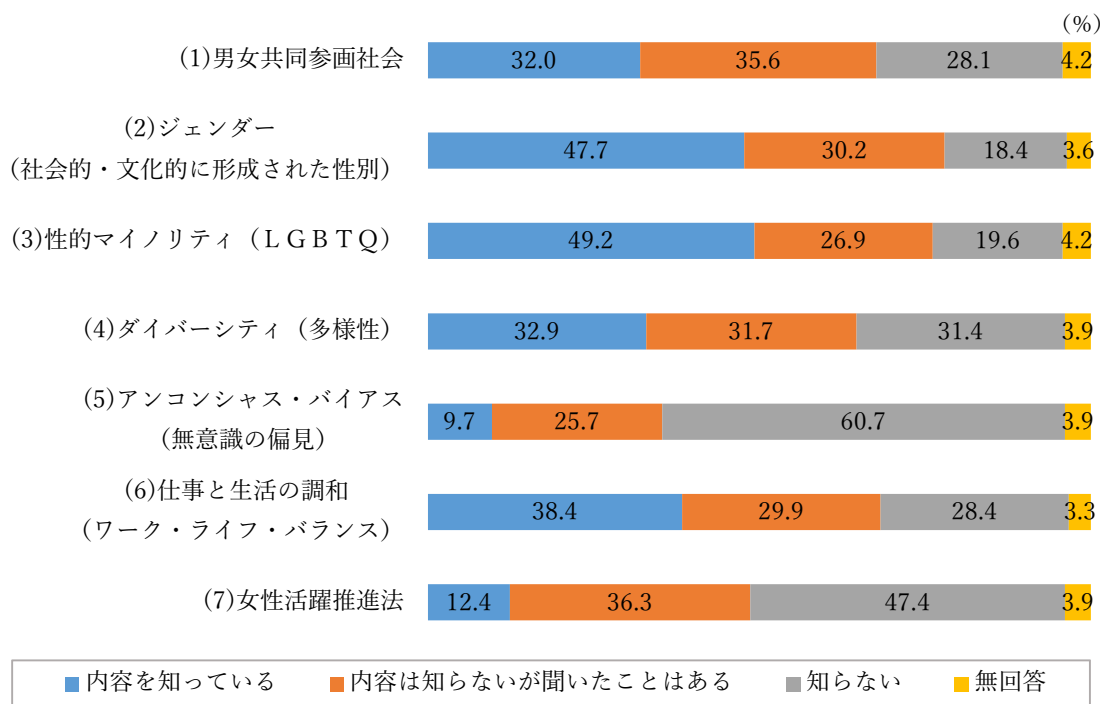
## 【性別】

男女別でみると、「内容を知っている」と回答した人の割合は、どの項目も男性と女性で似通った割合となっている。

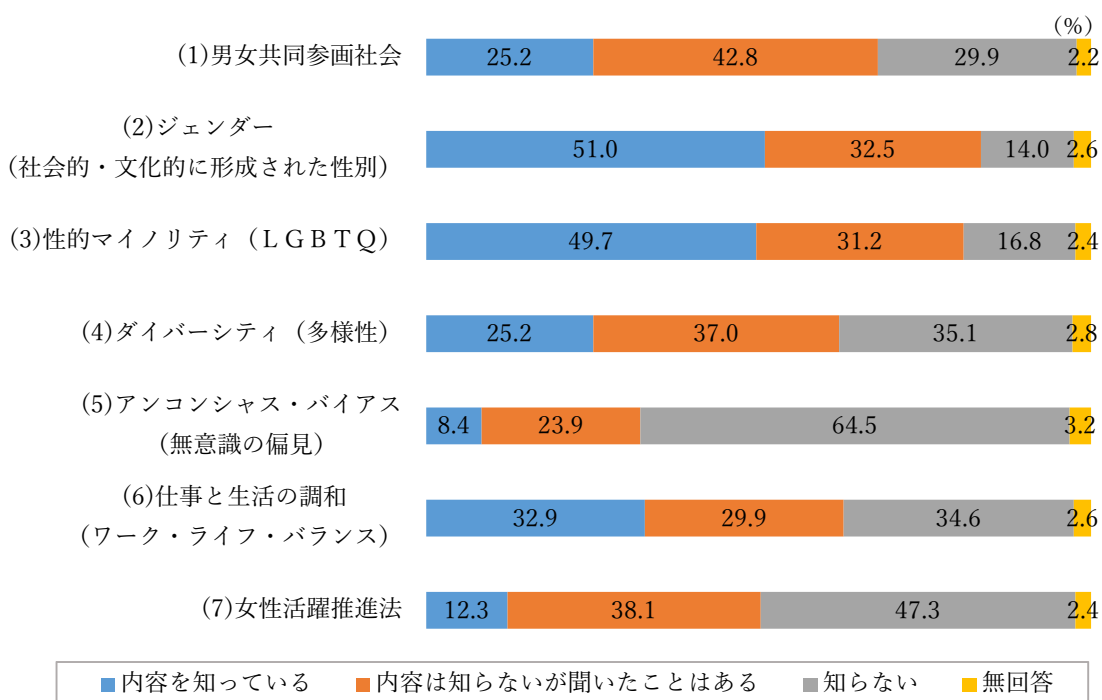
「内容を知っている」と回答した人の割合で、「ジェンダー（社会的・文化的に形成された生物）」と「性的マイノリティ（LGBTQ）」は、5割近くになっている。

一方、「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」は、1割を下回っている。

### 男性



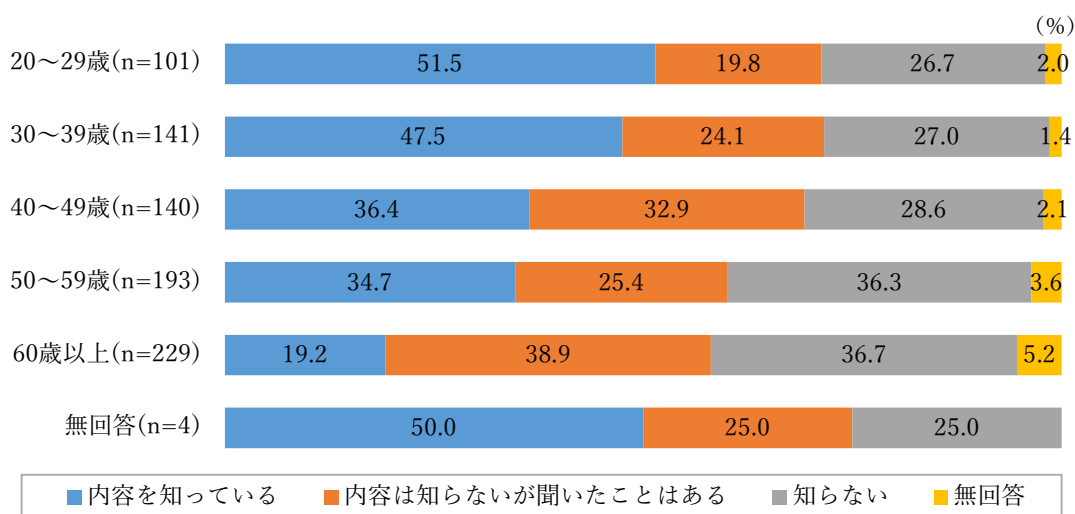
### 女性



## 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の認知度

### 【年代別】

仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の認知度を年代別でみると、20～29歳が51.5%と最も高く、年齢が低くなるほど高くなっている。



## ※男女共同参画社会づくりについてのご意見ご要望

### <感想>

- 職場では進んできていると思います!! 市の PR も盛んだと思います!! このまま歩みを止めないで下さい!!
- アンケートに答えて、知らない事が沢山あることを知りました。私は高齢者に入る年齢です。きっと若者たちが社会を変えていくことでしょう。コロナの影響も過大でしょう。人間が生きていく上で平等は理想であるが、難しい所でもある。推進課の方々、大変ご苦勞様です。
- 「みいな」はよく読んでいます。高校生が参加することで早くから興味を持ってもらうのは大変良いと思います。若い人がまた那須塩原市にもどって働いたりして活性して欲しいと思います。
- 課題を明確にしてデータ分析を行い、行動計画を策定してください。男女の人数合わせはやめてください。本件と DV・セクハラとの関係がわからない。女性の社会進出（貢献）、家庭収入、育児のベネフィットを深く探るアンケート調査が必要。なぜ社会進出が難しいと考えるか？個人の意識の問題かもしれない。
- 誰でもわかる言葉、誰もが周知する活動と希望。ボディタッチや体形、容姿で会話をもととする職場や町内に良い社会づくりには遠いと今、現に思います。
- 質問自体ナンセンスなところ多かったです。まさにアンコンシャス・バイアス！よりよい那須塩原市になるように頑張りましょう。応援しています。
- 私は仕事も介護も子育てもだいたい昔の事で、私の意見は古臭いかもしれません。ただ言えることは、「自分の子供です。自分の親です」 責任を持つべきです。すべてお金で解決してはいけないと思います。今、この時は何が重要かを見極めることが必要で、他人に頼ることではなく意識を持つべきだと思います。
- まずは1人ひとりの多様性を認め合える世の中に変わっていけたら、男女共同参画社会もすんなりと始まるんじゃないかな、と思う今日この頃です。

- 無理に平等にこだわらず、それぞれが人として尊重しあえることができたらいいと思います。
- 管理職や政治家にクォーター制の導入など、無理にでも女性を登用すべき。女性がリーダーになる意欲が低かったり、経済的にパートナーを支える意識が低かったりすることを明らかにしている調査もある。女性に社会的な責任を負って貰うことを制度設計によって達成すべき。そもそも、政治も仕事も“面倒なこと”と大多数の人間が認識している世の中で、その場に女性が少ないのは却って女性が優遇されている証左だと言えるのでは。
- 「男女共同参画社会づくり」の言葉が堅すぎますね。
- "炊事洗濯はお母さんの仕事というような男女の役割分担、ピンク色は女の子、ブルーは男の子などの決めつけは知らず知らずのうちに植え付けられてしまっています。男女の差無く子どもを育てたいと思っても、周りの友達の影響や、テレビなどのメディアで刷り込みをされてしまい、我が子にジェンダーに対する平等な感覚を持たせることは非常に困難なことです。
- 学校生活の中でも、繰り返し教育して欲しいです。
- 3~5歳児時代での教育が大切だと思います。
- 日々精進 疲れたら休むべし。
- 各自の意見を尊重したいと思います。
- せめて、性の違いで生きづらさを感じる人がいないよう、認め合える社会になるといいと思っています。"
- 男女共同参画の施策があるとは思えない位、年配の男性の女性に対する態度が前時代的に感じます。田舎の慣習があるのかも知れませんが、自治会において感じた事がございます。せっかく、都内から移住、通勤が可能であり、更に育児に最適な環境の中、大変残念に感じました。
- 特にこのような形でアンケートを取らなくても、男女共同が当たり前のこととして認識されるのが望ましいと思います。私達の世代は戦後の教育を受けていますが、それは男女平等であり、民主主義です。少数派の意見を最大限に配慮しながら、最終的な意見を取り纏める。多様な価値観を認め合いながら、押し付けることなく、共存できる社会が望ましいと考えます。DVなどが問題になるのは男女共同参画以前の問題で、それだけ社会が荒んでいるのだと考えます。また、市内の企業経営者の意識は低すぎると感じます。有給休暇の取得を義務付けないと取得ができないような社会とは、それだけ経営者や他の従業員の意識が低すぎるのだと思います。男女平等、男女共同参画に異議を唱えるつもりはありませんが、実現までにはかなりの時間を要するものと思います。まだまだ日本の社会は那須塩原市を含めて意識の上では発展途上にあるものと思います。できることから少しずつ進めれば良いものと思います。
- LGBTQなど自身が感じたことのない部分を意識するのは難しい。若い時になかった考え等を正しく学ぶ場がないので、きちんと子どもや次の世代に伝えていけるか不安も感じるので、普及啓発は必要だと思う。
- 保育園に預けて仕事にばかり力を入れても、子どもはまっすぐ育ちません。その影響は男女共同参画社会とは別なところで大きな問題として表れると思います。
- "女性が働きやすい社会、という流れになっていますが、子どもの存在を無碍には行けないと思います。親子の時間をたっぷりととれることが必要です。(母であっても父であっても)

#### <提案>

- 男性は、女性の気持ちになって体験をしてみる。(例えば、お嫁さんの立場や子育てをしているお母さんなどの1日体験とか) 逆の立場もあってもよい。北欧など、うまくいっている国の例を見せる機会を作ったりしてほしいと思います。
- 管理職にどんどん女性を登用しましょう。
- 男性の方が～、女性の方が～に○をつけたところがありますが、どんなところがという事を深掘してくれると回答者としてはすっきりします。(様々な点を相殺してどちらかと言えばに○をつけているので) 集計は大変かと思いますが、その方がよりその項目の真意に近づけると思いました。
- 学校においてこれ以上指導するような内容を増やすことはやめてほしい。それ以外の方法でそういう社会を作れるようにしてほしい。
- 男女が平等に生きていくことは生物学的にも不可能なのだから、そんなことよりも、子どもをみんなでどう育てていくかに力を入れた方が日本の未来は明るいのではないかと思ってしまう。待機児童ゼロよりも、保育の必要な子をゼロにしたいです。子どもが家庭でたっぷり愛情を受けられる時間を持てるような支援をお願いします。"
- 何処の企業も昔の様に年中無休を辞め土日祝は休みを取り家族との時間が増えたり近所の方などと触れ合う時間が出来たりする事が子供を見守れたり、お年寄りを見守れたり、自然に社会環境も良くなるのではと、理想ですが希望致します。

#### <市、アンケートへの指摘>

- 問 27(7)女性活躍推進法を問う自体アンコンシャス・バイアスの典型的事例なのではないですか？
- 質問項目多いので少なく(重要項目のみに)してほしい。
- 個人的にはとても意図的で、得体の知れない思想のような意味不明なアンケートでした。(特に後半) 男女はもちろん同権ですが、どちらか一方に生まれた時から平等ではないです。その辺は、日本古来の伝統的な古事記を分かり易く学校で教育した方が日本の生活様式にとっても合い、良い方向に向かうと思います。正直、怒りさえ覚えたアンケートです。色々な陳情があるにも関わらず、アンケートを送り付けてまでの優先事項ですか？ こんな訳の分からないものに税金を使って利権を生み出すなら、税金も払うのが困難な状況で、生活苦で困っている人達がたくさんいますよ?どんな人達がかかわっているのか、予算はいくら使うか情報を開示してもらいたいです。そして、最低限せめてこのアンケートの代案者の名前くらいは載せてください。
- 男性が地域社会に協力すると役職(～長など)をつけられるから、女性が参加するという家庭が多い。(自分もです。)なので、学校や地域の役職について、市から男女を問わず、もしくは男女同数等の要望を出して積極的に男性への参画を促した方が有効だと感じます。
- 地方では職場や仕事の場より地域や自治会における差別・いじめが目立つ。(性別・年齢問わず)
- ある程度の年齢がいつてしまってからでは、人権を尊重とか男女平等にとかとても無理だと思います。小学校からの教育が一番だと思います。
- 男女共同参画推進行動計画等も 20 年以上前から行ってきましたが、大きな進歩がない！なぜですか？日本国が悪いのかな？政治家、若い市長、頑張ってください。

- 沢山の方が生活することに追われこのテーマ自体に興味が多いとは思いません。
- このアンケート質問を集計しても大した意味があるとは思えない。想定できる選択肢しかなく、傾向はほぼ推定できるのではないか。この集計、前回結果との比較をして、それが施策に反映できるとは思えない。

#### <男女平等とは>

- 給与の男女平等といいますが、実際は、男性の給与は減り女性はやや増え、結果共働きをしなければ生活が難しいという状況です(結婚した場合)。そのため、男性は自分の生活に手いっぱいでは結婚願望がありませんし、女性はなんとか1人で生活できるから結婚願望がわきません。女性は、出産育児を考えると男性(夫)の収入だけで家庭が持てることの方が理想です。
- 女性が社会に出て働くことはとても素晴らしいことだと思いますが、子育て中にバリバリ働くことで、その犠牲となっているのは子供です。保育園で親の代わりにすることは、不可能です。親でなければ出来ないことがたくさんあります。仕事を持つことで子供を産まない選択をする方もたくさんいると思います。そこのバランスがとれる社会・地域になってほしいと思います。育ちの中で心が貧しいとDVや虐待に繋がります。
- 女性が政策方針等について意見を述べてそれが回りの男性社会に受け入れられて、実行に移される過程の中で、女性が自信を深めていける社会国土があれば女性は活躍できる。ただ、その新しい枠組みを作り上げていけるかは、男性の理解が必要になる。男性の価値観によって社会をみている。それが全てでない事を悟る必要があるが、多くの男性は日本の古い観念の中で幼少期から浸っているので女性の考え方(違う視点脳の仕組み)を理解できない。つまり、女性を見下してしまう風土があり、女性の勇気とエネルギーを奪ってしまう。それは、社会でも家庭の中でも男性がつくりあげてきた社会なのだから。
- 現在なんでもかんでも男女平等と言っているが、植物はオバナ・メバナ、魚もオス・メス、動物もオス・メスの2種類がいる。その2種類はお互いの違いを補い合い共存して生活をしている。人間も男女違う2種類の人間がいるように、互いの違いを補い合い、その上での男女平等・共同を考えた社会作を行うべきなのでは？
- 男女は平等だが性差(男らしく・女らしく)は失ってほしくない。男らしさ女らしさをふまえた上での平等。
- "男性だから・女性だからという理由で対応を変えるのは良くない。つまり真の「男女共同参画社会」や「男女平等」を実現させるためには女性を過度に優遇する対応をするべきではない。それは今後のノーマライゼーションやインクルーシヴ社会を発展させる上で矛盾や障壁を生じさせることとなるからである。
- 飛行機のパイロットは男女共に門戸を開いているが、実際は女性が入学することはほぼ無いと云う。女性は機会を操作することが好きではないから。こういう所に男女共同参画という名目で、無理やり女性をあてがうのはいかがなものか？そういう風潮になってほしくない。男女の区別はあっても良いと思う。性が違うのだから、すべて同じというわけにはいかない。
- 男女の特性を無視して単純に同じ仕事をさせるべきではなく、性差・個人差も含めて推進してほしい。家庭の事情等で働けない人達を追いつめるような画一的な広報は控えてほしい。PTAや自治体の活動等、スリム化するよう行政から呼びかけてほしいです。(防災や見守り等最低限にすべき)



- 権利を尊重させることが第一ではあるが、男性だから得意として出来ることや女性ならではの長所など、それぞれを活かす社会こそが本当の意味での男女共同参画社会ではないかと考えます。"
- 結局は男性の考えた男性側の話のように感じる。子供を産む為の期間(休職)の生産性のない者のような扱い。違うと思う。1人の人間を産み育てる。これ以上ない生産なのでは。社会に根深く男尊女卑が残っている。母子の肩身の狭さを体験もせずに、保育施設を増やせばいいと思うのは違うと思う。子供と安心して一緒に過ごしたいのだ。育児は立派な仕事なのだ。役人に無駄な金を払うくらいなら、育児に対して賃金を支払う位の本気が見てみたい。天下り等々腹立たしい。
- こんな事をして世の中変わらない。自分で自分の人生変えなきゃ何も変わらない。税金ばっかり。お金ないから働いてばかり。ここから益々少子化の時代にもなるでしょうね。出産費用も、結果親が出していますとか聞きます。高い。無料で良い。
- 男性の方が「収益を上げる」世の中である限り、本当には変わらない。
- 男女平等で社会に参加することは大切ではあるが、小さい子を預けっぱなしにならないよう。その為に子供が特性にならないよう、小さいうちは自分の子供とかかわる時間は大切だと思う。どちらを優先にするかはその人の考え方ではあるが、親になる為の時間、かかわりが大切だと思う。
- 性別に関して悩んだり困ったりしている人がいるのは十分わかるのですが、だからといって世の中全体が「男女平等」「性別関係なく」と考えすぎると「男性」「女性」というものがなくなってしまうのでは？と疑問に思う。もちろん差別は良くないが、人が生きていく中で男性と女性が必要なのは昔から変わらないものなので、それぞれの考えがみんなあるということでは？

#### <その他>

- 主人が定年後、座っていても食事が出る夢の時間は終わったと告げ、食事作り等、教育を始めました。本当なら60歳過ぎてから学ぶので事では無いのですが、「仕事があるから」で逃げていた事、見過ごしていた事お互い反省の日々です。
- 活動の意識下に体现している、必要とされている等、体感があればよい。そして自発的行動につながれば良いと思う。
- 若者が参加し、老害者は否定しないで聞く事。
- 今はとりあえずワクチンを打ちたい。予約も出来ない。
- 行動で示さなくとも言葉の暴力の場合がある。これも一つの暴力だと思います。一言付け加えます。年代的になぜ当私を選んだのか。もう、老後の年齢なのに、もっと若い世代にしてください。配偶者もいないのにDVや結婚等のアンケートは無理。回答の余地がない。職業を通し男女の事は嫌というほど良し悪しで経験してきました。その中で話ならいくらでも話できますよ。活字よりも肉声の方が良い時もあります。その様な場ならいくらでも御協力します。

## 令和3年度 男女共同参画社会に関する市民意識調査

### 【アンケートご協力のお願い】



日頃から、市政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。  
那須塩原市では、平成 29年に策定した「第3次那須塩原市男女共同参画行動計画」により、男女共同参画社会の実現に向けて様々な取り組みを行っております。

このアンケートは、次期「第4次那須塩原市男女共同参画行動計画」を策定するため、市民の皆さまのご意見をお聞かせいただき、次期計画の取り組みに反映させるために実施するものです。

那須塩原市にお住まいの20歳以上の方から、2,000人を無作為に選ばせていただきましたところ、あなた様にアンケートをお願いすることになりました。お答えは、すべて無記名で処理しますので、回答者が特定されることはありません。

お忙しいとは存じますが、より良い男女共同参画社会とするため、ご協力のほどお願い申し上げます。

令和3年8月

那須塩原市長

【自筆】



### アンケートご記入にあたってのお願い

1. 宛名のご本人がお答えください。
2. この調査は、市ホームページから回答することもできます。インターネット環境が整っている方は、是非ご利用ください。（調査票の送付は不要です。）
3. お答えは、1つだけ回答するものと、複数（あてはまるものすべて）回答するものがありますので、説明に添って回答してください。  
調査票にご記入の際は、番号を囲むように「○印」をつけてください。
4. お答えが「その他」の場合は、（ ）内に具体的に記入してください。



※ご記入後は、同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、

8月31日（火）までに郵便ポストに投函してください。

※市ホームページからご回答する場合は、郵送不要です。

市ホームページからご回答される場合は、以下のQRコード又はURLからアクセスしてください。

【<http://www.city.nasushiobara.lg.jp/04/10145.html>】



お問い合わせ先

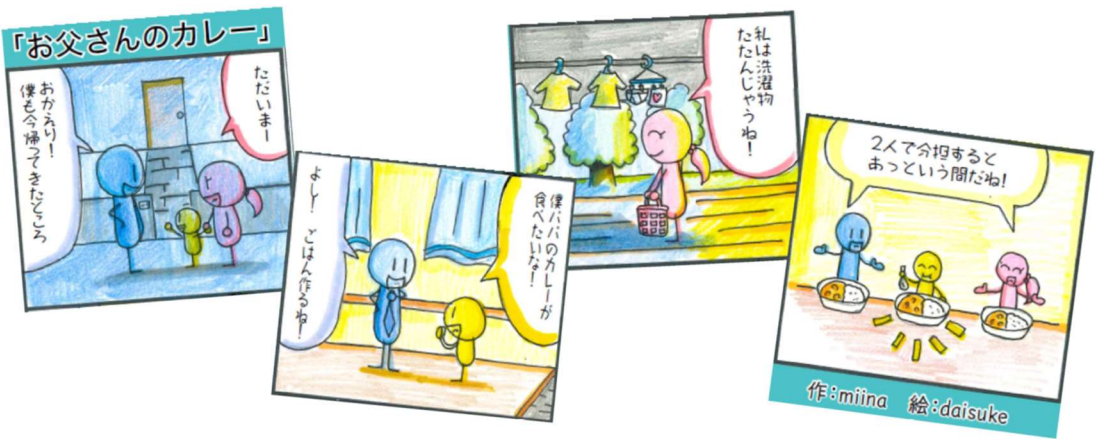
那須塩原市企画部 市民協働推進課男女共同参画係

電話：0287-62-7019 FAX：0287-62-7220

**あなたご自身のことについてお伺いします**

統計処理上必要ですので、それぞれについて、あてはまるものを1つずつお選びください。  
**(○は1つずつ)**

性 別	1 男性    2 女性    3 (                    )
年 齢	1 20～29歳    2 30～39歳    3 40～49歳 4 50～59歳    5 60歳以上
結 婚	1 未婚    2 既婚 (事実婚を含む)    3 離別または死別 ↓ ※2 既婚の方のみお答えください 1 夫婦とも働いている    2 夫だけ働いている    3 妻だけ働いている 4 夫婦とも働いていない
世帯構成	1 単身世帯    2 一世代世帯 (夫婦のみ)    3 二世帯世帯 (親と子) ↓ 4 三世帯世帯 (親と子と孫)    5 その他の世帯
同 居	※世帯構成で「2」～「5」と回答した方のみお答えください あなたの世帯では、あなたを含めて次の方と同居していますか。 (あてはまるものすべてに○) 1 6歳以下のお子さん    2 70歳以上の高齢者
職 業	※兼業の方は主となる職業を1つだけお答えください 【自営業】 1 商工サービス業    2 農林水産業    3 自由業 (文筆業など) 【勤め人】 4 常勤職員、社員など    5 臨時職員、パート、アルバイトなど 【その他】 6 専業主婦、主夫    7 学生    8 無職    9 その他 (                    )



## 男女平等についてお伺いします

【問1】 あなたは、現在、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の（１）～（８）のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものをお選びください。（それぞれ1つずつに○）

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
（１）家庭生活	1	2	3	4	5	6
（２）職場	1	2	3	4	5	6
（３）学校教育	1	2	3	4	5	6
（４）自治会などの地域社会	1	2	3	4	5	6
（５）社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6
（６）政治の場	1	2	3	4	5	6
（７）法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
（８）社会全体	1	2	3	4	5	6

【問2】 勤め人の方におたずねします。（1ページの職業欄が4及び5の方）

あなたの職場では、次の（１）～（７）のことがらについて、男女平等になっていると思いますか。それぞれについてお選びください。（それぞれ1つずつに○）

	男性の方が優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	わからない
（１）募集や採用の条件	1	2	3	4	5	6
（２）人事配置や昇進	1	2	3	4	5	6
（３）教育や研修制度	1	2	3	4	5	6
（４）福利厚生	1	2	3	4	5	6
（５）定年、退職、解雇	1	2	3	4	5	6
（６）賃金	1	2	3	4	5	6
（７）仕事の内容	1	2	3	4	5	6

【問3】 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、あなたはどのように思いますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものをお選びください。(○は1つだけ)

- |                                    |  |
|------------------------------------|--|
| 1 男は仕事、女は家庭にいるのがよい                 |  |
| 2 男女とも仕事をもち、家庭のことも責任を分担するのがよい      |  |
| 3 男女とも仕事をもち、家庭のことは女性が責任をもつのがよい     |  |
| 4 男女の役割は固定せずに、男女どちらかが仕事をして家庭にいてもよい |  |
| 5 その他 ( )                          |  |
| 6 わからない                            |  |

**結婚・家庭生活・子育て・介護についてお伺いします**

【問4】 結婚や家庭、離婚についての考え方について、次の(1)～(9)のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものをお選びください。(それぞれ1つずつに○)

		そう思う	そう思う	どちらかといえば	どちらかといえば	そう思わない	わからない
結婚について	(1) 幸せは結婚にあるのだから、結婚した方がよい	1	2	3	4	5	
	(2) 結婚は個人の自由だから、結婚しなくてもよい	1	2	3	4	5	
	(3) 結婚する時に、必ずしも婚姻届を出す必要はない(事実婚)	1	2	3	4	5	
家庭について	(4) 結婚したら、自分自身のことより配偶者や子どもなど家族を中心に考えて生活した方がよい	1	2	3	4	5	
	(5) 結婚しても必ずしも子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5	
	(6) 三世同居で暮らすのが理想的だ	1	2	3	4	5	
離婚について	(7) 結婚生活がうまくいかない時は、離婚すればよい	1	2	3	4	5	
	(8) 子どもがいる場合は、離婚すべきでない	1	2	3	4	5	
	(9) 一般的に、今の社会では離婚すると男性より女性の方が不利である	1	2	3	4	5	

<配偶者がいない方もお答えください>

【問8】 あなたは、父親が育児に参加することについて、どう思いますか。子どもがいない場合は、いると仮定して選んでください。(○は1つだけ)

- 1 父親も母親と育児を分担して、積極的に参加するのがよい
- 2 父親は時間の許す範囲内で育児に参加すればよい
- 3 父親は外で働き、母親が育児に専念するのがよい
- 4 その他 ( )
- 5 わからない

<配偶者がいない方もお答えください>

【問9】 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。あなたは、この制度を活用して、男性が育児休業や介護休業を取得することについてどのように思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 取得した方がよいと思うし、機会があれば自分で取得、または取得を勧めたい
- 2 取得した方がよいと思うが、取得後、不利益が懸念されるので実際は難しい
- 3 取得した方がよいと思うが、今の法律・制度のままでは支援が不十分
- 4 取得した方がよいと思うが、上司の理解が得られないので実際は難しい
- 5 取得した方がよいと思うが、地域や近所から理解されないので実際は難しい
- 6 上司・同僚の理解不足や不利益があるので、取得しない方がよい
- 7 男性は、育児や介護に慣れていない人が多いので、取得には意味がない
- 8 同じ職場で、同僚が取得するのは迷惑だし、取得しない方がよい
- 9 育児や介護は、女性がすべきものだと思うので、取得しない方がよい
- 10 その他 ( )

## 女性と仕事についてお伺いします

【問10】 あなたは、女性が職業をもつことについて、どうお考えですか。あなたの考えに最も近いものをお選びください。(○は1つだけ)

- 1 女性は職業をもたない方がよい
- 2 結婚するまでは職業をもつ方がよい
- 3 子どもができるまでは職業をもつ方がよい
- 4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい →問11へ
- 5 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい  
→問12へ
- 6 結婚後や出産後も仕事を続けるが、パートタイムにきりかえるなど負担を軽くする方がよい
- 7 その他 ( )

<問10で、「4 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した方に>

【問11】 あなたは、女性が結婚後、出産後も 退職せずに働き続けるため には、どのようなことが重要だと思いますか。次の(1)～(7)のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものをお選びください。(それぞれ1つずつに○)

	とても重要	重要	あまり重要でない	まったく重要でない
(1) 家族の理解や家事・育児などへの参加	1	2	3	4
(2) 保育施設や学童保育の充実	1	2	3	4
(3) 福祉施設やホームヘルパーの充実	1	2	3	4
(4) 労働時間の短縮化、テレワークやフレックスタイム制の導入	1	2	3	4
(5) 企業等事業所の理解	1	2	3	4
(6) 育児・介護休業などの休暇制度の充実	1	2	3	4
(7) 昇進・昇給などの職場での男女平等の確保	1	2	3	4

<問10で、「5 子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した方に>

【問12】 あなたは、女性が結婚や出産のために退職し、その後再就職するためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の(1)～(7)のそれぞれについて、あなたの考えに最も近いものをお選びください。(それぞれ1つずつに○)

	とても重要	重要	あまり重要でない	まったく重要でない
(1) 家族の理解や家事・育児などへの参加	1	2	3	4
(2) 子どもや介護を必要とする人などを預かってくれる施設の充実	1	2	3	4
(3) 就職情報や職業紹介などの相談機関の充実	1	2	3	4
(4) 技能習得のための訓練施設の充実	1	2	3	4
(5) 企業等事業所の理解	1	2	3	4
(6) 企業等が再就職を希望する人を雇用する制度の充実	1	2	3	4
(7) テレワークやフレックスタイム制の導入や介護休業などの休暇制度の充実	1	2	3	4

## 男女の地域・社会参画についてお伺いします

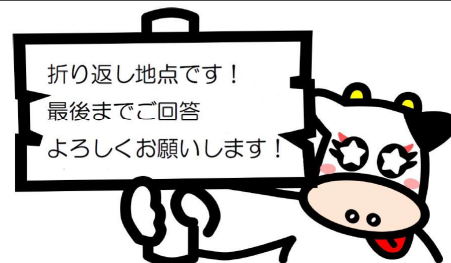
【問13】 あなたは、次にあげるような活動に参加していますか。あてはまるものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

- 1 自治会、まちづくりなどの地域活動
- 2 PTAや子ども会などの青少年育成活動
- 3 文化、スポーツ、学習などのグループ活動
- 4 福祉、ボランティア活動
- 5 リサイクル、共同購入などの消費生活活動
- 6 自然保護、環境美化などの環境保全活動
- 7 国際交流、国際協力活動
- 8 健康づくり、医療介護などの保健医療活動
- 9 セミナー、講座などを受講したりする生涯学習
- 10 子どもの見守りやパトロールなどの防犯活動
- 11 その他 ( )
- 12 参加していない →問14へ

<問13で、「12. 参加していない」と回答した方に>

【問14】 あなたが上記のような活動に参加していないのはなぜですか。次の中から、あてはまるものを2つまでお選びください。(〇は2つまで)

- 1 仕事が忙しい
- 2 家事や育児、介護が忙しい
- 3 経済的にゆとりがない
- 4 団体や活動などの情報がない
- 5 一緒に活動する仲間がない
- 6 家族の理解や協力がない
- 7 近くに活動の場がない
- 8 参加したいと思うものがない
- 9 その他 ( )
- 10 関心がない







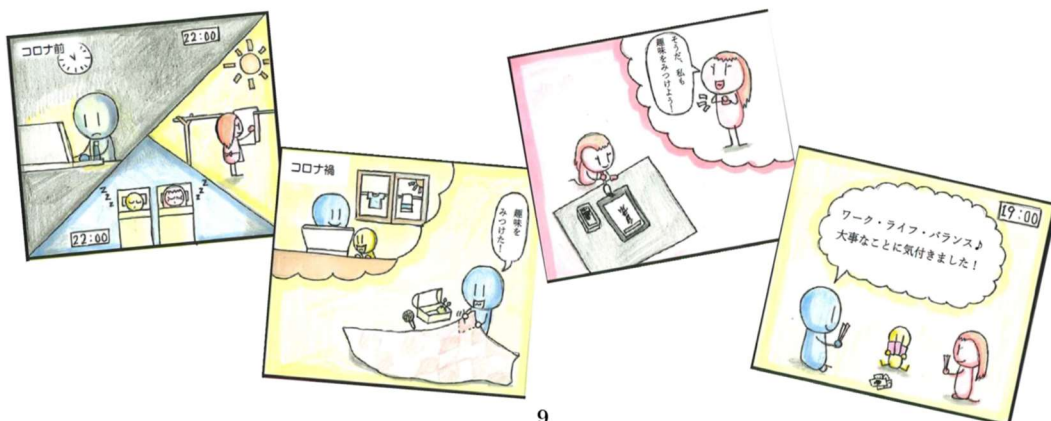
【問17】 あなたは、日常生活の中で、次の(1)～(5)について、どのような時間の使い方をすれば、 **いきいきと充実した生活** を送ることができると思いますか。

(それぞれ1つずつに○)

	大いに増やす	もう少し増やす	このままでよい	もう少し減らす	わからない
(1) 家庭生活のための時間	1	2	3	4	5
(2) 仕事のための時間	1	2	3	4	5
(3) 地域活動に参加する時間	1	2	3	4	5
(4) 学習・趣味・スポーツなどのための時間	1	2	3	4	5
(5) 休養のための時間	1	2	3	4	5

【問18】 あなたは、男女が共に仕事と家庭の両立をしていくために、どのような条件が必要だと思いますか。あてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

- 1 給与等の男女間格差をなくすこと
- 2 代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること
- 3 育児や介護のために退職した職員を、元の会社で再雇用する制度を導入すること
- 4 育児休業・介護休業中の賃金、その他の経済的給与を充実すること
- 5 地域の保育施設や保育時間の延長など、保育内容を充実すること
- 6 テレワーク・フレックスタイム制度、短時間勤務制度など、柔軟な勤務制度を導入すること
- 7 女性が働くことや男性が家事育児を行うことに対し、周囲の理解と協力があること
- 8 男性が家事や育児を行う能力や機会を高めること
- 9 その他 ( )
- 10 わからない



**パートナー間での暴力（DV）やセクハラについてお伺いします**

【問19】 あなたは、今までに配偶者・パートナー・恋人から次の（1）～（6）のようなことをされたことがありますか。**（それぞれ1つずつに○）**

	あった		まったく ない
	1、2度 あった	何度も あった	
（1）殴ったり、けったりするなど身体に対する暴行を受けた	1	2	3
（2）人格を否定する暴言や交友関係を細かく監視するなど精神的な嫌がらせを受けた	1	2	3
（3）あなたの親族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるがあった	1	2	3
（4）嫌がっているのに性的な行為を強要された	1	2	3
（5）あなたが自由に使えるお金を渡さない	1	2	3
（6）子どもが見ている所で暴力をふるう	1	2	3

【問20】 あなたは、次のようなことが配偶者・パートナー・恋人の間で行われた場合、それは暴力だと思いますか。（1）～（12）それぞれについてお答えください。

**（それぞれ1つずつに○）**

	あ た ら と 思 う	ど の よ う な 場 合 で も 暴 力 に あ た る と 思 う	暴 力 に あ た る 場 合 と そ う で な い 場 合 が あ る と 思 う	暴 力 に あ た る と 思 わ な い
（1）平手で打つ	1	2	3	
（2）足でける	1	2	3	
（3）身体を傷つける可能性のある物などで殴る	1	2	3	
（4）殴るふりをして脅す	1	2	3	
（5）刃物などを突きつけて脅す	1	2	3	
（6）交友関係や電話、メール等を細かく監視する	1	2	3	
（7）何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3	
（8）嫌がっているのに性的な行為を強要する	1	2	3	
（9）見たくないのにアダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3	
（10）「誰のおかげで生活できるんだ」とか「稼ぎが悪い」などという	1	2	3	
（11）大声で怒鳴る	1	2	3	
（12）生活費や小遣いを渡さない	1	2	3	

【問21】 あなたが、今後もし暴力を「受けたり、見聞きしたら」、あるいは今までに「受けたり、見聞きしたことがある」場合は、だれに打ち明けたり、相談したりしますか、または相談しましたか。**(あてはまるものすべてに○)**

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| 1 親族               | 2 友人・知人           |
| 3 同じような経験をした人      | 4 市や県などの窓口・電話相談など |
| 5 家庭裁判所、弁護士、警察など   | 6 医師・カウンセラーなど     |
| 7 人権擁護委員、民生委員      | 8 その他 ( )         |
| 9 相談しない・しなかった→問22へ |                   |

<問21で、「9. 相談しない・しなかった」と回答した方に>

【問22】 相談しない・しなかったのはなぜですか。あてはまるものをすべてお選びください。**(○はいくつでも)**

- |  |
|--|
| 1 自分(当事者)が我慢すれば、何とかこのままやっていけると思うから         |
| 2 自分(当事者)にも悪いところがあると思うから                   |
| 3 相談しても無駄だと思うから                            |
| 4 相談するほどのことではないと思うから                       |
| 5 他人を巻き込みたくないから                            |
| 6 相談したことがわかると仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けたりすると思うから |
| 7 世間体が悪いから                                 |
| 8 相手の行為は愛情の表現だと思うから                        |
| 9 どこ(誰)に相談してよいのかわからないから                    |
| 10 その他 ( )                                 |

【問23】 DVやデートDVを防止するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。**(あてはまるものすべてに○)**

- |  |
|--|
| 1 相談者が早期に相談できるよう、相談窓口を周知する               |
| 2 家庭で、暴力を防止するための教育を行う                    |
| 3 学校や大学で、暴力を防止するための教育を行う                 |
| 4 加害者への罰則を強化する                           |
| 5 加害者に、二度と繰り返さないための教育を行う                 |
| 6 暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピューターソフトなど)を取り締まる |
| 7 暴力を防止するための広報・啓発活動を積極的に行う               |
| 8 被害者を発見しやすい立場にある医療関係者などに対し、研修や啓発を行う     |
| 9 その他 ( )                                |

【問24】 あなたは今までに、次のようなことでセクハラだと感じたことがありますか。またそれは、どんな場所で感じましたか。(1)～(7)のそれぞれについて、あてはまるものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

	感じたことがある			感じたことはない
	職場で	地域で	その他	
(1) 体を触られる	1	2	3	4
(2) 宴会でダンスやデュエット、お酌を強要される	1	2	3	4
(3) 体をじろじろ見られる	1	2	3	4
(4) 異性の年齢や容姿などを話題にされる	1	2	3	4
(5) 卑猥な冗談を言われる	1	2	3	4
(6) 「彼女(彼氏)いないの」、「結婚しないの」などと聞かれる	1	2	3	4
(7) 「子どもはまだできないの」などと聞かれる	1	2	3	4

### 男女共同参画社会づくりのための取り組みについてお伺いします

※「男女共同参画社会」とは、「男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会」のことです。

【問25】 あなたは、このような社会を築いていくために、市は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。次の中から2つまでお選びください。(○は2つまで)

- 1 広報紙やパンフレットなどで、男女共同参画社会についてPRする
- 2 審議会委員など市の政策・方針決定の場や管理職に女性を積極的に登用する
- 3 女性リーダーなど人材を育成する
- 4 学校教育の場で男女の平等についての学習や人権教育を進める
- 5 職場における男女の均等な扱いについて周知を行う
- 6 保育施設や学童保育などの子どもを預かってくれる施設を充実する
- 7 高齢者や障害者に対する介護施設の整備や在宅福祉サービスを充実する
- 8 各種講座・講演会の開催や社会活動の情報提供を充実する
- 9 その他 ( )
- 10 特にない
- 11 わからない



ラストスパート!

